

# 中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・ 細池寺道上遺跡発掘調査報告書



2004

新津市教育委員会

## 例 言

1. 本書は新潟県新津市大字大蔵字川端725-3他に所在する中谷内（なかやち）遺跡及び新潟県新津市大字七日町字沖ノ羽3268-1他に所在する沖ノ羽（おきのは）遺跡及び新潟県新津市大字飯柳字池畑1108-1他に所在する細池寺道上（ほそいけてらみちうえ）遺跡の発掘調査報告書である。  
新津市教育委員会は過去に同名の遺跡を調査したおり報告書名に一連の番号をつけている。今回の報告書は『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』とした。
2. 発掘調査は平成16年度東北電力西新潟線鉄塔建替工事に伴い、新津市教育委員会から委託を受け、(株)シン技術コンサルが事業主体となり発掘調査を実施した。調査に係る費用は東北電力(株)が負担した。
3. 平成15年度に発掘調査及び報告書作成に係る整理作業と報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
4. 出土遺物・調査記録は新津市教育委員会が一括して保管している。
5. 本書の編集は、北村 淳（(株)シン技術コンサル）が行い、菊池康一郎（(株)シン技術コンサル）が補佐した。執筆は第Ⅰ章・第三章節を新津市教育委員会事務局、第Ⅵ章は「仏鉢形土器」以外を菊池が、第Ⅳ章5節・第Ⅵ章5節を(株)古環境研究所が、その他を北村が行った。
6. 本書で用いた写真は、遺跡写真は北村・菊池が撮影し、遺物写真は「たつみ写真スタジオ」が撮影したものである。ただし、写真図版1は国土地理院が撮影したもの、写真図版2・3は(株)オリスが撮影したものを使用した。
7. 本書で示す方位は全て真北であるが、図版2「新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現形図」（新津東土地改良区蔵）のみ正確さを欠いている。
8. 調査の作成にあたり遺物について以下の方に御助言・御指導を賜った。（所属・敬称略、五十音順）  
相沢 央（墨書土器鑑定）、石沢 進（種子同定）、唐澤至朗（仏鉢形土器）、水本和美（陶磁器鑑定）
9. 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。（所属・敬称略、五十音順）  
相沢 央・諫山えりか・石沢 進・伊藤秀和・尾崎高宏・春日真実・加藤 学・唐澤至朗・北村 亮・  
笹沢正史・水澤幸一・水本和美・吉井雅勇  
新潟県教育庁文化行政課・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新津東土地改良区・東北電力(株)

## 凡 例

1. 本書は本文・別表と巻末図版（図版・写真図版）からなる。
2. 本書の註は層序及び自然科学分析以外は各節の末尾に記した。引用・参考文献は著者と発行年〔 〕に示し、巻末に一括して掲載した。
3. 土層の土色観察は『新版 標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局=監修1967〕を用いた。
4. 土器実測図の断面表現は種別で区別した。黒塗りは須恵器で、それ以外は白抜きである。黒色土器の黒色処理部・煤付着、転用硯墨付着、擦面はスクリーントーンで示した。
5. 遺物実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては中軸線の両側に空白を作って区別した。
6. 本書に掲載した時代区分は古墳時代、古代、近世と記述している。古代については平安時代には限定できる。

# 目 次

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯 ..1	
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 .....2	
1 遺跡の位置と地理的環境 .....2	
2 周辺の遺跡 .....2	
第Ⅲ章 調査の概要.....7	
1 確認・試掘調査.....7	
2 発掘調査.....7	
A 調査方法.....7	
1) 現況 .....7	
2) グリッドの設定 .....8	
3) 調査方法 .....9	
B 調査経過.....9	
C 調査体制 .....10	
3 整理作業 .....10	
A 整理方法 .....10	
1) 遺物 .....10	
2) 遺構 .....10	
B 整理経過 .....11	
4 遺構及び遺物分類 .....11	
A 遺構分類 .....11	
B 遺物分類 .....11	
1) 土器の分類と記述 .....11	
第Ⅳ章 中谷内遺跡 .....15	
1 遺跡の概要 .....15	
2 層序 .....15	
3 遺構各説 .....16	
A 1区 .....16	
1) 古代の遺構.....16	
a) 溝 (SD) .....16	
b) ピット (Pit) .....16	
2) 近世以降の遺構.....16	
a) 溝 (SD) .....16	
b) ピット (Pit) .....17	
B 2区 .....17	
1) 古代の遺構.....17	
a) 土坑 (SK) .....17	
b) ピット (Pit) .....17	
C 3区 .....18	
1) 古墳時代の遺構.....18	
a) 土坑 (SK) .....18	
2) 古代の遺構.....18	
a) 土坑 (SK) .....18	
b) 溝 (SD) .....19	
c) 掘立柱建物跡 (SB) .....19	
d) ピット (Pit) .....20	
4 遺物各説 .....20	
A 1区 .....20	
1) 古代の遺物 .....20	
a) 遺構出土遺物.....20	
B 2区 .....20	
1) 古代の遺物 .....20	
a) 遺構出土遺物.....20	
b) 包含層出土遺物.....21	
C 3区 .....21	
1) 古墳時代の遺物.....21	
a) 遺構出土遺物.....21	
b) 包含層出土遺物.....21	
2) 古代の遺物.....21	
a) 遺構出土遺物.....21	
b) 包含層出土遺物.....22	
5 自然科学分析 .....23	
A 中谷内遺跡3区の土層と テフラ .....23	
B 中谷内遺跡3区における プラント・オパール分析 .....25	
6 まとめ .....29	
A 遺構 .....29	
B 遺物 .....30	
第Ⅴ章 沖ノ羽遺跡 .....39	
1 遺跡の概要 .....39	
2 層序 .....39	

3	遺構各説	40
1)	近世以降の遺構	40
a)	土坑 (SK)	40
b)	性格不明遺構 (SX)	40
c)	溝 (SD)	40
4	遺物各説	40
1)	古代及び近世以降の遺物	40
a)	包含層出土遺物	40
5	まとめ	41
A	遺構	41
B	遺物	41

## 第Ⅵ章 細池寺道上遺跡

1	遺跡の概要	43
2	層序	43
3	遺構各説	44
A	1区	44
1)	古代の遺構	44
a)	土坑 (SK)	44
b)	溝 (SD)	44
c)	旧河道 (河)	44
2)	近世以降の遺構	45
a)	溝 (SD)	45
B	2区	45
1)	古代の遺構	45
a)	土坑 (SK)	45
b)	溝 (SD)	45
c)	ピット (Pit)	45
d)	旧河道 (河)	46
2)	近世以降の遺構	46
a)	溝 (SD)	46
C	3区	46
1)	古代の遺構	46
a)	溝 (SD)	46
b)	旧河道 (河)	47
4	遺物各説	47
A	1区	47
1)	近世以降の遺物	47
a)	遺構出土遺物	47
B	2区	47
1)	古代の遺物	47

a)	遺構出土遺物	47
b)	包含層出土遺物	48
C	3区	48
1)	古代の遺物	48
a)	遺構出土遺物	48
5	自然科学分析	49
A	細池寺道上遺跡2区の土層と テフラ	49
B	細池寺道上遺跡2区における 放射性炭素年代測定	51
C	細池寺道上遺跡2区における プラント・オパール分析	52
D	細池寺道上遺跡2区における 樹種同定	55
6	まとめ	57
A	遺構	57
B	遺物	58

## 第Ⅶ章 総括

1	中谷内遺跡・細池寺道上遺跡 出土土器 (古代) の編年につ いて	68
---	----------------------------------------	----

要約	70
引用・参考文献	71
報告書抄録	



## 挿 図 目 次

第1図	新津丘陵周辺地形分類図 (1/150,000) .....	3
第2図	新津市周辺の古代遺跡分布図 (1/100,000) .....	4
第3図	遺構形態模式図 .....	11
第4図	中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡・細池寺道上遺跡 土師器分類図 (1/6) .....	12
第5図	中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡・細池寺道上遺跡 黒色土器・須恵器分類図 (1/6) .....	13
第6図	中谷内遺跡基本土層柱状図 .....	15
第7図	中谷内遺跡主要遺構別器種組成図(1) .....	33
第8図	中谷内遺跡主要遺構別器種組成図(2) .....	34
第9図	中谷内遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図 .....	34
第10図	沖ノ羽遺跡基本土層柱状図 .....	39
第11図	細池寺道上遺跡基本土層柱状図 .....	43
第12図	粃殻痕残存遺物模式図・写真 .....	48
第13図	細池寺道上遺跡3区河食膳具出土位置図 .....	60
第14図	細池寺道上遺跡主要遺構別器種組成図 .....	61
第15図	細池寺道上遺跡3区河出土食膳具の法量分布図 .....	61
第16図	「仏鉢形土器」 類例・形態分類一覧 .....	63
第17図	中谷内遺跡・細池寺道上遺跡出土土器の様相 .....	69

## 表 目 次

第1表	新津市周辺の古代遺跡一覧表 .....	5
-----	---------------------	---

## 別 表 目 次

別表1	中谷内遺跡主要遺構一覧表 .....	35
別表2	中谷内遺跡古墳時代及び古代土器・陶磁器観察表 .....	35
別表3	中谷内遺跡石器観察表 .....	37
別表4	中谷内遺跡主要遺構出土古代土器器種構成率 .....	38
別表5	沖ノ羽遺跡主要遺構一覧表 .....	42
別表6	沖ノ羽遺跡古代土器・陶磁器観察表 .....	42
別表7	「仏鉢形土器」出土遺跡一覧表 .....	63
別表8	細池寺道上遺跡主要遺構一覧表 .....	63
別表9	細池寺道上遺跡古代土器・陶磁器観察表 .....	64
別表10	細池寺道上遺跡木製品観察表 .....	66
別表11	細池寺道上遺跡主要遺構出土古代土器器種構成率 .....	67

## 図版目次

- 図版1 周辺の旧地形図 (1/25,000)
- 図版2 遺跡周辺の旧地割 (1/15,000)
- 図版3 中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡と周辺の遺跡 (1/15,000)
- 図版4 細池寺道上遺跡と周辺の遺跡 (1/15,000)
- 図版5 確認・試掘調査位置図 (1/20,000)
- 図版6 中谷内遺跡調査区とグリッド設定図 (1/2,500)
- 図版7 中谷内遺跡1区遺構平面図 (1/80)、S D1・2、Pit1・2・3・4・5実測図 (1/40)
- 図版8 中谷内遺跡2区遺構平面図 (1/80)、S K2実測図 (1/40)
- 図版9 中谷内遺跡2区トレンチ平面図 (1/80)、S K1・3・4、Pit1・2・3・4・5・6実測図 (1/20・1/40)
- 図版10 中谷内遺跡3区遺構平面図 (1/80)、S K1・2・3実測図 (1/40)
- 図版11 中谷内遺跡3区トレンチ平面図 (1/80)、S B1P1・2・3・4、S D1・2・3、S K4、Pit1・2・3・4・5実測図 (1/40)
- 図版12 中谷内遺跡包含層の小グリッド別平安時代土器重量分布図 (1/300)
- 図版13 中谷内遺跡第1次発掘調査、第2次発掘調査遺構平面図、本年度調査1区・2区遺構平面図 (1/800)
- 図版14 中谷内遺跡出土遺物1 1区S D1、2区S K2・3・4、包含層(1)
- 図版15 中谷内遺跡出土遺物2 2区包含層(2)、3区古墳時代S K1・包含層、3区S K4・S D1
- 図版16 中谷内遺跡出土遺物3 3区S D2・3
- 図版17 中谷内遺跡出土遺物4 3区Pit4・包含層、確認・試掘調査
- 図版18 沖ノ羽遺跡調査区とグリッド設定図 (1/5,000)
- 図版19 沖ノ羽遺跡遺構平面図 (1/80)、S K1、S D1、S X1実測図 (1/40)
- 図版20 沖ノ羽遺跡トレンチ平面図 (1/80)、沖ノ羽遺跡小グリッド別平安時代土器重量分布図 (1/400)  
包含層、確認・試掘調査遺物実測図
- 図版21 細池寺道上遺跡調査区とグリッド設定図 (1/2,500)
- 図版22 細池寺道上遺跡1区遺構平面図 (1/80)、トレンチ平面図 (1/80)、S D1・2・3・4、S K1実測図 (1/40)
- 図版23 細池寺道上遺跡2区遺構平面図 (1/80)、S D1・2・3、S K1、Pit1実測図 (1/40)
- 図版24 細池寺道上遺跡1区河1・2、2区河、3区河、S D1・2・3実測図 (1/40)
- 図版25 細池遺跡遺構平面図、細池寺道上遺跡3区遺構平面図 (1/500)、細池寺道上遺跡小グリッド別平安時代土器重量分布図 (1/400)
- 図版26 細池寺道上遺跡3区遺構平面図 (1/80)、トレンチ平面図 (1/80)
- 図版27 細池寺道上遺跡出土遺物1 1区S D2、2区S D1・3・河上層・下層(1)
- 図版28 細池寺道上遺跡出土遺物2 2区河下層(2)、確認・試掘調査、3区S D2・河(1)
- 図版29 細池寺道上遺跡出土遺物3 3区河(2)
- 図版30 細池寺道上遺跡出土遺物4 3区河(3)
- 図版31 細池寺道上遺跡出土遺物5 3区河(4)
- 図版32 細池寺道上遺跡出土遺物6 3区河(5)
- 図版33 細池寺道上遺跡出土遺物7 3区河(6)、2区河下層木製品

## 写真図版目次

- 写真図版1 中谷内・沖ノ羽・細池寺道上遺跡周辺空中写真（国土地理院1963年撮影）
- 写真図版2 中谷内・沖ノ羽遺跡空中写真
- 写真図版3 細池寺道上遺跡空中写真
- 写真図版4 中谷内・沖ノ羽遺跡全景、細池寺道上遺跡1区全景
- 写真図版5 細池寺道上遺跡出土土師器・黒色土器・須恵器
- 写真図版6 中谷内遺跡1区調査前状況・北壁土層断面・Pit5・SD1・SD2
- 写真図版7 中谷内遺跡2区調査前状況・西壁土層断面・SK1・SK2・SK3・SK4
- 写真図版8 中谷内遺跡3区調査前状況・北壁土層断面・SK1・Pit3・4・SD1・SD2・SD3
- 写真図版9 中谷内遺跡、古墳時代3区SK1、1区SD1、2区SK2・SK3・SK4、3区SD1・包含層出土遺物
- 写真図版10 中谷内遺跡2区包含層出土遺物
- 写真図版11 中谷内遺跡3区古墳時代包含層、SK4・SD1・SD2・SD3・Pit4出土遺物
- 写真図版12 中谷内遺跡3区包含層、確認・試掘調査、沖ノ羽遺跡包含層、確認・試掘調査出土遺物
- 写真図版13 沖ノ羽遺跡調査前状況・東壁土層断面・SX1・SK1・SD1
- 写真図版14 細池寺道上遺跡1区調査前状況・北壁土層断面・SD2・SK1・河1・2
- 写真図版15 細池寺道上遺跡2区調査前状況・北壁土層断面・SK1・SD3・河
- 写真図版16 細池寺道上遺跡3区調査前状況・東壁土層断面・SD3・河
- 写真図版17 細池寺道上遺跡1区SD2、2区SD1・SD3・河上層・下層、確認・試掘調査出土遺物
- 写真図版18 細池寺道上遺跡3区SD3、河出土遺物(1)
- 写真図版19 細池寺道上遺跡3区河出土遺物(2)
- 写真図版20 細池寺道上遺跡3区河出土遺物(3)
- 写真図版21 細池寺道上遺跡3区河出土遺物(4)、転用硯・墨書土器
- 写真図版22 細池寺道上遺跡3区河出土遺物(5)、2区河下層木製品・種子
- 写真図版23 細池寺道上遺跡3区河出土食膳具
- 写真図版24 細池寺道上遺跡3区河出土食膳具底部

## 第I章 発掘調査に至る経緯

平成13年8月、新津市内における東北電力鉄塔拡幅工事の計画が、東北電力(株)からの連絡で知らされた。事業内容を確認した所、内容は既存の鉄塔を拡幅すること、地点は現在、圃場整備事業が行われている満日地区・両新地区の2地区であった。新津市生涯学習課（以下、市とする）では当該地が周知の遺跡である中谷内・沖ノ羽・大下・細池寺道上遺跡内と隣接地であることから、確認・試掘調査の必要性がある旨説明した。その結果、平成14年度の稲刈り後に確認・試掘調査を実施することで合意した。

事前協議の結果を受けて、平成14年8月27日付文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づく発掘調査の届出が東北電力(株)から新潟県教育委員会教育長宛提出された。市では埋蔵文化財発掘調査の報告を平成14年10月15日付で県教育委員会教育長宛に提出し、確認・試掘調査に着手した。調査期間は10月16日～10月24日までの実質5日間、調査面積は86.4㎡（1.2m×3m×24か所）である。24か所設定したトレンチのうち11か所から比較的良好な状況で遺構・遺物が検出された。

遺跡の取扱いについて県教育庁文化行政課・東北電力(株)と市の3者で協議を重ね、鉄塔新設箇所1基と鉄塔拡幅箇所6基の計7か所（計855.74㎡）について開発前に本発掘調査を実施すること、発掘調査にかかる経費は東北電力(株)が負担することで合意した。

その後平成15年7月に再協議の結果、調査内容が鉄塔新設箇所3基と鉄塔拡幅箇所4基の計7か所（計913.68㎡）に変更になった。

東北電力(株)からは、平成16年度に工事を着手したいので、平成15年度中に本発掘調査を実施してもらいたい旨、要望があった。市では圃場整備事業など大規模な開発に伴う調査の予定が数年先まで入っており、直営で本発掘調査を行うには困難な状況であったため、民間調査会社に委託して実施することを提案し了承された。



中谷内遺跡1区表土除去状況



発掘調査風景



発掘調査風景



発掘調査風景

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の位置と地理的環境 (第1図、図版1・2)

新津市は越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。新津市域の地形は丘陵とその縁辺の段丘、沖積地からなっている。南南西―北北東に走る新津丘陵は加茂川を南限に標高278mの高立山が最も高く、北に行くに従い標高を下げて北端では70~80mとなり、その周囲に段丘が標高10~70m間に4段見られる。沖積地は信濃川・阿賀野川の二大河川により形成され、自然堤防や旧河道・後背湿地・三角州などの地形が見られる。阿賀野川が流路を東遷させてきた結果、新津市域では新津丘陵北端~小阿賀野川間に自然堤防が形成され、現在起伏の極少ない微高地として断続的に存在している。

加治川が阿賀野川に、阿賀野川が新潟港で信濃川に合流していたため、平野部は度々水害に見舞われていた。そこで享保15年(1730)新発田藩が松ヶ崎放水路を開削し、現在の阿賀野川の河口となった。阿賀野川には五泉市域を北流してきた早出川が下新付近で合流しており、七日町付近では阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流し覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は太平洋戦争後に水害対策の河川改修が行われた。これにより村松町千原~新津市大関間の蛇行部分が直線化され、新津市街地を貫流していた本来の流路から東方に分流が作られ、現在新津川・能代川となっている。能代川と新津川は下興野付近で再び合流し、荻島付近で小阿賀野川に注いでいる。

中谷内遺跡は北を中蒲原郡横越町に接し、能代川と小阿賀野川の合流地点に位置する。現在の標高は3.9~4.6mで、能代川の形成した起伏の小さい自然堤防東端にある。

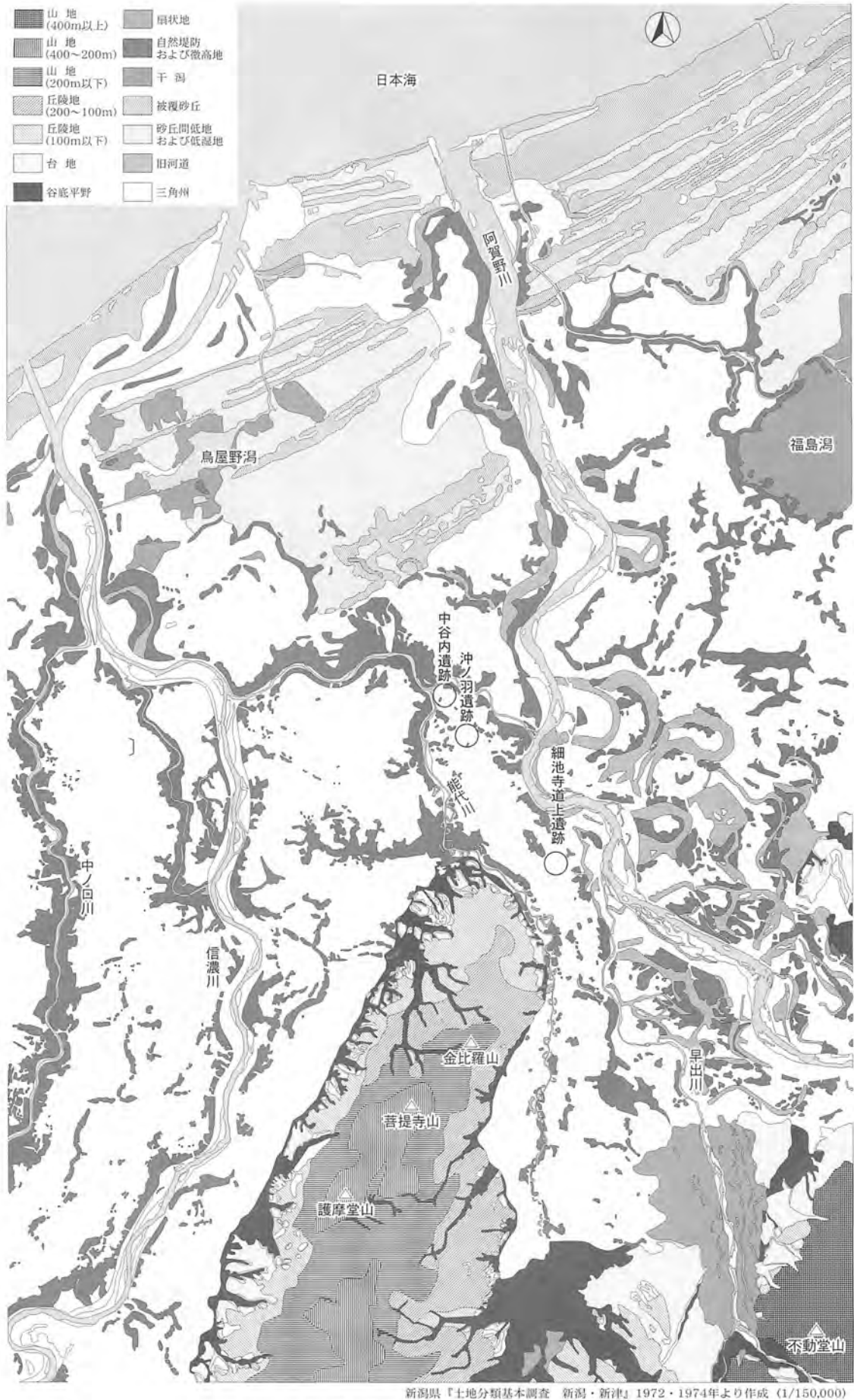
現在の遺跡周辺は一面の水田地帯だが、これらの大半は昭和15年頃の耕地整理によって形成されたものである。昭和15年頃の「新津町東部整理組合現景図」によると、それ以前において遺跡周辺は畑地が大部分を占めている。その景観は、低地は方形区画の水田に、微高地は畑地に、微高地縁辺は水田と畑地が混在するという様子である。このような景観は阿賀野川上流左岸に位置する新津市細池遺跡周辺の旧景観とも類似する〔小池ほか1994、立木ほか1998〕。

### 2 周辺の遺跡 (第2図、第1表、図版3・4)

時代別の遺跡の分布は旧石器・縄文・弥生時代では丘陵・段丘上に集中し、古墳時代には丘陵や段丘の縁辺部や平野部微高地、奈良・平安時代になるとさらに平野部微高地に分布が見られるようになる。具体的には古代までは丘陵上に弥生時代後期の環壕集落・円墳などが展開し、丘陵裾部には奈良・平安時代の製鉄・須恵器(土師器)窯などの生産遺跡が集中している。

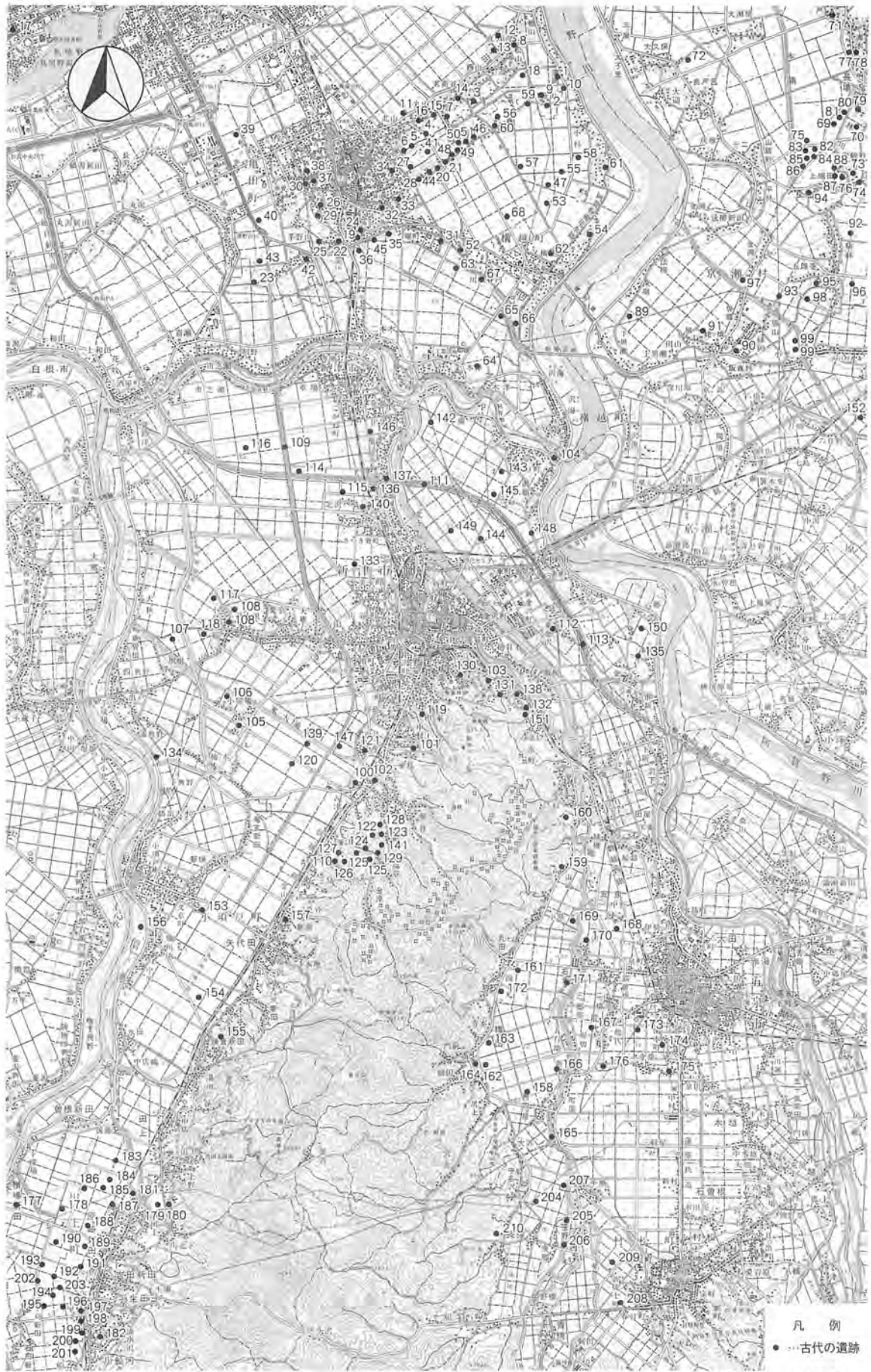
**旧石器時代の遺跡** 当該期の遺跡は、風化火山灰層(ローム層)を上部に含む矢代田層・蒲ヶ沢層により形成された新津丘陵周辺に分布する。八幡山遺跡第3次調査〔川上1994〕や草水町2丁目窯跡でナイフ形石器・石刃などが散発的に出土している。

**縄文時代の遺跡** 市内で20遺跡が確認されている。時期としては中期~後期が主体で、標高10~30mの



第1図 新津丘陵周辺地形分類図





第2図 新津市周辺の古代遺跡分布図

第1表 新津市周辺の古代遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	種別	No.	遺跡名	時代	種別	No.	遺跡名	時代	種別
1	新潟市 中山	縄文・古墳・奈良・平安	遺物散布地	71	豊栄市 浦木	平安	遺物包含地	141	新津市 金津初越B	奈良～平安	遺物包含地
2	笹山前	縄文・弥生・奈良・平安	遺物散布地	72	縄内	平安	遺物包含地	142	中谷内	平安	遺物包含地
3	茗荷谷	奈良・平安	遺物包含地	73	里飯野	平安	遺物包含地	143	内野	平安	遺物包含地
4	彦七山	奈良・平安	遺物包含地	74	岡新田	平安	遺物包含地	144	大下	平安	遺物包含地
5	金塚山	縄文・奈良・平安	遺物包含地	75	大夫曾根	平安	遺物包含地	145	無頭	平安	遺物包含地
6	前山	奈良・平安	遺物包含地	76	上畑田	平安	遺物包含地	146	結七島	奈良・平安	遺物包含地
7	丸山	平安	遺物包含地	77	村下	奈良～平安	遺物包含地	147	西島中谷内	奈良・平安	遺物包含地
8	直り山A	平安	遺物散布地	78	内沼浦	奈良～平安	遺物包含地	148	久保	平安	遺物包含地
9	神明社裏	平安	遺物散布地	79	川東	奈良～平安	遺物包含地	149	山王浦	平安	遺物包含地
10	城山	古墳・平安・鎌倉	遺物包含地	80	中道	奈良～平安	遺物包含地	150	下久保	平安・中世	遺物包含地
11	北山	平安	遺物包含地	81	中道(2)	奈良～平安	遺物包含地	151	登岩澤	縄文・平安	遺物包含地
12	直り山B	平安	遺物包含地	82	神田	奈良～平安	遺物包含地	152	水原町 三辺福荷	平安	遺物包含地
13	小丸山	縄文・奈良・中世	集落	83	神田(2)	奈良～平安	遺物包含地	153	小須戸町 東腰村	平安	遺物包含地
14	茗荷谷墓地	平安	遺物包含地	84	桜曾根	奈良～平安	遺物包含地	154	大沢谷内	平安	遺物包含地
15	清水が丘	平安	遺物包含地	85	並柳	奈良～平安	遺物包含地	155	六兵衛沢	平安	窯跡
16	大道外	平安・中世	遺物包含地	86	桜曾根2	奈良～平安	遺物包含地	156	横川坂外	縄文・平安	遺物包含地
17	女池福荷	平安	遺物包含地	87	池田	奈良～平安	遺物包含地	157	三沢B	平安	遺物包含地
18	松山向山	平安	遺物包含地	88	池田2	奈良～平安	遺物包含地	158	五泉市 吉吉田	奈良	遺物包含地
19	亀田町 城山A	縄文・弥生・奈良～平安	遺物包含地	89	京ヶ原村 曾根	平安	遺物包含地	159	山崎露跡	奈良	窯跡
20	砂崩	縄文・奈良～平安	遺物包含地	90	本田裏	平安	遺物包含地	160	小突山	縄文・弥生・古代	遺物包含地
21	迎山	縄文・奈良～室町	遺物包含地	91	城館	平安	城館跡	161	丸田	平安	遺物包含地
22	日水南	縄文・奈良～室町	遺物包含地	92	千刈	平安	遺物包含地	162	橋田A	奈良	遺物包含地
23	西前郷	縄文・奈良～平安	遺物包含地	93	善四郎谷地	平安	遺物包含地	163	橋田B	奈良・平安	遺物包含地
24	青舟山	縄文・弥生・奈良～平安	遺物包含地	94	山鳥屋敷	古墳・古代・中世	遺物包含地	164	橋田C	古代	遺物包含地
25	武左衛門裏	古墳・平安	遺物包含地	95	轟	平安・中世	遺物包含地	165	町屋六条	古代・中世	遺物包含地
26	貝塚	奈良・平安	遺物包含地	96	土居内西	平安・中世	遺物包含地	166	新保	奈良・平安・江戸	遺物包含地
27	三桑岡	奈良・平安	遺物包含地	97	村下	古墳・平安・中世	遺物包含地	167	江中	古代	遺物包含地
28	上ノ山	奈良・平安	遺物包含地	98	善四郎谷内C	平安・中世	遺物包含地	168	中野	奈良・平安	遺物包含地
29	中ノ山	奈良・平安	遺物包含地	99	大曲川端	平安	遺物包含地	169	貫下	奈良・平安	遺物包含地
30	鼠山	奈良・平安	遺物包含地	100	新津市 舟戸	古墳・古代・中世	集落跡	170	村付	奈良・平安	遺物包含地
31	上沼	奈良・平安	遺物包含地	101	大坪	奈良～平安	遺物包含地	171	榎表	奈良・平安・中世	遺物包含地
32	茨島	奈良・平安	遺物包含地	102	塩辛	奈良～平安	遺物包含地	172	道金	奈良・平安	遺物包含地
33	砂岡	奈良・平安	遺物包含地	103	七本松露跡	平安	窯跡	173	福島	奈良・平安・中世	遺物包含地
34	塚ノ山	奈良・平安	遺物包含地	104	寺嶋	平安・鎌倉	遺物包含地	174	ソブタ	奈良・平安	遺物包含地
35	岡田	奈良・平安	遺物包含地	105	曾根	平安・鎌倉	遺物包含地	175	石ノ子	奈良・平安	遺物包含地
36	牛道	平安	遺物包含地	106	下樋ノ木	平安・鎌倉・室町	遺物包含地	176	段ノ腰	奈良・平安	遺物包含地
37	川西	平安・鎌倉	遺物包含地	107	川根	平安・鎌倉・室町	遺物包含地	177	田上町 ガンゴウ寺	平安	遺物包含地
38	市助裏	平安・鎌倉	遺物包含地	108	小戸下組	平安・鎌倉・室町	遺物包含地	178	二段あげ	平安	遺物包含地
39	鶴ノ子	平安	遺物包含地	109	結	奈良	遺物包含地	179	中鶴	平安	遺物包含地
40	泥洞	平安	遺物包含地	110	居村A	平安	製鉄跡	180	諏訪の前	平安	遺物包含地
41	浦ノ山	平安	遺物包含地	111	神ノ羽	奈良～平安	遺物包含地	181	下屋敷跡	平安	遺物包含地
42	八幡前	平安	遺物包含地	112	西江浦	平安	遺物包含地	182	羽生田城跡	平安	城館跡
43	早通前	平安・鎌倉	遺物包含地	113	細池寺道上	平安	遺物包含地	183	糠吐	縄文・平安・中世	遺物包含地
44	前郷	縄文・平安・江戸	遺物包含地	114	上浦A	平安	集落跡	184	三波	縄文・平安	遺物包含地
45	曙	平安	遺物包含地	115	上浦B	古墳・古代・中世	集落跡	185	土居下	古墳・平安	遺物包含地
46	横越町 小丸山	縄文・弥生・奈良～平安	遺物包含地	116	長沼	奈良～平安	遺物包含地	186	館外	平安	遺物包含地
47	上田	縄文・奈良～平安	遺物包含地	117	西沼	平安	遺物包含地	187	新川	縄文・平安	遺物包含地
48	前郷	縄文・弥生・奈良～平安	遺物包含地	118	長左工門沼	平安	遺物包含地	188	館内	奈良～平安	遺物包含地
49	山ノ家	弥生・奈良～平安	遺物包含地	119	城見山	縄文(古代・中世を含む)	遺物包含地	189	中谷内	奈良～平安	遺物包含地
50	居浦郷	奈良～平安	遺物包含地	120	中郷	平安	遺物包含地	190	上谷内	奈良～平安	遺物包含地
51	駒込墓所	奈良～平安	遺物包含地	121	板大門	平安	遺物包含地	191	半ノ木	奈良～平安	遺物包含地
52	川根谷内	奈良～平安	遺物包含地	122	八幡山	弥生・古墳・平安	遺物包含地	192	竹ノ花	奈良～平安	遺物包含地
53	宮尻郷	奈良～平安	遺物包含地	123	古津初越A	奈良・平安	製鉄跡	193	八反田	奈良～平安	遺物包含地
54	下郷	平安	遺物包含地	124	大入	平安	製鉄跡	194	羽生田中谷内	奈良～平安	遺物包含地
55	山のハサバ	奈良～平安	遺物包含地	125	居村C	平安(縄文・弥生後期を含む)	製鉄跡	195	向田	奈良～平安	遺物包含地
56	藤山	平安・鎌倉	遺物包含地	126	居村B	平安	製鉄跡	196	古江堀	奈良～平安	遺物包含地
57	江尻	平安	遺物包含地	127	神田	奈良・平安(縄文を含む)	遺物包含地	197	村浦	奈良～平安	遺物包含地
58	居村A	平安～室町	遺物包含地	128	古津初越B	奈良～平安	製鉄跡	198	吉田上谷内	奈良～平安	遺物包含地
59	平山	平安	遺物包含地	129	金津初越A	奈良～平安	製鉄跡	199	小清水沢	奈良～平安	遺物包含地
60	上の山	弥生・平安	遺物包含地	130	狭葉ブドウ園	縄文(中期)(古代を含む)	遺物包含地	200	横手下	奈良～平安	遺物包含地
61	松根寺	平安	遺物包含地	131	滝谷露跡	平安	窯跡	201	大坪	奈良～平安	遺物包含地
62	曾我墓所	平安	遺物包含地	132	草水町2丁目	平安	窯跡	202	保明浦	縄文・奈良～平安・近世	遺物包含地
63	川根谷内墓所	平安・室町	遺物包含地	133	山谷北	古代	遺物包含地	203	川成	奈良・平安	遺物包含地
64	天王杉	平安	遺物包含地	134	浦野郷	古代	遺物包含地	204	村松町 中名坂	平安	遺物包含地
65	上郷	奈良・平安	遺物包含地	135	道上	平安	遺物包含地	205	豊野町(A)	平安	遺物包含地
66	上郷B	奈良・平安	遺物包含地	136	川口甲	平安	遺物包含地	206	豊野町(B)	平安	遺物包含地
67	上郷C	平安	遺物包含地	137	江内	平安・中世・近世	遺物包含地	207	千原	平安	遺物包含地
68	新田郷	平安	遺物包含地	138	草水町1丁目	旧石器・縄文・平安	窯跡	208	一本杉	平安・中世	遺物包含地
69	豊栄市 長堀	平安	遺物包含地	139	古通	平安	遺物包含地	209	城下	平安	遺物包含地
70	城の淵	平安	遺物包含地	140	川口乙	平安	遺物包含地	210	山ノ入	平安・中世	遺物包含地



丘陵上・段丘上に立地するものが多い。代表的な遺跡としては、平遺跡が市内最大規模の縄文時代遺跡とされ〔川上ほか1982〕、そのほか原遺跡（中～晩期）・秋葉遺跡（中～後期）が比較的大規模な遺跡である。愛宕澤遺跡では1998年度の調査で市内ではほとんど確認されない縄文時代草創期前半の石器（局部磨製石斧・石核）が検出された。

**弥生時代の遺跡** 市内で7遺跡が確認されている。主に八幡山遺跡〔川上ほか1994・渡邊ほか1994〕とその周辺の埋葬地遺跡〔川上ほか1989〕、居村C遺跡（D・E地点）〔川上ほか1996・渡邊ほか1997〕であり、いずれも弥生時代後期に属する。特に八幡山遺跡は一定期間定住していた拠点集落と見られる高地性環濠集落で、二重の環濠・竪穴住居・炉跡・前方後方形墳墓が確認されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器が出土しており、当該地域の弥生時代を考える上で重要な遺跡である。平野部の舟戸遺跡〔川上ほか1995〕でも遺物が出土しているが、平野部に立地する遺跡は少ない。平成15年度の立会調査で秋葉遺跡から中期前半、塩辛遺跡から中期後半の土器が出土している。特に塩辛遺跡は現地表の2m下から出土しており、今後台地と沖積地の境界から遺跡が検出される可能性があり注意を要する。

**古墳時代の遺跡** 市内で12遺跡が確認されている。古墳時代初頭に八幡山遺跡前方後方墳、前期には八幡山遺跡の北西端に古津八幡山古墳が造営される（墳丘約60m・造り出し付き円墳）〔甘粕・川村ほか1992〕。古墳に隣接する舟戸遺跡・高矢C遺跡は中期の遺跡であり、丘陵縁辺や端部に立地する。舟戸遺跡では前期頃の竪穴住居跡が検出され、古墳との関連が注目されている。平野部の沖ノ羽遺跡〔星野ほか1996〕・上浦B遺跡では古墳時代前・中期の土師器が出土し、結遺跡〔川上ほか1989〕では古墳時代後期の内面黒色処理を施した高杯が出土している。また、中谷内遺跡から古墳時代中～後期の土器〔本書〕が、平成15年度の確認・立会調査で塩辛遺跡・沖ノ羽遺跡から古墳時代後期の土器が出土した。

**奈良・平安時代の遺跡** 市内で52遺跡が確認されている。平野部には集落遺跡が多く立地し、丘陵裾部には製鉄遺跡、須恵器・土師器窯跡などの生産遺跡が集中している。新津丘陵窯跡群は新津丘陵北東斜面に分布し、七本松窯跡・草水町2丁目窯跡などがある。製鉄遺跡は居村遺跡・大入C遺跡などがあり、9世紀第2四半期以降とされる〔渡邊ほか1997〕。平野部に位置する上浦A・B遺跡〔渡邊ほか1992・川上ほか1997〕では掘立柱建物が発見され、上浦A遺跡では円面硯や銅製帯金具が、上浦B遺跡では三彩小壺や多量の墨書土器が出土している。上浦A遺跡の年代は出土遺物の年代観から9世紀と考えられる。上浦B遺跡については未報告であるので遺跡の概要は不明であるが、9世紀中葉～後葉の集落と考えられている。川口甲遺跡では9世紀中・後半の遺跡で墨書土器等が出土している〔川上ほか1992〕。

**中世の遺跡** 市内で25遺跡が確認されているが、城館跡が8ヶ所、山城として東鳥城・金津城〔横山・竹田ほか1987〕がある。集落跡は平野部微高地に立地する。自然堤防上の遺跡の実態不明な点が多いが、江内遺跡〔春日ほか1996〕の発掘に伴い、14～15世紀の集落が発見された。また、細池遺跡〔小池ほか1994〕では中世以降の圃場の各単位施設と思われる遺構が検出されている。内野遺跡〔立木・高野ほか2002〕の発掘により自然堤防上の集落の様相が明らかとなった。

**近世の遺跡** 集落跡は中世と同じ平野部微高地に立地しており、実態は不明である。江内遺跡で17世紀前半からの集落の一部が明らかにされている。しかし新津丘陵を中心とした地域がいったいどのような状況にあったのかは全く不明である。

## 第Ⅲ章 調査の概要

### 1 確認・試掘調査 (図版5)

東北電力(株)の依頼を受けて平成14年10月16日から10月24日(5日間)の確認・試掘調査を実施した。調査は鉄塔隣接地にトレンチを24箇所設定(1T~24Tと付番)し、バックホウで表土から徐々に掘削した後、人力により精査を行い、遺構・遺物の有無・土層堆積状況を記録した。確認・試掘調査面積は4遺跡で86.4㎡である。遺跡ごとの面積は、中谷内遺跡(1T~4T)14.4㎡、沖ノ羽遺跡(5T~10T)21.6㎡、大下遺跡(11T~13T)10.8㎡、細池寺道上遺跡(14T~24T)39.6㎡である。包含層まで現地表面(G.L)から0.5~0.7mである。

遺物は土師器、須恵器、陶磁器が確認され、遺構は溝、小土坑(ピット)が検出された。遺構又は遺物が確認された遺跡及びトレンチ毎の遺構及び遺物の確認状況は以下の通りである。

中谷内遺跡	(1T 溝(以下SD)1基・ピット(以下Pit)2基)
	(2T Pit4基、土師器2点)
	(4T Pit5基、土師器34点・須恵器10点)
沖ノ羽遺跡	(7T SD1基・性格不明遺構(以下SX)1基・Pit1基、土師器3点)
	(8T SD1基)
細池寺道上遺跡	(14T SD1基、土師器3点・礫1点)
	(17T SD1基)
	(18T SD1基、土師器2点)
	(19T SX1基)
	(23T 土師器1点・陶磁器1点(表採))
(24T 陶磁器1点)	

以上の結果から、鉄塔建設地域のうち、7地点(1T・2T・4T・7T・17T・18T・19T)について本発掘調査を行うこととなった。なお、4地点(8T・14T・23T・24T)では鉄塔建て替え工事を行わないため、本発掘調査は行わなかった。

### 2 発掘調査

#### A 調査方法

##### 1) 現況

##### 中谷内遺跡

調査区は東北電力西新潟線鉄塔下の水田である。基幹排水路が1区と2区の間を東から西へ流れ、新津東部排水機場で能代川へと排出されている。調査区は水田であるため盛土等はない。

中谷内遺跡は過去、平成9年に農免道路大蔵七日町線に伴う発掘調査〔立木ほか1999〕(以下、「中谷内遺

跡（99年）]）及び平成12年に東部排水機場建設に伴う発掘調査〔渡邊ほか2002〕を新津市教育委員会が主体となって行っている。今回調査した中谷内遺跡2区は排水路を挟んで中谷内遺跡（99年）調査区域と隣接する。

### 沖ノ羽遺跡

調査区は東北電力西新潟線鉄塔下の水田である。調査区の南を磐越自動車道が通過している。

沖ノ羽遺跡は過去、平成3年から4年に磐越自動車道建設に伴う発掘調査を新潟県教育委員会〔石川ほか1994・星野ほか1996・春日ほか2003〕が、平成13年から14年に鮭川排水機場建設に伴う発掘調査〔細野ほか2002〕及び平成15年に圃場整備事業に伴う発掘調査を新津市教育委員会が主体となって行っている。

### 細池寺道上遺跡

調査区は東北電力西新潟線鉄塔下の水田・畑である。調査区の東を磐越自動車道が通過している。

細池寺道上遺跡は両新地区圃場整備事業に伴う確認・試掘調査の結果、平成13年に細池遺跡と木津橋遺跡と寺道上遺跡を1つにまとめ細池寺道上遺跡とした。

細池遺跡及び寺道上遺跡は過去、平成3・4年に磐越自動車道建設に伴う発掘調査を（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団〔小池ほか1994〕が、平成8・9年に農道第10号線整備工事に伴う調査（細池遺跡）〔立木ほか1998〕及び平成11年に農道第9号線整備工事に伴う調査（寺道上遺跡）〔渡邊ほか2001〕を新津市教育委員会が主体となって行っている。今回調査した細池寺道上遺跡3区は平成8・9年の新津市教育委員会調査区域（細池遺跡）と隣接する。

## 2) グリッドの設定（図版6・18・21）

グリッドを設定するにあたっては、各地区ともに基準点を設け1A杭とした。基準点に対し国土地理院の第8系座標軸（日本測地系2000 以下、新座標）を用いて10mの方眼を組みこれを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として南北方向をアルファベット（大文字）、東西方向をアラビア数字とし、この組み合わせによって表示した。大グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し「2B-1」のように呼称した。

各発掘調査区の座標及び真北方向角は次のとおりである（新座標による）。

中谷内遺跡1区	1A（X座標：203550.000、Y座標：55130.000）	4A（X座標：203550.000、Y座標：55160.000）
	真北方向角23′ 02″ 9864東偏（1A）	
中谷内遺跡2区	1A（X座標：203370.000、Y座標：55180.000）	4A（X座標：203370.000、Y座標：55210.000）
	真北方向角23′ 04″ 1598東偏（1A）	
中谷内遺跡3区	1A（X座標：202890.000、Y座標：55340.000）	4A（X座標：202890.000、Y座標：55370.000）
	真北方向角23′ 07″ 9571東偏（1A）	
沖ノ羽遺跡	1A（X座標：202190.000、Y座標：55580.000）	4A（X座標：202190.000、Y座標：55610.000）
	真北方向角23′ 13″ 6597東偏（1A）	
細池寺道上遺跡1区	1A（X座標：199020.000、Y座標：57680.000）	4A（X座標：199020.000、Y座標：57710.000）
	真北方向角24′ 04″ 8268東偏（1A）	
細池寺道上遺跡2区	1A（X座標：198840.000、Y座標：57860.000）	4A（X座標：198840.000、Y座標：57890.000）
	真北方向角24′ 09″ 2506東偏（1A）	
細池寺道上遺跡3区	1A（X座標：198680.000、Y座標：58030.000）	4A（X座標：198680.000、Y座標：58060.000）
	真北方向角24′ 13″ 4329東偏（1A）	

磁北は真北に対し7度20分0秒西偏する。

### 3) 調査方法

- ①表土剥ぎ 確認・試掘調査によって表土は遺物の出土が希薄と予測されたことから、遺物包含層を残して遺構確認面上面まで遺物の出土に注意しながら重機（バックホウ）により除去した。周囲の水田面よりも低くなると調査面が湛水してしまうために、表土剥ぎと並行して調査区の周囲に土側溝を掘り、電動ポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅15cm、深さ20cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけたV字の溝とした。土側溝によって遺構が分断されるおそれがあるが、土側溝がないと湛水して十分な遺構調査すらできなくなるので、やむを得ない措置と考えた。
- ②遺構検出・発掘 重機で掘削後、人力で精査を行い、遺構の検出にあたった。排土は人力で調査区の外側へと搬出した。
- ③実測・写真 実測図は断面図を1/20で作成した。平面図や各種測量点はトータルステーションを用いて作成しあわせて写真を撮影した。写真撮影は35mm版・6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。
- ④遺物取り上げ 包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は遺構単位・小グリッド単位で取り上げた。
- ⑤自然科学分析 プラントオパール分析、屈折率分析、樹種同定、地質調査などを適宜行った。

## B 調査経過

発掘方法について東北電力(株)と協議し、鉄塔保全の都合上既存鉄塔に拡幅する形で、鉄塔建設箇所（以下、拡幅部）は支線を設置することとなった。このため調査は支線設置部分（以下、支線部）を優先した。あわせて新たに鉄塔を設置する部分（以下、新設部）を調査した。

発掘調査地域が農地（主に水田）であることから、農作業終了後に発掘調査に着手した。10月8日、新設部である中谷内遺跡1区の重機による表土剥ぎ開始、あわせて中谷内遺跡2区・中谷内遺跡3区・沖ノ羽遺跡・細池寺道上遺跡1区・細池寺道上遺跡3区の支線部の発掘を行った。10月18日、中谷内遺跡1区の調査完了状況をラジコンヘリで撮影、21日、新設部である細池寺道上遺跡2区の調査を開始、27日全調査区の支線部発掘を終了した。東北電力(株)による支線取り付け完了後28日より細池寺道上遺跡1区の調査を開始した。

調査区間が離れていることから11月1日より2班に分けて調査を行うこととし、北側では中谷内遺跡2区の拡幅部の調査を開始。以後、中谷内遺跡3区・沖ノ羽遺跡の調査を行い、南側では細池寺道上遺跡1区・細池寺道上遺跡2区・細池寺道上遺跡3区の調査を行った。細池寺道上遺跡1区・細池寺道上遺跡2区では河掘削のためベルトコンベアーを設置した。12月5日、細池寺道上遺跡3区をローリングタワーから全体写真撮影。12月6日に機材を撤収し現場作業を終了した。

最終的な発掘調査面積は以下の通りである。

中谷内遺跡1区	調査区上端143.98㎡	下端面積141.66㎡
中谷内遺跡2区	調査区上端115.84㎡	下端面積106.10㎡
中谷内遺跡3区	調査区上端116.41㎡	下端面積108.17㎡
沖ノ羽遺跡	調査区上端121.36㎡	下端面積112.74㎡
細池寺道上遺跡1区	調査区上端138.95㎡	下端面積137.07㎡
細池寺道上遺跡2区	調査区上端143.98㎡	下端面積139.63㎡
細池寺道上遺跡3区	調査区上端114.84㎡	下端面積106.36㎡

## C 調査体制

### 【平成14年度 確認・試掘調査】

調査主体 新津市教育委員会（教育長 松井 弘）  
担 当 立木宏明（生涯学習課主査）  
事務局 羽生隆夫（生涯学習課課長）・目黒 正（同課長補佐）・荒木正幸（同係長）  
田中茂夫（同主任）・渡邊朋和（同主任）・阿達哲二（同技士）・高野裕子（同囑託）・  
佐野博子（同囑託）・澤野慶子（同囑託）

### 【平成15年度 本発掘調査】

調査主体 新津市教育委員会（教育長 松井 弘）  
担 当 北村 淳（㈱シン技術コンサル）  
調査員 菊池康一郎（㈱シン技術コンサル）  
事務局 羽生隆夫（生涯学習課課長）・目黒 正（同課長補佐）・荒木正幸（同係長）  
田中茂夫（同主任）・渡邊朋和（同主任）・立木宏明（同主査）・阿達哲二（同技士）  
高野裕子（同囑託）・澤野慶子（同囑託）・白井利夫（同囑託）  
発掘作業員 石垣千代子・内山麗子・大河原 孝・岡崎数栄・小川貴広・落合信義・笠原貴子・加藤ヒサ子・  
金子美加子・窪田春子・昆ヒロ子・五幣亜希子・斉藤義男・坂井早太・佐藤 勉・佐藤正美・  
杉山美千子・菅井ミツ子・砂原智子・滝沢未生・田中美香・塚田藤乃・西郡大輔・西郡洋子・  
野崎菊枝・花水真由美・樋口美喜子・星野外榮・細川武志・堀越 登・松尾チイ子・  
諸橋よし子・山下久美子  
整理作業員 秋元経子・石井幸子・白井美恵子・栗山佐江子・見野恵美子・鈴木澄江・堀地文子・横塚由佳・  
六反田達子

## 3 整理作業

### A 整理方法

#### 1) 遺物

遺物量は3遺跡合わせてコンテナ（内径54.5×33.6×10cm）にして33箱である。大半が平安時代の須恵器・土師器で、近世以降の陶磁器・木製品等が数点ある。遺物の整理作業は次の手順で行った。

①洗浄。②注記。③グリッド別の種別の重量計測。④接合。⑤遺構遺物の器種別の重量・個体数計測。  
⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図作成。観察表作成。⑧トレース図作成。

#### 2) 遺構

平面図はトータルステーションで計測を行い、断面図は手実測で計測した。計測終了後、平面図と断面図の検収を行った。報告書用の遺構平面図・全体図は1/80を、断面図は1/40を基本として作成した。

## B 整理経過

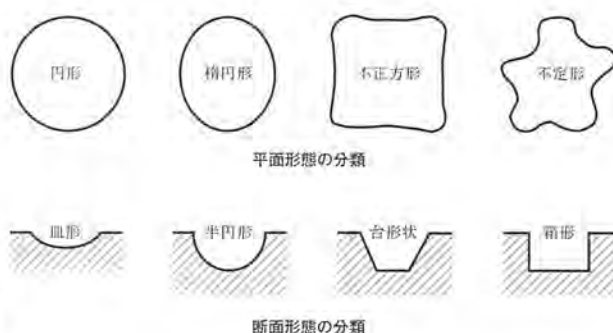
発掘調査終了までに出土遺物の水洗・注記・接合と、写真・図面整理を行い、併せて遺構図の検取作業を行った。

発掘調査終了後は、遺物実測・トレースを行った。また、遺構実測図作成を併行して行い、原図作成後、トレースを行った。この間職員は原稿執筆、遺物写真の撮影、図版のレイアウト・報告書の編集にあたった。

## 4 遺構及び遺物分類

### A 遺構分類 (第3図)

遺構の呼称はSK (土坑)、SX (性格不明遺構)、SD (溝)、SB (掘立柱建物)、Pit (小土坑)とした。遺構の形態分類はSK、SX、SD、Pitについては大まかに、平面形は円形・楕円形・不正方形・不定形の4種類に、断面形は皿形・半円形・台形状・箱形の4種類に分類した。詳しい遺構の計測値は別表にあげた。



第3図 遺構形態模式図

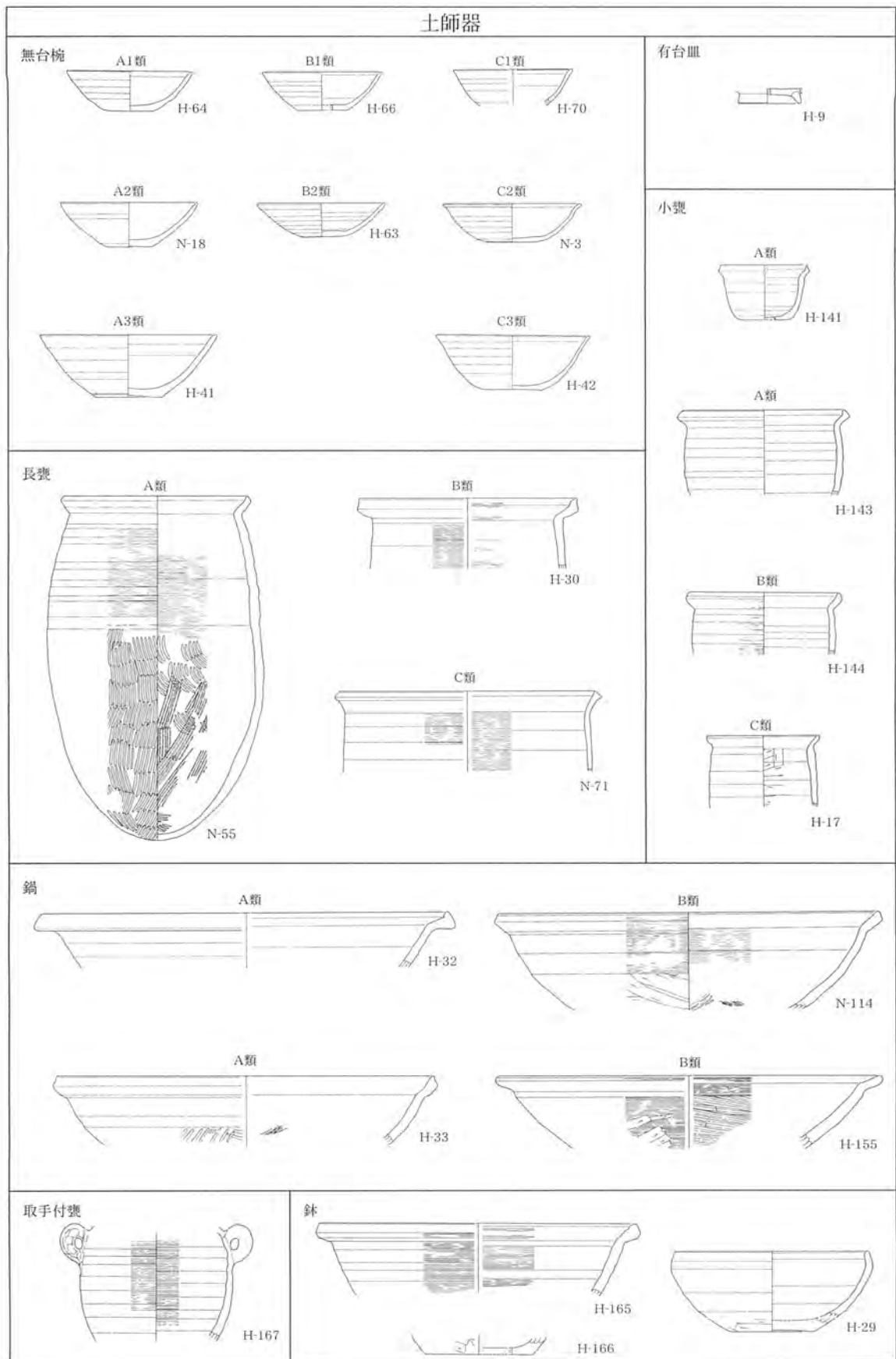
### B 遺物分類

#### 1) 土器の分類と記述 (第4・5図)

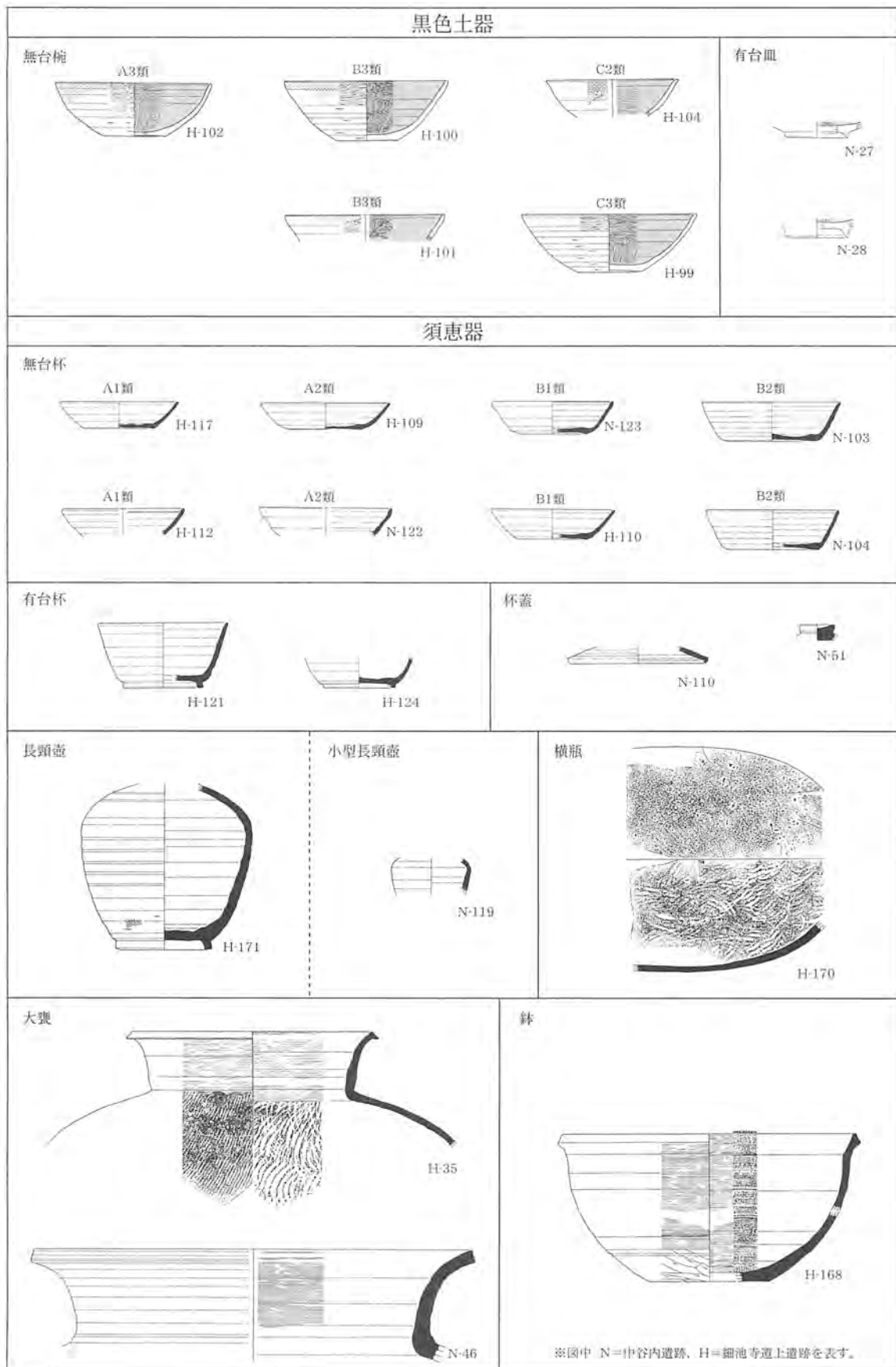
記述は最初に出土資料全体の土器分類を行い、次に遺構別、包含層出土の土師器・黒色土器・須恵器の順に記した。成形・調整の表現・名称は、山三賀Ⅱ遺跡の報告書〔坂井ほか1989〕、中谷内遺跡〔立木ほか1999〕、寺道上遺跡〔渡邊ほか2001〕を参考にした。

- 1、「ロクロナデ」はロクロ・回転台を利用したなでで、その他のものは「ナデ」とした。
- 2、「ロクロケズリ」はロクロ・回転台を利用した削りで、その他のものは「ケズリ」とした。
- 3、「カキメ」はロクロ・回転台を利用したもので、その他のものは「ハケメ」とした。又、成形痕は「カキ目」・「ハケ目」とした。
- 4、黒色土器無台椀・土師器無台椀などに見られる篋磨きは「ミガキ」とした。
- 5、須恵器大甕・横瓶、土師器長甕・鍋などの外見に見られる叩板工具を用いた成形を「タタキ」とし、成形痕を「タタキ目」、内面の当て具工具を用いての成形痕を「当て具痕」とした。
- 6、「ヘラ切り」・「糸切り」とは底部の切り離し技法で、両者ともロクロ・回転台を利用している。「無調整」とは底部切り離し後、調整しない状態のものである。

次に本遺跡の特徴を整理するため器種分類を行い、器種ごとに説明を行う。以下、土師器・黒色土器・須恵器の順で概説する。須恵器胎土分類は山三賀Ⅱ遺跡の成果に準じた〔坂井ほか1989〕。土師器の胎土分類は行っていない。詳細な計測値は別表に示した。



第4図 中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡・細池寺道上遺跡 土師器分類図 (S=1/6)



第5図 中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡・細池寺道上遺跡 黒色土器・須恵器分類図 (S=1/6)



### 土師器

大きく食膳具と煮炊具がある。食膳具は大部分が無台椀である。煮炊具には長甕・小甕・鍋などがある。

- 無台椀** 底部切り離し技法は糸切り後無調整のことが多い。分類は口縁部形態（A～C類）と口径（1～3類）の組み合わせ（例 A1類）で表した。口縁部形態の分類は底部から体部が内彎気味に立ち上がるものをA類、底部から体部が直線的に立ち上がるものをB類、底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部で外反するC類に細分した。口径は3分類し、12.5cm以下が1類、12.6～14cmが2類、14.1cm以上が3類とした。
- 有台皿** 貼り付け輪高台を持つ皿が出土している。
- 長 甕** 口縁端部の形態から3分類した。口縁端部が受け口状になるものをA類、口縁端部が上方に短く屈曲するものをB類、口縁が外反し、端部に面を持つものをC類とした。
- 小 甕** 口縁端部の形態から3分類した。口縁端部が受け口状になるものをA類、口縁端部が上方に短く屈曲するものをB類、口縁端部が屈曲せず丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものをC類とした。
- 鍋** 口縁部形態により2分類した。口縁端部が上方に短く屈曲するものをA類、口縁端部が屈曲せず丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものをB類とした。
- 取手付甕** 取手の付いた胴部が出土している。
- 鉢** 口縁部が内彎するものと、体部が直線的で口縁部が外反するものの2個体が確認された。前者は金属器の模倣品（以下、仏鉢形土器）と思われる。出土量が少ないため分類は行っていない。

### 黒色土器

食膳具の無台椀・有台皿が出土している。主に内側を黒化处理した「内黒」の土器である。

- 無台椀** 主に底部はミガキ、体部下半はロクロケズリが行われている。体部内面はミガキが施され、口縁端部は外面も磨かれるものが多い。分類は土師器無台椀同様、口縁部形態・口径の組み合わせで行った。
- 有台皿** 貼り付け輪高台を持つ皿が出土している。

### 須恵器

食膳具と貯蔵具がある。食膳具には無台杯・有台杯・杯蓋・鉢がある。貯蔵具には長頸壺・横瓶・大甕がある。

- 無台杯** 口縁部の形態（A～C類）と口径（1・2類）の組み合わせで分類した。口縁部形態の分類は体部が内彎気味に立ち上がるものをA類、直線的に立ち上がるB類、口縁端部で外反するC類に分かれる。口径は1類が12.5cm以下、2類が12.6cm以上である。
- 有台杯** 杯のうち高台を持つもの。分類はしていない。
- 杯 蓋** つまみはボタン状で中央がくぼむもの。分類はしていない。
- 長頸壺** 長い頸部を持つ瓶あるいは壺を一括した。また小型長頸壺も出土している。
- 横 瓶** 俵状の体部のみ出土している。
- 大 甕** 全体形が分かるものが少なく分類はしていない。
- 鉢** 体部が内彎気味に立ち上がり、口縁部が外反しているものが出土した。分類はしていない。

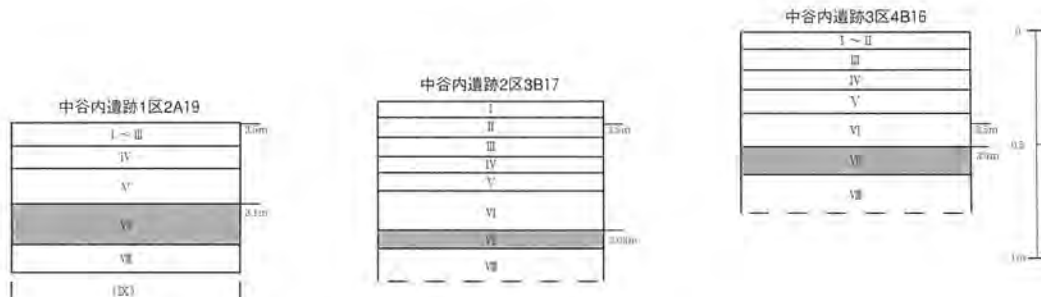
## 第IV章 中谷内遺跡

### 1 遺跡の概要

中谷内遺跡では今回3地区に分かれて調査を行い、古墳時代から近世以降の遺物が出土し、当該期の遺構が検出された。遺跡の中心となる時期は古代である。過去において平成9年に農免道路大蔵七日町線に伴う発掘調査〔立木ほか1999〕（以下、中谷内遺跡（99年））及び平成12年に東部排水機場建設に伴う発掘調査〔渡邊ほか2002〕（以下、中谷内遺跡（02年））を新津市教育委員会が主体となって行い、いずれも平安時代を中心とする溝・土坑・旧河道などが検出された。遺物量は遺物収納コンテナ（内径54.5×33.6×10cm）にして14箱であり、ほとんどが平安時代のものである。古墳時代の遺構は土坑（SK）1基・古代の遺構は土坑（SK）7基、溝（SD）4基、掘立柱建物跡（SB）1基、ピット（Pit）15基・近世以降の遺構は溝（SD）1基、ピット（Pit）1基である。

### 2 層 序（第6図）

中谷内遺跡の基本層序は色調に多少の違いはあるものの、概ね新津市教育委員会による中谷内遺跡（99年）発掘調査の基本層序に対応し9層に分けられる。以下に基本層序を記す<sup>註1）</sup>。



第6図 中谷内遺跡基本土層柱状図

- I層 灰色土（7.5Y6/1）粘性あり、しまりややあり。酸化した根痕多く含む。
- II層 灰色土（7.5Y5/1）粘性あり、しまりややあり。シルト質土。
- III層 灰色土（7.5Y6/1）粘性あり、しまりあり。シルト質土。水田床土。
- IV層 灰オリーブ色土（7.5Y4/2）粘性あり、しまりあり。シルト質土。鉄分、黒色粒がバンド状に入る。
- V層 灰オリーブ色土（7.5Y4/2）粘性あり、しまりあり。シルト質土。近世以降遺構確認面。
- VI層 灰オリーブ色土（7.5Y5/2）粘性あり、しまりあり。シルト質土。
- VII層 黒褐色土（10YR3/1）粘性あり、しまりあり。シルト質土。平安時代遺物包含層。
- VIII層 灰色土（7.5Y6/1）粘性あり、しまりあり。シルト質土。古墳時代・平安時代遺構確認面。
- IX層 灰オリーブ色土（7.5Y5/2）粘性あり、しまりあり。シルト質土。

註1） I～II層は水田耕作面である。今年度調査区は水田であり耕作による攪乱で層はあまり確認できなかった。III～V層は遺物の出土はほとんど無い。同層は中谷内遺跡（99年）報告書所見〔立木ほか1999〕から近世以降に堆積した層と思われる。VII層中からは平安時代の遺物が出土する。遺構確認面はV層上面及びVIII層上面である。

### 3 遺構各説 (図版7~11、写真図版6~8)

遺構はV層上面より掘り込まれているものと、Ⅷ層上面より掘り込まれているものが検出された。Ⅷ層上面では古墳時代及び平安時代の遺物が出土し、それに伴う遺構が確認できた。V層上面では遺物は確認できなかったが、中谷内遺跡(99年)におけるSD5〔立木ほか1999〕及び中谷内遺跡(02年)におけるSD6〔渡邊ほか2002〕に対応する「水路」と思われる遺構が確認されたことから近世以降と考えられる。

#### A 1 区

調査区は中谷内遺跡(99年)調査区の北側に位置する。確認された遺構は古代の遺構がSD1基、Pit4基で、近世以降の遺構がSD1基、Pit1基である。遺構はV層及びⅧ層上面で確認された。遺構の年代は、V層上面の遺構は近世以降、Ⅷ層上面の遺構は平安時代のものと考えられる。

##### 1) 古代の遺構

###### a) 溝(SD)

###### SD2 (図版7、写真図版6)

2A・Bグリッドにある平安時代の遺構と考えられる。Ⅷ層上面より掘り込まれている。北東方向にのび両端とも調査区外に続く。最大幅0.9m、深さ0.16mで、断面形は箱形である。覆土は2層に分層され、ともに黒色が強く粘性も強いことから、水が流れていたことが考えられる。遺物は出土していない。

###### b) ピット(Pit)

###### Pit2 (図版7)

2B-9グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.34m、短軸0.28m、深さ0.20mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は2層に分層されレンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

###### Pit3 (図版7)

2B-17グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.33m、短軸0.27m、深さ0.25mである。平面形は円形、断面形は半円形である。遺物は出土していない。

###### Pit4 (図版7)

2B-9グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.27m、短軸0.21m、深さ0.19mである。平面形は円形、断面形は半円形である。遺物は出土していない。

###### Pit5 (図版7、写真図版6)

2B-2グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.31m、短軸0.28m、深さ0.18mである。平面形は円形、断面形は半円形である。遺物は出土していない。

##### 2) 近世以降の遺構

###### a) 溝(SD)

###### SD1 (図版7、写真図版6)

2A・Bグリッドにある近世以降の遺構と考えられる。V層上面より掘り込まれている。北西方向にのび両端とも調査区外に続く。最大幅1.20m、深さ0.46mである。断面形は台形状である。覆土から須恵器の

大甕（図版14）が出土している。遺構確認面等から判断すると、遺物は流れ込んだものと考えられる。

#### b) ピット (Pit)

##### Pit 1 (図版7)

2B-2・7グリッドにある近世以降の遺構と考えられる。確認面はⅤ層上面である。長軸0.40m、短軸0.34m、深さ0.20mである。平面形は円形、断面形は半円形である。SD1と重複するが新旧関係及び関連性については不明である。遺物は出土していない。

## B 2 区

調査区は中谷内遺跡（99年）調査区の南側に位置する。遺構は古代の遺構がSK4基、Pit6基で、すべてⅧ層上面で確認された。出土遺物から古代の遺構は平安時代のものと考えられる。

### 1) 古代の遺構

#### a) 土坑 (SK)

##### SK 1 (図版9、写真図版7)

5D-3グリッド（4トレンチ）にある平安時代の遺構と考えられる。Ⅷ層上面より掘り込まれている。トレンチ端部で確認された。土側溝で一部破壊されている。深さ0.13mである。断面形は箱形で、坑底面は平坦である。覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

##### SK 2 (図版8・9、写真図版7)

4A-22・4B-2グリッド（2トレンチ）にある平安時代の遺構と考えられる。Ⅷ層上面より掘り込まれている。トレンチ端部で確認された。土側溝で一部破壊されている。深さ0.08mである。断面形は皿形である。平面形は不明であるが楕円形と思われる。坑底面は平坦である。覆土は2層に分層され、覆土中より土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗（図版14）などが出土している。

##### SK 3 (図版9、写真図版7)

2E-4グリッド（3トレンチ）にある平安時代の遺構と考えられる。Ⅷ層上面より掘り込まれている。トレンチ端部で確認された。土側溝で一部破壊されている。深さ0.06mである。断面形は皿形で、坑底面は平坦である。遺物は覆土の上位で土師器長甕（図版14）が出土している。

##### SK 4 (図版8・9、写真図版7)

3B-24・25、3C-4・5グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面より掘り込まれている。土側溝で一部破壊されている。長軸2.10m、短軸0.56m、深さ0.06mである。平面形は楕円形、断面形は皿形で、覆土は淡色シルト質土で、坑底面は平坦である。遺物は土師器無台碗、須恵器無台杯（図版14）などが出土している。

#### b) ピット (Pit)

##### Pit 1 (図版8・9)

3B-24グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.22m、短軸0.20m、深さ0.22mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は4層に分層され、上位は黒色土、下位は淡色シルト質土である。遺物は出土していない。

##### Pit 2 (図版8・9)

3B-23グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.14m、短軸0.12m、

深さ0.14mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は2層に分層され、上位は黒色土、下位は淡色シルト質土で、レンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

**Pit3** (図版8・9)

3B-23グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.18m、短軸0.16m、深さ0.20mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は3層に分層され、覆土2層は黒色土が落ち込んでいる。遺物は出土していない

**Pit4** (図版8・9)

3B-18グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.20m、短軸0.18m、深さ0.14mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は2層に分層され、上位は黒色土、下位は淡色シルト質土で、レンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

**Pit5** (図版8・9)

3C-9グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.22m、短軸0.21m、深さ0.30mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は3層に分層される。上位は黒色土、下位は淡色シルト質土で、斜めに堆積している。遺物は出土していない。

**Pit6** (図版8・9)

3C-7グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.18m、短軸0.17m、深さ0.21mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は3層に分層され、上位は黒色土、下位は淡色シルト質土で、レンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

## C 3 区

調査区は中谷内遺跡(99年)の南方約300mに位置する。確認された遺構は古墳時代の遺構がSK1基・古代の遺構がSK3基、SD3基、SB1基、Pit5基で、すべてⅧ層上面で確認された。出土遺物から古代の遺構は平安時代のものと考えられる。

### 1) 古墳時代の遺構

#### a) 土坑 (SK)

**SK1** (図版10、写真図版8)

3B-12・13グリッドにある古墳時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.60m、短軸0.36m、深さ0.12mである。平面形は楕円形、断面形は半円形で、坑底面は平坦である。坑底部より壺の胴部(図版15)が出土している。遺物は上から潰れた状態で確認された。覆土は黒色が強く炭化物を含むが焼土化はしていない。覆土が一時に堆積していることから、人為的に埋められた可能性がある。

### 2) 古代の遺構

#### a) 土坑 (SK)

**SK2** (図版10)

3B-7グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.34m、短軸0.32m、深さ0.13mである。平面形は円形、断面形は箱形である。覆土は3層に分層され、上位は黒色土、下位は淡色シルト質土で、互層に堆積している。遺物は出土していない。

**SK3** (図版10)

3B-7・12グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.48m、短軸0.46m、深さ0.28mである。平面形は円形、断面形は台形状であり、坑底面は段状である。覆土は4層に分層され、上位は黒色土、下位は淡色シルト質土であり、覆土2層はブロック状に落ち込む。遺物は出土していない。

**SK4** (図版10・11)

3B-8グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。Ⅷ層上面より掘り込まれている。調査区端部で確認されたため平面形は不明である。SD2と切り合い本遺構の方が新しい。深さ0.30mである。断面形は半円形である。覆土から多量の炭化物が出土した。覆土はにぶい黄色土で他の土坑では見られない土である。炭化物を含むが焼土化はしていない。覆土が一時に堆積していることから、人為的に埋められた可能性がある。遺物は土師器長甕、須恵器無台杯・杯蓋(図版15)などが出土している。

**b) 溝 (SD)****SD1** (図版11、写真図版8)

2D-9・10グリッド(3トレンチ)にある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。東西方向にのび両端とも調査区外に続く。断面形は箱形である。深さ0.26mである。覆土中より土師器無台碗・長甕・小甕、須恵器無台杯(図版15)などが出土し、長甕(図版15-55)はほぼ完形で立てられた状態で確認された。遺物の状況から関連する付属遺構等の存在が考えられたが確認できなかった。

**SD2** (図版10・11、写真図版8)

3B-4・5・8・9・10グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。Ⅷ層上面より掘り込まれている。北東方向にのび両端とも調査区外に続く。断面形は台形状である。深さ0.30mである。遺構端部は調査区外であるが最大幅は約3mと考えられる。覆土は上位が黒色土、下位が淡色土でありともにシルト質で粘性が強い。水が流れていたことが考えられ、遺構規模と合わせると小河川の可能性もある。覆土中より土師器無台碗、須恵器無台杯、土師器長甕・小甕・鍋、須恵器大甕(図版16)などが出土した。遺物は覆土の上位層で多く見られた。覆土1層はプラントオパール分析の結果(第5節 A)イネが比較的多量に確認されており、この層が堆積した時点では水が流れていない状態であることが想定される。

**SD3** (図版10・11、写真図版8)

3C-6・11グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。Ⅷ層上面より掘り込まれている。南北方向にのび両端とも調査区外に続く。断面形は皿形で、坑底面は平坦である。最大幅0.70m、深さ0.08mである。覆土は淡色土で炭化物は含むが焼土化はしていない。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器大甕(図版16)などが出土した。

**c) 掘立柱建物跡 (SB)****SB1** (図版10・11)

3B-12・13・18グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。鉄塔脚部のため規模は不明であるが、柱間の多い方向を桁行(長軸)、柱間の少ない方向を梁行(短軸)とするならば、桁行は2.4m、梁行は2m程度と推定される。柱間は0.5mから2mである。ピットは4基確認された。ピット内に柱材は残存していないが土層観察で黒色土の落ち込みが確認できた。

P1 3B-18グリッドにあり、長軸0.23m、短軸0.22m、深さ0.21mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土3が落ち込む。

P2 3B-18グリッドにあり、長軸0.27m、短軸0.26m、深さ0.20mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土3が落ち込む。

P3 3B-12グリッドにあり、長軸0.32m、短軸0.30m、深さ0.19mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土2が落ち込む。

P4 3B-8グリッドにあり、長軸0.34m、短軸0.28m、深さ0.26mである。平面形は楕円形、断面形は半円形である。覆土1が落ち込む。

d) ピット (Pit)

Pit1 (図版10・11)

2B-15グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.22m、短軸0.18m、深さ0.16mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は2層に分層され、上位は黒色土、下位は淡色土で、レンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

Pit2 (図版10・11)

2B-20グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.25m、短軸0.23m、深さ0.18mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は3層に分層され、上位は黒色土、下位は淡色土で、互層に堆積している。遺物は出土していない。

Pit3 (図版10・11、写真図版8)

3C-6グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.32m、短軸0.28m、深さ0.17mである。平面形は不定形、断面形は半円形である。覆土は2層に分層されともに黒色土で、レンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

Pit4 (図版10・11、写真図版8)

3C-6グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.40m、短軸0.38m、深さ0.26mである。平面形は円形、断面形は半円形である。覆土は2層に分層される。覆土中より土師器無台椀(図版17)が出土している。

Pit5 (図版10・11)

3C-11グリッドにある平安時代の遺構と考えられる。確認面はⅧ層上面である。長軸0.24m、短軸0.22m、深さ0.16mである。平面形は不定形、断面形は半円形である。覆土は黒色が強い。SD3と重複し本遺構の方が新しい。SD3との関連は不明である。

## 4 遺物各説 (図版14~17、写真図版9~12)

中谷内遺跡からは、古墳時代から近世以降の遺物が出土している。出土した遺物の大半は平安時代の遺物である。出土総量はコンテナ(内径54.5×33.6×10cm)に14箱である。

### A 1 区

#### 1) 古代の遺物

##### a) 遺構出土遺物 (図版14、写真図版9)

#### SD1 (図版14、写真図版9)

須恵器大甕の胴部(1)が出土している。遺構の検出層位から流れ込みによるものと思われる。

### B 2 区

#### 1) 古代の遺物

##### a) 遺構出土遺物 (図版14、写真図版9)

#### SK2 (図版14、写真図版9)

土師器無台椀(2~7)、黒色土器無台椀(8)、土師器長甕(9・10)・小甕(11)が出土している。2~5の土師器

無台碗はC2類で、6はC1類である。3・4は共に口縁部から底部まで残存し、形態も類似する。底部は糸切り後無調整で、ロクロの回転方向は右である。7の土師器無台碗は底部資料で、糸切り後無調整でロクロの回転方向は左である。9の土師器長甕は口縁部資料で端部が上方に短く屈曲するB類で、内外面カキメである。8の黒色土器は胴部資料で内面はミガかかっている。11の小甕は底部資料で、糸切りの後調整されている。

#### SK3 (図版14、写真図版9)

土師器長甕(12)が出土している。12は口縁部端が上方に短く屈曲するB類である。全体に摩滅しているが胴部上位はカキ目、下位はタタキ目がある。

#### SK4 (図版14、写真図版9)

土師器無台碗(13)、須恵器無台杯(14)が出土している。13の土師器無台碗はA3類で口縁部資料である。

#### b) 包含層出土遺物 (図版14・15、写真図版10)

土師器無台碗(15~26)、黒色土器有台皿(27・28)、須恵器無台杯(29~35)・有台杯(36)、土師器小甕(37~43)・鍋(44・45)、須恵器大甕(46)が出土している。15~19・21の土師器無台碗はA2類で、20・26はC2類である。18の土師器無台碗は器高・底径はSK2出土の3・4に類似するが、口縁部形態は内彎ぎみに立ち上がる。底部は糸切り後無調整である。27・28の黒色土器有台皿は貼り付け輪高台である。須恵器無台杯の底部はヘラ切り後無調整である。36は口縁部資料であるが形態から有台杯とした。37の土師器小甕はC類で、38はB類である。40・42の土師器小甕は底部資料で糸切り後無調整、42はロクロの回転方向は右である。44の鍋はB類である。46の須恵器大甕の口縁部は内外面カキ目が、頸部内面は同心円の当て具痕が残る。

## C 3 区

### 1) 古墳時代の遺物

#### a) 遺構出土遺物 (図版15、写真図版9)

#### SK1 (図版15、写真図版9)

土師器壺(47)が出土している。47は体部がやや縦長に潰れた形状で、体部内面に粘土紐痕を残す。口縁部は体部と比較して小さく、丸底であると思われる。帰属年代は古墳時代中期~後期と考えられる。

#### b) 包含層出土遺物 (図版15、写真図版11)

土師器甕(48・49)が出土している。48は小型の甕で口縁部は「く」の字状に屈曲している。胎土は精練されているが、摩滅しているため調整は不明である。49は土師器甕で内外面ハケメで調整されている。帰属年代は古墳時代中期~後期と考えられる。

### 2) 古代の遺物

#### a) 遺構出土遺物 (図版15・16、写真図版11)

#### SK4 (図版15、写真図版11)

須恵器無台杯(50)・杯蓋(51)、土師器長甕(52)が出土している。50の須恵器無台杯は口縁部~胴部資料でA1類である。51は杯蓋のつまみで、形態はボタン状を呈し中央部は窪んでいる。52の土師器長甕の外側はカキ目、内面はタタキ目が残存することから体部資料と思われる。

#### SD1 (図版15、写真図版9・11)

土師器無台碗(53)、須恵器無台杯(54)、土師器長甕(55~57)・小甕(58・59)が出土している。53の土師



器無台椀は口縁部資料でA2類である。54の須恵器無台杯は口縁部資料でA2類である。55の長甕は3トレンチ端部よりほぼ原形をとどめた形で出土した。口縁部は体部から明瞭に屈折し「く」の字状に外反した後上方が短く屈曲するB類である。体部内外面にカキ目が巡り、下半にタタキ目及び当て具痕が、内面にはカキ目も見られる。底部内面に単位の少ない当て具痕が見られる。58・59の小甕はB類である。

#### SD 2 (図版16、写真図版11)

土師器無台椀 (60~64)、須恵器無台杯 (65~70)、土師器長甕 (71・72)・小甕 (73~83)・鍋 (84)、須恵器大甕 (85~86) が出土している。60・61の土師器無台椀は口縁部が内彎するA2類で、64は器壁が底部から直に立ち上がるB1類である。63の土師器無台椀の器壁は底部から緩やかに立ち上がる。63・64は底部が残存しており、63の底径は4.9cm、64は5.8cmで、確認された土師器無台椀の中ではやや広めである。65・66の須恵器無台杯は胴部~底部資料で、65の器壁は底部から緩やかに、66はやや直に立ち上がる。底径はともに7cm以上あり、ヘラ切り後無調整で、ロクロの回転方向は右である。形態及び焼成から新津産と思われる。71・72の土師器長甕は口縁端部が屈曲しないC類である。73~75の土師器小甕はA類、76・77はB類、78・79はC類である。84の鍋はB類である。85の須恵器大甕は外面にタタキ目、内面に同心円当て具痕が残る。

#### SD 3 (図版16、写真図版11)

土師器無台椀 (87)、須恵器杯蓋 (88)、土師器長甕 (89~93)・小甕 (94~97)、須恵器大甕 (98)・壺 (99) が出土している。87の土師器無台椀は器壁が底部から緩やかに立ち上がる。88は須恵器杯蓋の端部で下方に屈曲する形態である。1類の須恵器無台杯に伴うものと考えられる。94・95の小甕はB類である。

#### Pit 4 (図版17、写真図版11)

100の土師器無台椀は器壁が底部から緩やかに立ち上がる。

#### b) 包含層出土遺物 (図版17、写真図版9・12)

土師器無台椀 (101・102)、須恵器無台杯 (103~108)・有台杯 (109)・杯蓋 (110)、土師器長甕 (111)・小甕 (112・113)・鍋 (114)、須恵器大甕 (115~117)・横瓶 (118)・小型長頸壺 (119・120)、磁器 (121) が出土している。確認・試掘調査で須恵器無台杯 (122~126)、土師器小甕 (127・128)・長甕 (129) が出土している。101・102の土師器無台椀は底部資料で、102は糸切り後無調整で、ロクロ回転方向は右である。101は比較的底部が広く器高が低い形態と考えられる。103・104の須恵器無台杯はともに口径13cm以上で、器壁が底部から直に立ち上がるB2類である。確認された須恵器無台杯の中では法量が大きい部類である。底部はヘラ切り後無調整で、ロクロ回転方向は左である。105・123はB1類の須恵器無台杯である。103・104に比べると小型で、器壁の底部からの立ち上がりやや斜めである。108・124・125はA2類で、B類とした須恵器無台杯に比べると器壁の底部からの立ち上がり斜めである。109は口縁部~胴部資料であるが、形態から須恵器有台杯とした。110は杯蓋の端部で下方に屈曲する形態である。2類の須恵器無台杯に伴うものと考えられる。111は土師器長甕で外面にタタキ目、内面に同心円当て具痕がある。112の小甕はB類である。114の鍋はB類で、胴部上位は内外面カキ目、下位はケズリとハケメによる調整である。115~117は須恵器大甕で外面にタタキ目が、内面にカキ目又は当て具痕がある。118の横瓶は外面にタタキ目、内面に同心円の当て具痕がある。119・120は小型の長頸壺の頸部である。121は竹笹文が施された18世紀代の肥前産の磁器の染付碗である。130は磨石で石材は安山岩である。

## 5 自然科学分析

### A 中谷内遺跡3区の土層とテフラ

早田 勉 (株)古環境研究所

#### 1) はじめに

新潟県域には、御岳、妙高、黒姫、焼山など信越地方の火山のほか、北関東地方や中国地方さらに九州地方に分布する火山などから噴出したテフラ（tephra, 火山砕屑物, いわゆる火山灰）が多く分布している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代だけでなく、遺構や遺物の年代などについても知るようになる。そこで新津市中谷内遺跡においても、地質調査を行って土層の記載を行うとともに、テフラ検出分析を行って、指標テフラの検出同定を試みるようになった。地質調査の対象となった地点は、3区セクションである。

#### 2) 土層層序

3区セクションでは、下位より灰色シルト層（層厚19cm, S D2 3層）、灰色シルト層（層厚6cm, S D2 2層）、黄灰色シルト層（層厚4cm以上, S K4覆土）、灰色シルト層（層厚6cm, S D2 1層）、暗灰色泥層（層厚17cm, VII層）、やや鉄分を多く含む暗灰色土（層厚12cm, VI層）、灰色土（層厚11cm, V層）、褐色がかかった灰色土（層厚11cm, IV層）、灰色土（層厚6cm, III層）、灰色表土（層厚16cm, I～II層）が認められる（図1）。

#### 3) テフラ検出分析

##### a) 分析試料と分析方法

土層の層位や年代に関する資料を得るために、3区セクションにおいて基本的に5cmごとに設定・採取された試料のうち11点について、テフラ検出分析を行った。テフラ検出分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80°Cで乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を観察。

##### b) 分析結果

テフラ検出分析の結果を（表1）に示す。分析では、試料18と試料8を除くいずれの試料からも火山ガラスを検出することができた。そのうち試料20には、白色の軽石型ガラスや、無色透明のバブル型ガラスが少量含まれている。試料16から試料10にかけては、無色透明や白色の軽石型ガラスや褐色のバブル型ガラスが少量検出される。試料8より上位の試料には、比較的多くの火山ガラスが含まれている。火山ガラスは無色透明の軽石型やバブル型のものである。

#### 4) 考察

テフラ検出分析の結果、とくにガラス質指標テフラの降灰層準を示すような、火山ガラスの濃集層準は検出されなかった。火山ガラスの起源としては、繊維束状に発泡した軽石型ガラスがとくに多いこと、さ

らに角閃石が認められることなどから、約5,000年前<sup>1)</sup>に沼沢火山から噴出した沼沢1テフラ (Nm-1, 只見川第四紀研究グループ, 1966a, 1966b, 町田・新井, 1992) に由来する可能性が高いと思える。しかしながら、多くの火山ガラスの特徴は、915年に十和田火山から噴出したと考えられている十和田 a 火山灰 (To-a, 大池ほか, 1966, 大池, 1972, 町田ほか, 1981) のテフラ粒子の特徴ともほぼ共通している。したがって、比較的連続的に軽石型ガラスが出現しはじめる試料6 (Ⅶ層) 付近にその降灰層準があるのかも知れないが、その詳細については不明な点が多い。

今後、精度が高い屈折率測定や、信頼度が高いEPMAによる火山ガラスの主成分化学組成分析を行うことによって、指標テフラとの同定精度が高められると良い。

5) 小結

新津市中谷内遺跡3区において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、沼沢1テフラ (Nm-1, 約5,000年前<sup>1)</sup>) などに由来する可能性があるテフラ粒子を検出することができた。

\*1 放射性炭素 (<sup>14</sup>C) 年代。

文 献

町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.  
 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ, 科学, 51, p.562-569.  
 大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年, 第四紀研究, 11, p.232-233.  
 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 (1966) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰, 第四紀研究, 5, p.29-35.  
 只見川第四紀研究グループ (1966a) 福島県野沢盆地の浮石質砂層の基底部より産出した木材の<sup>14</sup>C年代—日本の第四紀研究層の<sup>14</sup>C年代 X X VI—, 地球科学, 82, p.8-9.  
 只見川第四紀研究グループ (1966b) 只見川・阿賀野川流域の第四系の編年—とくに沼沢浮石層の層位学的諸問題について, 第四紀, 8, p.76-79.

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
3区	2	-	-	-	++	pm	透明
	4	-	-	-	++	pm	透明
	6	-	-	-	++	pm>bw	透明
	8	-	-	-	-	-	-
	10	-	-	-	+	pm	透明
	12	-	-	-	+	bw	褐
	14	-	-	-	+	pm	白
	15	-	-	-	+	pm	透明
	16	-	-	-	+	pm	白
	18	-	-	-	-	-	-
	20	-	-	-	+	pm>bw	透明,白

表1 テフラ検出分析結果

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない, 最大径の単位は, mm. bw: パブル型, pm: 軽石型.

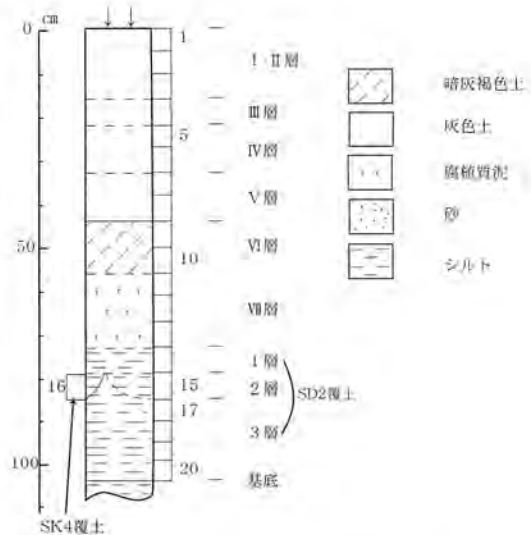


図1 中谷内遺跡3区の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

## B 中谷内遺跡3区におけるプラント・オパール分析

杉山真二 (榊古環境研究所)

### 1) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

### 2) 試料

試料は、3区から採取された計10点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

### 3) 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- (1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- (2) 試料約1gに対し直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- (3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- (4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- (5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- (6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:  $10^{-5}\text{g}$ ) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

### 4) 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ

属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を（表1）および（図1）に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

## 5) 考察

### a) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山, 2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

3区では、I-II層（試料1）からSD2 覆土3層（試料10）までの層準について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、I-II層（試料1）では密度が11,300個/gとかなり高い値である。これは、現在もしくは比較的最近の稲作によるものと考えられる。III層（試料2）では密度が5,300個/gと高い値であり、IV層（試料3）、V層（試料4）、SD2 覆土1層（試料7）でも3,000~4,500個/gと比較的高い値である。したがって、これらの各層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

その他の層では、密度が700~2,300個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

### b) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。おもな分類群の推定生産量によると、III層~SD2 覆土1層ではヨシ属が優勢であり、V層より上位ではイネも多くなっている。

以上のことから、III層より下位層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。また、I-II層ではヨシ属があまり見られなくなっていることから、この時期には堆積環境が乾燥化（乾田化）した可能性が考えられる。

## 6) まとめ

プラント・オパール分析の結果、I-II層~V層およびSD2 覆土1層の各層からはイネが多量に検出され、それぞれ稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、その他の各層でも稲作が行われていた可能性が認められた。III層より下位層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。

文 献

杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学, 同成社, p.189-213.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (I) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 -, 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) - プラント・オパール分析による水田址の探査 -, 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

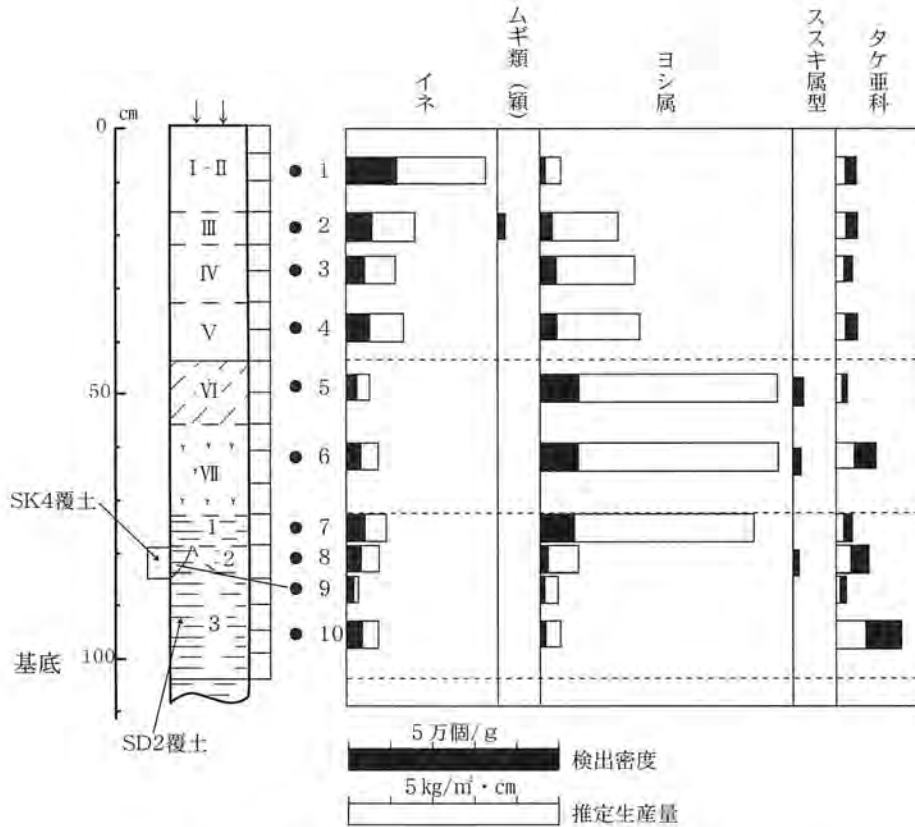


図1 新津市、中谷内遺跡3区におけるプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

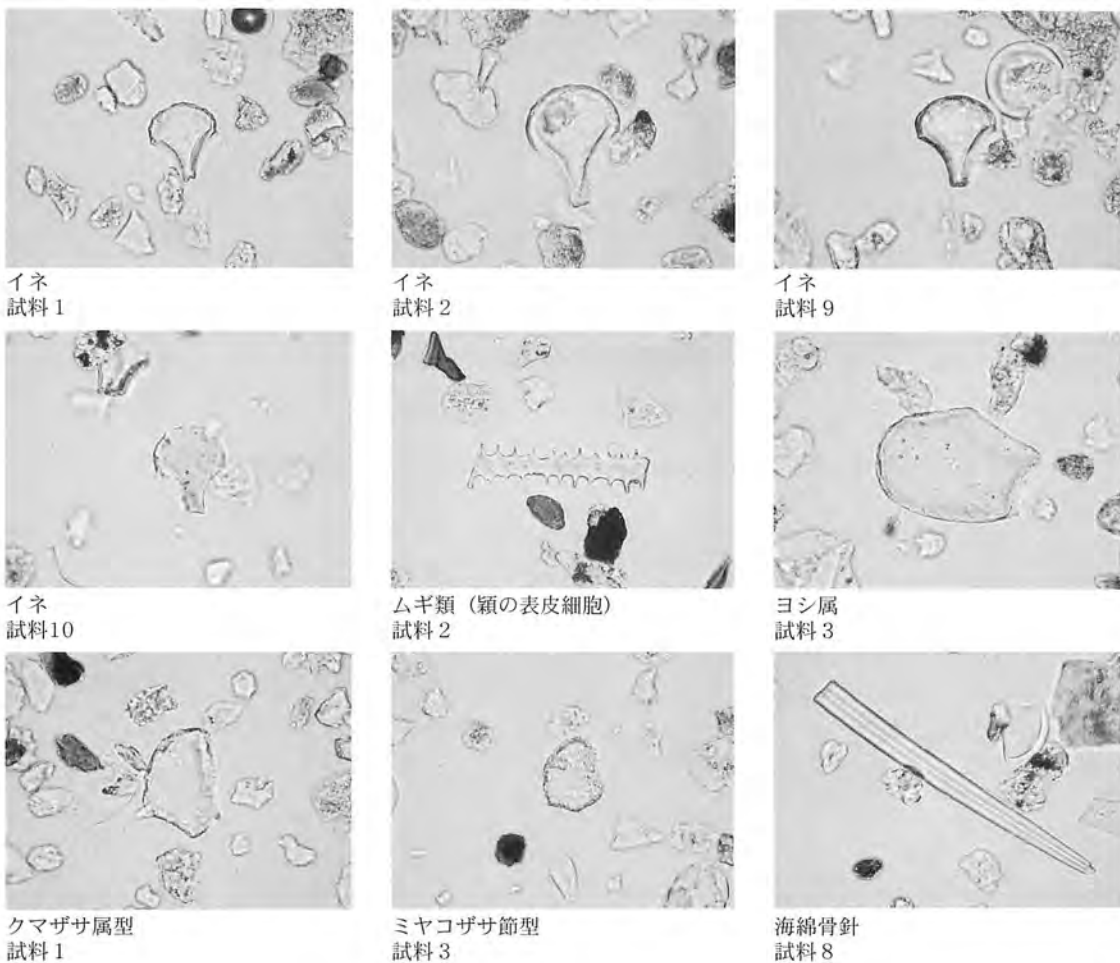
分類群	学名	地点・試料	3区									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)		113	53	37	45	15	23	30	23	7	23
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)		8	30	37	38	91	91	82	15	7	8
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type						15	8		8		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)		45	45	37	45	23	91	37	75	22	151
ムギ類(穎の表皮細胞)	<i>Hordeum-Triticum</i> (husk Phytolith)			8								

推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	3.31	1.56	1.10	1.33	0.44	0.67	0.88	0.67	0.22	0.66
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.47	1.91	2.36	2.37	5.71	5.76	5.19	0.95	0.47	0.48
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type					0.19	0.09		0.09		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.22	0.22	0.18	0.22	0.11	0.44	0.18	0.36	0.11	0.72

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

表1 新津市、中谷内遺跡3区におけるプラント・オパール分析結果



植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真 ————— 50 μm

## 6 まとめ

### A 遺 構

中谷内遺跡の遺構についてまとめる。なお、1区及び2区は、平成9年に農免道路大蔵七日町線に伴う発掘調査〔立木ほか1999〕(以下、中谷内遺跡(99年))及び平成12年に東部排水機場建設に伴う発掘調査〔渡邊ほか2002〕(以下、中谷内遺跡(02年))と近接するため遺構の対応関係を含め記載する。

#### 1) 中谷内遺跡1区

今回調査した中谷内遺跡1区(以下、中谷内1区)は中谷内遺跡(99年)から60mほど北に位置する。中谷内遺跡(99年)発掘調査で遺構は調査区北西側と南東側に集中しており、中谷内1区はこの北西集中区の北方向である。中谷内遺跡(99年)で遺構が集中した区域の遺構確認面上面の標高が約2.8m、中谷内1区では北西側の遺構確認面の標高が約3mで北東側に向かって標高が下がっている。現在では耕地整理により平坦な地形であるが、古代における遺跡周辺の地形は〔星野ほか1996〕に記載されているように結の東方から満願寺へと断続的に続く丘陵上に位置すると思われる。さらに中谷内遺跡(99年)調査時に確認された旧河道の標高と遺構確認面の標高差から、中谷内1区は旧河道に伴う微高地の端部に位置すると考えられる。

古代の遺構はSD1基、Pit4基確認された。Pitについては掘立柱建物の構成は認められない。溝についてはSD2の主軸は北西～南東で、覆土はシルト質の黒色土であり水路として使用されたと思われる。

近世以降の遺構はSD1基、Pit1基確認された。SDについては『新津町東部耕地整理組合現景図』(1940年頃作成)に対応する位置に水路があり、中谷内遺跡(99年)におけるSD5及び中谷内遺跡(02年)発掘調査におけるSD6に対応する「水路」であると考えられる。

#### 2) 中谷内遺跡2区

今回調査した中谷内遺跡2区(以下、中谷内2区)は中谷内遺跡(99年)調査区から20mほど南に位置し、1区で記載した中谷内遺跡(99年)調査区の遺構集中区域の南東側である。中谷内2区の遺構確認面の標高は約2.9mで、1区で述べた旧河道に伴う微高地に位置していたと思われる。中谷内遺跡(99年)調査で遺跡南東方向での遺構の検出の可能性が指摘されていたため確認に努めたが遺構密度はあまり高くなかった。中谷内1区の調査と合わせると、中谷内遺跡(99年)における遺構密度が高い部分は、旧河道からあまり距離が離れていない範囲におさまると考えられる。このことは旧河道の規模は広大な自然堤防を伴うものではないことを示し、生活圏は河の近辺の水利の便の良いところに限られるようである。

中谷内2区では遺物を伴う土坑はSK2・SK3・SK4の3基確認された。遺構の分布に規則性は見られなかった。SK2・SK3・SK4の覆土は少量の炭化物を含むものであったが、焼土化は認められなかった。SK4の平面形態は大型の楕円形、SK2は調査区端部で平面形態は不明だが大型の楕円形を呈すると思われる。出土した土器は破片であり、出土土器の種類に偏りが見られないことから焼成遺構の可能性は低く、中谷内遺跡(99年)報告書〔立木ほか1999〕で指摘されている「ゴミ穴」として機能していた可能性が考えられる。SK3は調査区端部で確認されたため全体形は不明である。遺物は土師器長甕が出土した。覆土は炭化物を少量含んでいる。覆土及び遺物の摩滅具合から遺物を遺棄した土坑と思われる。Pitは6基確認され、遺跡北側が多い。Pitについては掘立柱建物の構成は認められなかった。



### 3) 中谷内遺跡 3区

今回調査した中谷内遺跡3区（以下、中谷内3区）は中谷内遺跡（99年）から400mほど南に位置し、標高は約3.2mである。

#### 古墳時代の遺構

S K1は3B-12グリッドで確認され、覆土より古墳時代の遺物が出土した。（図版15-47）遺物は上から潰れた状態で土坑底部より確認された。土坑内に立てられた状態で埋まった可能性が高い。中谷内3区では平安時代の遺構も確認されているが、確認面はともにⅧ層上面であった。

#### 古代の遺構

本跡における遺構の分布は調査区北東側と南西側に集中している。北東側には比較的規模の大きい遺構がS K4、S B1、S D2の3基確認できた。S K4では土器とともに多量の炭化物が確認された。遺構が調査区外に及んでいるため遺構端部のみの確認であり詳細な検討を行うことができなかったが、焼成遺構の可能性も含め今後考察していきたい。S B1は一部調査区外に及んでいるため全体を知ることはできない。東西を主軸とし、主軸の柱間は約1間と推定される。ピット内から柱材等は確認できなかったがピット内に黒色の覆土が落ち込んでいた。周辺に雨水排水のための区画溝等は確認できなかった。遺構の規模は結七島遺跡〔立木ほか2003〕、沖ノ羽遺跡〔細野ほか2002〕と比較すると規模が小さい。この規模のものは新潟市小丸山遺跡〔小池ほか1995〕に類例が見られ、桁行、梁行の柱間が不均等で全体として正方形を基本としていることは共通している。新潟市小丸山遺跡ではこの他に規模の大きい掘立柱建物跡が確認されており両者が一群をなしている。本跡北東側に遺構が広がることが考えられ今後の調査成果を待ちたい。S D2は覆土の状況から一定期間水が流れていたと思われる。遺構の規模から考えると水路が小河川であろう。遺物が確認された覆土の上層部分は、プラントオパール分析によると遺物が確認された覆土1層において多量のイネが確認された（第5節）。このことから、この層が堆積した時点ではこの遺構では水が流れていなかったと考えられる。上記のことからS K4、S B1、S D2の前後関係はS D2→S K4・S B1と考えられ、土地利用はS D2の埋没に伴い調査区の南西側から北東側へ広がっていったことが考えられる。

南西側ではS D3、Pit 3～5が確認された。S D3は調査区外に及んでいるため形状及び規模は不明であるが、最大幅と形状から溝とした。覆土からは土師器無台碗・長甕・小甕等、須恵器無台杯・大甕・杯蓋等が出土している。土器破片が多く種類に偏りが無いこと等から「ゴミ穴」〔立木ほか1999〕として機能していた可能性が指摘される。Pit 5はS D3と重複しており、土層観察ではPit 5の方が新しいがS D3の関連遺構とも考えられる。

S D1はトレンチ内の確認であり遺構の全体形は不明である。覆土よりほぼ完形の長甕が立てられた状態で確認された。何らかの目的で人為的に埋設された可能性が考えられる。

## B 遺物

### 1) 古墳時代の遺物

#### 中谷内遺跡3区

古墳時代の遺物は3点確認された。（図版15-47）は小型の壺で体部はやや縦長に潰れている。つくりは粗雑で器壁は比較的厚く体部内面に粘土紐痕を残す。口縁部は体部と比較して小さいことが特徴である。（図版15-48）は小型の甕で口縁部は「く」の字状に屈曲しており、口縁径は胴部径とほぼ同じである。胎

土は精練されているが、摩滅しているため調整に関しては不明である。(図版15-49)は土師器甕で内外面ハケメである。

胴部に比して口縁部径の小さい小型の壺と、口縁部が「く」の字状で口縁径が胴部径とほぼ同じである小型の甕は、北割遺跡S X4〔川村2000〕出土土器に類例が見られ、川村編年〔川村2000〕の10段階以降と考えられる。今回遺物点数が少ないため帰属時期を明確にすることができなかったが、古墳時代中期～後期頃と思われる。

## 2) 古代の遺物

中谷内遺跡の遺物について中谷内遺跡(99年)及び中谷内遺跡(02年)との対応関係を含め記載する。出土土器の分析にあたり土師器と須恵器の構成比率、土師器無台椀及び須恵器無台杯の形態変化、土師器煮炊具の形態変化等を考慮した。遺構内遺物について口縁部が残存する個体が少ないため構成比は口縁部残存値(以下、口残値)総重量比(以下、重量比)を用い名称を示した。

### 中谷内遺跡2区(第7・9図)

遺構遺物の種類別構成比率は、口残値でS K2(土師器100%)、重量比でS K2(土師器94.4%・黒色土器5.6%)・S K3(土師器100%)・S K4(土師器87.8%・黒色土器3.9%・須恵器8.3%)である。S K3は遺物の大半を土師器長甕(図版14-12)が占めることを考慮すると、9割程度を土師器が占めると言える。

遺構内遺物の食膳具の割合は重量比でS K2(土師器89.9%・黒色土器10.1%)・S K4では(土師器79.6%・黒色土器6.5%・須恵器13.9%)と土師器が8割以上を占める。

機能別組成比率は重量比でS K2(食膳具55.3%・煮炊具44.7%)・S K4(食膳具59.8%・煮炊具40.2%)である。組成比率(重量比)は食膳具が約6割を占め、器種別構成比率はS K2では土師器無台椀49.7%・S K4では土師器無台椀47.6%で土師器無台椀の割合が高い。

土師器無台椀のうち残存割合が高いものについて形状を示すと、(図版14-3)が口径13.8cm、器高3.9cm、底径5.0cm、(図版14-4)が口径13.4cm、器高4.3cm、底径5.2cmでどちらも底部からの立上りが内彎、口縁部が外反するC類である。3の土師器無台椀の器高指数(器高/口径×100)は28、底径指数(底径/口径×100)は36、4はそれぞれ32・39である。

編年的考察のため包含層遺物の土師器無台椀で残存割合が高いものについて形状を示すと、(図版14-18)が口径13.6cm、器高4.5cm、底径4.6cmで底部からの立上りが内彎、口縁部が直に立ちあがるA類である。18の土師器無台椀の器高指数は33、底径指数は34である。食膳具に占める土師器無台椀の割合が高く、器高指数が30前後、底径指数が35弱であることが読み取れる。須恵器無台杯について検討してみると、包含層出土遺物であるが、器高に比べ底径が大きいとみられるもの(図版14-31・32・34・35)と器壁が薄く体部の外傾度が高いもの(図版14-29・30・33)が見られる。煮炊具については、土師器長甕・鍋ともに口縁部で外反するが、受け口状に上方に屈曲はしない。

以上のことを踏まえ新津市と周辺遺跡の考察から中谷内遺跡2区の編年について考察する。

中谷内遺跡において食膳具に占める土師器の割合が非常に高くなるのは、中谷内遺跡(99年)報告書〔立木ほか1999〕では第2期としているが、土師器椀、須恵器杯、土師器煮炊具の形態は概ね第1期の様相に類似する。また、中谷内遺跡(99年)報告書の第2期であるS K13・14、S E32およびそれに相当する新潟市小丸山遺跡〔小池ほか1995〕S D4・5では土師器無台椀で器高指数が35を越えるものが出現しているが、中谷内2区では見られないことから第2期には下がらないと考えられる。

上記のことから中谷内遺跡2区は中谷内遺跡(99年)報告書第1期に相当し、食膳具の形態から考えると

春日編年〔春日1999・2003〕のVI1期（9世紀第3四半期）の年代に位置づけられるであろう。

#### 中谷内遺跡3区（第7～9図）

遺構遺物の種類別構成比率は、口残値でS D1（土師器86.1%・須恵器13.9%）・S D2（土師器83.8%・須恵器16.2%）・S D3（土師器86%・須恵器14%）、重量比でS K4（土師器57.2%・須恵器42.8%）・S D1（土師器99.7%・須恵器0.3%）・S D2（土師器85.3%・須恵器14.7%）・S D3（土師器81%・須恵器19%）である。S D1は遺物の大半を土師器長甕（図版15-55）が占めることを考慮すると、概ね土師器が8割強、須恵器が2割弱の割合である。

遺構内遺物の食膳具の割合は口残値でS D1（土師器39.3%・須恵器60.7%）・S D2（土師器66.7%・須恵器33.3%）・S D3（須恵器100%）、重量値でS K4（土師器2.2%・須恵器97.8%）・S D1（土師器67.2%・須恵器32.8%）・S D2（土師器54.5%・須恵器45.5%）・S D3（土師器96.1%・須恵器3.9%）である。

機能別組成比率は口残値でS D1（食膳具22.9%・煮炊具77.1%）・S D2（食膳具48.7%・煮炊具51.3%）・S D3（食膳具14.0%・煮炊具86.0%）で、煮炊具の割合が食膳具を上回っており、この傾向は重量比でも同様である。

食膳具について、須恵器無台杯は器壁が比較的厚く器高が3cm以上の深身のもの（図版17-103・104）、底部が厚く深身のもの（図版16-65・66）がS D2出土遺物に見られる。後者は形態及び焼成から新津産と考えられる。土師器無台椀（図版16-64）は口径12.4cm、器高3.5cm、土器の器高指数（器高/口径×100）は28である。

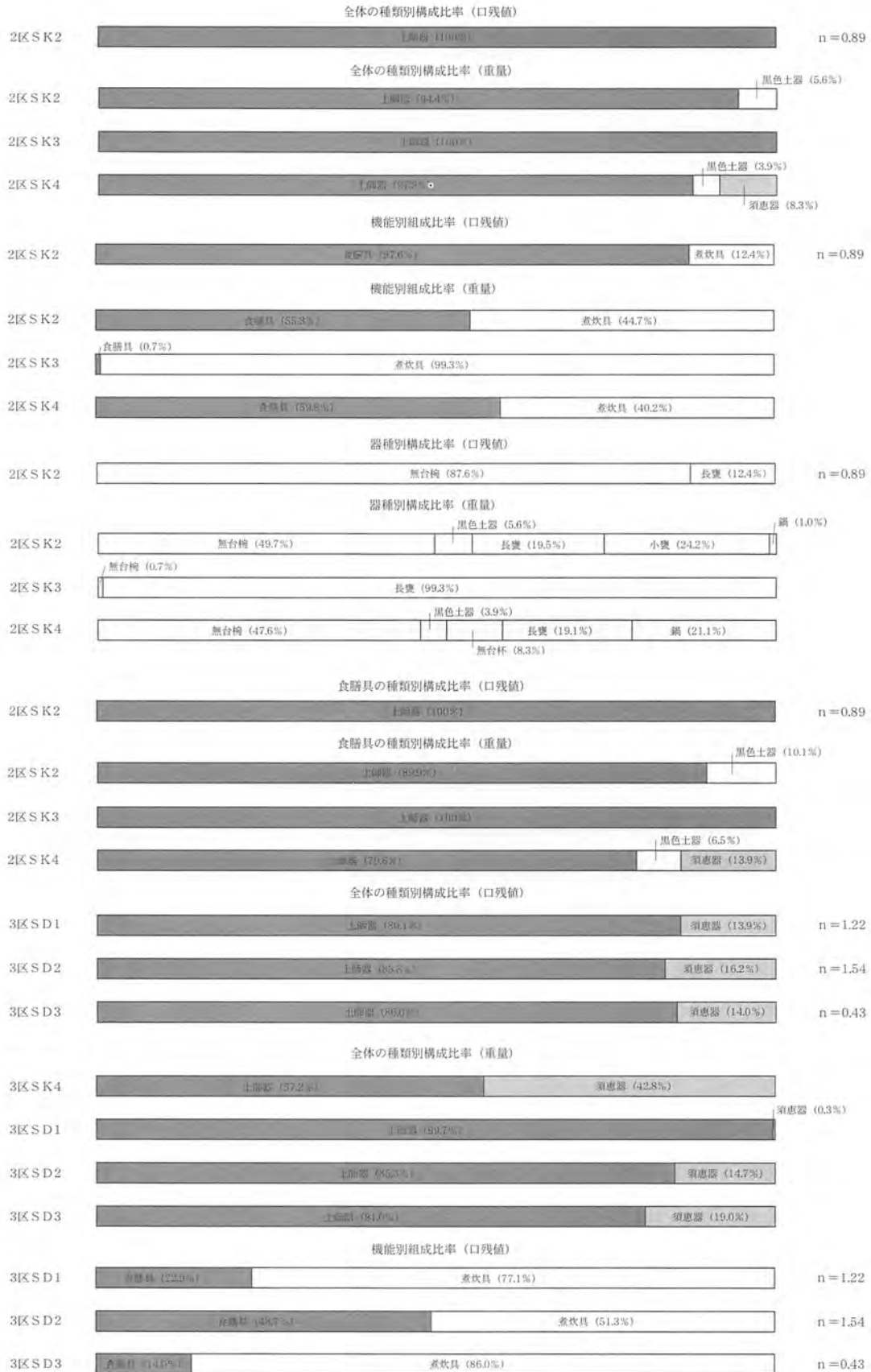
煮炊具については土師器長甕・鍋ともに口縁部は外反した後、受け口状に上方に屈曲しないものが多い。

遺構内に完形の須恵器無台杯が少ないため遺構毎の編年を組み立てることはできないが、須恵器無台杯及び土師器無台椀の形状等からS D2は本遺跡においては古段階であると考えられ、これは遺構の検出状況と一致する。

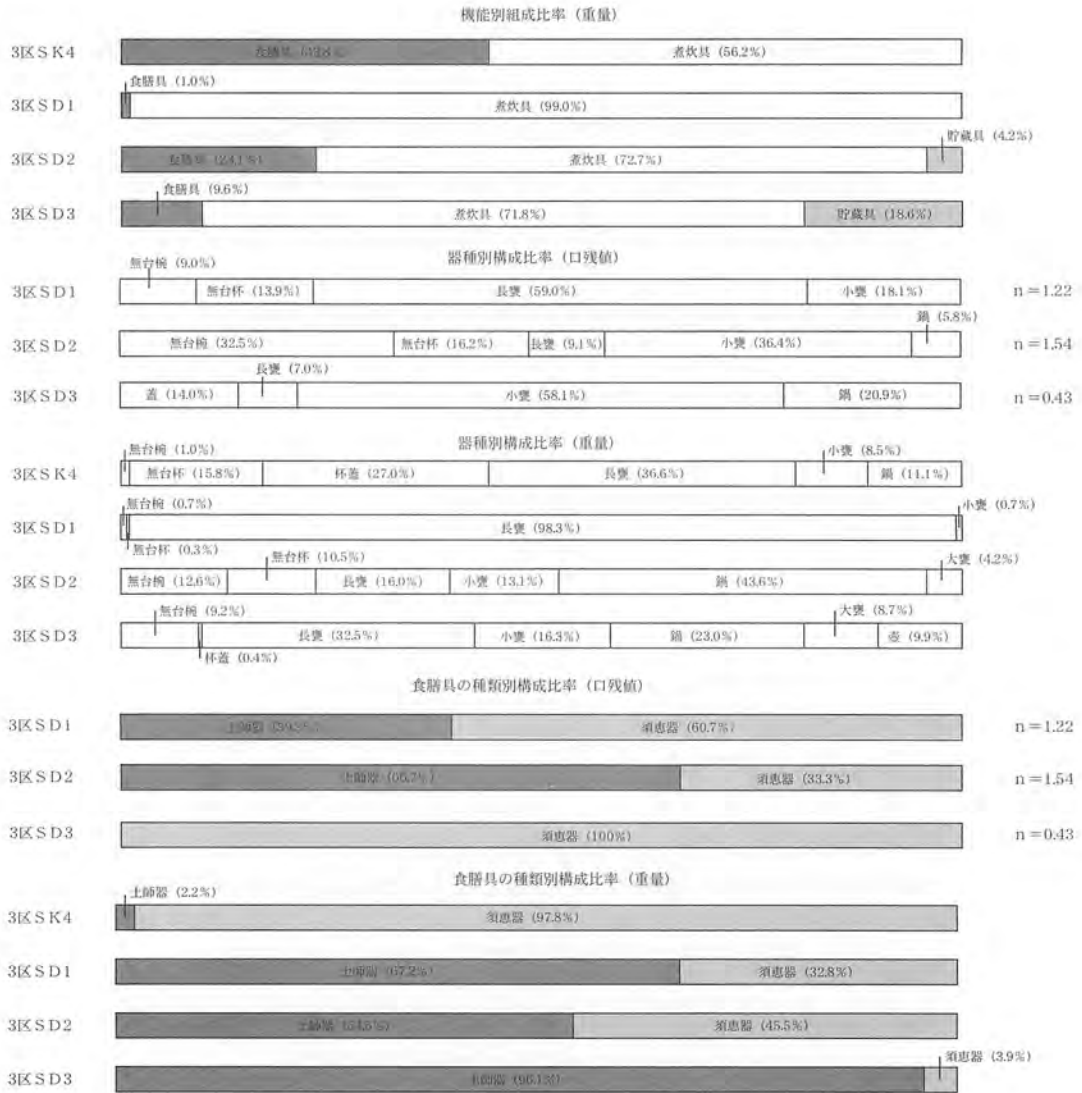
以上のことを踏まえ新津市と周辺遺跡の考察から中谷内遺跡3区の編年について考察する。調査区全体の遺物を概観しながら検討すると、遺構の中で古段階としたS D2及び一部の遺物は食膳具の形態等から中谷内遺跡（99年）報告書の第1期よりさかのぼると考えられる。しかし、その他の食膳具・煮炊具の形態及び食膳具に占める土師器の割合等はそれより新段階の様相である。このことから遺跡の編年的位置づけは春日編年〔春日1999・2003〕のV2期～VI1期（9世紀第2～3四半期）に相当すると思われる。

最後に中谷内遺跡の立地及び性格について過去の発掘調査とあわせ成果と課題を提示したい。

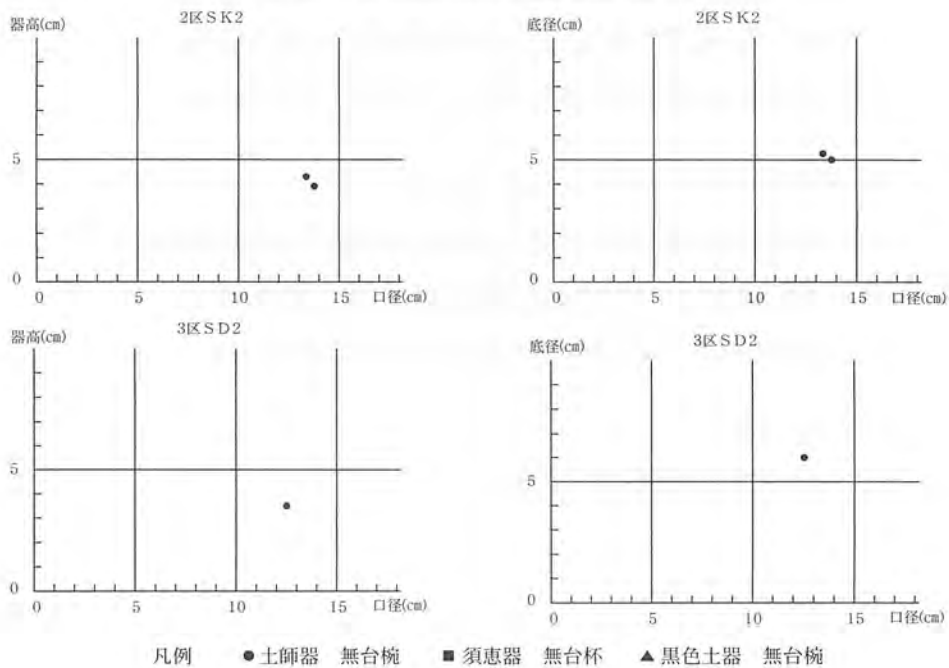
中谷内遺跡3区では古墳時代の遺物が確認され、新津市の古墳時代における沖積地への進出過程の一端が明らかになった。一方、1区及び2区では新津市教育委員会の調査地域に近接し、それを補充する資料が確認された。今後の発掘調査において、この地域における古墳時代から古代にかけての土地利用を考察していくことが必要であろう。



第7図 中谷内遺跡主要遺構別器種組成図 (1)



第8図 中谷内遺跡主要遺構別器種組成図 (2)



第9図 中谷内遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図

別表1 中谷内遺跡主要遺構一覧表

調査区	遺構名	調査区域	グリッド	確認面	形態		遺構規模 (m)				覆土	主軸方向	遺構図版 (No.)	SP (No.)	遺物の有無	遺物図版	備考
					平面	断面	長さ	最大幅長軸	短軸	深度							
1区	SD1	新設部	2B-2・6他	V層	-	台形状	10.50	1.20	-	0.46	1層	N-30° -E	7	6・7	有り	14	
1区	SD2	新設部	2A-24・25他	V層	-	箱形	6.30	0.90	-	0.16	2層	N-58° -W	7	6・8	無し	-	
1区	Pit1	新設部	2B-7	V層	円形	半円形	-	0.40	0.34	0.20	1層	N-57° -W	7	1	無し	-	
1区	Pit2	新設部	2B-9	V層	円形	半円形	-	0.34	0.28	0.20	2層	N-38° -W	7	2	無し	-	
1区	Pit3	新設部	2B-17	V層	円形	半円形	-	0.33	0.27	0.25	1層	N-73° -W	7	3	無し	-	
1区	Pit4	新設部	2B-9	V層	円形	半円形	-	0.27	0.21	0.19	1層	N-85° -E	7	4	無し	-	
1区	Pit5	新設部	2B-2	V層	円形	半円形	-	0.31	0.28	0.18	1層	N-41° -W	7	5	無し	-	
2区	SK1	支線部	5D-3	V層	-	箱形	-	-	-	0.13	3層	-	9	9	無し	-	
2区	SK2	支線部	4A-22・4B-2	V層	-	皿形	-	-	-	0.08	2層	-	8・9	1	有り	14	
2区	SK3	支線部	2E-4	V層	-	皿形	-	-	-	0.06	1層	-	9	8	有り	14	
2区	SK4	拡幅部	3B-24・25他	V層	楕円形	皿形	-	2.10	0.56	0.06	1層	N-48° -W	8・9	10	有り	14	
2区	Pit1	拡幅部	3B-24	V層	円形	半円形	-	0.22	0.20	0.22	4層	N-55° -W	8・9	2	無し	-	
2区	Pit2	拡幅部	3B-23	V層	円形	半円形	-	0.14	0.12	0.14	2層	N-65° -E	8・9	3	無し	-	
2区	Pit3	拡幅部	3B-23	V層	円形	半円形	-	0.18	0.16	0.20	3層	N-65° -E	8・9	4	無し	-	
2区	Pit4	拡幅部	3B-18	V層	円形	半円形	-	0.20	0.18	0.14	2層	N-34° -W	8・9	5	無し	-	
2区	Pit5	拡幅部	3C-9	V層	円形	半円形	-	0.22	0.21	0.30	3層	N-5° -W	8・9	6	無し	-	
2区	Pit6	拡幅部	3C-7	V層	円形	半円形	-	0.18	0.17	0.21	3層	N-52° -W	8・9	7	無し	-	
3区	SK1	拡幅部	3B-12・13	V層	楕円形	半円形	-	0.60	0.36	0.12	1層	N-25° -E	10	1	有り	15	
3区	SK2	拡幅部	3B-7	V層	円形	箱形	-	0.34	0.32	0.13	3層	N-23° -E	10	2	無し	-	
3区	SK3	拡幅部	3B-7・12	V層	円形	台形状	-	0.48	0.46	0.28	4層	N-6° -E	10	3	無し	-	
3区	SK4	拡幅部	3B-8	V層	-	半円形	-	-	-	0.30	1層	-	10・11	14	有り	15	
3区	SD1	支線部	2D-9・10	V層	-	箱形	-	-	-	0.26	3層	-	11	11	有り	15	
3区	SD2	拡幅部	3B-9・10他	V層	-	台形状	-	-	-	0.30	3層	-	10・11	14	有り	16	
3区	SD3	拡幅部	3C-6・11	V層	-	皿形	-	0.70	-	0.08	1層	N-28° -E	10・11	12・13	有り	16	
3区	SB1	拡幅部	3B-12・13他	V層	-	-	-	-	-	-	-	-	10・11	-	無し	-	
3区	SB1(P1)	拡幅部	3B-18	V層	円形	半円形	-	0.23	0.22	0.21	4層	N-27° -E	10・11	9	無し	-	
3区	SB1(P2)	拡幅部	3B-18	V層	円形	半円形	-	0.27	0.26	0.20	3層	N-24° -E	10・11	9	無し	-	
3区	SB1(P3)	拡幅部	3B-12	V層	円形	半円形	-	0.32	0.30	0.19	4層	N-4° -W	10・11	9・10	無し	-	
3区	SB1(P4)	拡幅部	3B-8	V層	楕円形	半円形	-	0.34	0.28	0.26	3層	N-3° -E	10・11	10	無し	-	
3区	Pit1	拡幅部	2B-15	V層	円形	半円形	-	0.22	0.18	0.16	2層	N-83° -W	10・11	4	無し	-	
3区	Pit2	拡幅部	2B-20	V層	円形	半円形	-	0.25	0.23	0.18	3層	N-70° -E	10・11	5	無し	-	
3区	Pit3	拡幅部	3C-6	V層	不定形	半円形	-	0.32	0.28	0.17	2層	N-75° -E	10・11	6	無し	-	
3区	Pit4	拡幅部	3C-6	V層	円形	半円形	-	0.40	0.38	0.26	2層	N-71° -E	10・11	7	有り	17	
3区	Pit5	拡幅部	3C-11	V層	不定形	半円形	-	0.24	0.22	0.16	1層	N-72° -W	10・11	8	無し	-	

別表2 中谷内遺跡古墳時代及び古代土器・陶磁器観察表

図版No.	遺物No.	調査区	出土位置		層位	種別	器種	法量(c m)			器高指数	底径指数	胎土	色調	焼成	手法		回転方向	遺存率			備考
			遺構名	グリッド				口径	底径	器高						外面	内面		口縁部	底部	全体	
14	1	1区	SD1	1B-20	1層	須恵器	大甕					石・長	灰 (5Y5/1)	還元	平行タタキメ・方キメ	同心円当て具痕				1/36		
14	2	2区	SK2	4B-2(2H)	2層	土師器	無台碗	14.0				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36	4/36	
14	3	2区	SK2	4B-2(2H)	2層	土師器	無台碗	13.8	5.0	3.9	28	36	石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整		5/36	18/36	6/36
14	4	2区	SK2	4B-2(2H)	2層	土師器	無台碗	13.4	5.2	4.3	32	39	石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		9/36	34/36	12/36
14	5	2区	SK2	4B-2(2H)	2層	土師器	無台碗	13.0					石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36		4/36

- 凡例  
1 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。  
2 器種 第Ⅲ章に記した。  
3 径高指数 器高/口径×100  
4 底径指数 底径/口径×100  
5 法量 口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は遺存率が低いものである。  
6 胎土 須恵器・土師器について胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「チ」はチャート、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。  
7 色調 『新版標準土色帳』(農林水産省農林水産技術会農事務局監修2002年版)の記号を記した。  
8 焼成 酸化炭焼成・還元炭焼成の区別を記した。  
9 手法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」・「ヘラ切り」はいずれも回転台を用いたものである。回転方向は回転台の回転方向を表す。底部調整やロクロナズリ・ロクロナデから判断した。  
10 遺存率 分数表示で遺存割合を示した。

図版 No.	遺物 No.	調査 区	出土位置		層位	種別	器種	法量(c m)			器高 指数	底径 指数	胎土	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			備考		
			遺構名	グリッド				口径	底径	器高						外面		内面		底部	口縁部	底部		全体	
																還元	酸化	還元							酸化
14	6	2区	SK 2	4B-2(2H)	2層	土師器	無台碗	(12.0)	4.6			石・長	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		左	2/36		2/36				
14	7	2区	SK 2	4B-2(2H)	2層	土師器	無台碗					石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整				36/36	4/36			
14	8	2区	SK 2	4B-2(2H)	2層	黒色土器	無台碗					石・長	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36			
14	9	2区	SK 2	4B-2(2H)	2層	土師器	長頸	(12.0)				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ				4/36		1/36			
14	10	2区	SK 2	4B-2(2H)	2層	土師器	長頸					石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	平行タタキメ	平行タタキメ						1/36			
14	11	2区	SK 2	4B-2(2H)	2層	土師器	小頸	6.6				石・長	淡赤橙 (2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			20/36	4/36			
14	12	2区	SK 3	2D-24	1層	土師器	長頸	22.0				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ・平行タタキメ	カキメ・平行タタキメ					13/36	9/36	9/36	外面胴部スス付着	
14	13	2区	SK 4	3C-5	1層	土師器	無台碗	14.0				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					9/36		6/36		
14	14	2区	SK 4	3C-5	1層	須恵器	無台杯					石・長	灰白 (N7)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ							3/36		
14	15	2区		4B-2(2H)	1層	土師器	無台碗	(13.4)				石・長	灰白 (2.5Y8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36		3/36		
14	16	2区		4B-2(2H)	1層	土師器	無台碗	14.0				石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					7/36		4/36		
14	17	2区		3C-3	1層	土師器	無台碗	(14.0)				石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36		2/36		
14	18	2区		3C-15	1層	土師器	無台碗	(13.6)	4.6	4.5	33	34	石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右		2/36	21/36	7/36		
14	19	2区		3B-23	1層	土師器	無台碗	13.0				石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					6/36		4/36		
14	20	2区		3C-5	1層	土師器	無台碗	13.0				石・長	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					6/36		4/36		
14	21	2区		3C-6	1層	土師器	無台碗	(13.0)				石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36		3/36		
14	22	2区		3C-15	1層	土師器	無台碗		4.0			石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			34/36	7/36		外面体部下位～底面にスス付着	
14	23	2区		3C-6	1層	土師器	無台碗		4.2			石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右			36/36	7/36			
14	24	2区		5D-3(4H)	1層	土師器	無台碗		5.0			石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	左			10/36	3/36			
14	25	2区		4B-2(2H)	1層	土師器	無台碗		6.0			石・長	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右			11/36	4/36			
14	26	2区		5D-3(4H)	1層	土師器	無台碗	(13.0)				石・長	にぶい黄橙 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36		1/36		
14	27	2区		3C-14	1層	黒色土器	有台皿		(6.0)			石・長・角	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36	2/36		
14	28	2区		3C-24	1層	黒色土器	有台皿		6.0			石・長・角	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						12/36	6/36		
14	29	2区		3C-19	1層	須恵器	無台杯	(13.0)				石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36		3/36		
14	30	2区		2D-24(3H)	1層	須恵器	無台杯	8.2				石・長	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り					7/36	4/36		
14	31	2区		3C-23	1層	須恵器	無台杯	7.8				石・長	灰 (N6)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左			6/36	4/36			
14	32	2区		3C-12	1層	須恵器	無台杯	8.0				石・長	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左			15/36	4/36			
14	33	2区		3C-2	1層	須恵器	無台杯	(8.0)				石・長	羽・灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左			6/36	3/36			
14	34	2区		3C-5	1層	須恵器	無台杯	6.0				石・長	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左			8/36	4/36			
14	35	2区		3C-7	1層	須恵器	無台杯	(8.0)				石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左			7/36	3/36			
14	36	2区		3C-19	1層	須恵器	有台杯	(12.0)				石・長	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36		2/36		
15	37	2区		4C-2	1層	土師器	小頸	(13.6)				石・長・角	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36		2/36	内面口縁部にスス付着	
15	38	2区		3C-6	1層	土師器	小頸	(11.6)				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36		1/36		
15	39	2区		5D-3(4H)	1層	土師器	小頸	(7.6)				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						9/36	2/36		
15	40	2区		3C-5	1層	土師器	小頸	6.0				石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整					10/36	2/36		
15	41	2区		3C-7	1層	土師器	小頸	9.4				石・長	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						12/36	4/36	底部コゲ、剥落有り	
15	42	2区		4C-1	1層	土師器	小頸	6.6				石・長・角	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右			17/36	3/36		外面スス付着	
15	43	2区		2D-24(3H)	1層	土師器	小頸	6.4				石・長・角	赤橙 (10R6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り					10/36	4/36		
15	44	2区		3C-1	1層	土師器	鍋					石・長	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	カキメ	カキメ					2/36		1/36		
15	45	2区		5D-3(4H)	1層	土師器	鍋					石・長	黒褐 (2.5Y3/1)	酸化	タタキメ	タタキメ						1/36		外面全体、内面下部にスス付着	
15	46	2区		3C-1	1層	須恵器	大頸	(44.0)				石・長・子	灰 (N4)	還元	カキメ	カキメ					3/36		2/36		
15	47	3区	SK 1	3B-12	1層	土師器	竈					石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ナデ・ミガキ	ナデ						20/36		古墳時代	
15	48	3区		3B-13	1層	土師器	竈	(12.0)				石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ナデ	ナデ					4/36		3/36	古墳時代	
15	49	3区		3C-6	1層	土師器	竈					石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ハケメ	ハケメ						1/36		古墳時代	
15	50	3区	SK 4	3B-8	1層	須恵器	無台杯	11.5				石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36		5/36		
15	51	3区	SK 4	3B-8	1層	須恵器	坏蓋					石・長	灰白 (5Y7/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						4/36		1/36	つまみ(径3.4c m)のみ残存
15	52	3区	SK 4	3B-8	1層	土師器	長頸					石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ							3/36		
15	53	3区	SD 1	2D-10(3H)	2層	土師器	無台碗	12.6				石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36		3/36		
15	54	3区	SD 1	2D-10(3H)	3層	須恵器	無台杯	13.0				石・長	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					6/36		3/36		
15	55	3区	SD 1	2D-10(3H)	2層	土師器	長頸	18.5		34.8		石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	カキメ・平行タタキメ	カキメ・平行タタキメ					26/36	27/36	33/36	外面胴下部スス付着	
15	56	3区	SD 1	2D-10(3H)	2層	土師器	長頸					石・長・角	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	カキメ・平行タタキメ	カキメ・平行タタキメ							2/36		
15	57	3区	SD 1	2D-10(3H)	2層	土師器	長頸					石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	平行タタキメ	平行タタキメ							1/36		
15	58	3区	SD 1	2D-10(3H)	2層	土師器	小頸	(16.0)				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36		1/36	
15	59	3区	SD 1	2D-10(3H)	2層	土師器	小頸	(14.0)				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						5/36		2/36	
16	60	3区	SD 2	3B-9	3層	土師器	無台碗	12.6				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						7/36		4/36	
16	61	3区	SD 2	3B-9	2層	土師器	無台碗	12.6				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						6/36		7/36	
16	62	3区	SD 2	3B-10	1層	土師器	無台碗	(12.4)				石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36		2/36	
16	63	3区	SD 2	3B-5	1層	土師器	無台碗		4.9			石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り					12/36		4/36	
16	64	3区																							

図版 No.	遺物 No.	調査 区	出土位置		層位	種別	器種	法量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎土	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率		備考	
			遺構名	グリッド				口径		器高						外面		内面		底部	口縁部		全体
								長さ	底径							長さ	底径						
16	71	3区	SD2	3B-4	1層	土師器	長甕	(26.0)				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ	カキメ			3/36	1/36			
16	72	3区	SD2	3B-9	2層	土師器	長甕	(30.0)				石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	カキメ	ロクロナデ			2/36	1/36			
16	73	3区	SD2	3B-5	1層	土師器	小甕	(14.0)				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	1/36			
16	74	3区	SD2	3B-4	1層	土師器	小甕	(14.0)				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	1/36			
16	75	3区	SD2	3B-9	1層	土師器	小甕	(12.6)				石・長	灰白 (2.5Y8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	1/36			
16	76	3区	SD2	3B-10	1層	土師器	小甕	(20.0)				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	1/36			
16	77	3区	SD2	3B-9	2層	土師器	小甕	(15.5)				石・長	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36	2/36	内外面口縁部にスス付着		
16	78	3区	SD2	3B-9	1層	土師器	小甕	(14.0)				石・長	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	3/36			
16	79	3区	SD2	3B-9	1層	土師器	小甕	(14.0)				石・長	にぶい赤褐 (5YR5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	2/36	内外面口縁部にスス付着		
16	80	3区	SD2	3B-9	3層	土師器	小甕	(14.0)				石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	カキメ				1/36			
16	81	3区	SD2	3B-9	1層	土師器	小甕		6.2			石・長	にぶい橙 (5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			16/36	4/36			
16	82	3区	SD2	3B-8	1層	土師器	小甕		7.0			石・長	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		4/36	4/36			
16	83	3区	SD2	3B-9	1層	土師器	小甕		7.0			石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		7/36	3/36			
16	84	3区	SD2	3B-8	1層	土師器	鉢	(40.0)				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	カキメ			2/36	1/36			
16	85	3区	SD2	3B-4	1層	須恵器	大甕					石・長	灰 (5Y6/1)	還元	平行タタキメ	同心円当て具痕				1/36			
16	86	3区	SD2	3B-9	3層	須恵器	大甕					石・長	灰 (10Y5/1)	還元	平行タタキメ	同心円当て具痕				1/36			
16	87	3区	SD3	3C-11	1層	土師器	無台鉢		5.0			石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			5/36	4/36		
16	88	3区	SD3	3C-11	1層	須恵器	杯蓋	(12.0)				石・長	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	2/36			
16	89	3区	SD3	3C-6	1層	土師器	長甕					石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	平行タタキメ・ハケメ	ハケメ・同心円当て具痕				1/36			
16	90	3区	SD3	3C-11	1層	土師器	長甕					石・長	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	カキメ	カキメ				1/36			
16	91	3区	SD3	3C-6	1層	土師器	長甕					石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	平行タタキメ・ハケメ	ハケメ				1/36			
16	92	3区	SD3	3C-6	1層	土師器	長甕					石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	平行タタキメ・ハケメ	ハケメ				1/36			
16	93	3区	SD3	3C-11	1層	土師器	長甕					石・長	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	タタキメ	同心円当て具痕				1/36			
16	94	3区	SD3	3C-11	1層	土師器	小甕	(15.9)				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36	1/36			
16	95	3区	SD3	3C-11	1層	土師器	小甕	(14.0)				石・長	にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	3/36	内面口縁部にスス付着		
16	96	3区	SD3	3C-6	1層	土師器	小甕		6.0			石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		5/36	5/36			
16	97	3区	SD3	3C-11	1層	土師器	小甕	(13.0)				石・長	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	1/36	内面スス付着		
16	98	3区	SD3	3C-6	1層	須恵器	大甕					石・長	灰 (5Y6/1)	還元	カキメ・平行タタキメ	同心円当て具痕				1/36			
16	99	3区	SD3	3C-6	1層	須恵器	甕					石・長	灰 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36			
17	100	3区	Pit4	3C-6	1層	土師器	無台鉢		5.6			石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			5/36	4/36		
17	101	3区		3B-13	Ⅷ層	土師器	無台鉢		6.0			石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			9/36	6/36		
17	102	3区		4C-15(4H)	Ⅷ層	土師器	無台鉢		4.6			石・長	明褐灰 (7.5YR7/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右		9/36	5/36		
17	103	3区		2D-10(3H)	Ⅷ層	須恵器	無台杯	13.6	9.2	4.0	29	68	石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り無調整	左	27/36	36/36	32/36	
17	104	3区		3C-4	Ⅷ層	須恵器	無台杯	13.0	9.0	4.0	31	69	石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り無調整	左	5/36	24/36	13/36	
17	105	3区		3C-4	Ⅷ層	須恵器	無台杯	11.5	7.6	2.8	24	66	石・長	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り無調整	左	20/36	28/36	25/36	
17	106	3区		3C-4	Ⅷ層	須恵器	無台杯		7.0			石・長	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り無調整	左		10/36	7/36		
17	107	3区		3C-11	Ⅷ層	須恵器	無台杯	12.5				石・長	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	4/36		
17	108	3区		3C-3	Ⅷ層	須恵器	無台杯	12.6				石・長	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	4/36		
17	109	3区		3C-10	Ⅷ層	須恵器	有台杯	14.0				石・長	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				8/36	5/36		
17	110	3区		3C-6	Ⅷ層	須恵器	杯蓋	13.6				石・長	灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	4/36		
17	111	3区		3C-4	Ⅷ層	土師器	長甕					石・長	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	平行タタキメ	同心円当て具痕・ハケメ				1/36			
17	112	3区		3B-11	Ⅷ層	土師器	小甕	(13.0)				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	1/36			
17	113	3区		3C-4	Ⅷ層	土師器	小甕		6.0			石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			11/36	4/36		
17	114	3区		3C-4	Ⅷ層	土師器	鉢	38.0				石・長	灰褐 (7.5YR5/2)	酸化	カキメ・ケズリ	カキメ・平行当て具痕・ハケメ			9/36	6/36	外面体部にスス付着		
17	115	3区		3C-10	Ⅷ層	須恵器	大甕					石・長	灰白 (2.5Y8/1)	還元	平行タタキメ	カキメ				1/36			
17	116	3区		3C-10	Ⅷ層	須恵器	大甕					石・長	灰白 (10YR8/1)	還元	カキメ・平行タタキメ	カキメ・ハケメ				1/36			
17	117	3区		4C-15(4H)	Ⅷ層	須恵器	大甕					石・長	灰 (5Y5/1)	還元	カキメ・平行タタキメ	平行当て具痕				1/36			
17	118	3区		4B-2(2H)	Ⅷ層	須恵器	横瓶					石・長	灰 (5Y6/1)	還元	カキメ・平行タタキメ	同心円当て具痕				2/36			
17	119	3区		3C-10	Ⅷ層	須恵器	長頸甕					石・長	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	小型		
17	120	3区		3C-10	Ⅷ層	須恵器	長頸甕					石・長	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	小型		
17	121	3区		3B-24		磁器	染付碗	7.3				石・長	灰白 (2.5Y8/1)	還元	施釉	施釉			10/36	6/36	肥前産、竹笹文、18C代		
17	122	3区	確認調査	4T		須恵器	無台杯	(13.0)				石・長	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36	2/36		
17	123	3区	確認調査	4T		須恵器	無台杯	12.0	6.5	3.3	28	54	石・長	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り無調整	左	19/36	16/36	18/36	
17	124	3区	確認調査	4T		須恵器	無台杯	(12.0)				石・長	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	2/36		
17	125	3区	確認調査	4T		須恵器	無台杯	(12.0)				石・長	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	2/36		
17	126	3区	確認調査	4T		須恵器	無台杯		8.0			石・長	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り無調整	左		9/36	4/36		
17	127	3区	確認調査	4T		土師器	小甕		(8.0)			石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	1/36		
17	128	2区	確認調査	2T		土師器	小甕					石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			
17	129	3区	確認調査	4T		土師器	長甕					石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	平行タタキメ	当て具痕				1/36			

別表3 中谷内遺跡石器観察表

図版 No.	遺物 No.	調査 区	出土位置		層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考
			遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ			
17	130	3区		3C-4	Ⅷ層	石製品	磨石	9.2	9.3	5.6	677.8	安山岩	両側面に磨り面有り



別表4 中谷内遺跡主要遺構出土古代土器器種構成率

調査区	遺構名	種別 計測法	食膳具										煮炊具				貯蔵具		合計				
			土師器		黒色土器		須恵器		土師器		須恵器		須恵器										
			無台椀	有台皿	無台椀	無台杯	有台杯	杯蓋	長甕	小甕	鍋	壺	大甕	壺									
2区	SK 2	口残値	0.78	87.6%							0.11	12.4%								0.89	100.0%		
		口縁数(点)	5	83.3%							1	16.7%								6	100.0%		
		底残値	2.44	81.3%									0.56	18.7%						3	100.0%		
		底部数(点)	3	75.0%									1	25.0%						4	100.0%		
		体部数(点)	8	44.4%			8	44.4%			1	5.6%			1	5.6%				18	100.0%		
		総点数(点)	48	77.4%			8	12.9%			4	6.5%			1	1.6%				62	100.0%		
		総重量(g)	176.2	49.7%			19.7	5.6%			69.3	19.5%			85.8	24.2%	3.5	1.0%		354.5	100.0%		
2区	SK 3	口残値									0.75	100.0%							0.75	100.0%			
		口縁数(点)									1	100.0%							1	100.0%			
		底残値																					
		底部数(点)																					
		体部数(点)	12	8.8%								124	91.2%							136	100.0%		
		総点数(点)	12	8.8%								125	91.2%							137	100.0%		
総重量(g)	8.0	0.7%								1144.5	99.3%							1152.5	100.0%				
2区	SK 4	口残値	0.27	100.0%																0.27	100.0%		
		口縁数(点)	2	100.0%																2	100.0%		
		底残値																					
		底部数(点)																					
		体部数(点)	5	45.4%			1	9.1%	2	18.2%		2	18.2%			1	9.1%			11	100.0%		
		総点数(点)	7	53.8%			1	7.7%	2	15.4%		2	15.4%			1	7.7%			13	100.0%		
総重量(g)	32.0	47.6%			2.6	3.9%	5.6	8.3%		12.8	19.1%			14.2	21.1%			67.2	100.0%				
3区	SK 1	口残値																					
		口縁数(点)																					
		底残値																					
		底部数(点)																					
		体部数(点)																					
		総点数(点)																					
総重量(g)																							
3区	SK 4	口残値					0.11	100.0%													0.11	100.0%	
		口縁数(点)					1	100.0%													1	100.0%	
		底残値									1.00	100.0%									1	100.0%	
		底部数(点)									1	100.0%									1	100.0%	
		体部数(点)	1	14.3%							1	14.3%				2	28.6%				7	100.0%	
		総点数(点)	1	11.1%							1	11.1%				2	22.2%				9	100.0%	
		総重量(g)	0.7	1.0%				11.5	15.8%			19.6	27.0%			26.6	36.6%	6.2	8.5%	8.1	11.1%	72.7	100.0%
3区	SD 1	口残値	0.11	9.0%			0.17	13.9%			0.72	59.0%	0.22	18.1%						1.22	100.0%		
		口縁数(点)	1	20.0%			1	20.0%			1	20.0%	2	40.0%						5	100.0%		
		底残値										0.75	100.0%							0.75	100.0%		
		底部数(点)										1	100.0%							1	100.0%		
		体部数(点)	3	10.0%								26	86.7%	1	3.3%						30	100.0%	
		総点数(点)	4	6.1%								58	87.9%	3	4.5%						66	100.0%	
総重量(g)	18.0	0.7%								8.8	0.3%			2679.3	98.3%	19.5	0.7%		2725.6	100.0%			
3区	SD 2	口残値	0.5	32.5%			0.25	16.2%			0.14	9.1%	0.56	36.4%	0.09	5.8%				1.54	100.0%		
		口縁数(点)	7	30.4%			4	17.4%			2	8.7%	7	30.4%	3	13.1%				23	100.0%		
		底残値	1.36	40.5%			1.25	37.2%					0.75	22.3%						3.36	100.0%		
		底部数(点)	3	33.3%			3	33.3%					3	33.3%						9	100.0%		
		体部数(点)	20	19.8%			1	1.0%				28	27.7%	11	10.9%	39	38.6%			2	2.0%		
		総点数(点)	36	25.5%			8	5.7%				30	21.3%	21	14.9%	44	31.2%			2	1.4%		
		総重量(g)	169.5	12.6%			141.5	10.5%				216.3	16.0%	176.4	13.1%	588.8	43.6%			56.4	4.2%		
3区	SD 3	口残値									0.06	14.0%	0.03	7.0%	0.25	58.1%	0.09	20.9%			0.43	100.0%	
		口縁数(点)									1	12.5%	1	12.5%	4	50.0%	2	25.0%			8	100.0%	
		底残値	0.14	38.9%										0.22	61.1%						0.36	100.0%	
		底部数(点)	1	33.3%										2	66.7%						3	100.0%	
		体部数(点)	15	21.4%								13	18.6%	15	21.4%	23	32.8%			2	2.9%		
		総点数(点)	16	19.7%								1	1.2%	14	17.3%	21	25.9%	25	30.9%			70	100.0%
		総重量(g)	46.5	9.2%								1.9	0.4%	163.5	32.5%	82.0	16.3%	115.7	23.0%			43.7	8.7%
																			49.8	9.9%	503.1	100.0%	

## 第V章 沖ノ羽遺跡

### 1 遺跡の概要

沖ノ羽遺跡では今回、古代から近世の遺物が出土し、遺構は近世以降のものが検出された。調査区は近年鉄塔の補修を行っており攪乱を受けていた。遺物量は遺物収納コンテナ（内径54.5×33.6×10cm）にして1箱であり、ほとんどが平安時代のものである。遺構は土坑（SK）1基、性格不明遺構（SX）1基、溝（SD）1基確認された。

過去において平成3年から4年に磐越自動車道建設に伴う発掘調査を新潟県教育委員会〔石川ほか1994・星野ほか1996・春日ほか2003〕が、平成13年から14年に鮭川排水機場建設に伴う発掘調査〔細野ほか2002〕及び15年に圃場整備事業に伴う発掘調査を新潟市教育委員会が主体となって行っており、古墳時代から近世にかけての遺構及び遺物が確認されている。

### 2 層序（第10図）

沖ノ羽遺跡の基本層序は色調に多少の違いはあるが、概ね新潟市教育委員会による平成13から14年度発掘調査の基本層序に対応し9層に分けられる。以下に基本層序を記す<sup>註1)</sup>。

I層 灰色土（7.5Y5/1）粘性あり、しまりややあり。耕作土。

II層 灰色土（7.5Y5/1）シルト質土 粘性あり、しまりあり。耕作土。

III層 灰色土（7.5Y6/1）シルト質土 粘性あり、しまりあり。耕作土。

IV層 灰色土（7.5Y6/1）シルト質土 粘性あり、しまりややあり。

V層 灰色土（7.5Y4/1）シルト質土 粘性あり、しまりあり。近世以降遺構確認面。

VI層 灰色土（5Y5/1）シルト質土 粘性あり、しまりあり。鉄分多量に含む。

VII層 灰色土（5Y6/1）シルト質土 粘性あり、しまりややあり。

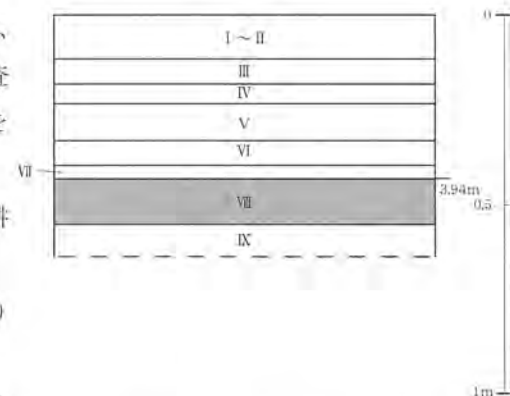
VIII層 灰色土（5Y4/1）シルト質土 粘性ややあり、しまりあり。平安時代遺物包含層。

IX層 灰オリーブ色土（5Y5/2）シルト質土 粘性ややあり、しまり非常にあり。平安時代遺構確認面。

註1) シルト質土層が主体である。I～III層は水田耕作面である。調査区はVIII層（包含層）までが部分的に鉄塔建替による攪乱で失われているため、遺物はあまり確認できなかったが、VIII層中からは平安時代の遺物が出土する。遺構確認面はV層上面及びVIII層上面である。

新潟県教育委員会が行った調査で、今回の発掘調査区にもっとも近いA地区では基本層序を5層に分けている〔石川ほか1994〕。対応関係は今回の発掘調査の（以下、沖ノ羽2004）I～III層と新潟県教育委員会が行った沖ノ羽遺跡A地区調査（以下、沖ノ羽1994）I層が、沖ノ羽2004のIV～V層と沖ノ羽1994のII層が、沖ノ羽2004のVI～VIII層と沖ノ羽1994のIII層が対応すると思われる。

沖ノ羽遺跡 3 B 7



第10図 沖ノ羽遺跡基本土層柱状図

### 3 遺構各説 (図版19・20、写真図版13)

遺構はV層上面から掘り込まれているものが確認できた。新津市教育委員会による調査とあわせると〔細野ほか2002〕IV層までは耕作土と考えられる。V層は新潟県教育委員会による調査〔石川ほか1994・星野ほか1996・春日ほか2003〕では中世の遺構が確認されているが、本遺跡では近世以降と考えられる。遺跡から検出された遺構は土坑(SK)1基・性格不明遺構(SX)1基・溝(SD)1基である。

#### 1) 近世以降の遺構

##### a) 土坑(SK)

SK1 (図版19・20、写真図版13)

2D-7・12グリッド(4トレンチ)にある近世以降の遺構と考えられる。V層上面より掘り込まれているが、トレンチ端部で確認されたため平面形は不明である。深さ0.26mで、断面形は半円形である。

##### b) 不明遺構(SX)

SX1 (図版19・20、写真図版13)

2D-7・12グリッド(4トレンチ)にある近世以降の遺構と考えられる。V層上面より掘り込まれているが、トレンチ端部で確認されたため平面形は不明である。遺構は南北の方向で調査区外に伸びる。深さ0.24mで断面形は箱形である。SK1と重複しており本遺構のほうが新しい。

##### c) 溝(SD)

SD1 (図版19、写真図版13)

2B・Cグリッドある近世以降の遺構と考えられる。V層上面より掘り込まれている。最大幅(壁セクション)3.15m、深さ(壁セクション)0.60mである。断面形は台形状である。東西の方向で遺構は調査区外に伸びる。覆土はシルト質で下位に黒色土層があり、水が流れていたことが考えられる。

### 4 遺物各説 (図版20、写真図版12)

沖ノ羽遺跡からは、古代(平安時代)及び近世以降の遺物が出土している。遺物出土総量はコンテナ(内径54.5×33.6×10cm)に1箱である。

#### 1) 古代及び近世以降の遺物

##### a) 包含層出土遺物 (図版20、写真図版12)

沖ノ羽遺跡の土器類はすべて包含層から出土した。土師器・須恵器と陶器がある。出土した遺物の重量比は土師器68%(114.5g)、須恵器35.4%(21g)、陶器17.6%(17.6g)である。本遺跡で出土した平安時代の土器類は後述するが9世紀後半～10世紀初頭の年代観が想定される。

須恵器無台杯(1)、土師器鍋(2)・長甕(3)、須恵器大甕(4)、陶器碗(5)、土師器無台椀(6)(確認・試掘調査資料)が出土している。1の須恵器無台杯は口縁部資料で内外面ロクロナデである。器壁は薄い。2の土師器鍋は口縁部資料で、上方に短く屈曲するA類である。3の土師器長甕は外面タタキ目・カキ目・内面同心円当て具痕があり、体部資料と思われる。4の大甕は口縁部資料で口縁部とそれに直行する端部に面を持つ。内外面はロクロナデである。5の陶器は17世紀末から18世紀初頭にかけての肥前産で高台は無釉である。6の土師器無台椀は底部資料で底径は5cm程度と考えられる。

## 5 まとめ

### A 遺 構

沖ノ羽遺跡の遺構について周辺で行われた発掘調査成果と比較しながらまとめておく。沖ノ羽遺跡は新津丘陵の北西端に位置し、標高約3.65mである。「新津町外二ヶ村開田耕作整理組合現形図」によると、現在の磐越自動車道に沿って小河川があり、本年度調査区付近で北に流路を変えている。本跡周辺は調査報告書〔星野ほか1996〕で指摘されているように昭和年代の土地改良が行われるまでは平坦地と微高地が混在する地形であったと考えられる。

沖ノ羽遺跡ではS K1基・S X1基・S D1基が確認された。出土遺物が無いため帰属時期を判断することは困難である。本遺跡で確認された遺構はすべてV層を掘り込んでいる。周辺で行われた発掘では、本跡のV層に相当する層は磐越自動車道建設に伴う発掘調査〔石川ほか1994・星野ほか1996・春日ほか2003〕においてはII層とされ鎌倉時代の遺構確認面を含むようであり、それより上層は近世以降の耕作によるものであるとされている。S X1・S D1は主軸が南北方向であり関連性が考えられるが、覆土の堆積状況から別遺構と判断した。S D1は上層においてシルト層が見られ、水路と考えられる。

### B 遺 物

沖ノ羽遺跡では包含層から古代の遺物及び近世陶器が確認された。古代の遺物はすべて平安時代のものである。土師器と須恵器の割合は総重量比で土師器76%、須恵器24%で土師器の比率が高い。本調査区の鉄塔は近年改修が行われた結果、包含層が一部攪乱されているため遺物出土量、及び割合を一概に比較することはできないが、本遺跡では土師器の出土割合が高いと考えられる。

食膳具の形態は（図版20-1）の須恵器無台杯は器壁が薄く、底部からやや斜めに立ち上がると思われる。確認・試掘調査出土の土師器椀（図版20-6）は底径が5cm程度で器壁の立ち上がりが緩やかである。器高は低いと思われる。須恵器無台杯の形態は9世紀半ば以降、春日編年〔春日1999・2003〕におけるVI1期以降の様相で、土師器椀の形態は9世紀半ば以降、春日編年〔春日1999・2003〕におけるV2～VI1期の様相であると考えられる。これらのことから遺跡の編年は概ね9世紀後半から10世紀初頭の間になると考えられる。

最後に近隣の発掘調査成果と合わせ沖ノ羽遺跡の立地と性格について若干触れたい。沖ノ羽遺跡は過去に新潟県教育委員会〔石川ほか1994・星野ほか1996・春日ほか2003〕と新津市教育委員会〔細野ほか2002〕により調査が行われ、古墳時代～近世以降の遺構及び遺物が確認された。新津市における古墳時代の遺跡は新津丘陵先端部を中心に展開されているが〔川上ほか1995〕、沖ノ羽遺跡の調査成果により古墳時代にはすでに沖積地への進出がなされており〔星野ほか1996〕、その範囲については今回の中谷内遺跡3区における発掘調査成果とあわせ、今後の資料の増加を待って検討したい。古代では新津市教育委員会による発掘調査〔細野ほか2002〕で集落遺跡が確認され、当該期にはすでに積極的に沖積地への進出がなされ、有力者による耕地拡大という背景があったと考えられる。9世紀第三四半期以降の遺構及び遺物も確認されており〔石川ほか1994・星野ほか1996・春日ほか2003〕沖ノ羽遺跡では継続的な営みがなされている。また、古墳時代では土坑が、古代では土坑、溝、掘立柱建物跡が、それ以降では溝が主に確認されていることから、丘陵部と沖積平野部との間に位置するこの地域の土地利用が変化したことが示されていると言える。

別表5 沖ノ羽遺跡主要遺構一覧表

遺構名	調査区域	グリッド	確認面	形態		遺構規模 (m)				覆土	主軸方向	遺構図版 (No.)	S P (No.)	遺物の有無	遺物図版	備考
				平面	断面	長さ	最大幅長軸	短軸	深度							
SK1	支線部	2D-7・12	V層	-	半円形	-	-	-	0.26	1層	-	19・20	2	無し	-	
SX1	支線部	2D-7・12	V層	-	箱形	-	-	-	0.24	1層	-	19・21	1・2	無し	-	
SD1	拡幅部	2B-14、2C-7・8	V層	-	台形状	-	3.15	-	0.60	5層	-	19	3・4・5	無し	-	

別表6 沖ノ羽遺跡古代土器・陶磁器観察表

- 凡例
- 1 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
  - 2 器種 第三章に記した。
  - 3 径高指数 器高/口径×100
  - 4 底径指数 底径/口径×100
  - 5 法量 口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は遺存率が低いものである。
  - 6 胎土 須恵器・土師器について胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「チ」はチャート、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。
  - 7 色調 『新版標準土色帳』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修2002年版)の記号を記した。
  - 8 焼成 酸化炎焼成・還元炎焼成の区別を記した。
  - 9 手法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」・「へら切り」はいずれも回転台を用いたものである。回転方向は回転台の回転方向を表す。底部調整やロクロケズリ・ロクロナデから判断した。
  - 10 遺存率 分数表示で遺存割合を示した。

図版 No.	遺物 No.	出土位置		層位	種別	器種	法量(cm)			胎土	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			備考
		遺構名	グリッド				口径	底径	器高				器高指数	底径指数	外面		内面	底部	口縁部	
20	1		3ト		須恵器	無台杯	(11.0)				石・長	緑灰 (5G6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	1/36	
20	2		表採		土師器	鍋					石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	1/36	
20	3		5ト	3層	土師器	長甕					石・長	灰 (5Y5/1)	酸化	平行タタキメ・カキメ	同心円当て具				1/36	
20	4		3ト	3層	須恵器	大甕					石・長	黄灰 (2.5Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	1/36		
20	5		2B-21		陶器	御室碗		3.4				灰白 (2.5Y8/1)	施釉	施釉	ケズリ出し高台			8/36	4/36	肥前産、二次被熱、高台無釉
20	6	確認調査	7T		土師器	無台碗	(5.0)				石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	1/36	

## 第VI章 細池寺道上遺跡

### 1 遺跡の概要

細池寺道上遺跡では今回3地区に分かれて調査を行い、平安時代・近世以降の遺物が出土し、当該期の遺構が検出された。過去において、新津市教育委員会が平成8・9年度に細池遺跡（以下、新津市細池遺跡）、平成11年度に寺道上遺跡（以下、新津市寺道上遺跡）の発掘調査を、また平成3・4年度に新潟県埋蔵文化財調査事業団が細池遺跡（以下、事業団細池遺跡）・寺道上遺跡の発掘調査を行い、いずれも平安時代を中心とする、溝・土坑・旧河道などが検出された。

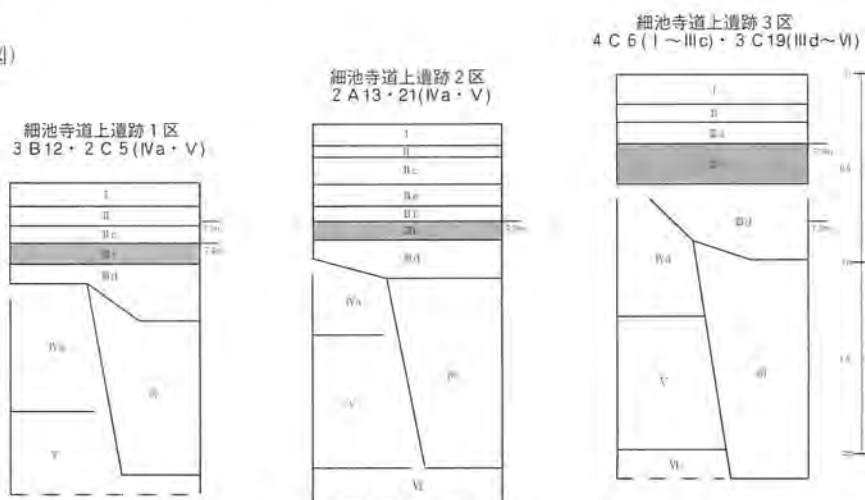
遺物量は3地区合わせてコンテナ（内径54.5×33.6×10cm）にして18箱であり、ほとんどが平安時代のものである。遺構は土坑（SK）2基、溝（SD）10基、ピット（Pit）1基、旧河道（河）4基である。

### 2 層序（第11図）

細池寺道上遺跡の基本層序は色調に多少の違いはあるものの、新津市細池遺跡の層序を基本とし、さらに細分した。

細池寺道上遺跡の基本層序は大きく6層に分けられ、さらに16層に細分される。以下に基本層序を記す<sup>(註1)</sup>。

- I層 褐色土（10YR4/4）粘性があり、しまりなし。耕作土。
- II層 灰色土（7.5Y5/1）粘性が強く、しまりあり。酸化した土を含む。シルト質土。水田床土。
- IIa層 オリーブ灰色土（10Y5/2）粘性があり、しまりあり。シルト質土。
- IIc層 褐色土（10YR4/4）粘性があり、しまりややあり。明黄褐色土粒を微量含む。シルト質土。
- IId層 暗褐色土（10YR3/4）粘性がなく、しまりややあり。鉄分を少量含む。
- IIe層 灰黄褐色土（10YR4/2）粘性がなく、しまりややあり。鉄分を微量含む。
- IIf層 浅黄色土（5Y7/4）粘性がなく、しまりあり。褐色土粒を含む。
- IIIa層 オリーブ灰色土（10Y5/2）粘性があり、しまりあり。黒色土粒を含む。シルト質土。
- IIIb層 黒褐色土（10YR3/2）粘性があり、しまりあり。シルト質土。平安時代遺物包含層。
- IIIc層 暗褐色土（10YR3/4）粘性があり、しまりややあり。平安時代遺物包含層。
- IIId層 灰色土（7.5Y5/1）粘性がややあり、しまりあり。酸化した土を多量含む。シルト質土。平安時代遺物包含層。
- IIIe層 灰色土（7.5Y5/1）粘性が強く、しまりあり。IIId層が水分によって変質したもの。シルト質土。



第11図 細池寺道上遺跡基本土層柱状図

IVa層 淡黄色土 (7.5YR8/3) 粘性がなく、しまりあり。シルト質土。平安時代遺構確認面。

IVb層 灰色土 (5Y6/1) 粘性があり、しまりあり。シルト質土。

V層 緑灰色土 (5G6/1) 粘性が強く、しまりややあり。シルト質土。

VI層 オリーブ黒色土 (5Y3/2) 粘性があり、しまりあり。流木包含層。

註1) IIc～IIf層、III d～III e層、IVa・b層は、今回新たに検出された土層である。またV・VI層は今回旧河道を調査した際、新たに確認された土層である。VI層は流木を多量に包含する、平安時代よりも古い時代の旧河道覆土である。IV a層以下は無遺物層である。

### 3 遺構各説 (図版22～24・26、写真図版14～16)

遺構はIVa層上面から掘り込まれているものと、IIc層上面から掘り込まれているものが検出された。前者からは平安時代の遺物が、後者からは平安時代の遺物に混じって近世の遺物が出土していることから、時期的には平安時代と近世以降の2時期に大別できる。

#### A 1 区

1区で検出された遺構はSK1基、SD4基、河2基で、IIc層上面とIVa層上面で確認された。遺物の出土状況から、前者は近世以降の、後者は平安時代の遺構と考えられる。

##### 1) 古代の遺構

###### a) 土坑 (SK)

SK1 (図版22、写真図版14)

3A-23・24グリッド (2トレンチ) に位置する土坑である。IVa層上面より掘り込まれている。断面形は半円形である。遺構の約半分が調査区外に位置しているが、平面形は円形が予想される。深さは0.19mである。覆土は2層に分かれ、覆土中からは遺物は出土していない。

###### b) 溝 (SD)

SD3 (図版22)

1B-15・20グリッドに位置し、南東から北西へ延び調査区外へ続く、平安時代の溝である。遺構が調査区外に延びているため全容は不明だが、SD4と同形状の畝状遺構である可能性が高く、遺構の性格は不明である。IVa層上面より掘り込まれている。断面形は半円形である。最大幅0.44m、深さ0.27mである。覆土中からは遺物は出土していない。

SD4 (図版22)

2B・2Cグリッドに位置し、南東から北西へ延び調査区外へ続く、平安時代の畝状遺構である。平面形は畝状の掘り込みが断続的に伸びており、遺構の性格は不明である。確認面はIVa層上面である。確認面で最大幅0.37m、深さ0.10mである。覆土中からは遺物は出土していない。

###### c) 旧河道 (河)

河1 (図版22・24、写真図版14)

2A・2B・3Bグリッドに位置し、南東から北西に延びる旧河道である。河2より新しい。IVa層上面より掘り込まれ、河床はV層に達している。東側の立ち上がり調査区外にあるため幅は不明で、深さは0.92mである。覆土は9層に分かれ、2区の河とほぼ共通する土層である。覆土中からは遺物は出土していない。

## 河 2 (図版22・24、写真図版14)

2B・2Cグリッドに位置し、東から西に延びる旧河道である。河1より古い。IVa層上面より掘り込まれている。最大幅は1.52m、深さは0.52mである。覆土は2層に分かれ、鉄分を非常に多く含む。覆土中からは遺物は出土していない。

## 2) 近世以降の遺構

## a) 溝 (SD)

## SD 1 (図版22)

1C-10・15・2C-11グリッド (1トレンチ) に位置し、南東から北西に延びる溝である。IIc層上面より掘り込まれていて、調査はIVb層上面で行った。断面形は台形状である。深さは0.56mである。覆土は5層に分かれ、覆土中からは遺物は出土していない。

## SD 2 (図版22・24、写真図版14)

2A・2B・3Bグリッドに位置し、南東から北西に延びる溝である。IIc層上面より掘り込まれているが、調査はIVa層上面で行った。断面形は台形状である。セクションで確認した最大幅は1.54m、深さは0.74mである。覆土は3層に分かれ、2層中から陶磁器片 (図版27) などが出土している。

## B 2 区

2区で検出された遺構はSK1基、SD3基、Pit1基、河1基で、IIc層上面とIVa層上面で確認された。前者は1区の調査結果から近世以降の、後者は遺物の出土状況から平安時代の遺構と考えられる。

## 1) 古代の遺構

## a) 土坑 (SK)

## SK 1 (図版23、写真図版15)

2B-1グリッドに位置する平安時代の遺構である。SD3より新しい。確認面はIVa層上面である。長軸1.48m、短軸0.78m、深さ0.22mである。平面形は楕円形で、断面形は皿形である。覆土は3層に分かれ、覆土中からは遺物は出土していない。

## b) 溝 (SD)

## SD 2 (図版23)

1B・2Bグリッドに位置し、南から北へのび調査区外へ続く、平安時代の溝である。IVa層上面より掘り込まれている。断面形は皿形である。最大幅は0.30m、深さ0.04mである。覆土中から土師器片などが出土している。

## SD 3 (図版23、写真図版15)

2A・2Bグリッドに位置し、南から北へ延び調査区外へ続く、平安時代の溝である。SK1より古い。IVa層上面より掘り込まれている。断面形は台形状である。最大幅は0.94m、深さ0.42mである。覆土は3層に分かれ、覆土中から土師器長甕 (図版27) などが出土している。

## c) ピット (Pit)

## Pit 1 (図版23)

2A-14グリッドに位置する遺構である。確認面はIVa層上面であるが、覆土の観察から、さらに上層から



の掘り込みである可能性もある。平面形は楕円形、断面形は箱形である。確認面での規模は長軸0.51m、短軸0.42m、深さ0.20mである。覆土中からは遺物は出土していない。

#### d) 旧河道 (河)

河 (図版23・24、写真図版15)

2A・3A・2B・3Bグリッドに位置し、南から北へ延びる旧河道である。確認面はIVa層上面で、河床はVI層上部に達している。最大幅は11.0m、深さは1.22mである。覆土は13層に分かれ、基本的には1区河1と共通する土層であり、双方を同一の河川と考えた。

遺物は下層から多く出土しており、覆土の色調の差から、7～9層を上層、10・11層を下層として取り上げた。上層からは土師器無台椀・長甕・小甕・鍋・鉢(仏鉢形土器)(図版27)などが出土しており、下層からは土師器長甕・鍋、須恵器大甕(図版27・28)、木製品(図版33)などが出土した。

また河の南半分において地山であるV層を掘り抜き、VI層に含まれる流木を検出した。VI層については後述するが、平安時代よりも更に古い時代の旧河道覆土である。

### 2) 近世以降の遺構

#### a) 溝 (S D)

S D 1 (図版23)

2A・3A・2B・3Bグリッドに位置し、南から北へ延び調査区外へ続く溝である。IIc層上面から掘り込まれているが、調査はIVa層上面で行った。断面形は台形状である。調査面での最大幅は2.74m、東壁セクションで確認された深さは0.98mである。覆土は5層に分かれ、4・5層から平安時代の土師器無台椀(図版27)などが出土しているが、掘り込み面がIIc層上面であることから、混入と考えられる。

## C 3 区

3区は、平成8・9年度に調査された細池遺跡西地区の北側に隣接している。3区で検出された遺構はS D 3基、河1基で、IVa層上面で確認された。遺物の出土状況などから、平安時代の遺構と考えられる。

### 1) 古代の遺構

#### a) 溝 (S D)

S D 1 (図版24・26)

3E-19グリッド(3トレンチ)に位置し、南東から北西へのびる溝状遺構である。IVa層上面より掘り込まれている。断面形は台形状である。遺構の大半が調査区外に位置するため、遺構の規模は不明である。深さは0.40mである。遺構の北側と南側を、後世の攪乱によって破壊されている。覆土は4層に分かれ、覆土中からは遺物は出土していない。

S D 2 (図版24・26)

1C-18・19・24グリッド(1トレンチ)に位置し、南東から北西に彎曲しながらのびる溝である。IVa層上面より掘り込まれている。断面形は皿形である。最大幅が1.68m、深さが0.22mである。覆土は2層に分かれ、覆土中から土師器長甕・鍋(図版28)などが出土している。

S D 3 (図版24・26、写真図版16)

3C・3Dグリッドに位置し、南西から北へ蛇行しながらのびる溝である。確認面はIVa層上面である。断

面形は皿形である。最大幅は3.52m、深さは0.12mである。覆土は2層に分かれるが、2層土は部分的にし  
か堆積していない。1層から土師器片が出土している。新津市細池遺跡西地区SD8の続きと考えられる。

#### b) 旧河道 (河)

河 (図版24・26、写真図版16)

3C・4C・3Dグリッドに位置する旧河道である。河は、南西から北へ蛇行しながら延びる河道 (以下、  
河a) と、東から延びてきて調査区中央で河aと合流する河道 (以下、河b) が確認されたが、ほぼ同一の  
覆土で切り合い関係も確認されなかったことから、一つの遺構として調査した。確認面はIVa層上面で、  
河床はVI層上部に達している。また河aの西側では、VI層の上に砂層が堆積している。

既存の鉄塔脚部によって遺構の全容は掴み難く、幅は不明で、深さは河aが1.27m、河bが0.77mである。  
河aは西側に砂層で形成された段丘を有し、河bに比べ幅広の河道である。覆土は7層に分かれ、6層中から  
土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・取手付甕、須恵器無台杯・有台杯・鉢・横瓶、黒色土器無台碗 (図版28～33)  
などが出土した。本遺構は下層に木の繊維・樹皮などが堆積するなど1・2区河覆土と共通する点もあるが、  
4・5層に砂が含まれているなど異なる点も多く、現時点では別河道と考えている。しかし下層に包含して  
いた泥炭の科学分析の結果から、双方の河川の埋没時期はおおよそ同時代と考えられる (第5節B)。

## 4 遺物各説 (図版27～33、写真図版17～24)

細池寺道上遺跡では、平安時代・近世以降の遺物が出土している。遺物出土総量は、コンテナ (内径  
54.5×33.6×10cm) に18箱出土し、平安時代のものが大半を占めている。

平安時代の土器類は土師器・須恵器を主体に、内面を黒色処理した「内黒」と呼称される黒色土器など  
がある。本遺跡の遺物は、2・3区の旧河道から出土したものが大半で、特に3区河出土遺物が多い。

近世以降の遺物は、1区から陶磁器片が2点出土したのみである。

### A 1 区

#### 1) 近世以降の遺物

##### a) 遺構出土遺物

SD2 (図版27、写真図版17)

瓶形を呈する陶器片 (1) ・磁器染付皿 (2) が出土している。1は無釉の焼き締め陶器で、瓶形ないしは鉢  
形を呈すると思われる。2は肥前産の染付皿で、見込みが蛇の目釉剥ぎされた17世紀後半頃の皿である。

### B 2 区

#### 1) 古代の遺物

##### a) 遺構出土遺物

SD1 (図版27、写真図版17)

土師器無台碗 (3) が出土している。口縁部形態から体部が内彎するA類とした。

SD3 (図版27、写真図版17)

土師器長甕 (4) が出土した。

河（図版27・28・33、写真図版17・22）

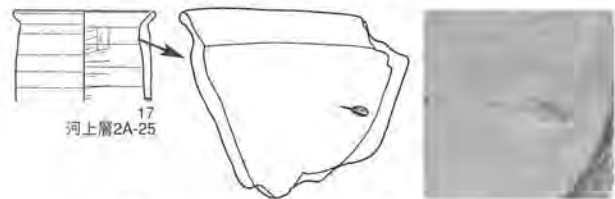
2区の河出土遺物は、上層と下層に分けて掲載した。上層からは土師器無台碗（5～8）・有台皿（9）・長甕（12・13）・小甕（14～23）・鍋（24～26）・鉢（仏鉢形土器）（28・29）、黒色土器無台碗（10・11）、須恵器長頸壺（27）が出土した。土師器無台碗は5がA2類、6がA1類である。長甕12はB類である。小甕は15・18・19がB類、16・17がC類である。17は内面に糊殻の痕が残っている（第12図）。鍋は25・26ともにA類である。28・29は金属器の仏鉢を模倣した土師器の鉢である。黒色土器無台碗10はC2類である。須恵器長頸壺27は頸部はやや細身である。

下層からは土師器長甕（30・31）・鍋（32～34）、須恵器大甕（35）、木製品（173～175）が出土している。長甕は30・31ともにB類である。鍋は全てA類である。木製品は3点出土しており、174は直径13.5cmの曲物の底板である。173・175は直径約16cmで、中央に穿孔があり、曲物と小甕を組み合わせた蒸し器の蓋と思われる。樹種は全てスギである。

更に古い時代の河道であるVI層中からは、多量の流木とともに、オニグルミ（写真図版22、176・177）などが出土した。

b) 包含層出土遺物（図版28、写真図版17）

36は2区確認・試掘調査時に出土した土師器長甕である。



第12図 糊殻痕残存遺物模式図・写真

### C 3 区

#### 1) 古代の遺物

##### a) 遺構出土遺物

SD 2（図版28、写真図版18）

土師器長甕（37～39）・鍋（40）が出土している。

河（図版28～33、写真図版18～24）

土師器無台碗（41～98）・長甕（126～140）・小甕（141～153）・鍋（154～164）・鉢（165・166）・取手付甕（167）、黒色土器無台碗（99～105）、須恵器無台杯（106～120）・有台杯（121～124）・杯蓋（125）・鉢（168）・大甕（169）・横瓶（170）・長頸壺（171）が出土している。また172は、意図的に打ち割られている長甕の破片である。土師器無台碗では、体部が内彎するA類のうち64・69・71・75・76はA1類、43・45・46・49・50・51・53・58・59・61・62はA2類、41・44はA3類である。体部が直線的であるB類のうち65・66・68・73はB1類、55・56・63はB2類である。口縁端部が外反するC類のうち67・70・72・74・77はC1類、47・48・52・54・57・60はC2類、42・80はC3類である。60は墨書土器で、体部外面に記号のようなものが書かれている。58・78・95・98は内面にミガキが施されている。

長甕は126～136がB類、137がC類である。小甕は141～143がA類、144～146がB類である。鍋は154・156～162がA類、155がB類である。165・166は鉢で、165は鍋形を呈している。167は肩部に取手がつく土師器甕である。体部は小振りで球胴形を呈しており、体部に比して取手が大きい。

黒色土器無台碗のうち102がA3類、100・101がB3類、104がC2類、99・103がC3類である。

須恵器無台杯では体部が内彎するA類のうち111・112・115・117・118はA1類、109はA2類である。体部が直線的であるB類のうち108・110・113・114・116・119はB1類、106・107はB2類である。118は墨書土器で、体部外面に「川相」と書かれている。有台杯では122～123は直線的に立ち上がる体部を有しており、124はやや内彎ぎみに立ち上がる体部を有している。124は高台内に墨が付着しており、転用碗と考えられる。

## 5 自然科学分析

### A 細池寺道上遺跡2区の土層とテフラ

早田 勉 (株)古環境研究所

#### 1) はじめに

新潟県域には、御岳、妙高、黒姫、焼山など信越地方の火山のほか、北関東地方や中国地方さらに九州地方に分布する火山などから噴出したテフラ（tephra, 火山碎屑物、いわゆる火山灰）が多く分布している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代だけでなく、遺構や遺物の年代などについても知るようになる。そこで新津市細池寺道上遺跡においても、地質調査を行って土層の記載を行うとともに、テフラ検出分析を行って、指標テフラの検出同定を試みるようになった。地質調査の対象となった地点は、2区東壁である。

#### 2) 土層層序

2区東壁では、下位より灰白色砂質シルト層（層厚21cm以上、IVa層）、褐色がかった灰色土（層厚24cm, III d層）、暗灰色土（層厚13cm, III c層）、灰褐色土（層厚11cm, II c層）、灰色土（層厚4cm, II層）、灰褐色盛土（層厚6cm, I層）が認められる（図1）。これらのうち、II c層の上部には、白色の細粒砂層（層厚0.2 cm, 試料3'）がレンズ状に認められる。発掘調査では、III d層とIII c層から奈良・平安時代の遺物が検出されている。

#### 3) テフラ検出分析

##### a) 分析試料と分析方法

土層の層位や年代に関する資料を得るために、2区東壁において基本的に5cmごとに設定・採取された試料のうち8点について、テフラ検出分析を行った。テフラ検出分析の手順は次の通りである。

- (1) 試料10gを秤量。
- (2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- (3) 恒温乾燥器により80°Cで乾燥。
- (4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を観察。

##### b) 分析結果

テフラ検出分析の結果を（表1）に示す。2区東壁では、試料13、試料7、試料3'の3試料から火山ガラスを検出することができた。これらの中では、最下位の試料13に比較的多くの火山ガラスが認められる。火山ガラスは、無色透明の軽石型ガラスやバブル型ガラスである。ただし、テフラの降灰層準を示すような、顕著な火山ガラスの濃集層準は認められなかった。

#### 4) 考察

2区東壁で検出された火山ガラスの多くについては、その形態や色調、さらに角閃石が含まれることなどから、約5,000年前<sup>1)</sup>に沼沢火山から噴出した沼沢1テフラ（Nm-1, 只見川第四紀研究グループ, 1966a,

1966b, 町田・新井, 1992) に由来する可能性が高いと思える。なお火山ガラスの形態や色調は、915年に十和田火山から噴出したと考えられている十和田 a 火山灰 (To-a, 大池ほか, 1966, 大池, 1972, 町田ほか, 1981) のテフラ粒子の特徴とも矛盾しない。

5) 小結

新津市細池寺道上遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、沼沢1テフラ (Nm-1, 約5,000年前<sup>\*1</sup>) などに由来する可能性があるテフラ粒子を検出することができた。

\*1 放射性炭素 (<sup>14</sup>C) 年代。

文 献

町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.

町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ, 科学, 51, p.562-569.

大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年, 第四紀研究, 11, p.232-233.

大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 (1966) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰, 第四紀研究, 5, p.29-35.

只見川第四紀研究グループ (1966a) 福島県野沢盆地の浮石質砂層の基底部より産出した木材の<sup>14</sup>C年代—日本の第四紀研究層の<sup>14</sup>C年代 X X VI —, 地球科学, 82, p.8-9.

只見川第四紀研究グループ (1966b) 只見川・阿賀野川流域の第四系の編年—とくに沼沢浮石層の層位学的諸問題について, 第四紀, 8, p.76-79.

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
2区東壁	1	-	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	-	-	-
	3'	-	-	-	+	pm>bw	透明
	5	-	-	-	-	-	-
	7	-	-	-	+	pm	透明
	9	-	-	-	-	-	-
	11	-	-	-	-	-	-
	13	-	-	-	++	pm	透明

表1 テフラ検出分析結果

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない, 最大径の単位は, mm. bw: バブル型。

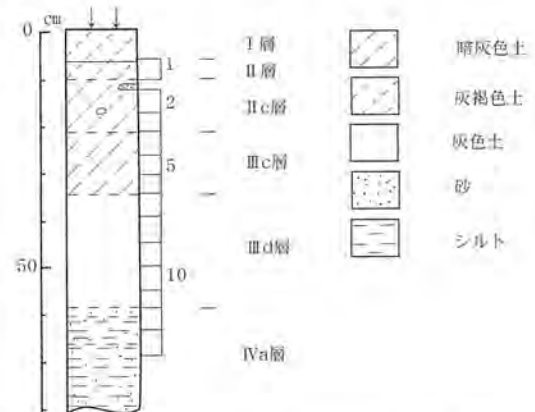


図1 細池寺道上遺跡2区東壁の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

## B 細池寺道上遺跡2区における放射性炭素年代測定

(株) 古環境研究所

## 1) 試料と方法

地点(層位)	試料	種類	前処理・調整	測定法
上位河川堆積物	<sup>14</sup> C-1	泥炭	酸洗浄	β線(液体シンチレーション)法
下位河川被覆層	<sup>14</sup> C-2	樹木片	酸-アルカリ-酸洗浄	β線(液体シンチレーション)法

## 2) 測定結果

試料	<sup>14</sup> C年代 (年BP)	δ <sup>13</sup> C (‰)	補正 <sup>14</sup> C年代 (年BP)	暦年代(西暦)	測定No (Beta-)
<sup>14</sup> C-1	890±50	-20.4	970±60	交点: AD 1030 1σ: AD 1010~1160 2σ: AD 980~1200	187202
<sup>14</sup> C-2	1380±50	-29.1	1320±50	交点: AD 680 1σ: AD 660~720, AD 740~760 2σ: AD 640~790	187201

(1) <sup>14</sup>C年代測定値

試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、単純に現在(AD1950年)から何年前かを計算した値。<sup>14</sup>Cの半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

(2) δ<sup>13</sup>C測定値

試料の測定<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を補正するための炭素安定同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

(3) 補正<sup>14</sup>C年代値

δ<sup>13</sup>C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

## (4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動を較正することにより算出した年代(西暦)。calはcalibrationした年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の<sup>14</sup>Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と<sup>14</sup>C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正<sup>14</sup>C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ(68%確率)と2σ(95%確率)は、補正<sup>14</sup>C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

## 文 献

- Stuiver, M., et. al., (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.  
中村俊夫(1999)放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

## C 細池寺道上遺跡2区におけるプラント・オパール分析

杉山真二 (株) 古環境研究所

### 1) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

### 2) 試料

試料は、2区東壁から採取された計5点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

### 3) 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- (1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- (2) 試料約1gに対し直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- (3) 電気灼灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- (4) 超音波水中照射 (300w・42kHz・10分間) による分散
- (5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- (6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:  $10^{-5}\text{g}$ ) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

### 4) 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を (表1) および (図1) に示した。第IV章5節 Bに主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

## 5) 考察

### a) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山, 2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

2区東壁では、Ⅱ層からⅣa層までの層準について分析を行った。その結果、Ⅱ層（試料1）～Ⅲd層（試料4）からイネが検出された。このうち、Ⅱ層（試料1）では密度が5,300個/gと高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

Ⅱc層（試料2）～Ⅲd層（試料4）では、密度が700～1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

### b) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。おもな分類群の推定生産量によると、Ⅲd層とⅢc層ではヨシ属、Ⅱc層ではタケ亜科、Ⅱ層ではイネが優勢となっている。

以上のことから、奈良・平安時代とされるⅢd層～Ⅲc層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。また、Ⅱc層ではヨシ属が見られなくなっていることから、この時期には堆積環境が乾燥化（乾田化）した可能性が考えられる。

## 6) まとめ

プラント・オパール分析の結果、Ⅱ層からはイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、Ⅱc層～Ⅲd層でも稲作が行われていた可能性が認められた。奈良・平安時代とされるⅢd層～Ⅲc層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。

## 文 献

- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）. 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.



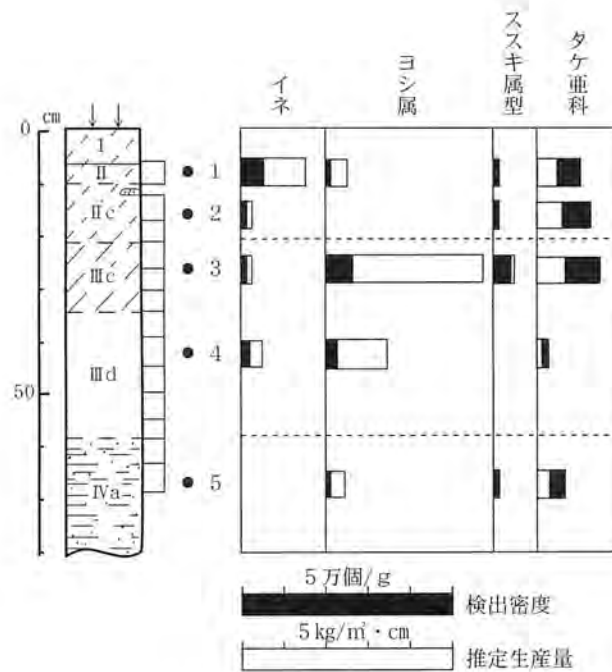


図1 新津市、細池寺道上遺跡2区におけるプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位:  $\times 100$ 個/g)

分類群	学名	地点・試料	2区				
			1	2	3	4	5
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)		53	7	8	15	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)		8		60	23	7
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		8	7	38		7
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)		98	120	143	23	60
ムギ類 (穎の表皮細胞)	<i>Hordeum-Triticum</i> (husk Phytolith)						

推定生産量 (単位:  $\text{kg}/\text{m}^2 \cdot \text{cm}$ )

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	1.55	0.22	0.22	0.44	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.47		3.79	1.43	0.47
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09	0.09	0.47		0.09
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.47	0.57	0.68	0.11	0.29

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

表1 新津市、細池寺道上遺跡2区におけるプラントオパール分析結果

## D 細池寺道上遺跡2区における樹種同定

金原 明 (株)古環境研究所

## 1) はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

## 2) 試料

試料は、細池寺道上遺跡2区から出土した木製品3点(図版33-173~175)である。

## 3) 方法

カミソリを用いて新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、生物顕微鏡によって40~1000倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

## 4) 結果

(表1)に結果を示し、以下に同定根拠となった特徴を記す。また、各試料の顕微鏡写真を示す。

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don スギ科(図版33-173~175)

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する日本特産の常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

## 5) 所見

分析の結果、木製品の樹種は3点ともスギと同定された。スギは温帯に生育するが、積雪地帯である日本海側ないし東海地方で純林を形成する。木材は木理直通の良材であり、クスノキに次ぐ大木になる材である。スギ林地帯では主用材として用いられるが、他地域では各時代とも極めて使用が少ない。

## 文 献

佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞。木材の構造, 文永堂出版, p.20-48.

佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞。木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.

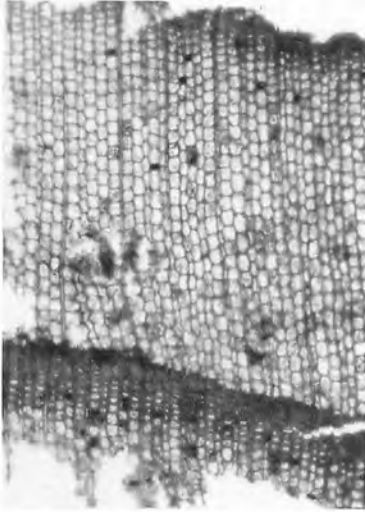
島地謙・伊東隆夫(1988)日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, p.296

山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成, 植生史研究特別第1号, 植生史研究会, p.242

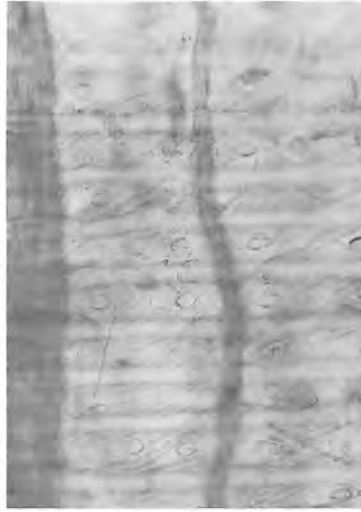
試料	結果(学名/和名)
No.173 H2 2B-13旧河川下層	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
No.174 H2 2B-13旧河川下層	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
No.175 H2 2B-19旧河川下層	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ

(H2=細池寺道上遺跡)  
(2B-13・2B-19=グリッド名)

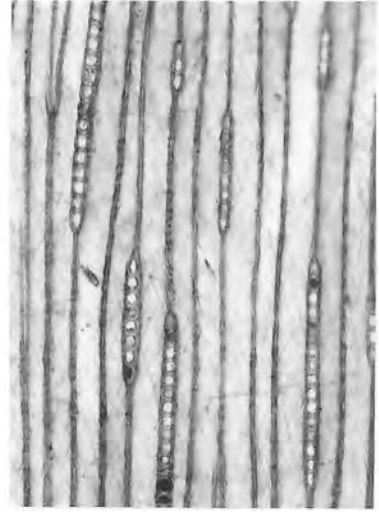
表1 細池寺道上遺跡2区における樹種同定結果



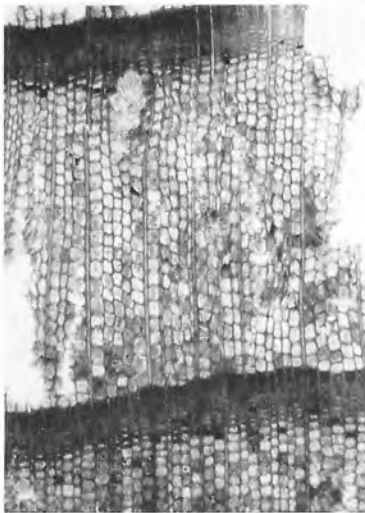
横断面 ————— : 0.5mm  
1. 遺物No.173 スギ



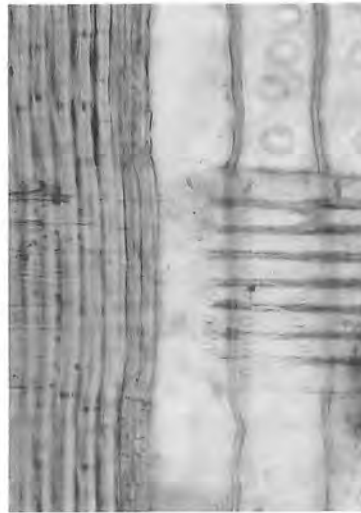
放射断面 ————— : 0.05mm



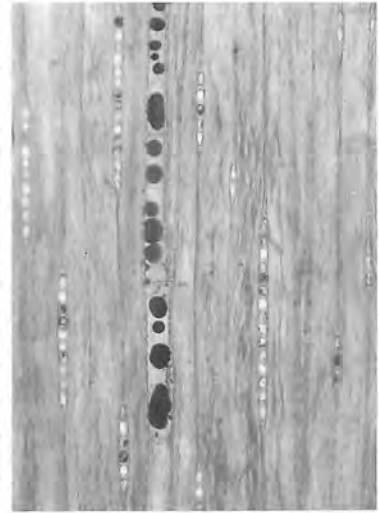
接線断面 ————— : 0.2mm



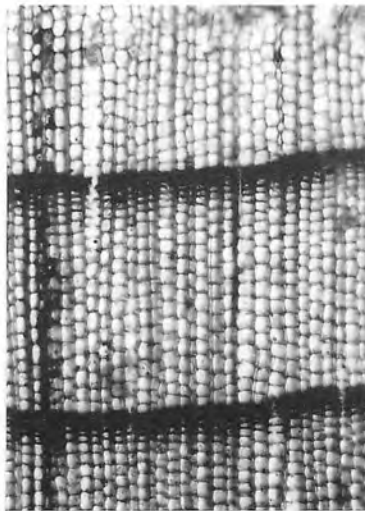
横断面 ————— : 0.5mm  
2. 遺物No.174 スギ



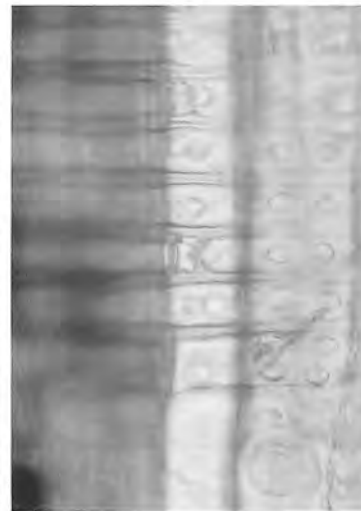
放射断面 ————— : 0.1mm



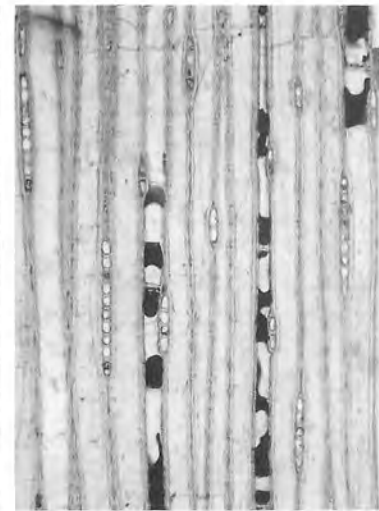
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm  
3. 遺物No.175 スギ



放射断面 ————— : 0.05mm



接線断面 ————— : 0.2mm

細池寺道上遺跡2区の木材

## 6 まとめ

### A 遺 構

#### 1) 細池寺道上遺跡1区

細池寺道上遺跡1区（以下、細池1区）は、新津市細池遺跡西地区（以下、細池西地区）から北西約1kmに位置する。遺跡は、南東から北西に向かって緩やかに傾斜する阿賀野川と能代川に挟まれた後背湿地に位置している。近世以降の遺構としてSD1・2が、古代の遺構としてSK1、SD3・4、河1・2が検出された。

SD1・2はともに主軸が南東～北西で、覆土の観察から灌漑用の水路として使用されたと考えられる。遺跡周辺は、慶長期以降新発田藩によって盛んに治水土木工事が行われている〔渡邊ほか2001〕。SD2からは17世紀後半頃の染付皿が出土しており、これらの溝が近世に遡る可能性がある。SD4は性格不明の畝状遺構で、河2との切り合い関係はなかった。SD3は遺構の大半が調査区外にあるため詳細は不明だが、SD4と同様の畝状遺構となる可能性が高い。SD3・4ともに、主軸は南東～北西である。河1は主軸が南東～北西の旧河道で、他のSDの主軸とほぼ一致する。SD4は河2を避けるように掘削されており、双方が同時存在した可能性もある。SD1・2の主軸が河1と近似していることから、細池1区周辺では近世以降に至るまで、古代の旧河道によって開析された微地形の影響を受けていることが伺える。

#### 2) 細池寺道上遺跡2区

細池寺道上遺跡2区（以下、細池2区）は、細池西地区から北西約550mに位置する。近世以降の遺構としてSD1が、古代の遺構としてSK1、SD2・3、Pit1、河が検出された。細池1区と同様旧河道が検出されたが、細池2区は旧河道が完全に埋没してから遺構が展開している。

SD1は主軸が南～北で、時期を確定できる遺物の出土はなかったが、確認面・覆土の観察から、細池1区SD1・2と同時期の灌漑用水路と考えられる。SD2・3も同様に主軸が南～北の細い溝で、覆土の観察から水路として使用された可能性もある。細池2区の溝は、近世以降・古代ともに、旧河道の縁を選んで掘削していることが特徴として挙げられる。

細池2区では調査区南半分において地山を掘り抜き、VI層中の大量の流木を検出した。遺物が出土していないため、年代は不明であるが、VI層は平安時代よりも更に遡る時代の旧河道と考えた。そこで細池2区河（第5節 B上位河川）とVI層（第5節 B下位河川）の年代を測定するため、河9層中に含まれる泥炭とVI層中の樹木片を採取し、放射性炭素年代測定を行った。（第5節 B）その結果、前者は西暦980～1200年頃、後者は西暦640～790年頃という測定結果が得られた。前者は細池西地区河6の分析結果に近い数値となり、河6（及び細池3区河）と細池1・2区河は、同時期に機能していた可能性が高い。細池2・3区河出土遺物は、後述するように9世紀後半頃の年代が考えられることから、遺跡周辺で集落が営まれていた段階では河川は機能しており、河川埋没後、新たに周辺で活動が開始されたことが考えられる。

#### 3) 細池寺道上遺跡3区

細池寺道上遺跡3区（以下、細池3区）は、細池西地区のA7グリッドに隣接し、古代の遺構としてSD1～3、河が検出された。

S D1は、細池西地区S D8の南約2mで検出された遺構である。確認面も同じで検出位置も近いが、細池西地区S D8とは形状が異なり別遺構である。細池西地区にはS D1の続きと思われる遺構がないため、途中で立ち上がる溝であるか、もしくは大型土坑である可能性が考えられる。S D2は細池西地区S D7の北西約12.5mで検出された溝で、S D7の続きのように見えるが、確認面・遺構の形状ともに異なり、別遺構である。S D3は細池西地区S D8の北約5mで検出され、遺構の規模・覆土などから同一遺構と考えた。調査区中央から河と似たような蛇行ラインを描いており、ここでも細池1・2区と同様、旧河道によって形成された微地形が遺構の展開に影響を与えていたことが伺える。

旧河道は細池西地区河6の北東約8.5mで検出され、河6と河aは同一の河道と考えられる。本遺跡では河aと、東から西へ蛇行し、調査区中央で河aと合流する河bが検出された。河bは細池西地区では検出されなかったことから、事業団細池遺跡H区で検出された「旧流路」が、細池西地区の北側に沿う形で流れてきたものである可能性がある。

## B 遺物

### 1) 古代の遺物

今回調査した細池寺道上遺跡の遺物は、2・3区の河から出土したものが大半で、特に3区の河から出土した遺物が質・量ともに群を抜いている。ここでは、2・3区河から出土した遺物を中心に記述していく。

#### 細池寺道上遺跡2区河 (第14図)

細池2区河は覆土の色調の差から、上層(7~9層)と下層(10・11層)に分けて取り上げ掲載した。しかし下層は遺物出土量が少ないため、量的な分析に関しては両層一括して行った。

種類別構成比率は土師器が82.2%、黒色土器が1.3%、須恵器が16.5%と土師器が全体の約8割を占めている。次に機能別組成比率を見ると食膳具が32.5%に対し、煮炊具が44.5%と後述する細池3区河と比べて非常に高い割合を示している。器種別構成比率を見ても無台碗27.2%に対し、長甕17.8%、小甕17.8%、鍋8.9%と煮炊具各種が無台碗に次ぐ高い数値を示している。

次に出土量の多い煮炊具の特徴を、上・下層を比較しながら見てみる。上層からは長甕・小甕・鍋が出土している。長甕12(図版27)は口縁端部が上方に短く屈曲するB類で、胴部があまり張り出さない形状である。小甕はB類と、口縁端部に面を持つC類が見られる。鍋はともにA類であるが、口縁端部の屈曲具合や口縁部の傾きに差が見られる。下層からは長甕と鍋が出土している。長甕はともにB類で、上層と同様胴部があまり張り出さない形状と考えられる。鍋は全てA類で、24(図版27)と33(図版28)、25(図版27)と32(図版28)などが口縁部の形状が類似している。

28・29(図版27)は仏鉢形土器(以下、仏鉢)で、近年新津市においても確認事例が増加している<sup>24)</sup>。遺物の性格から近隣に仏教施設が存在することが想定されるが、現在のところ本遺跡及び近隣の発掘調査では仏堂施設は確認されていない。本遺跡における仏鉢の出土量から、規模の大きい仏堂施設の存在は考えにくいと思われる。9世紀初頭前後から9世紀末頃の仏教施設は、集落内または集落の周辺に単体で存在する可能性が指摘されている〔北陸古代土器研究会1999〕。遺跡の様相から本遺跡の上流域において小規模な仏教施設の存在が想定されよう<sup>25)</sup>。

次に遺物の年代について述べる。まず上層と下層の年代差であるが、下層からは食膳具が出土していないため明確な時期差は捉えられないが、煮炊具の特徴を見る限り両層に差は見られず、現段階ではほぼ同一時期と考えた。次に細池2区河出土遺物全体の年代であるが、これも須恵器食膳具や全体を復元できる

無台碗が出土していないため、詳細は不明である。ただし黒色土器が出土していること、少ないながらも無台碗や煮炊具の特徴などから、比較的細池3区河に近い年代が考えられる。

#### 細池寺道上遺跡3区河 (第13～15図)

細池3区河は前述の通り、河aと河bが確認された。本調査区がこれら河道の合流地点であり、また覆土に切り合い関係がみられなかったため、遺物は一括して扱っている。遺物出土量は両河道合流地点でもある調査区中央部の河床に集中しており、河bでも一定量の出土が見られる。

種類別構成比率では土師器が71.6%、黒色土器が7.6%、須恵器が20.8%となっており、細池2区河と比べ黒色土器・須恵器の割合が多い。機能別組成比率では食膳具が81.1%、煮炊具が17.9%、貯蔵具が1.0%と食膳具が全体の約8割を占め、貯蔵具がほとんど出土していない。そこで食膳具の種類別構成比率を見ると土師器が65.6%、黒色土器が9.3%、須恵器が25.1%と黒色土器が一定量あるとともに、須恵器が比較的多く出土している。器種別構成比率は無台碗が53.2%と最も多く、無台杯17.0%がそれに続く。煮炊具は長甕と小甕がほぼ同数出土しており、煮炊具内での鍋・甕類の比率は、細池2区河とほぼ同じである。

各遺物の特徴を述べると、須恵器無台杯は体部が薄手で緩やかに外傾する器形で、口径11.6～13.0cm、器高2.7～3.3cmのものが見られる。底径は7.0～7.4cmにまとまり、口径15cm以上の大型のものは見られない。有台杯は全体が判るものは1点のみだが、121 (図版30) は口径13.0cm、器高6.5cmで、122・123 (図版30) と比べるとやや厚手である。

土師器無台碗は口径11.8～17.6cmまでのものが出土しており、12.6～13.5cm位のものが最も多い。器高指数は分析対象17点のうち、25～29が6点、30～34が8点、35以上が3点となっている。また底径指数は40前後と45前後のものが主体で、30～35のものも数点みられる。底径5cm以下の無台碗も出土しており、51・63 (図版29) は底径指数30～35に収まる法量である。無台碗の中には黒色処理はしていないものの、内面にミガキを施してあるもの (図版29・30・58・78・95・98) があり、そのうち78・95・98は外面にケズリないしはケズリ後ミガキを施している。黒色土器と土師器との関係を考える上で注目される<sup>註1)</sup>。

その他の器種としては、黒色土器は口径14.1cm以上の3類がほとんどで、特に口径15cm以上の大振りなものが目立つ。長甕はB類が主体で、胴部があまり張り出さない形状が多い。小甕はA類とB類が見られるが、鍋はA類が主体と細池2区河との共通性が指摘できる。

墨書土器は2点出土している。60 (図版29) は、体部外面に記号のようなものが墨書されている。118 (図版30) は体部外面に「川相」と墨書されている。『延喜式』式内には、沼垂郡五座の一つとして「川合神社」が記載されており、今回の「川相」は地名である可能性が高いほか、人名にも類例があるという<sup>註2)</sup>。また無台碗は9世紀中葉～末葉に、無台杯は9世紀半ば以降に体部に墨書されることが多くなるという<sup>註3)</sup>。

以上細池3区河出土遺物を概観してきたが、次に編年的なことについて記述する。須恵器無台杯は、体部が薄手で外傾するものが主体で、口径15cm以上の大型のものはない。底径は7.0～7.4cmにまとまっており、口径は12～13cmのものが主体であるが、117 (図版30) のように小振りなものもある。有台杯では、121・122がやや深めの器形を呈している。佐渡小泊産須恵器については、渡邊朋和氏が法量分布を中心に分析されており〔渡邊ほか2001〕、その分析結果によると、117や121は「カメ畑段階」の法量分布に入る。しかし、口径15cm以上の大型の無台杯がないこと、底径が7.0～7.4cmにまとまっていることなどは、やや新しい段階の特徴として捉えられる。黒色土器は、口径14cm以上の大振りなものが一定量見られる。土師器無台碗は底径指数40・45前後のものが主体である一方、器高指数35以上や底径指数30～35の無台碗も若干ではあるが見られる。前者は、春日編年〔春日1999・2003〕のVI1期の様相に近く、後者は9世紀第3四半期以降に見られる形状である。以上のことから、細池3区河出土遺物はVI1期が主体となりながらも、それ



第13図 細池寺道上遺跡3区河食膳具出土位置図

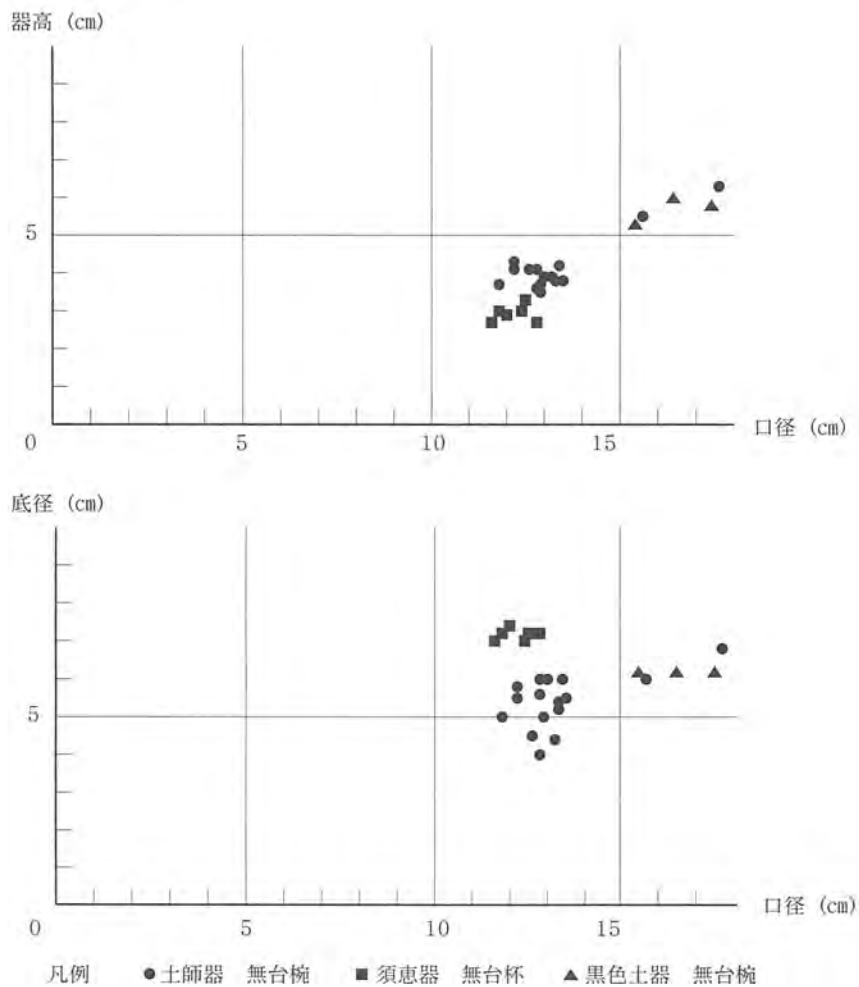
より若干新しい時期の遺物も含まれている。このような時間幅のある遺物組成を示す理由は、旧河道には人為的な遺構ほどの一括性がないためであろうか。本遺構を他遺跡と比較すると、隣接する細池西地区のSK3・4、SD14などに対応すると考えられる。

最後に、細池3区河出土遺物のもう一つの特徴を記述しておく。本遺構出土遺物は、他の遺構出土遺物に比べて遺存状態が非常に良かった。細池2区河と比較するために個体率（底残値による個体数/総破片数×100）を示すと、細池2区河が2.5%であるのに対し本遺構は11.7%と、総破片数が少ないとはいえ非常に高い。このことはこれら遺物群が旧河道に廃棄（近隣にゴミ穴があることから、人為的廃棄の可能性が高い）されてから、あまり長い距離は流されていないことを示す。本遺構の南西にはゴミ穴として細池西地区SK3・4が確認されており、遺跡の西側に住居域の存在が予想されている〔立木1998〕。本遺構出土遺物の個体率の高さも、上記のことを裏付ける一要素になると考えられる。

さらに数値に表れない特徴として、土器自体の状態が非常に良好に保存されていたことが挙げられる。このことは特に土師器において顕著で、叩くと須恵器のような金属音がするほど硬質に保存されている。



第14図 細池寺道上遺跡主要遺構別器種組成図



第15図 細池寺道上遺跡3区河出土食膳具の法量分布図



3区では調査区西側に砂層が形成されているなど、1・2区と若干異なった地層を呈している。上記のような遺物の保存状態の良さは、前述のように廃棄後の移動距離が短いことその他に、このような土質の違いに起因しているとも考えられる。

#### 仏鉢形土器（第16図、別表7）

本遺跡からは土師器の鉢（図版27-28・29）が出土している。この鉢は器形が仏具の鉢に類似しており、また本来仏具の鉢は金属器で作られていたことから「鉄鉢形土器」や「仏鉢形土器」と呼称されてきた。その用途については石川県羽咋郡志雄町杉野屋専光寺遺跡〔上野ほか1998〕で出土した須恵器の仏鉢形土器に「東寺」「寺鉢」の墨書が確認されたことなどから、仏具として使用されたと考えられている。ここでは発掘調査数の増加によって本遺跡のみならず県内でも発見されるようになった土師器の仏鉢形土器（以下、仏鉢）について若干の検討を加えてみたい。管見の限りでは、県内の13遺跡で確認された26個体の仏鉢が出土している（別表7）。これらを器形的に分類すると次のようになる（第16図）。

- 1 類 口径15cm、器高は10cm程度で小形のもの。底部は丸底ぎみで深碗形が多い。口縁部は直立のものやや内彎ぎみのものがある。（1～7）
- 2a類 口径20cm、器高は15cm程度で深めのもの。大きめの平底でやや肩が張り丸みを帯びた器形である。口縁部は内彎するものが通有であるが鏝状に縁取られるものもある。（8～14）
- 2b類 口径20cm、器高は10cm程度で浅めのもの。底部は平底でやや開き気味の器形である。口縁部は鈎状に内彎する。（15～26）

上記によれば本遺跡で出土した仏鉢は2b類に分類され、共伴遺物から概ね9世紀第3四半期の年代が与えられる。同様に2b類に分類される坂ノ沢C遺跡〔渡邊ほか2001〕の仏鉢は、春日編年〔春日1999・2003〕のVI1期とされていることから9世紀第3四半期に当たると考えられる。この他に子安遺跡〔笹沢2003a〕および新田畑遺跡〔笹沢2003b〕で出土した2b類の仏鉢は共伴遺物等からそれぞれ9世紀後半、10世紀初頭から前半の年代が与えられている。

一方、1類の仏鉢は、緒立C遺跡〔渡辺ほか1994〕・的場遺跡〔小池ほか1993〕・小出越遺跡〔鈴木ほか1988〕における遺物出土状況から9世紀第3四半期より遡ると思われる、2a類の仏鉢も、釈迦堂遺跡〔江口ほか2000〕・蔵ノ坪遺跡〔飯坂ほか2002〕における遺物出土状況から9世紀第3四半期より遡ると思われる。

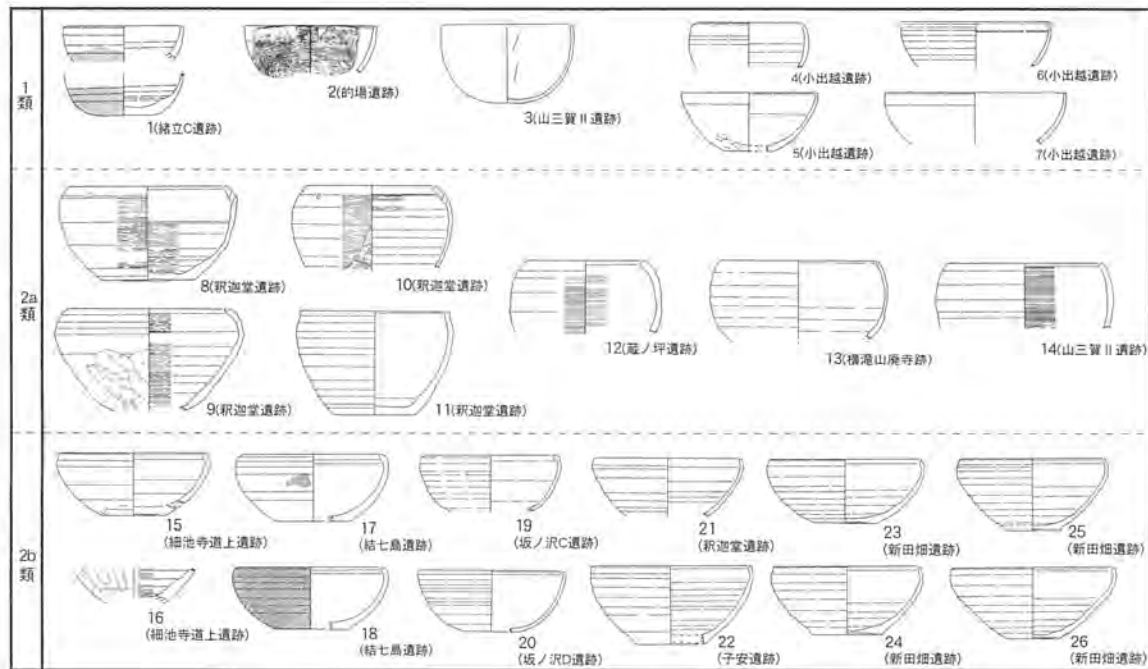
上記のことから2b類が1類及び2a類に後出する形式であることが考えられる。

製作技法との関連では、2b類では全面にロクロナデが及び底部糸切りが主体となる<sup>※6)</sup>のに対し、1類の仏鉢の成形技法はロクロ痕が顕著でなく底部ヘラ切りが残存し、2a類は内外面にカキメによる成形が見られ底部ヘラ切りが残存する。

9世紀の土師器における底部切り離し技法はヘラ切りから糸切りへ変化しており、概ね9世紀後半には糸切りが主体を占めるようになる〔春日1997・2001〕。2b類の仏鉢は帰属年代が概ね9世紀第3四半期以降であり底部糸切りが顕著であることから、土師器の製作技法が変化する中で2b類の仏鉢の形態ができたと考えられる。

以上、仏鉢について形態、成形技法、帰属年代の観点から概観したが、仏鉢の製作方法と形態には、土師器製作技法の流れが影響を与えたと思われる。なお、形態と使用方法の関連については今後の出土例を待ち再検討したい。

- 註1) 立木氏及び春日氏は、土師器無台椀Bとして分類されている。〔立木ほか1999〕〔春日ほか2003〕
- 註2) 「川相」氏の事例としては、本籍地は不明だが、「川相君万呂」(「天平7年大般若経卷三百十九奥書」『大日本古文書』24-46) という人名が見られる。(相沢史氏の御教示による)
- 註3) 相沢氏が八幡林遺跡の出土事例を分析されたところ、「IV期」(9世紀中～末葉) に体部に墨書される事例が増加している。〔相沢2004〕
- 註4) 草水町2丁目窯跡においても出土事例が見られる。(新津市教育委員会事務局御教示による。)
- 註5) 群馬県立歴史博物館 唐澤至朗氏御教示による。
- 註6) 1・8は底部ヘラ切り、15・17・18は底部糸切り、23～26は底部糸切り後ヘラ調整(上越市教育委員会 笹沢正史氏御教示による)とされる。



第16図 「仏鉢形土器」 類例・形態分類一覧 (S=1/10)

別表7 「仏鉢形土器」出土遺跡一覧表

本書 第16図No	市町村名	遺跡名・出土位置	〔出典〕	本書 分類	備考	本書 第16図No	市町村名	遺跡名・出土位置	〔出典〕	本書 分類	備考
1	新潟市	緒立C遺跡包含層	〔渡邊ほか1994〕	1類	一部赤彩	13	寺泊町	横流山慶寺跡包含層	〔駒見ほか1991〕	2a類	
2	新潟市	的場遺跡SB1	〔小池ほか1993〕	1類		14	聖籠町	山三賀II遺跡SI462	〔坂井ほか1989〕	2a類	
3	聖籠町	山三賀II遺跡SI115	〔坂井ほか1989〕	1類		15・16	新津市	細池寺道上遺跡2区河	〔本書〕	2b類	
4	糸魚川市	小出越遺跡包含層	〔鈴木ほか1988〕	1類		17・18	新津市	結七島遺跡跡跡包含層	〔藤田ほか2003〕	2b類	炭化物等付着
5	糸魚川市	小出越遺跡性格不明遺構	〔鈴木ほか1988〕	1類		19	新発田市	坂ノ沢C遺跡8号土坑	〔渡邊ほか2001〕	2b類	
6・7	糸魚川市	小出越遺跡2号住居	〔鈴木ほか1988〕	1類		20	新発田市	坂ノ沢C遺跡8号土坑	〔渡邊ほか1999〕	2b類	
8～10	新潟市	釈迦堂遺跡SK125	〔江口ほか2000〕	2a類		21	新潟市	釈迦堂遺跡SK117	〔江口ほか2000〕	2b類	
11	新潟市	釈迦堂遺跡包含層	〔江口ほか2000〕	2a類		22	上越市	子安遺跡SI954	〔笹沢2003a〕	2b類	
12	中多町	蔵ノ坪遺跡SD1009	〔飯坂ほか2002〕	2a類		23～26	上越市	新田畑遺跡SD38	〔笹沢2003b〕	2b類	

別表8 細池寺道上遺跡主要遺構一覧表

調査区	遺構名	調査区域	グリッド	確認面	形態				遺構規模 (m)		埋土	方位方向	遺構傾度 (No.)	SP (No.)	遺物の有無	遺物の図版	備考
					平面	断面	長さ	最大幅長軸	短軸	深さ							
1区	SK 1	支線部	3A-23・24	IV a層	-	半円形	-	-	-	0.19	2層	-	22	5	無し	-	
1区	SD 1	支線部	1C-10, 2C-11他	II c層	-	台形状	-	-	-	0.56	5層	N-40°W	22	3	無し	-	
1区	SD 2	拡幅部	2A-24, 2B-10他	II c層	-	台形状	1.54	-	-	0.74	3層	N-32°W	22・24	1・6	有り	27	
1区	SD 3	拡幅部	1B-15・20	IV a層	-	半円形	-	-	-	0.44	2層	N-44°W	22	4	無し	-	
1区	SD 4	拡幅部	2B-11・12・17, 2C-3	IV a層	-	半円形	0.37	-	-	0.10	1層	N-26°W	22	2	無し	-	
1区	河 1	拡幅部	2B-14・15他	IV a層	-	-	-	-	-	0.92	9層	N-31°W	22・24	6	無し	-	
1区	河 2	拡幅部	2B-22・23他	IV a層	-	-	1.52	-	-	0.52	2層	N-43°W	22・24	6・7	無し	-	
2区	SK 1	新設部	2B-1	IV a層	-	精円形	1.48	0.78	0.22	3層	N-11°W	23	2	無し	-		
2区	SD 1	新設部	2A-25, 2B-5他	II c層	-	台形状	2.74	-	-	0.98	5層	N-16°W	23	1	有り	27	
2区	SD 2	新設部	1B-5, 2B-1・6	IV a層	-	圓形	0.30	-	-	0.04	3層	N-14°W	23	3	有り	-	
2区	SD 3	新設部	2B-1・5・12他	IV a層	-	台形状	0.94	-	-	0.42	3層	N-21°W	23	3	有り	27	
2区	Pr 1	新設部	3A-14	IV a層	-	精円形	0.51	0.42	0.20	1層	N-40°W	23	4	無し	-		
2区	河	新設部	2A-19・24他	IV a層	-	-	11.00	-	-	1.22	13層	N-16°W	23・24	5	有り	27・28・33	
3区	SD 1	支線部	3E-19	IV a層	-	台形状	-	-	-	0.40	4層	-	24・26	3	無し	-	
3区	SD 2	支線部	1C-18・19・24	IV a層	-	圓形	1.68	-	-	0.22	2層	-	24・26	4	有り	28	
3区	SD 3	拡幅部	3C-14・19他	IV a層	-	圓形	3.52	-	-	0.12	2層	N-25°W N-44°E	24・26	1・5	有り	-	
3区	河	拡幅部	3C-18・19他	IV a層	-	-	-	-	-	1.27	7層	N-43°E N-27°W	24・26	1・2	有り	28～33	

別表9 細池寺道上遺跡古代土器・陶磁器観察表

- 凡例
- 1 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
  - 2 器種 第II章に記した。
  - 3 径高指数 器高/口径×100
  - 4 底径指数 底径/口径×100
  - 5 法 口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は遺存率が低いものである。
  - 6 胎土 須恵器・土師器について胎土中に含まれる乱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「チ」はチャート、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。
  - 7 色調 『新版標準土色帳』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修2002年版）の記号を記した。
  - 8 焼成 酸化炭焼成・還元炭焼成の区別を記した。
  - 9 手法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」・「ヘラ切り」はいずれも回転台を用いたものである。回転方向は回転台の回転方向を表す。底部調整やロクロケズリ・ロクロナデから判断した。
  - 10 遺存率 分数表示で遺存割合を示した。

図版No.	遺物No.	調査区	出土位置		層位	類別	器種	法尺(c m)			胎土	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			備考			
			遺構名	グリッド				口径	底径	器高				器高指数	底径指数	外面		内面	底部	口径部		底部	全体	
27	1	1区	SD 2	3B-16	2層	陶器	瓶					灰褐 (5YR5/2)												
27	2	1区	SD 2	3B-11	2層	磁器	皿			(4.5)		灰白 (N8/)	施釉	施釉										
27	3	2区	SD 1	2A-25	4・5層	土師器	無台椀				石・長	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			高台無釉、見込み蛇の目釉剥ぎ		
27	4	2区	SD 3	2B-12	3層	土師器	長甕				石・長	にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	酸化	平行タタキメ	当て具痕									
27	5	2区	河	3B-6	上層	土師器	無台椀	(13.0)			石・長	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36					
27	6	2区	河	2A・20・25	上層	土師器	無台椀	12.0			石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36					
27	7	2区	河	2A・20・25	上層	土師器	無台椀		4.8		石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					7/36		8/36		
27	8	2区	河	2A・20・25	上層	土師器	無台椀		5.4		石・長	浅黄褐色 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右			20/36		5/36		
27	9	2区	河	2A・20・25	上層	土師器	有台皿		6.6		石・長	浅黄褐色 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					16/36		4/36		
27	10	2区	河	3B-6	上層	黒色土器	無台椀	(14.0)			石・長	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ミガキ				2/36			2/36		
27	11	2区	河	3B-6	上層	黒色土器	無台椀		6.0		石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ミガキ	糸切り、ミガキ				18/36		6/36		
27	12	2区	河	2B-4	上層	土師器	長甕	(20.0)			石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	カキメ	カキメ				4/36			2/36		
27	13	2区	河	2B-10	上層	土師器	長甕				石・長	明褐灰 (7.5YR7/2)	酸化	平行タタキメ	カキメ							3/36		
27	14	2区	河	2A-25	上層	土師器	小甕	(16.0)			石・長	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	酸化	カキメ	ロクロナデ					7/36		3/36		
27	15	2区	河	2B-4	上層	土師器	小甕	13.0			石・長	灰黄褐色 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36		5/36		
27	16	2区	河	3B-6	上層	土師器	小甕	(8.8)			石・長	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36		5/36		
27	17	2区	河	2A-25	上層	土師器	小甕	11.0			石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ・ケズリ					7/36		6/36		
27	18	2区	河	3B-6	上層	土師器	小甕	(12.0)			石・長	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36		3/36		
27	19	2区	河	3B-11	上層	土師器	小甕	(12.0)			石・長	明褐灰 (7.5YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36		3/36		
27	20	2区	河	2A-25	上層	土師器	小甕		6.1		石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	左			30/36		6/36		
27	21	2区	河	3B-6	上層	土師器	小甕		6.7		石・長	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右				36/36		9/36	
27	22	2区	河	3B-6	上層	土師器	小甕		7.0		石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右				13/36		4/36	
27	23	2区	河	3B-6	上層	土師器	小甕		6.6		石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右				9/36		8/36	
27	24	2区	河	2A・20・25	上層	土師器	鍋	(38.0)			石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36		2/36		
27	25	2区	河	3B-11	上層	土師器	鍋				石・長	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36		1/36		
27	26	2区	河	3B-11	上層	土師器	鍋				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36		1/36		
27	27	2区	河	3B-6	上層	須恵器	長頸壺				石・長	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ							2/36		
27	28	2区	河	2B-5	上層	土師器	鉢				石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ケズリ	カキメ							1/36	仏鉢形土器	
27	29	2区	河	2A-25	上層	土師器	鉢	19.0	8.0		石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右		17/36	15/36	8/36		外面底部にヘラ描き「×」仏鉢形土器	
27	30	2区	河	2A-25	下層	土師器	長甕	(22.0)			石・長	浅黄褐色 (10YR8/4)	酸化	カキメ	カキメ							2/36		
27	31	2区	河	2B-5	下層	土師器	長甕	(22.0)			石・長	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	酸化	カキメ	カキメ							2/36		
28	32	2区	河	2B-5	下層	土師器	鍋	(41.0)			石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							3/36	2/36	
28	33	2区	河	2A-15	下層	土師器	鍋	(38.0)			石・長	浅黄褐色 (10YR8/4)	酸化	平行タタキメ	ハケメ・当て具痕						2/36		3/36	
28	34	2区	河	2B-14	下層	土師器	鍋				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ	ロクロナデ						1/36		1/36	
28	35	2区	河	2A-20	下層	須恵器	大甕	24.0			石・長	灰 (N5/)	還元	カキメ・平行タタキメ	カキメ・同心円当て具痕						20/36		4/36	
28	36	2区	確認調査	18T		土師器	長甕				石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	タタキ	当て具痕							1/36		
28	37	3区	SD 2	1C-19(1H)	2層	土師器	長甕				石・長	灰黄褐色 (10YR6/2)	酸化	平行タタキメ	当て具痕							1/36		
28	38	3区	SD 2	1C-19(1H)	1層	土師器	長甕				石・長	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							1/36		
28	39	3区	SD 2	1C-19(1H)	2層	土師器	長甕				石・長	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							1/36		
28	40	3区	SD 2	1C-19(1H)	2層	土師器	鍋				石・長	灰黄褐色 (10YR6/2)	酸化	平行タタキメ	ハケメ							1/36	内外面に付着物あり	
28	41	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台椀	17.6	6.8	6.3	36	39	石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	13/36	36/36	19/36		
28	42	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台椀	15.6	6.0	5.5	35	38	石・長	浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	14/36	30/36	18/36		
28	43	3区	河	3C-19	6層	土師器	無台椀	13.5	5.5	3.8	28	41	石・長	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	8/36	36/36	12/36		外面体下部・内面底部にスス付着
28	44	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台椀	(14.0)			石・長	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							3/36	3/36	
28	45	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台椀	13.8			石・長	黄褐色 (2.5Y5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							6/36	4/36	
28	46	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台椀	(13.6)			石・長	暗灰黄 (2.5Y5/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							4/36	3/36	
28	47	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台椀	13.4			石・長	灰黄褐色 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							10/36	6/36	
28	48	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台椀	(13.4)	6.0	4.2	31	45	石・長	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	1/36	11/36	6/36		
28	49	3区	河	3D-2	6層	土師器	無台椀	13.3	5.2	3.8	29	39	石・長	浅黄褐色 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	15/36	36/36	19/36		
28	50	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台椀	13.3	5.4	3.8	29	41	石・長・海	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	27/36	36/36	28/36		
29	51	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台椀	13.2	4.4	3.9	30	33	石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	31/36	36/36	34/36		内面に付着物あり
29	52	3区	河	3C-14	6層	土師器	無台椀	13.0			石・長	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							7/36	5/36	

図版 No.	遺物 No.	調査 区	出土位置		層位	種別	器種	法量(c m)			器高 指数	底径 指数	胎土	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			備考			
			遺物名	グリッド				口径	底径	器高						外面				内面				底部		
																口縁部	底面	全体		口縁部	底面	全体		口縁部	底面	全体
29	53	3区	河	3C-24	6層	土師器	無台碗	12.8	6.0	3.9	30	47	石・長	褐灰 (7.5YR5/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	4/36	27/36	12/36	外面体部・内口唇部ス付着			
29	54	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗	13.0					石・長	にぶい黄 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			11/36		8/36				
29	55	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台碗	(13.0)					石・長	にぶい黄 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		2/36				
29	56	3区	河	3C-19	6層	土師器	無台碗	12.9					石・長	にぶい黄 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36		5/36				
29	57	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台碗	12.9	5.0	3.7	29	39	石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	17/36	18/36	16/36				
29	58	3区	河	3C-19	6層	土師器	無台碗	12.9	(5.0)	3.5	27	39	石・長	にぶい黄 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		2/36	8/36			
29	59	3区	河	3C-14	6層	土師器	無台碗	12.8	5.6	4.1	32	44	石・長	暗灰黄 (2.5Y4/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	13/36	16/36	12/36				
29	60	3区	河	3C-19	6層	土師器	無台碗	12.8	6.0	4.1	32	47	石・長	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	20/36	36/36	30/36	外面体部に墨書			
29	61	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台碗	(12.8)					石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		3/36				
29	62	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台碗	(12.8)					石・長	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		3/36				
29	63	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台碗	12.8	4.0	3.6	28	31	石・長	にぶい黄 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	29/36	36/36	20/36				
29	64	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗	12.6	4.5	4.1	33	36	石・長	にぶい黄 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	13/36	30/36	20/36				
29	65	3区	河	3C-14	6層	土師器	無台碗	12.4					石・長	にぶい黄 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36		4/36				
29	66	3区	河	3C-19	6層	土師器	無台碗	12.0	5.2	3.9	33	43	石・長	にぶい黄 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	4/36	6/36	5/36				
29	67	3区	河	3D-2	6層	土師器	無台碗	12.2	5.5	4.3	35	45	石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	8/36	18/36	10/36				
29	68	3区	河	3C-14	6層	土師器	無台碗	(12.2)					石・長	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		2/36				
29	69	3区	河	3C-19	6層	土師器	無台碗	(12.0)					石・長	にぶい黄 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36		3/36				
29	70	3区	河	3C-14	6層	土師器	無台碗	(12.0)					石・長	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		2/36				
29	71	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗	(12.0)					石・長	明黄褐 (10YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		3/36				
29	72	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗	(12.0)					石・長	にぶい黄 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36		3/36				
29	73	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗	(12.0)					石・長	明黄褐 (10YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		2/36				
29	74	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台碗	(12.0)					石・長	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36		2/36				
29	75	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗	(11.9)					石・長	にぶい黄 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		3/36				
29	76	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗	11.8	5.0	3.7	31	42	石・長	浅黄 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	16/36	36/36	27/36				
29	77	3区	河	3C-19	6層	土師器	無台碗	(11.8)					石・長	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		2/36				
29	78	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台碗		5.6				石・長	にぶい黄 (2.5Y6/4)	酸化	ロクロナデ	ミガキ	系切り			20/36	12/36				
29	79	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗		5.2				石・長	にぶい黄 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	36/36	12/36	12/36				
29	80	3区	河	3C-14	6層	土師器	無台碗		5.0				石・長	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	35/36	24/36					
29	81	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台碗		5.2				石・長	にぶい黄 (5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	15/36	7/36					
29	82	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台碗		5.2				石・長	暗灰黄 (2.5Y5/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	22/36	7/36					
29	83	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台碗		5.0				石・長	にぶい黄 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	18/36	8/36					
29	84	3区	河	3C-19	6層	土師器	無台碗		4.6				石・長	にぶい黄 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	36/36	10/36					
29	85	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台碗		5.0				石・長	黄褐 (2.5Y5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	30/36	8/36					
29	86	3区	河	3C-19	6層	土師器	無台碗		4.4				石・長	にぶい黄 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	36/36	7/36		外面底部にヘラ書き「」			
29	87	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台碗		5.2				石・長	にぶい黄 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	20/36	6/36					
29	88	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台碗		4.6				石・長	橙 (5YR6/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	31/36	9/36					
29	89	3区	河	3C-14	6層	土師器	無台碗		6.5				石・長	にぶい黄 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	20/36	7/36		外面底部にヘラ書き			
29	90	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台碗		5.2				石・長	橙 (2.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	36/36	9/36					
29	91	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗		4.8				石・長	濃赤橙 (2.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	36/36	9/36					
30	92	3区	河	3C-23	6層	土師器	無台碗		6.0				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	7/36	6/36					
30	93	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台碗		6.0				石・長	にぶい黄 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	15/36	6/36					
30	94	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台碗		6.0				石・長	にぶい黄 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	8/36	4/36					
30	95	3区	河	3C-13	6層	土師器	無台碗		6.0				石・長	にぶい黄 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ミガキ			6/36	5/36					
30	96	3区	河	3C-14	6層	土師器	無台碗		6.0				石・長	暗灰黄 (2.5Y4/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	7/36	5/36					
30	97	3区	河	3C-24	6層	土師器	無台碗		4.3				石・長	橙 (2.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	系切り無調整	右	36/36	10/36					
30	98	3区	河	3C-18	6層	土師器	無台碗		7.0				石・長	灰褐 (7.5YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ミガキ		5/36	4/36					
30	99	3区	河	3D-2・3	6層	黒色土器	無台碗	17.4	6.2	5.8	33	36	石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ミガキ		4/36	19/36	9/36				
30	100	3区	河	3C-24	6層	黒色土器	無台碗	16.4	6.2	6.0	37	38	石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ミガキ		13/36	36/36	18/36				
30	101	3区	河	3C-24	6層	黒色土器	無台碗	(15.9)					石・長	にぶい黄 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	ミガキ			4/36		3/36				
30	102	3区	河	3C-13	6層	黒色土器	無台碗	15.4	6.2	5.3	34	40	石・長	にぶい黄 (2.5Y6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ミガキ		21/36	12/36	19/36				
30	103	3区	河	3C-13	6層	黒色土器	無台碗	15.0					石・長	灰黄 (2.5Y6/2)	酸化	ミガキ	ミガキ			5/36		4/36				
30	104	3区	河	3C-23	6層	黒色土器	無台碗	(13.0)					石・長	にぶい黄 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	ミガキ			1/36		3/36				
30	105	3区	河	3C-18	6層	黒色土器	無台碗		6.0				石・長	灰判-7 (5Y5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ミガキ		14/36	6/36					
30	106	3区	河	3C-19	6層	須恵器	無台杯	(13.0)					石・長	灰判-7 (7.5Y5/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36		1/36				
30	107	3区	河	3C-8	6層	須恵器	無台杯	(12.9)					石・長	灰判-7 (5Y6/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36		2/36				
30	108	3区	河	3C-13	6層	須恵器	無台杯	12.5	7.2	3.3	26	58	石・長	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左	29/36	29/36	30/36				
30	109	3区	河	3C-14	6層	須恵器	無台杯	12.8	7.2	2.7	21	56	石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左	10/36	15/36	12/36				
30	110	3区	河	3C-13	6層	須恵器	無台杯	12.4	7.0	3.0	24	56	石・長	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左	14/36	17/36	13/36				
30	111	3区	河	3C-18	6層	須恵器	無台杯	(12.2)					石・長	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36		2/36				
30	112	3区	河	3C-19	6層	須恵器	無台杯	(12.2)					石・長	灰 (7.5Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		1/36				
30	113	3区	河	3C-14	6層	須恵器	無台杯	(12.2)					石・長	灰 (N4)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		1/36				
30	114	3区	河	3C-14	6層	須恵器	無台杯	12.0	(7.4)	2.9	24	62	石・長	暗判-7 灰 (2.5GY4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36	1/36	4/36				
30	115	3区	河	3C-14	6層	須恵器	無台杯	(12.0)					石・長	灰 (N5)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		2/36				
30	116	3区	河	3C-25	6層	須恵器	無台杯	(12.0)					石・長	灰 (N5)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		1/36				
30	117	3区	河	3C-19	6層	須恵器	無台杯	11.6	7.0	2.7	23	60	石・長	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左	7/36	12/36	9/36				

図版 No.	遺物 No.	調査 区	出土位置		層位	種別	器種	法量(cm)			器高 指数	口径 指数	胎土	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			備考
			遺構名	グリッド				口径	底径	器高						外面	内面	底部		口縁部	底部	全体	
30	118	3区	河	3C-8	6層	須臾器	無台杯	11.8	7.2	3.0	25	61	石・長 灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り無調整	左	9/36	7/36	8/36	外面体部横位に墨書「川相」有り	
30	119	3区	河	3C-19	6層	須臾器	無台杯	(11.8)					石・長 灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		1/36		
30	120	3区	河	3C-19	6層	須臾器	無台杯		7.0				石・長 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		左	7/36	4/36	4/36		
30	121	3区	河	3C-24	6層	須臾器	有台杯	13.0	7.9	6.5	50	61	石・長 黄灰 (2.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7/36	12/36	12/36		
30	122	3区	河	3C-18	6層	須臾器	有台杯	12.5					石・長 灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			10/36		5/36		
30	123	3区	河	3C-19	6層	須臾器	有台杯	(12.2)					石・長 灰 (N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		1/36		
30	124	3区	河	3C-18	6層	須臾器	有台杯		7.2				石・長 灰 (N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	21/36	22/36	2/36	外面底部破として使用、墨痕有り	
30	125	3区	河	3C-13	6層	須臾器	杯蓋						石・長 灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36		
30	126	3区	河	3C-18	6層	土師器	長甕	(20.0)					石・長 灰利-ブ (5Y5/3)	酸化	カキメ	カキメ			4/36		2/36		
30	127	3区	河	3C-18	6層	土師器	長甕	(19.0)					石・長 にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	カキメ	カキメ			5/36		2/36	内外面一部にスス付着	
31	128	3区	河	3C-19	6層	土師器	長甕	(20.0)					石・長 灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	カキメ	カキメ			2/36		2/36	外面にスス付着	
31	129	3区	河	3C-24	6層	土師器	長甕	(20.0)					石・長 灰褐 (7.5YR5/2)	酸化	カキメ	カキメ			4/36		2/36	外面口縁部付近にスス付着	
31	130	3区	河	3C-24	6層	土師器	長甕	(21.8)					石・長 褐灰 (10YR6/1)	酸化	カキメ	カキメ			4/36		2/36	外面胴部・内面口縁部にスス付着	
31	131	3区	河	3C-8	6層	土師器	長甕	(22.6)					石・長 黄褐 (2.5Y5/3)	酸化	カキメ	カキメ			3/36		2/36		
31	132	3区	河	3C-13	6層	土師器	長甕	(23.6)					石・長 橙 (7.5YR6/6)	酸化	カキメ	カキメ			5/36		2/36		
31	133	3区	河	3C-18	6層	土師器	長甕	(23.5)					石・長 橙 (7.5YR6/6)	酸化	カキメ	カキメ			5/36		2/36		
31	134	3区	河	3C-12・19	6層	土師器	長甕	(20.0)					石・長 灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ	カキメ			4/36		1/36		
31	135	3区	河	3C-14	6層	土師器	長甕						石・長 にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	カキメ	カキメ			3/36		1/36		
31	136	3区	河	3C-18	6層	土師器	長甕						石・長 浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ			2/36		1/36	外面頸部にスス付着	
31	137	3区	河	3C-25	6層	土師器	長甕						石・長 浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ			1/36		1/36		
31	138	3区	河	4D-1	6層	土師器	長甕						石・長 暗灰黄 (2.5Y5/2)	酸化	平行タタキメ・ハケメ	当て具痕・ハケメ			9/36	5/36	5/36	外面体下部スス付着	
31	139	3区	河	3C-19	6層	土師器	長甕						石・長 褐灰 (10YR6/1)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕・ハケメ			36/36	6/36	6/36	外面体下部・内面スス付着	
31	140	3区	河	3C-19	6層	土師器	長甕						石・長 褐灰 (10YR4/1)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕					1/36		
31	141	3区	河	3C-18	6層	土師器	小甕	8.6	5.2		64	60	石・長 にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整		6/36	6/36	5/36	内面口縁部にスス付着	
31	142	3区	河	3C-8	6層	土師器	小甕	16.0					石・長 黄褐 (2.5Y5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			13/36		8/36		
31	143	3区	河	3C-18	6層	土師器	小甕	16.0					石・長 にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36		6/36	内面にスス・炭化物付着	
31	144	3区	河	3C-19	6層	土師器	小甕	14.8					石・長 灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	カキメ	ロクロナデ			9/36		4/36	外面一部・内面にスス付着	
31	145	3区	河	3C-8	6層	土師器	小甕	(14.5)					石・長 にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36		1/36		
31	146	3区	河	3C-25	6層	土師器	小甕	(13.0)					石・長 にぶい黄褐 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		1/36		
31	147	3区	河	3C-13	6層	土師器	小甕		8.0				石・長 暗灰黄 (2.5Y5/2)	酸化	ロクロナデ・ロクロナズリ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	36/36	5/36	5/36		
31	148	3区	河	3D-2	6層	土師器	小甕		6.8				石・長 灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	36/36	14/36	14/36		
31	149	3区	河	3C-18	6層	土師器	小甕		7.8				石・長 浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	32/36	4/36	4/36	内面スス付着	
31	150	3区	河	3C-25	6層	土師器	小甕		5.3				石・長 にぶい黄褐 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り無調整	右	36/36	8/36	8/36		
31	151	3区	河	3C-25	6層	土師器	小甕		8.4				石・長 灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り後ナデ		15/36	6/36	6/36		
31	152	3区	河	3C-22	6層	土師器	小甕		4.6				石・長 浅黄褐 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		7/36	4/36	4/36		
31	153	3区	河	3C-19	6層	土師器	小甕		(8.0)				石・長 にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ケズリ	ロクロナデ			6/36	2/36	2/36		
32	154	3区	河	3C-19	6層	土師器	鍋	(40.0)					石・長 にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	カキメ・ケズリ	カキメ			3/36		3/36		
32	155	3区	河	3C-19	6層	土師器	鍋	(38.4)					石・長 にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	カキメ・ケズリ	カキメ・ハケメ			3/36		2/36		
32	156	3区	河	3C-14	6層	土師器	鍋	(39.0)					石・長 灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	カキメ	カキメ			2/36		2/36		
32	157	3区	河	3C-19	6層	土師器	鍋	(40.0)					石・長 にぶい橙 (5YR6/3)	酸化	カキメ	カキメ			4/36		2/36	外面一部スス付着	
32	158	3区	河	3C-13	6層	土師器	鍋	(40.7)					石・長 灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	カキメ	カキメ			2/36		1/36	外面スス付着	
32	159	3区	河	3C-14	6層	土師器	鍋	(38.6)					石・長 にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	カキメ	カキメ			4/36		1/36	内面スス付着	
32	160	3区	河	3C-23	6層	土師器	鍋	(40.8)					石・長 浅黄褐 (10YR8/3)	酸化	カキメ	カキメ			1/36		1/36		
32	161	3区	河	3D-4	6層	土師器	鍋						石・長 浅黄褐 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36		1/36		
32	162	3区	河	3C-19	6層	土師器	鍋						石・長 にぶい黄 (2.5Y6/4)	酸化	ロクロナデ	カキメ			2/36		1/36		
32	163	3区	河	3C-25	6層	土師器	鍋						石・長 にぶい黄褐 (10YR7/3)	酸化	平行タタキメ・ハケメ	ハケメ			32/36	4/36	4/36		
32	164	3区	河	3C-19	6層	土師器	鍋						石・長 黒褐 (10YR3/1)	酸化	カキメ・平行タタキメ	カキメ・平行当て具痕					3/36	3/36	
32	165	3区	河	3C-19	6層	土師器	鉢	(32.0)					石・長 にぶい黄褐 (10YR7/3)	酸化	カキメ	カキメ			3/36		3/36		
32	166	3区	河	3C-19	6層	土師器	鉢	(11.0)					石・長 にぶい黄褐 (10YR7/3)	酸化	ケズリ	ケズリ			4/36		2/36		
33	167	3区	河	3C-19	6層	土師器	取手付甕						石・長 にぶい黄 (7.5YR5/3)	酸化	カキメ	カキメ					4/36	4/36	
33	168	3区	河	3C-14	6層	須臾器	鉢	29.0	6.0	14.8	51	21	石・長 灰黄褐 (10YR6/2)	還元	カキメ・ケズリ	カキメ・ハケメ	ケズリ	4/36	6/36	4/36	4/36		
33	169	3区	河	3D-5	6層	須臾器	大甕						石・長 灰 (N5/)	還元	カキメ・タタキメ	カキメ・タタキメ					1/36	同心円当て具痕	
33	170	3区	河	3C-25	6層	須臾器	横瓶						石・長 灰 (7.5Y4/1)	還元	平行タタキメ	平行タタキメ					8/36	同心円当て具痕	
33	171	3区	河	3C-18	6層	須臾器	長頸甕	9.6					石・長 灰 (10Y4/1)	還元	ロクロナデ・ロクロナズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	36/36	27/36	27/36		
33	172	3区	河	3C-13	6層	土師器	土器片						石・長 褐灰 (10YR4/1)	酸化	平行タタキメ	平行当て具痕					2/36	楕円形土器片	

別表10 細池寺道上遺跡木製品観察表

図版 No.	遺物 No.	調査 区	出土位置		層位	種別	器種	法量(cm)			備考
			遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ	
33	173	2区	河	2B-13	下層	木製品	蓋	16.0	8.6	0.7	中央に穿孔。
33	174	2区	河	2B-13	下層	木製品	底板	13.5	13.2	0.9	表裏面に多量の付着物有り。
33	175	2区	河	2B-19	下層	木製品	蓋	16.1	15.6	1.0	中央に穿孔。表面の一部、裏面全体焼け焦げている。

別表11 細池寺道上遺跡主要遺構出土古代土器器種構成率

調査区	遺構名	種別	食膳具														煮炊具				貯蔵具				合計									
			土師器		黒色土器		須恵器		土師器		須恵器		土師器		須恵器																			
			無台椀	有台皿	無台椀	無台杯	有台杯	杯蓋	長甕	小甕	鍋	甕	鉢	大甕	長頸甕	横瓶	鉢																	
2区	SD 1	口残値	0.22	84.6%									0.02	7.7%	0.02	7.7%											0.26	100.0						
		口縁数(点)	3	60.0%										1	20.0%	1	20.0%											5	100.0					
		底残値													0.19	100.0												0.19	100.0					
		底部数(点)													1	100.0												1	100.0					
		体部数(点)	6	50.0%										1	8.3%			5	41.7%									12	100.0					
		総点数(点)	9	50.0%										2	11.1%	2	11.1%	5	27.8%									18	100.0					
		総重量(g)	27.1	26.9%										21.6	21.5%	15.3	15.2%	36.7	36.4%									100.7	100.0					
2区	SD 2	口残値																																
		口縁数(点)																																
		底残値																																
		底部数(点)																																
		体部数(点)	1	50.0%														1	50.0%										2	100.0				
		総点数(点)	1	50.0%														1	50.0%										2	100.0				
		総重量(g)	1.8	22.0%														6.4	78.0%										8.2	100.0				
2区	SD 3	口残値																																
		口縁数(点)																																
		底残値																																
		底部数(点)																																
		体部数(点)	3	37.5%										1	12.5%			4	50.0%										8	100.0				
		総点数(点)	3	37.5%										1	12.5%			4	50.0%										8	100.0				
		総重量(g)	2.1	4.0%														13.0	24.7%										52.7	100.0				
2区	河	口残値	1.22	27.2%		0.06	1.3%	0.18	4.0%				0.80	17.8%	0.80	17.8%			0.40	8.9%		0.47	10.5%	0.56	12.5%				4.49	100.0				
		口縁数(点)	20	33.4%		1	1.7%	2	3.3%				8	13.3%	9	15.0%	9	15.0%			9	15.0%	2	3.3%					60	100.0				
		底残値	4.40	41.0%	0.44	4.1%	0.61	5.7%	0.39	3.7%			0.84	7.8%	2.79	26.0%	0.84	7.8%			0.42	3.9%							10.73	100.0				
		底部数(点)	13	34.2%	1	2.6%	4	10.5%	2	5.3%			3	7.9%	8	21.1%	4	10.5%			3	7.9%							38	100.0				
		体部数(点)	109	32.9%			8	2.4%					31	9.4%	13	3.9%	161	48.7%			3	0.9%	4	1.2%	2	0.6%			331	100.0				
		総点数(点)	142	33.1%	1	0.2%	13	3.0%	4	0.9%			42	9.8%	30	7.0%	174	40.6%			15	3.5%	6	1.4%	2	0.5%			429	100.0				
		総重量(g)	489.2	9.3%	24.1	0.5%	92.3	1.7%	23.2	0.4%			744.7	14.1%	388.4	7.4%	2350	44.6%			403.6	7.7%	733.8	13.9%	19.5	0.4%			5268.7	100.0				
3区	SD 2	口残値																																
		口縁数(点)																																
		底残値																																
		底部数(点)																																
		体部数(点)																																
		総点数(点)																																
		総重量(g)																																
3区	SD 3	口残値																																
		口縁数(点)																																
		底残値																																
		底部数(点)																																
		体部数(点)																																
		総点数(点)																																
		総重量(g)																																
3区	河	口残値	9.36	53.2%		1.33	7.6%	3.00	17.0%	0.58	3.3%		1.25	7.1%	1.23	7.0%	0.67	3.8%			0.08	0.5%						0.08	0.5%	17.58	100.0			
		口縁数(点)	49	45.0%		8	7.3%	15	13.8%	3	2.7%		14	12.8%	9	8.3%	9	8.3%			1	0.9%						1	0.9%	109	100.0			
		底残値	27.59	64.1%		2.25	5.2%	2.44	5.7%	0.92	2.1%		1.50	3.5%	6.20	14.4%	0.89	2.1%			0.11	0.3%			1.00	2.3%		0.14	0.3%	43.04	100.0			
		底部数(点)	49	60.5%		4	5.0%	7	8.7%	2	2.5%		3	3.7%	12	14.8%	1	1.2%			1	1.2%			1	1.2%			1	1.2%	81	100.0		
		体部数(点)	42	23.6%		12	6.7%	2	1.1%				1	0.6%	32	18.0%	19	10.6%	62	34.8%		1	0.6%		3	1.7%	1	0.6%	1	0.6%	178	100.0		
		総点数(点)	140	38.1%		24	6.5%	24	6.5%	5	1.4%	1	0.3%	49	13.3%	40	10.9%	72	19.6%		1	0.3%	2	0.5%	3	0.8%	2	0.5%	2	0.5%	3	0.8%	368	100.0
		総重量(g)	2763.7	23.4%		323.6	2.7%	322.1	2.7%	171.2	1.5%	14.6	0.1%	2377.8	20.1%	1139	9.7%	2577.3	21.8%		79.4	0.7%	107.4	0.9%	118.6	1.0%	1218.1	10.3%	377.6	3.2%	217.4	1.9%	11808	100.0

## 第Ⅶ章 総括

### 1 中谷内遺跡・細池寺道上遺跡出土土器（古代）の編年について

(第17図)

中谷内遺跡及び細池寺道上遺跡では古代の遺構および遺物が確認された。ここでは主要な遺構内遺物の編年関係を概観したい。考察にあたり比較的遺物の出土状況が良好であった3遺構を取り上げた。

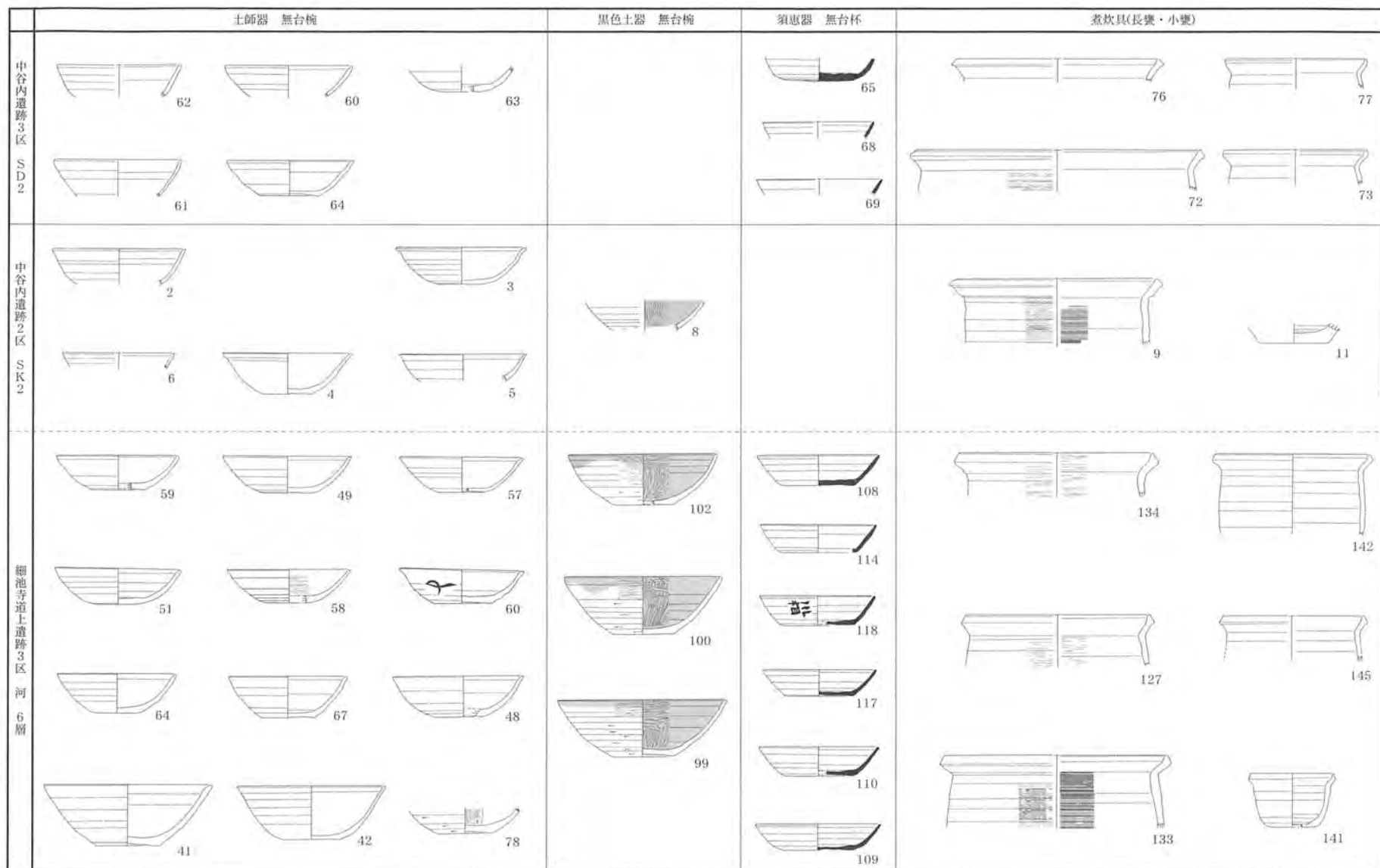
須恵器無台杯については佐渡小泊産が多い。当該期の編年を考察する上で、佐渡小泊産の須恵器の編年を確認しておく。小泊産の須恵器が越後国内に入るのは下口沢窯段階からで、カメ畑窯段階、江ノ下窯段階と続く。大木戸窯はカメ畑窯段階と併行するか〔坂井ほか1991〕、下口沢窯段階とカメ畑窯段階の中間に位置づけられる〔春日1997・1999〕。フスベ窯はカメ畑窯段階と江ノ下窯段階の間に位置づけられると考えられている〔川村2002〕。また、土師器無台碗の出土割合・形態と編年については、新津市寺道上遺跡〔渡邊ほか2001〕、新津市中谷内遺跡〔立木ほか1999〕、新潟市小丸山遺跡〔小池ほか1995〕、聖籠町山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか1989〕等の遺構内遺物で考察がなされている。

中谷内遺跡3区S D2では底部が厚く器壁の立ち上がりが明瞭な須恵器無台杯が見られる。また、焼成等から新津産と考えられるもの(第17図 中谷内遺跡3区65)が出土している。土師器無台碗では底径が大きく器高が低いものが主体である。煮炊具では長甕は口縁部が外反した後内側に屈曲しないものが多い。出土遺物の特徴は須恵器では下口沢窯段階に、春日編年〔春日1999・2003〕のV2期に相当すると思われるが、食膳具の須恵器と土師器の割合においては土師器が高い。同じく春日編年V2期主体とされている新津市寺道上遺跡では、食膳具の種類別構成比率は口残値で須恵器17.7%、土師器75.2%、黒色土器7.1%であり概ね本遺構の状況と一致する。

中谷内遺跡2区S K2では黒色土器無台碗が見られる。土師器無台碗では底径が中谷内遺跡3区S D2よりもやや小さくなり、器高がやや高いものが主体である。口縁部が外反するものが見られる。煮炊具では長甕は口縁部が外反した後内側に屈曲しないものが多い。

細池寺道上遺跡3区河では器壁が薄く、やや斜めに立ち上がる須恵器無台杯が見られる。土師器無台碗では中谷内遺跡2区S K2と同様のもののほか、器高が高いもの(第17図 細池寺道上遺跡3区41・42)、底部付近にケズリ後ミガキがあるもの(第17図 細池寺道上遺跡3区78)がある。煮炊具では長甕は口縁部が外反した後内側に屈曲するものが多い。小甕では器高が低いもの(第17図 細池寺道上遺跡3区141)がある。出土遺物の特徴は須恵器ではカメ畑窯段階に、春日編年〔春日1999・2003〕ではVI1期に相当すると思われる。しかし食膳具の須恵器と土師器の割合においては土師器が高く、器高が高い土師器無台碗が見られる。この点は春日編年〔春日1999・2003〕VI2期に相当する中谷内遺跡2期〔立木ほか1999〕及び新潟市小丸山S D4・5期〔小池ほか1995〕に見られる特徴である。細池寺道上遺跡3区は河出土遺物であり年代幅が存在する可能性があるが、食膳具の形態及び出土層位はある程度斉一性が見られ今後検討したい。

最後に本遺跡の分析をした上での問題点をあげておく。9世紀後半の新津市における遺構内遺物食膳具の須恵器と土師器の割合は概要では傾向があるが、寺道上遺跡で示されているようにその数値と分析については検討する必要があると思われる。また、新津丘陵と土師器生産地との関連について器高が高い土師器がどのように伝播したか、そのことと黒色土器と類似する整形技法を用いた土師器の出土は関連があるのかということについては今後の出土例及び分析に期待したい。



第17図 中谷内遺跡・細池寺道上遺跡出土土器の様相 (S=1/6)



## 要 約

### 中谷内遺跡

1. 中谷内遺跡は新潟県新津市大字大蔵字川端725-3他に所在し、遺構確認面の標高は2.8mから3.2mで現況は水田である。
2. 発掘調査は「平成16年度東北電力西新潟線鉄塔建替工事」に伴い実施した。調査面積は376.23㎡である。
3. 調査の結果、古墳時代から近世以降にかけての遺構及び同時代の遺物が確認された。遺構及び遺物は古代が主体である。
4. 遺構は古墳時代の遺構が土坑（SK）1基、古代の遺構が土坑（SK）7基・掘立柱建物跡（SB）1基・溝（SD）4基・ピット（Pit）15基、近世以降の遺構が溝（SD）1基・ピット（Pit）1基である。
5. 中谷内遺跡3区古墳時代の遺物は古墳時代中期～後期に、古代の遺物は、中谷内遺跡2区が9世紀第3四半期（春日編年〔春日1999・2002〕のVI1期）に、中谷内遺跡3区が9世紀第2四半期（春日編年のV2期）～9世紀第3四半期（春日編年VI1期）に比定される。

### 沖ノ羽遺跡

1. 沖ノ羽遺跡は新潟県新津市大字七日町字沖ノ羽3268-1他に所在し、遺構確認面の標高は3.6mから3.7mで現況は水田である。
2. 発掘調査は「平成16年度東北電力西新潟線鉄塔建替工事」に伴い実施した。調査面積は121.36㎡である。
3. 調査の結果、近世以降の遺構及び古代から近世以降の遺物が確認された。
4. 遺構は近世以降の遺構が土坑（SK）1基・性格不明遺構（SX）1基・溝（SD）1基である。
5. 古代の遺物は、概ね9世紀～10世紀初頭に比定される。

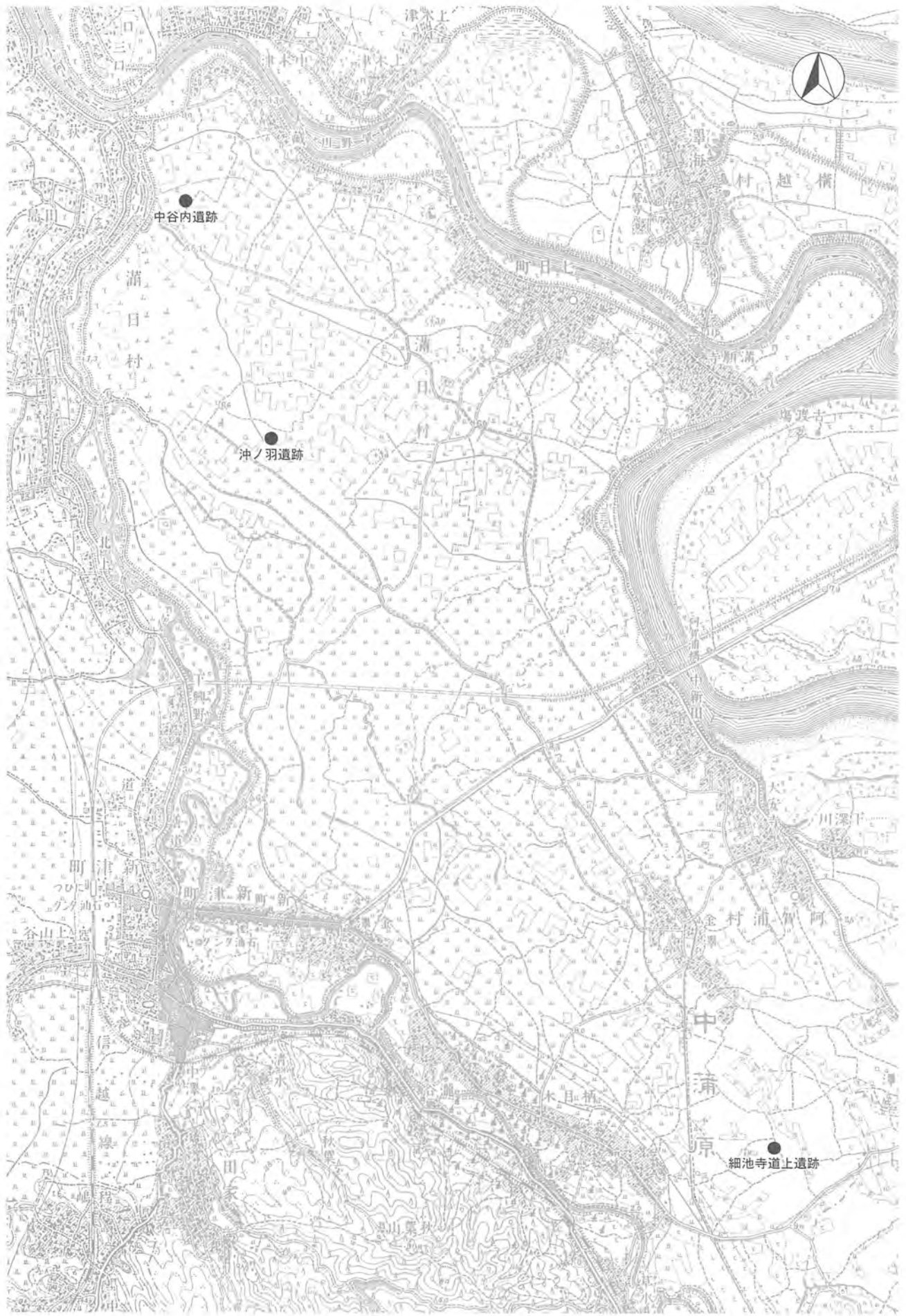
### 細池寺道上遺跡

1. 細池寺道上遺跡は新潟県新津市大字飯柳字池畑1108-1他に所在し、遺構確認面の標高は7.1mから7.7mで現況は水田及び畑である。
2. 発掘調査は「平成16年度東北電力西新潟線鉄塔建替工事」に伴い実施した。調査面積は397.77㎡である。
3. 調査の結果、古代から近世以降にかけての遺構（旧河道を含む）及び同時代の遺物が確認された。遺構及び遺物は古代が主体である。
4. 遺構は古代の遺構が土坑（SK）2基・溝（SD）7基・ピット（Pit）1基・旧河道（河）4基、近世以降の遺構が溝（SD）3基である。
5. 古代の遺物は、概ね9世紀第3四半期（春日編年のVI1期）に比定される。

## 引用・参考文献

- ア 相沢 央 2004 「新潟県内出土土書土器の基礎的考察」 第9回新潟墨書土器検討会  
朝岡政康ほか 2003 「卸売市場建設に伴う市道東8-273建設事業用地内発掘調査報告書 東園遺跡」 新潟市教育委員会  
甘粕健・川村浩司ほか 1992 「古津八幡山古墳Ⅰ」 新潟市教育委員会
- イ 飯坂盛泰ほか 2002 「一般国道7号 中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
池田敏広ほか 2000 「仏具系遺物研究略史・近年の動向を中心に」『一考古学の新たな開拓をめざして一 古代仏教系遺物集成・関東』 考古学から古代を考える会  
石川智紀ほか 1994 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ(A地区)」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
石川智紀ほか 2001 「国営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
伊藤秀和 2001 「鬼倉遺跡 国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書」 加茂市教育委員会  
伊藤啓雄 2002 「柏崎平野における平安時代前期の土器様相」『新潟考古学談話会会報』第25集 新潟考古学談話会  
今井さやか 2002 「17世紀城下町の陶磁器組成」『新潟考古学談話会会報』第25集 新潟考古学談話会
- ウ 植田 真ほか 2003 「結七鳥遺跡発掘調査報告書Ⅱ」 新潟市教育委員会  
上野一久ほか 1997 「国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
上野 敬ほか 1998 「杉野屋専光寺遺跡」 志雄町教育委員会  
宇野隆夫 1992 「食器の計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- エ 江口友子ほか 2000 「北陸自動車道黒埼パーキングエリア改良工事関係発掘調査報告書 釈迦堂遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 柿田祐司 1999 「使用痕跡から見た須恵器貯蔵具の使用実態について」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会  
春日真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第8集 新潟考古学談話会  
春日真実 1997 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会  
春日真実 1999 「第4章古代 第2節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院  
春日真実 2001 「北陸の様相」『須恵器の製作技法とその転換 古代の土器研究会 第6回シンポジウム』 古代の土器研究会  
春日真実ほか 1996 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
春日真実ほか 2003 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
金子拓男ほか 1983 「高塩B遺跡発掘調査報告書」 西山町教育委員会  
金子 勝ほか 2003 「吉田町史」通史編・上巻 吉田町社会教育課町史編さん係  
亀井 功ほか 1994 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 萩野遺跡・官林遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
川上貞雄ほか 1982 「平遺跡緊急発掘調査報告書」 新潟市教育委員会  
川上貞雄ほか 1992 「川口甲遺跡発掘調査報告書」 新潟市教育委員会  
川上貞雄ほか 1994 「八幡山遺跡Ⅰ 遺構編」 新潟市教育委員会  
川上貞雄ほか 1995 「舟戸遺跡発掘調査報告書」 新潟市教育委員会  
川上貞雄ほか 1996 「金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区」 新潟市教育委員会  
川上貞雄ほか 1996 「中組遺跡発掘調査報告書」 吉田町教育委員会  
川上貞雄ほか 1997 「新潟市工業団地第2期工事用地内発掘調査報告書 上浦A遺跡」 新潟市教育委員会  
川上貞雄ほか 1997 「天王小学校改築に伴う遺跡発掘調査報告書 曾根遺跡Ⅲ」 豊浦町教育委員会  
川畑 誠 1999 「須恵器貯蔵具の消費痕跡試論」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会  
川村浩司 2000 「上越市の古墳時代の土器様相」『上越市史研究』第5号 上越市史専門委員会  
川村 尚 2002 「佐渡郡羽茂町小泊窯跡」『新潟県考古学会第14回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- キ 北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究第8号 須恵器貯蔵具を考えるⅠ つぼとこめ』 北陸古代土器研究会
- ク 熊谷葉月 1999 「須恵器甕の出土状況と傾向」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- コ 小池邦明ほか 1993 「的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書 新潟市市場遺跡」 新潟市教育委員会  
小池邦明ほか 1995 「直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書 新潟市小丸山遺跡」 新潟市教育委員会  
小池義人ほか 1994 「磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡・寺道上遺跡」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
小池義人ほか 1998 「上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 関川谷内遺跡Ⅰ」 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
駒見和夫ほか 1991 「寺泊町史」資料編1 原始・古代・中世 寺泊町
- サ 坂井秀弥 1989 「北陸型土器器長甕の製作技法」『新潟考古学談話会会報』第3号 新潟考古学談話会  
坂井秀弥 1990 「越後における古代末・中世の土器様相と画期」『シンポジウム 土器からみた中世社会の成立』シンポジウム実行委員会  
坂井秀弥ほか 1989 「新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡」 新潟県教育委員会  
坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会

- 坂井秀弥ほか 1992 「佐渡小泊窯の生産・流通・系譜」『大戸窯検討のための「会津シンポジウム」東日本における古代・中世窯業の諸問題』大戸古窯群検討会
- 坂上有紀 2003 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 笹沢正史 2003 a 「第5章原始・古代—第1節 13—子安遺跡」『上越市史』資料編 上越市
- 笹沢正史 2003 b 「第5章原始・古代—第1節 26—新田畑遺跡」『上越市史』資料編 上越市
- シ 品田高志ほか 1997 『新潟県柏崎市・前掛り遺跡発掘調査報告書 前掛り』柏崎市教育委員会
- 上越市史編さん委員会 2003 『上越市史』資料編 上越市
- ス 菅沼 亘ほか 2003 『馬場上遺跡発掘調査報告書』十日町教育委員会
- 鈴木俊成ほか 1988 『北陸自動車道 糸魚川地区発掘調査報告書V 小出越遺跡』新潟県教育委員会
- 鈴木俊成ほか 1994 『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書IV 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- タ 高橋保雄ほか 1995 『北越北線関係発掘調査報告書 宮平遺跡・虫川城跡・中ノ山遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 滝沢規明ほか 1995 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 大坂上道遺跡・猿額遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田嶋明人 1990 「古代から中世にかけての土器の推移(加賀)」『シンポジウム 土器からみた中世社会の成立』シンポジウム実行委員会
- 田中 靖ほか 1995 『和島村文化財調査報告書 門新遺跡』和島村教育委員会
- ツ 立木宏明ほか 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 2000 『川根遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子ほか 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書I』新津市教育委員会
- 津田隆志 1999 「貯蔵具の出土傾向」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 鶴巻康志ほか 2003 『県営ほ場整備事業(新発田北部地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 桑ノ口遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- ト 土橋由理子ほか 1999 『国道18号上新バイパス関係発掘調査報告書IV 西福田新田遺跡・郷清水遺跡・上中島遺跡・上滝ノ沢遺跡・中の原D遺跡・窪畑B遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2003 『上信越自動車道関係発掘調査報告書 関川谷内遺跡II』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 中島義人ほか 2003 『県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査 宮ノ前遺跡発掘調査報告書』西山町教育委員会
- 中野 純ほか 2001 『新潟県柏崎市・宮之下遺跡群発掘調査報告書 宮之下遺跡群』柏崎市教育委員会
- 中野政樹 1984 「供養具」『新版 仏教考古学講座』第5巻 仏具 雄山閣
- 長澤展生ほか 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- ニ 新潟県教育委員会 1986 『新潟県史』通史編I 原始・古代 新潟県
- 新津市史編さん委員会 1993 『新津市史』通史編・上巻 新津市
- ノ 野水晃子ほか 2003 『熊代川関係発掘調査報告書I 新保北遺跡』五泉市教育委員会
- ホ 北陸古代土器研究会 1999 『北陸古代土器研究第8号 須恵器貯蔵具を考えるI つほとかめ』北陸古代土器研究会
- 星野信明ほか 1996 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡II (B地区)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- ム 向井裕知 1999 「井戸における貯蔵具の使用」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- ヨ 横越町史編さん室 2000 『横越町史』資料編 原始・古代 横越町
- 横山勝栄・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城跡分布調査報告書』新潟県教育委員会
- 吉井雅勇ほか 1996 『高柳A遺跡・高柳B遺跡・名割遺跡 県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II』荒川町教育委員会
- 吉井雅勇ほか 1999 『元山窯跡群 平成9・10年度町内遺跡試掘確認調査報告書』荒川町教育委員会
- 吉井雅勇ほか 2001 『田島遺跡 県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書III』荒川町教育委員会
- 吉井雅勇ほか 2002 『鴨侍遺跡 一級河川乙大日川統合一級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』荒川町教育委員会
- ワ 渡邊朋和ほか 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1994 『八幡山遺跡発掘調査報告書—平成5年度範囲確認調査』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄群遺跡発掘調査報告書 居村遺跡E・A・C地点、大入り遺跡A地点』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書II』新津市教育委員会
- 渡邊祐之 2004 『板倉町五反田遺跡の概要と出土した墨書土器』第9回新潟墨書土器検討会
- 渡辺ますみほか 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- 渡辺ますみほか 1998 「第2章原始・古代—緒立遺跡—第3節出土遺物第3項 奈良・平安時代の遺物1」『黒埼町史』資料編I 原始・古代・中世 黒埼町
- 渡邊美穂子ほか 1999 『県営広域営農団地農道整備事業(北蒲原東地区)関係発掘調査報告書 山ノ下遺跡・坂ノ沢D遺跡・岩ノ沢遺跡』新発田市教育委員会
- 渡邊美穂子ほか 2001 『県営広域営農団地農道整備事業(北蒲原東地区)関係発掘調査報告書 坂ノ沢C遺跡II(平安時代編)』新発田市教育委員会



0 1000m (1/25,000)





中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡周辺図



細池寺道上遺跡周辺図

- 凡 例
- 道路
  - 畑
  - 水路
  - 田

0 (1/15,000) 1,000m

新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現形図 1922年 1/1,800→1/15,000  
 新津市都市計画図 1995年 1/2,500→1/15,000







遺跡  
 (2004年3月現在)

0 1,000m (1/15,000)

新潟市発行 1/10,000→1/15,000に縮小し使用





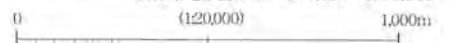
確認・試掘調査位置図 (1Tから13T)



確認・試掘調査位置図 (14Tから24T)

凡例 ■ 遺構・遺物が検出されたトレンチ  
 □ 鉄塔 □ 遺構・遺物が検出されなかったトレンチ

新潟市地形図1995 1/10,000-1/20,000



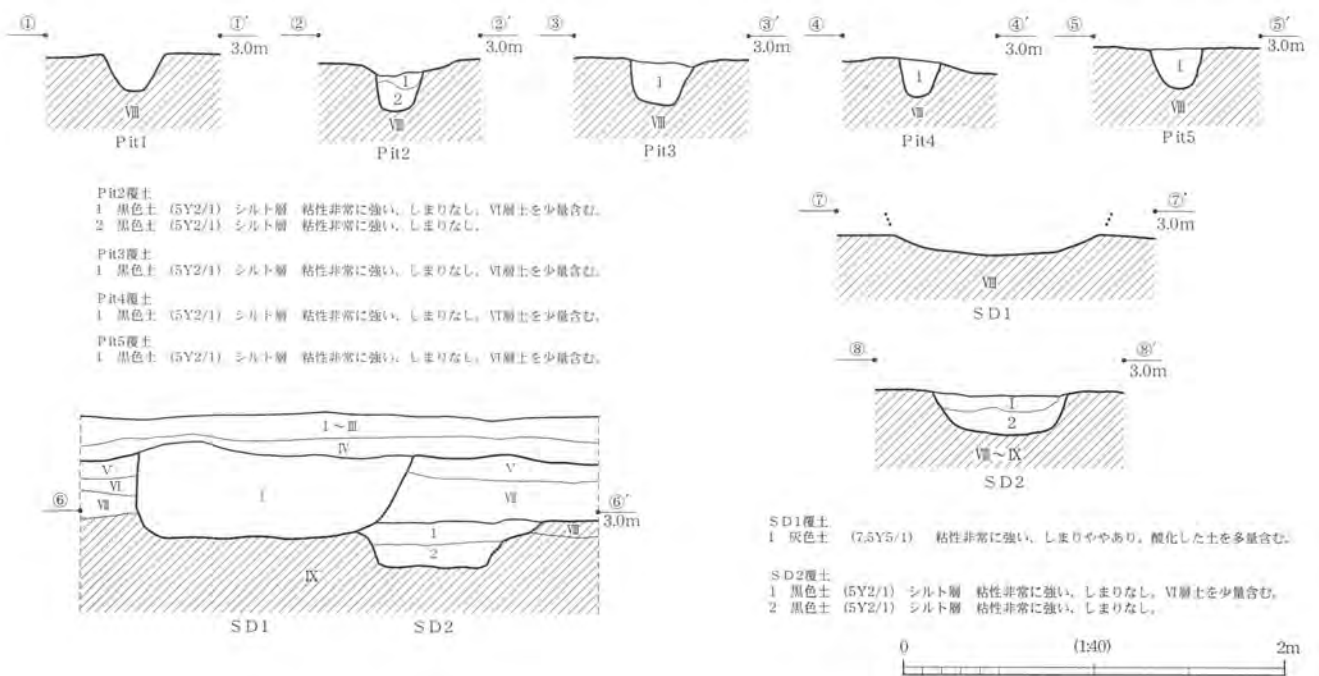
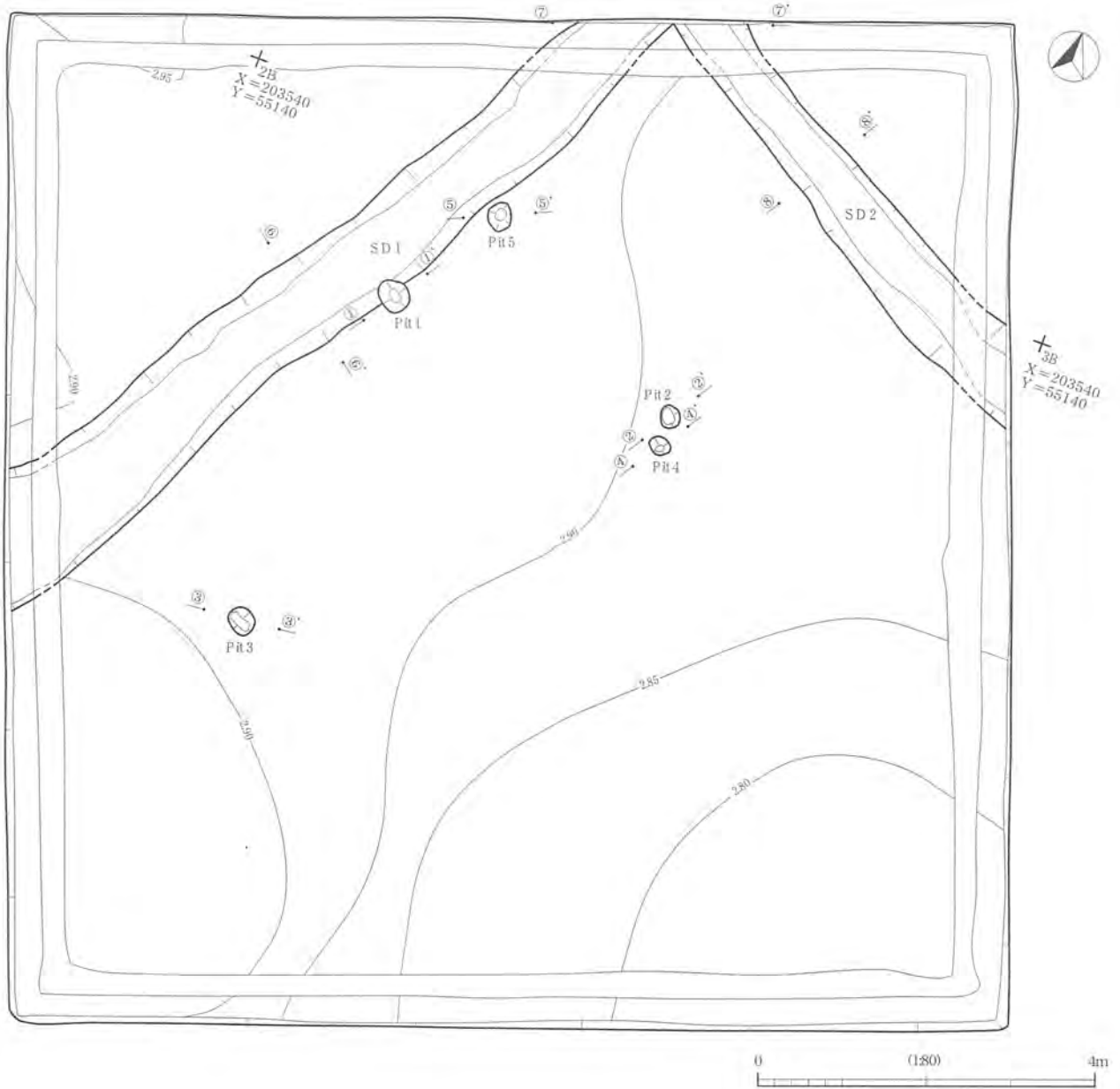


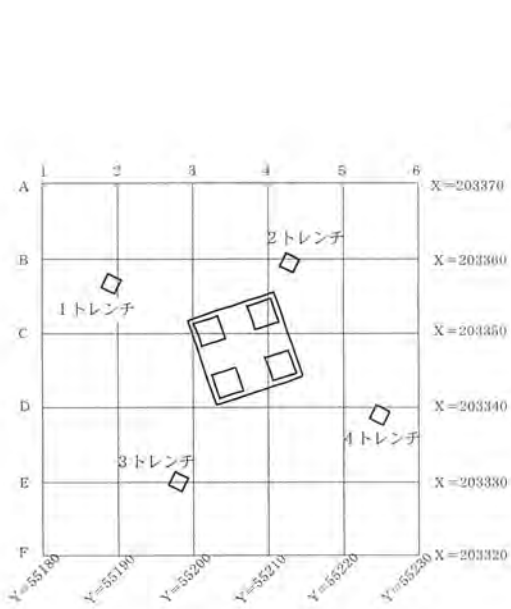
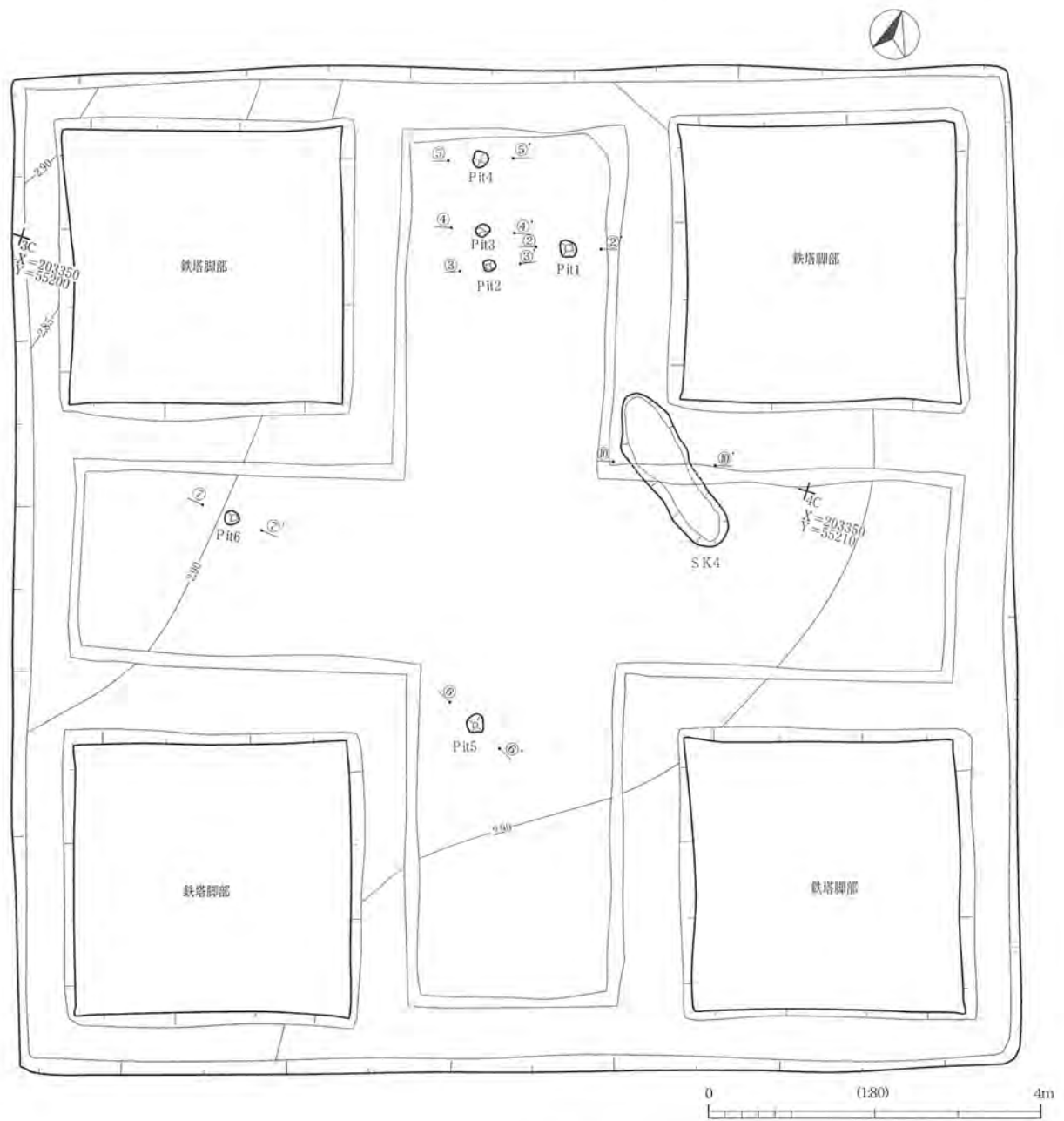


中谷内遺跡1区・2区 (S-1/2,500)

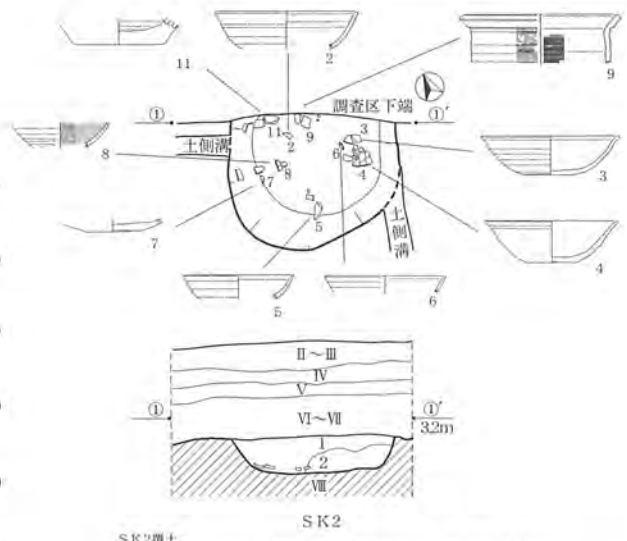


中谷内遺跡3区 (S-1/2,500)

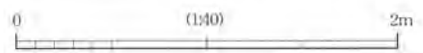




中谷内遺跡2区調査区模式図 (S=1/1000)

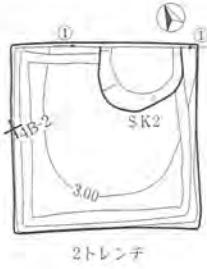


SK2覆土  
 1 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物多く含む。  
 2 灰色土 (5Y6/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物多く含む。





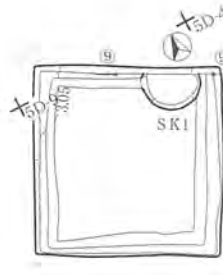
1トレンチ



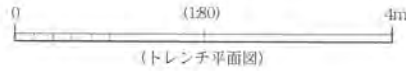
2トレンチ



3トレンチ



4トレンチ



(トレンチ平面図)



Pit1



Pit2



Pit3



Pit4



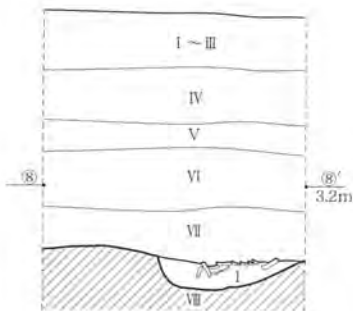
Pit5



Pit6

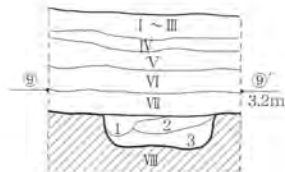


12



SK3

SK3覆土  
I 灰色土 (5Y6/1) シルト層 粘性あり、しまりあり、炭化物含む。



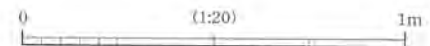
SK1

SK1覆土  
1 オリーブ黒色土 (5Y3/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物少量含む。  
2 灰色土 (5Y6/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物少量含む。  
3 灰色土 (10Y6/1) シルト層 粘性ややあり、しまりあり、炭化物微量含む。

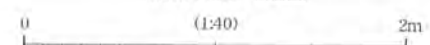


SK4

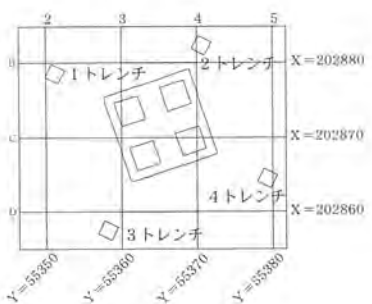
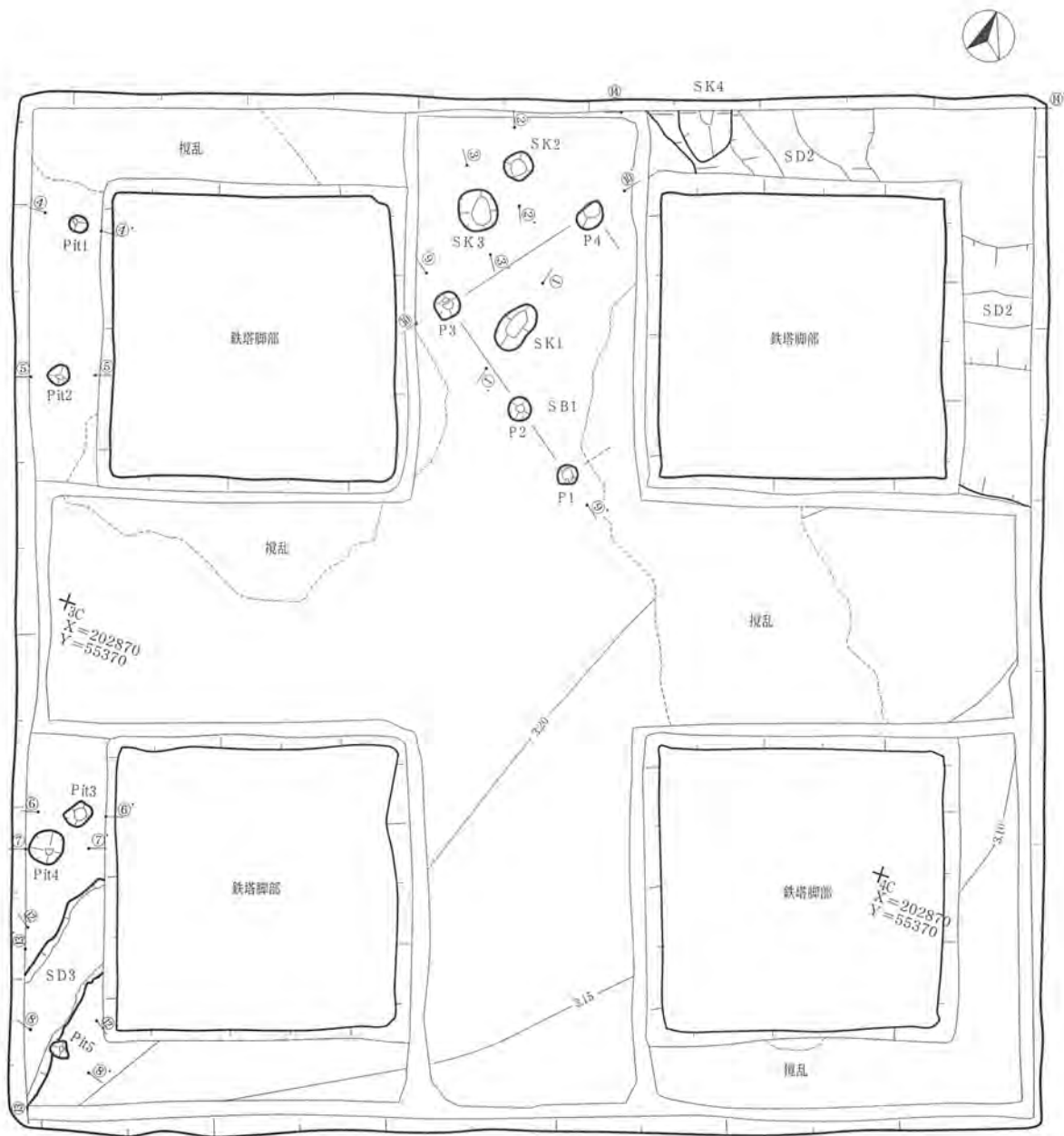
SK4覆土  
I 黄灰色土 (2.5Y4/1) シルト層 粘性あり、しまりややあり、鉄分少量含む。



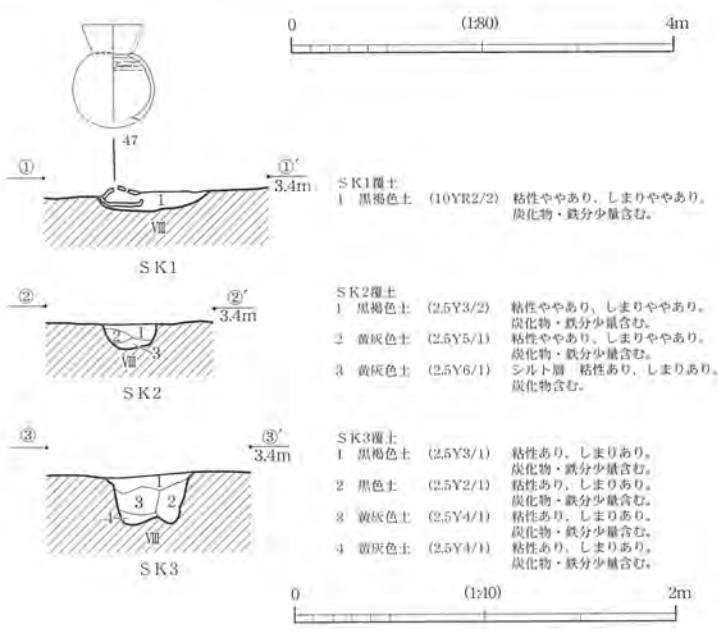
(SK3平面図・断面図)

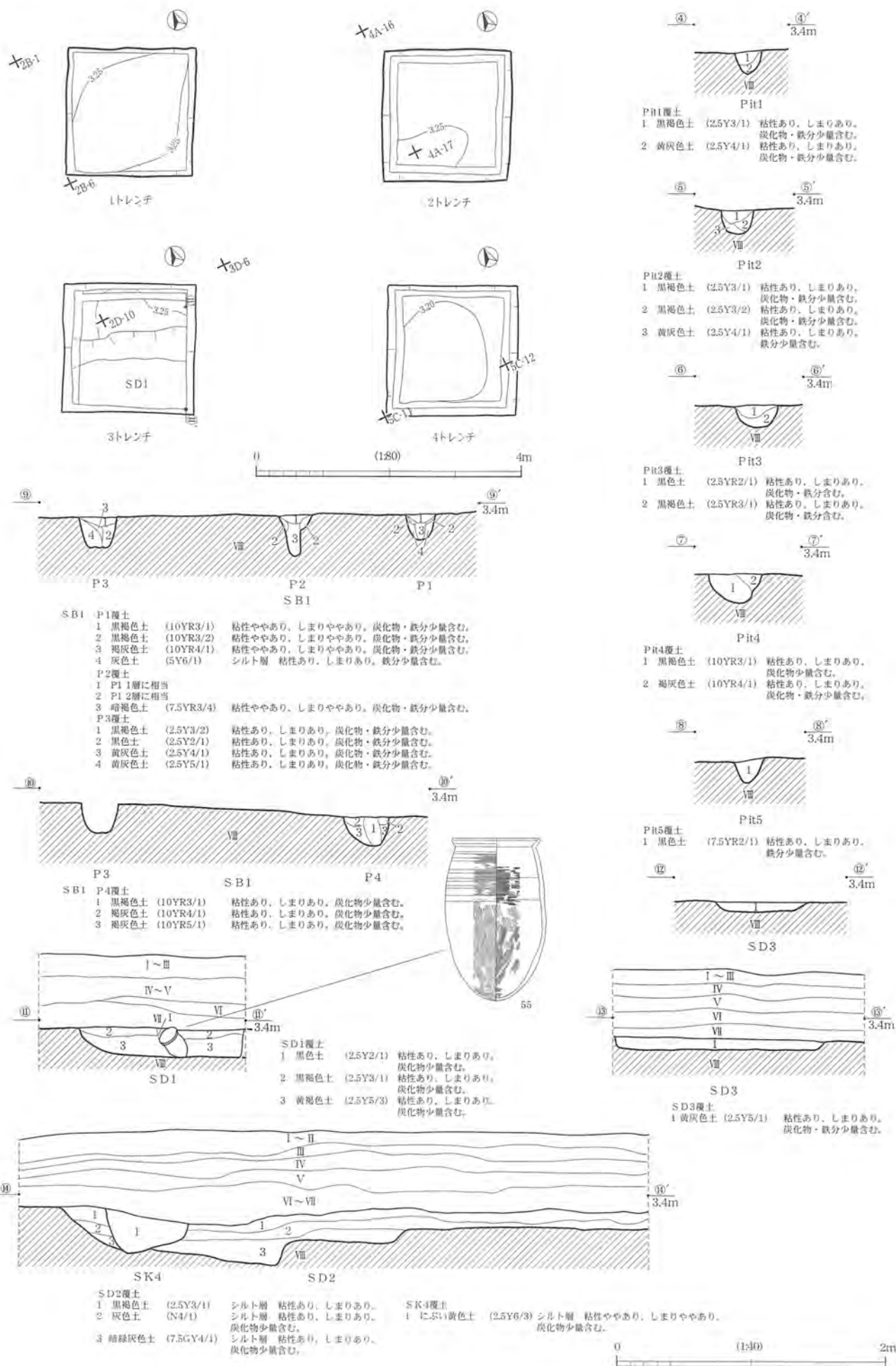


(Pit1~6、SK1~4断面図)

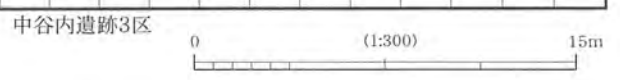
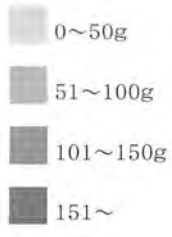
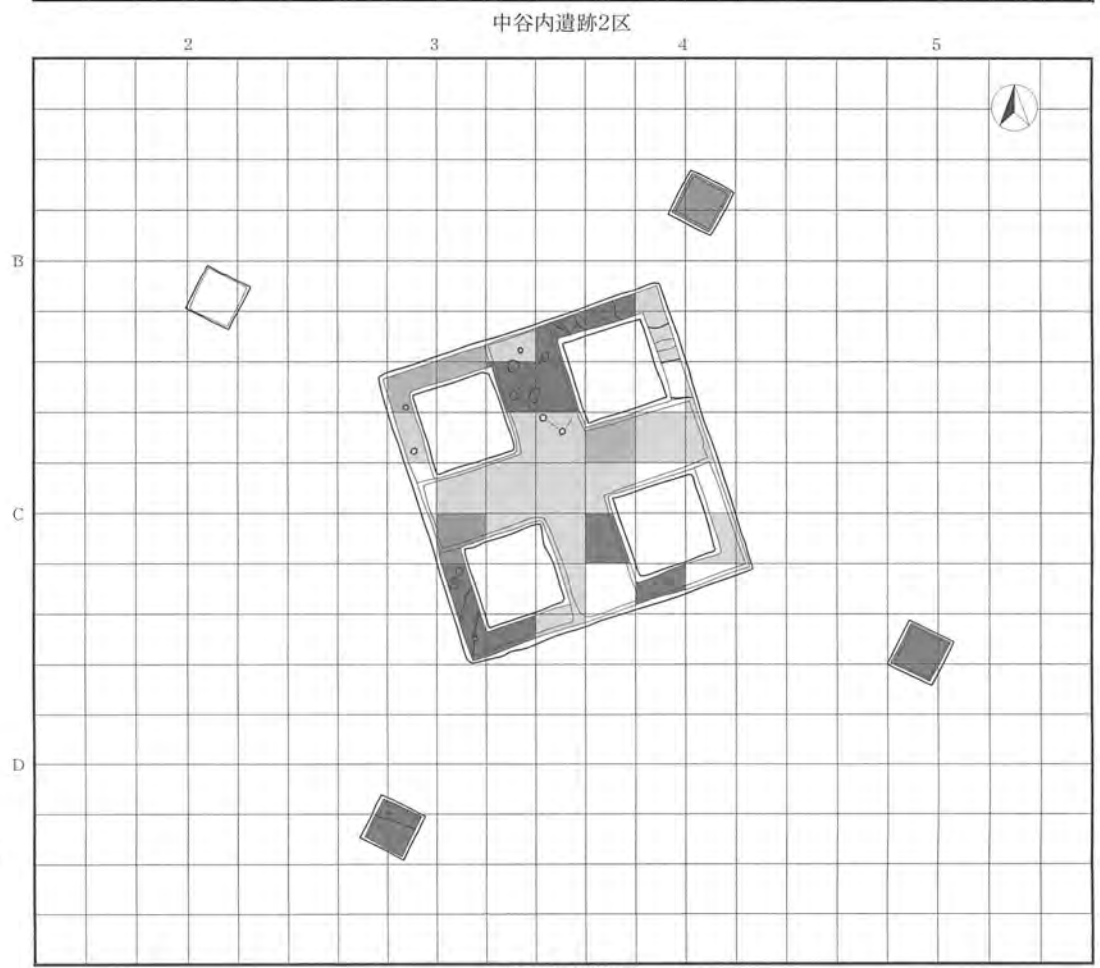
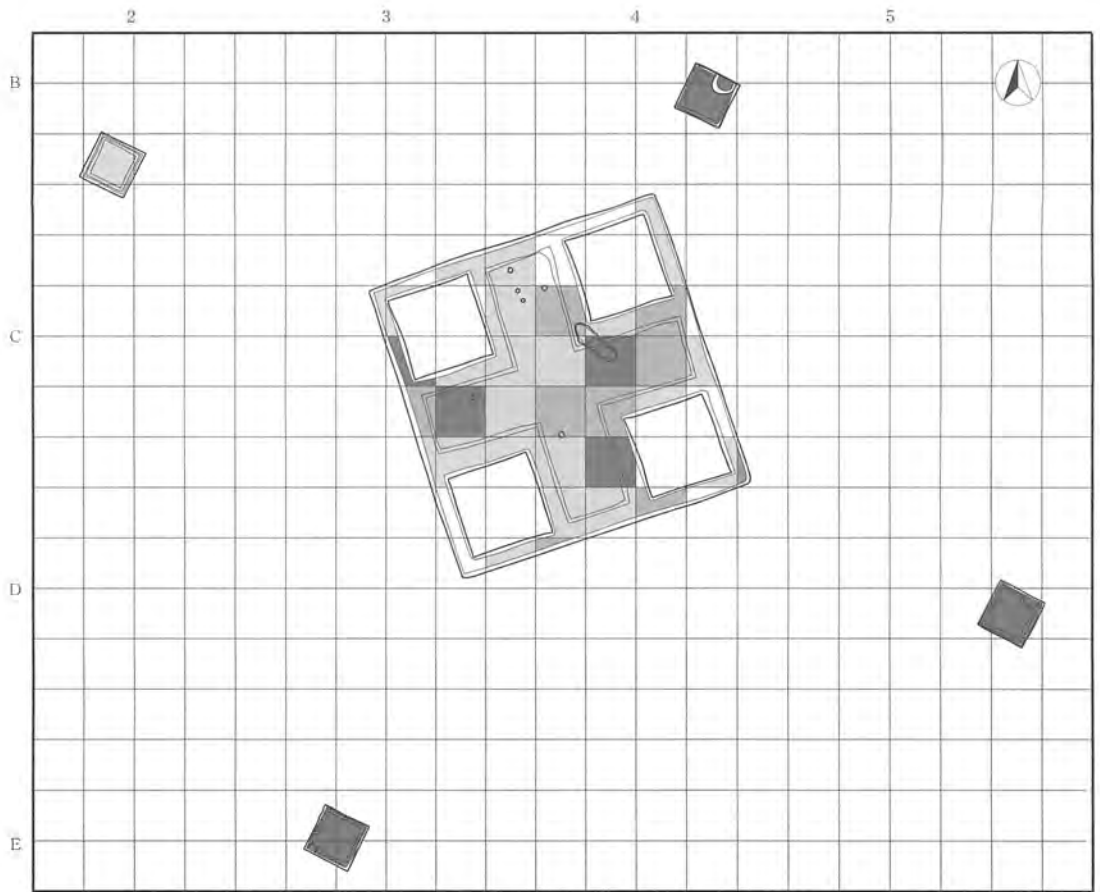


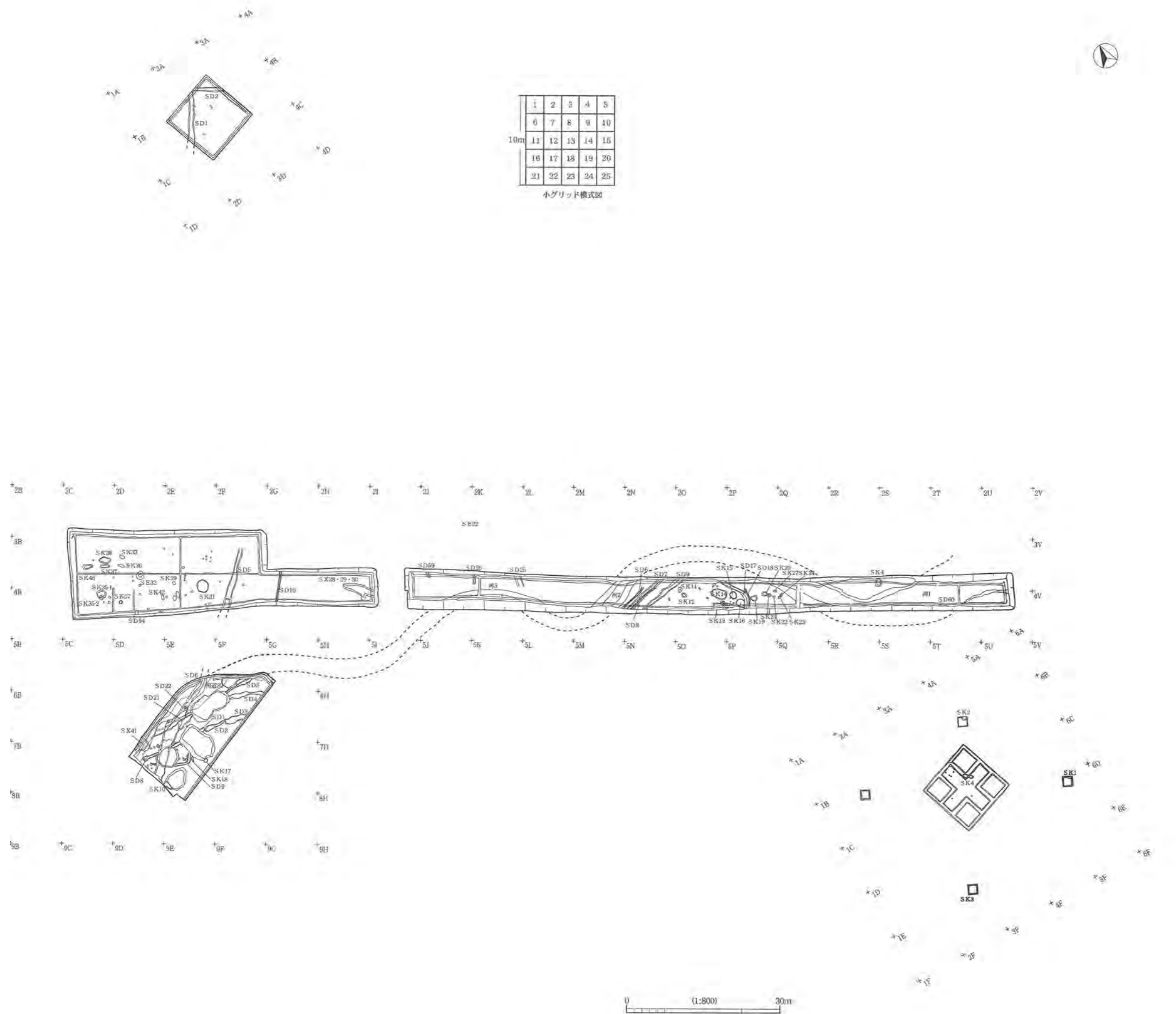
中谷内遺跡3区調査区模式図(S=1/1000)





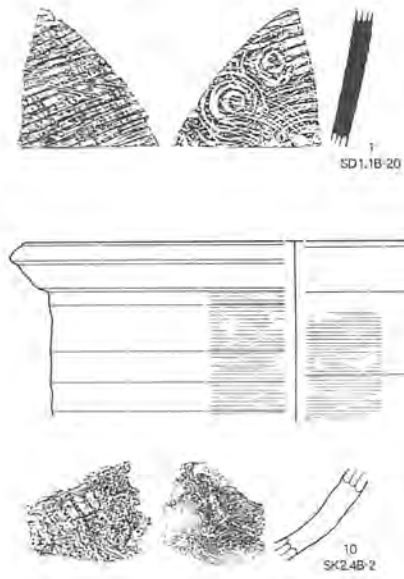




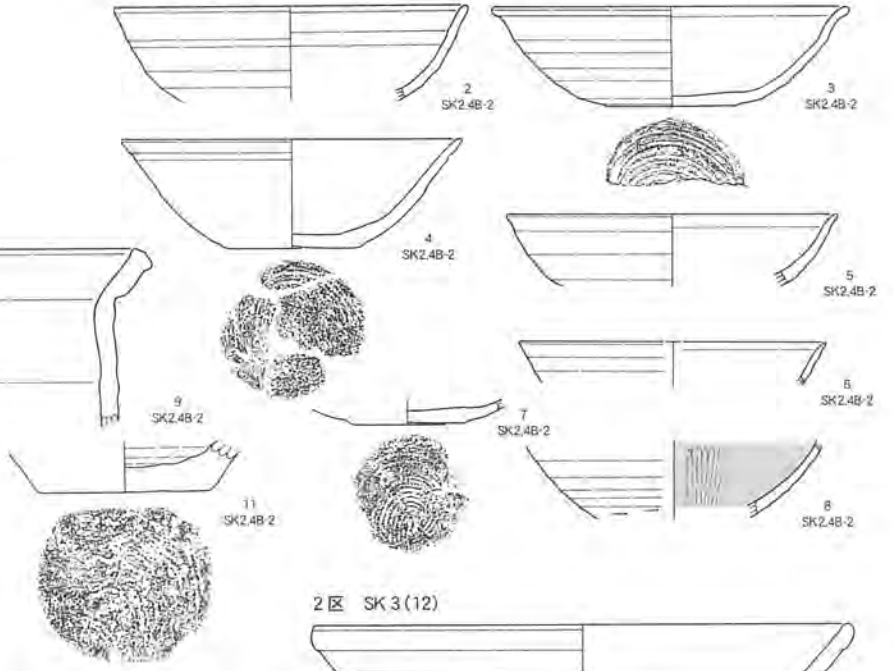




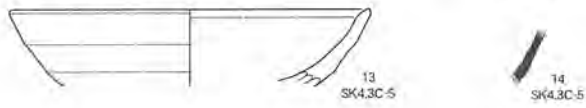
1区 SD1(1)



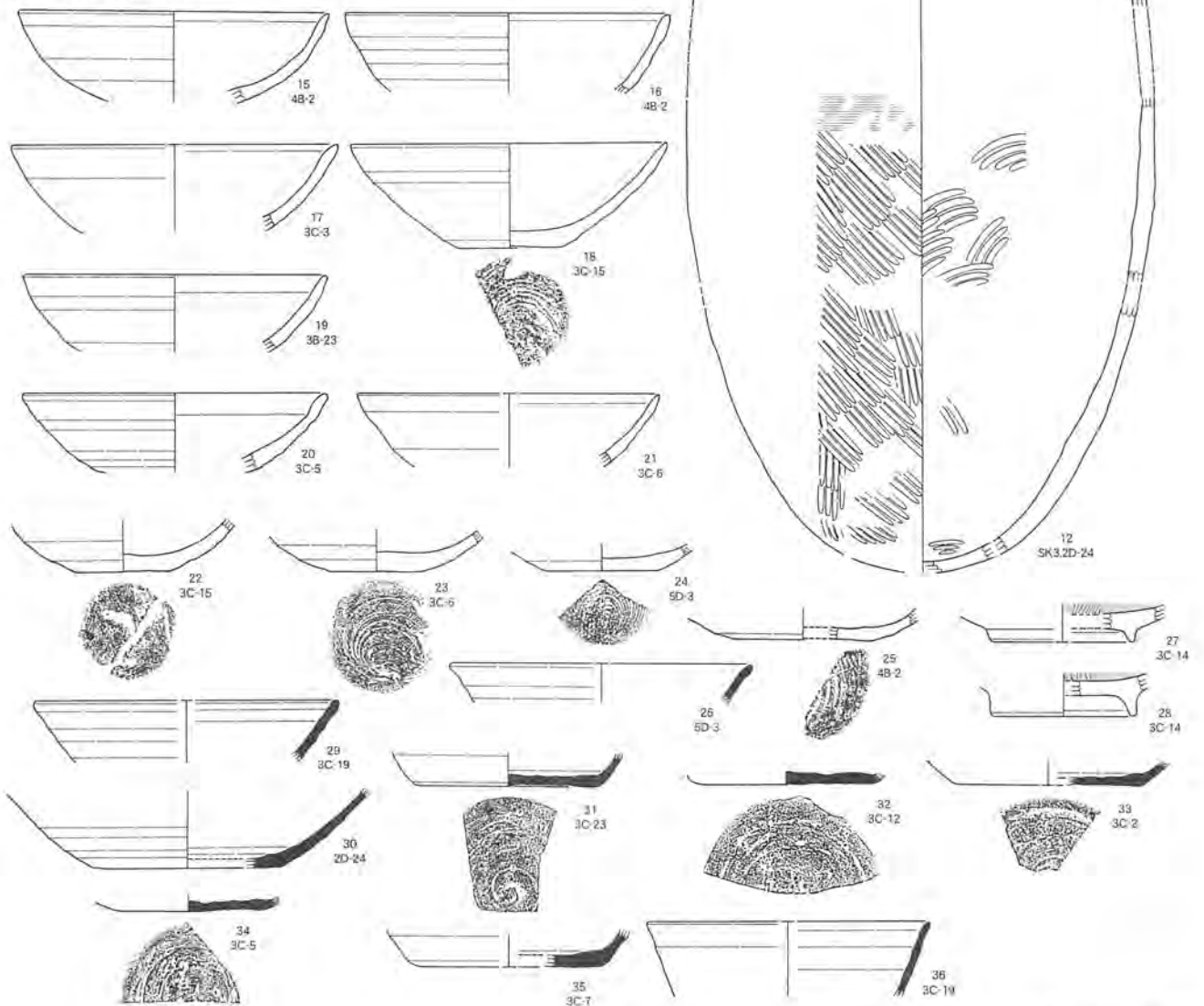
2区 SK2(2~11)



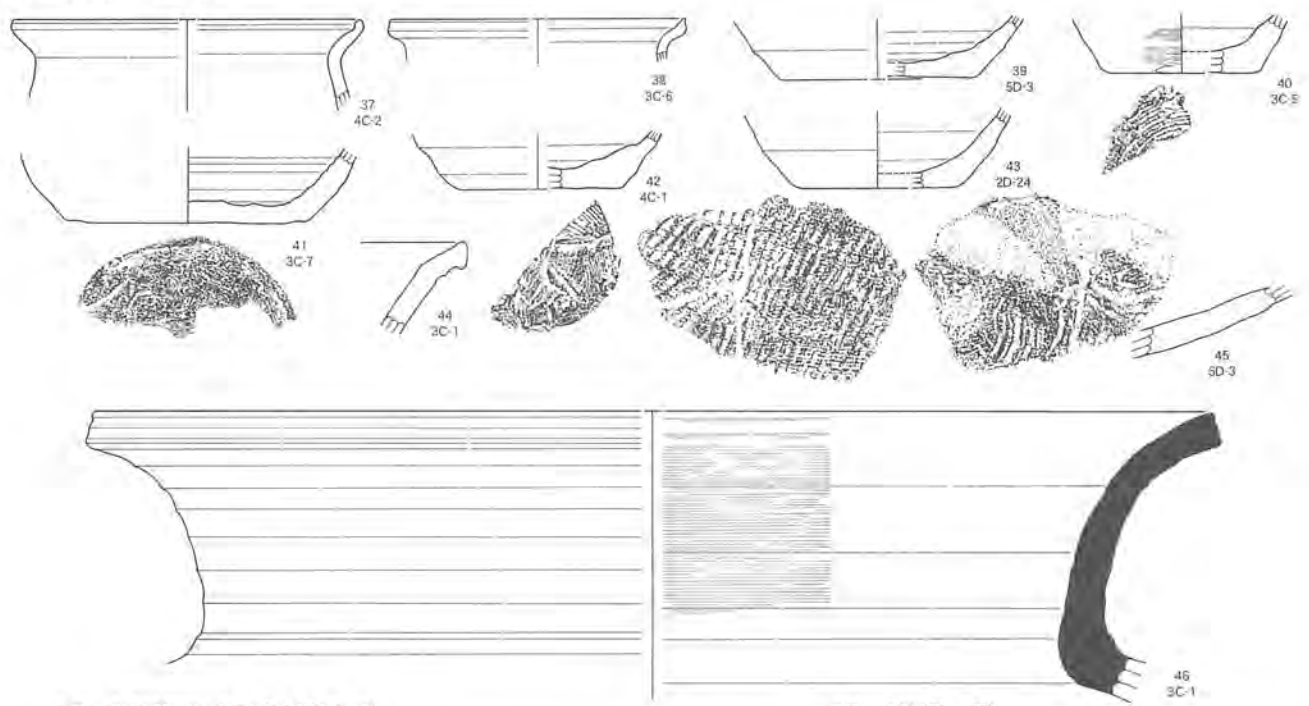
2区 SK4(13-14)



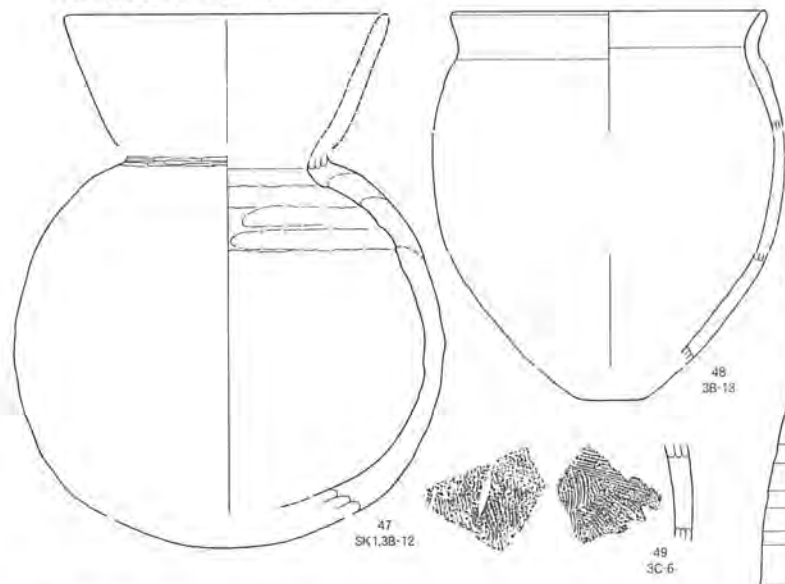
2区 包含層(1)(15~36)



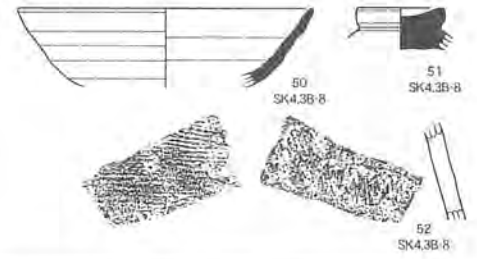
2区 包含層(2) (37~46)



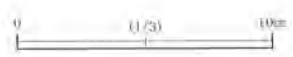
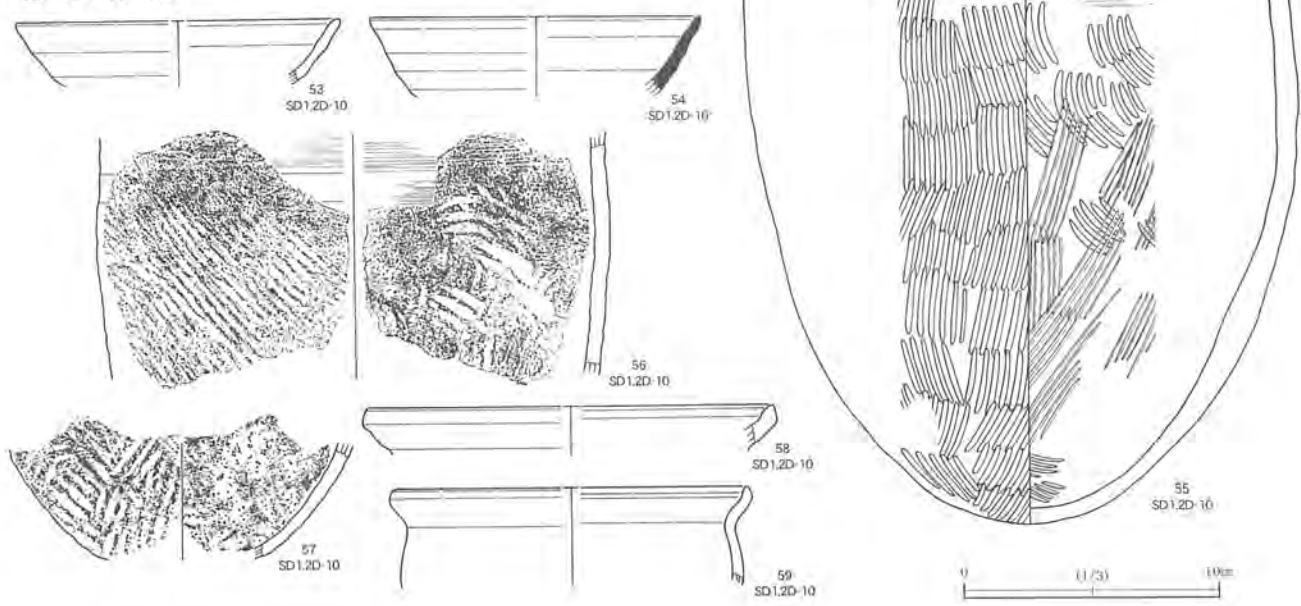
3区 古墳時代SK1 (47)・包含層(48-49)



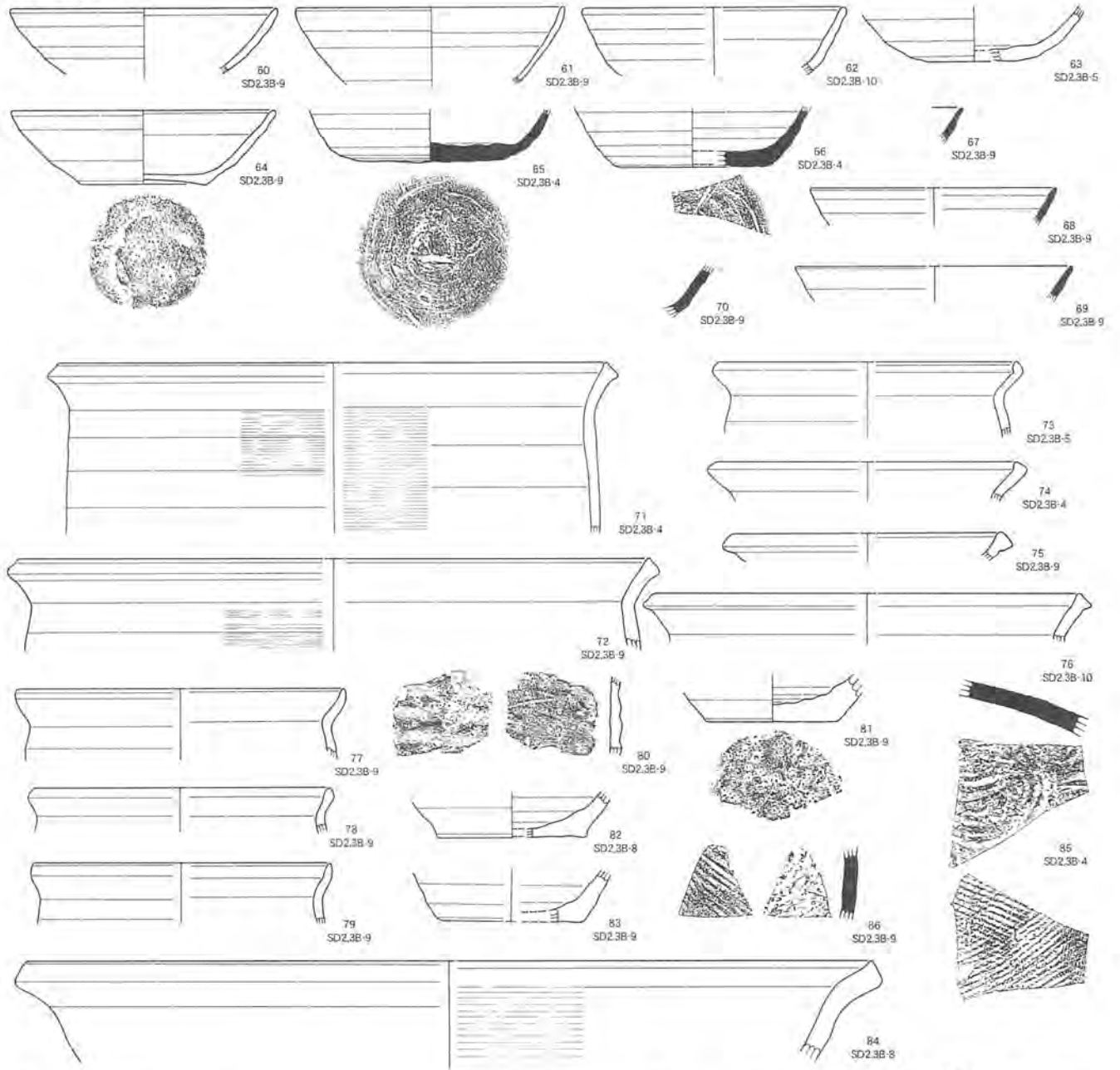
3区 SK4 (50~52)



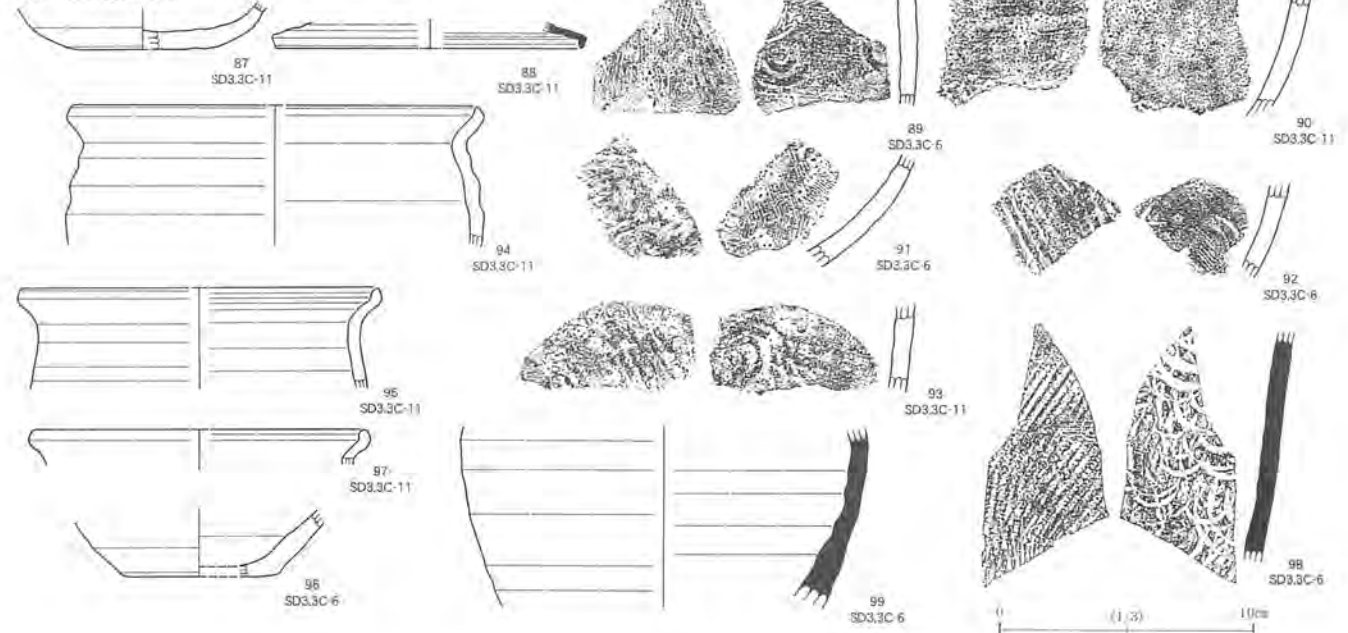
3区 SD1 (53~59)



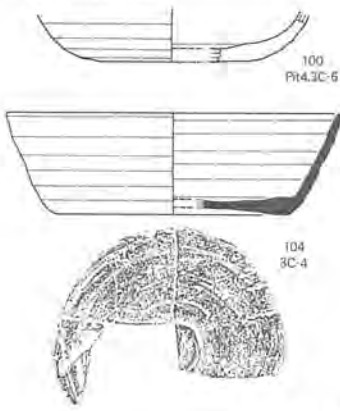
3区 SD2 (60~86)



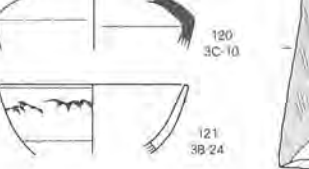
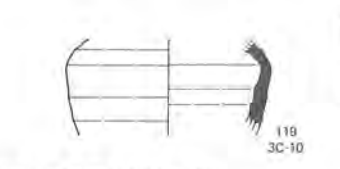
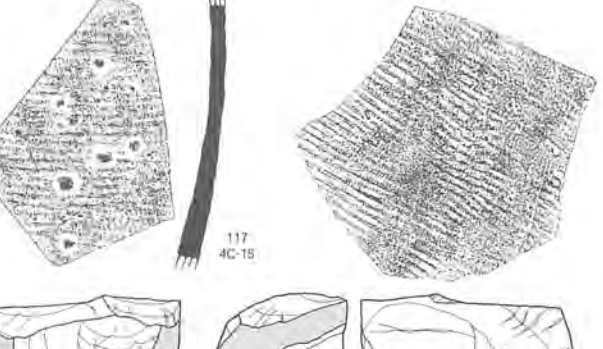
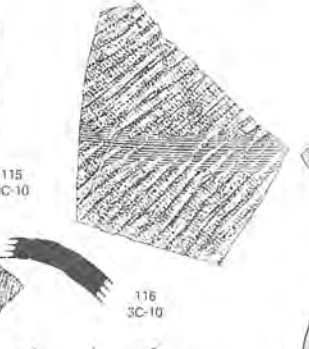
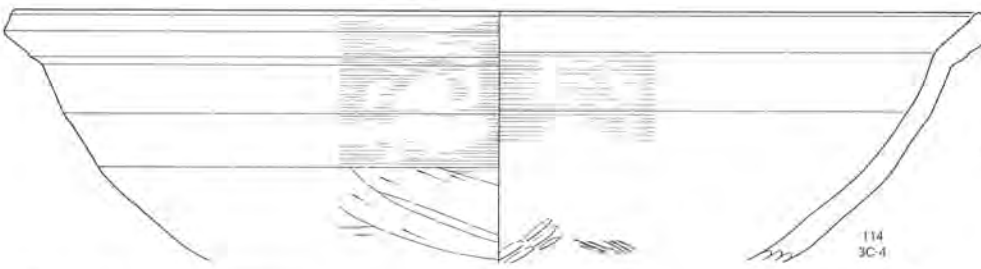
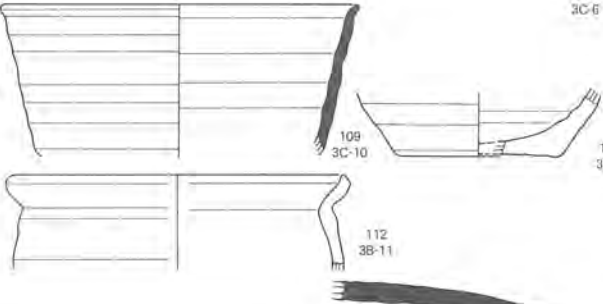
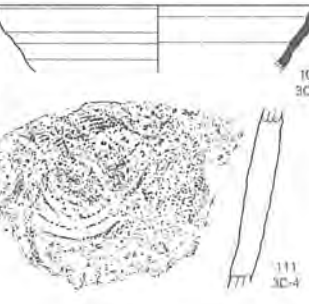
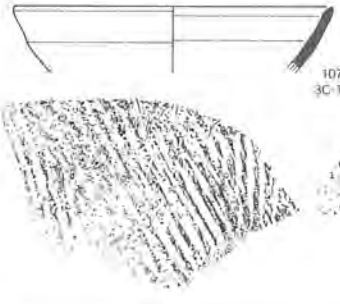
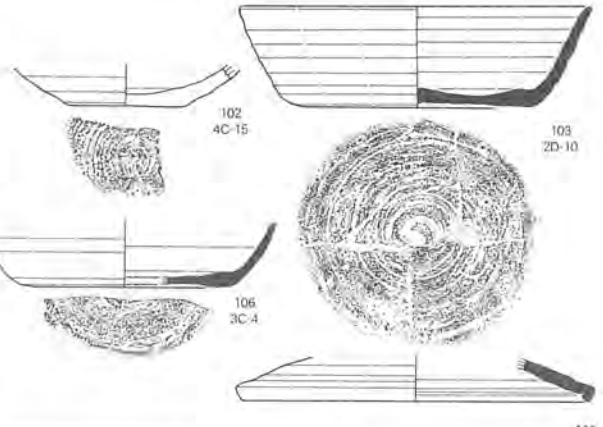
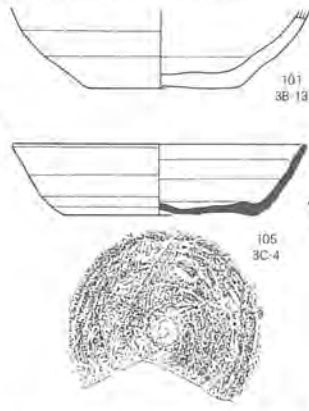
3区 SD3 (87~99)



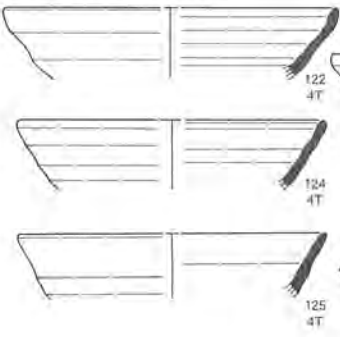
3区 Pit4 (100)



3区 包含層 (101~121・130)



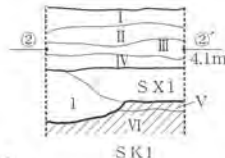
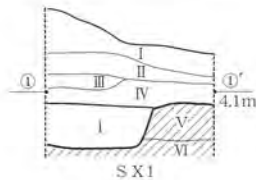
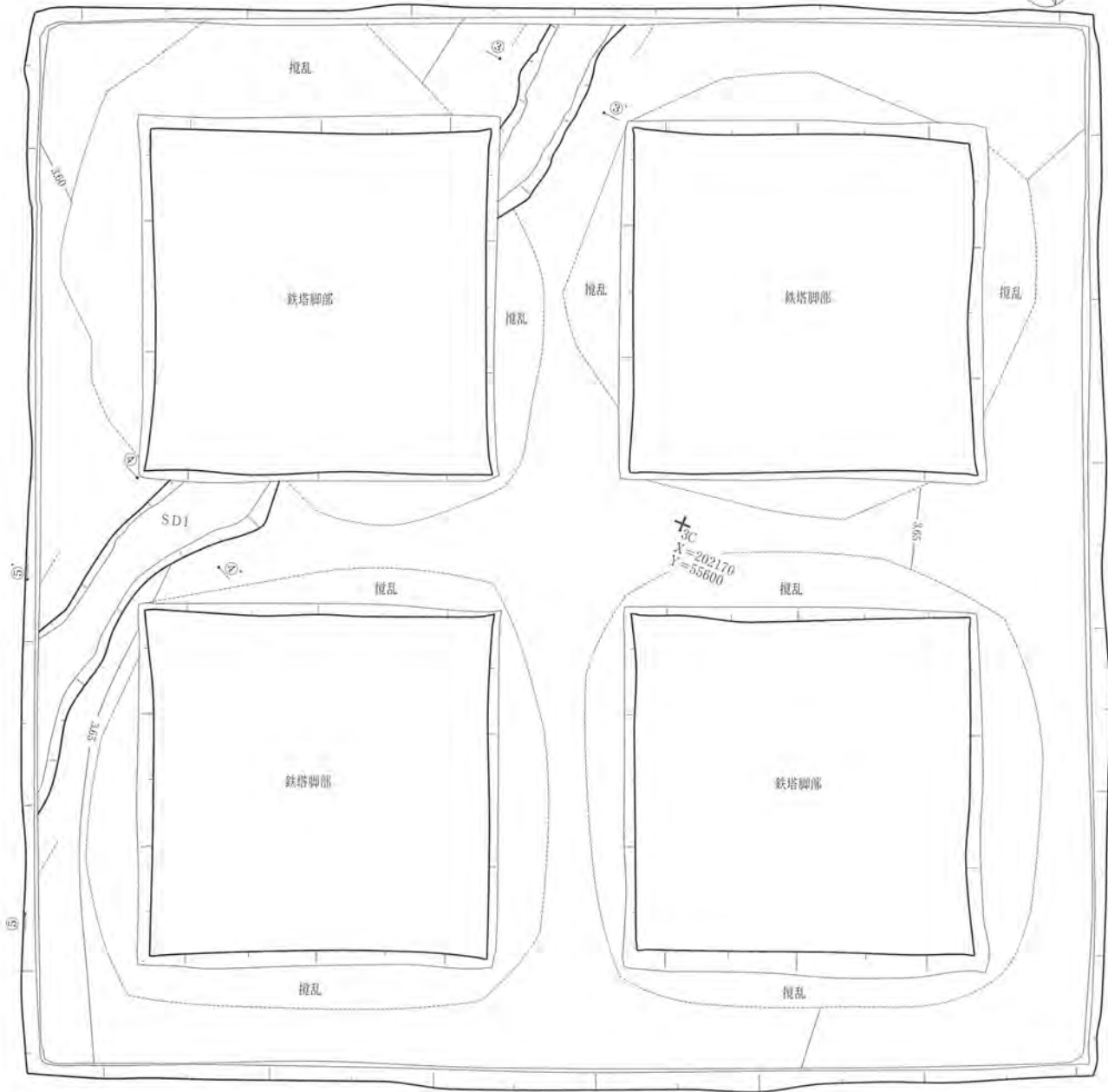
確認・試掘調査 (122~129)



0 (1/3) 10cm





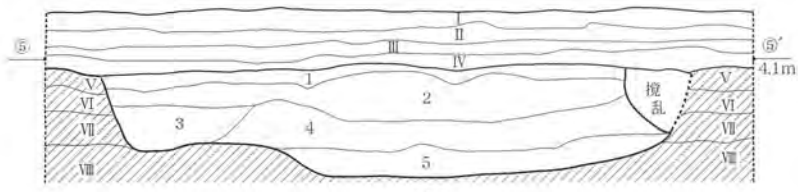
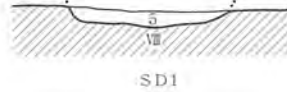


③

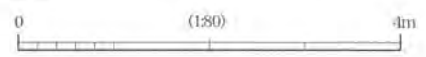
③' 4.1m

④

④' 4.1m

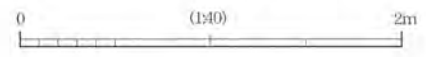


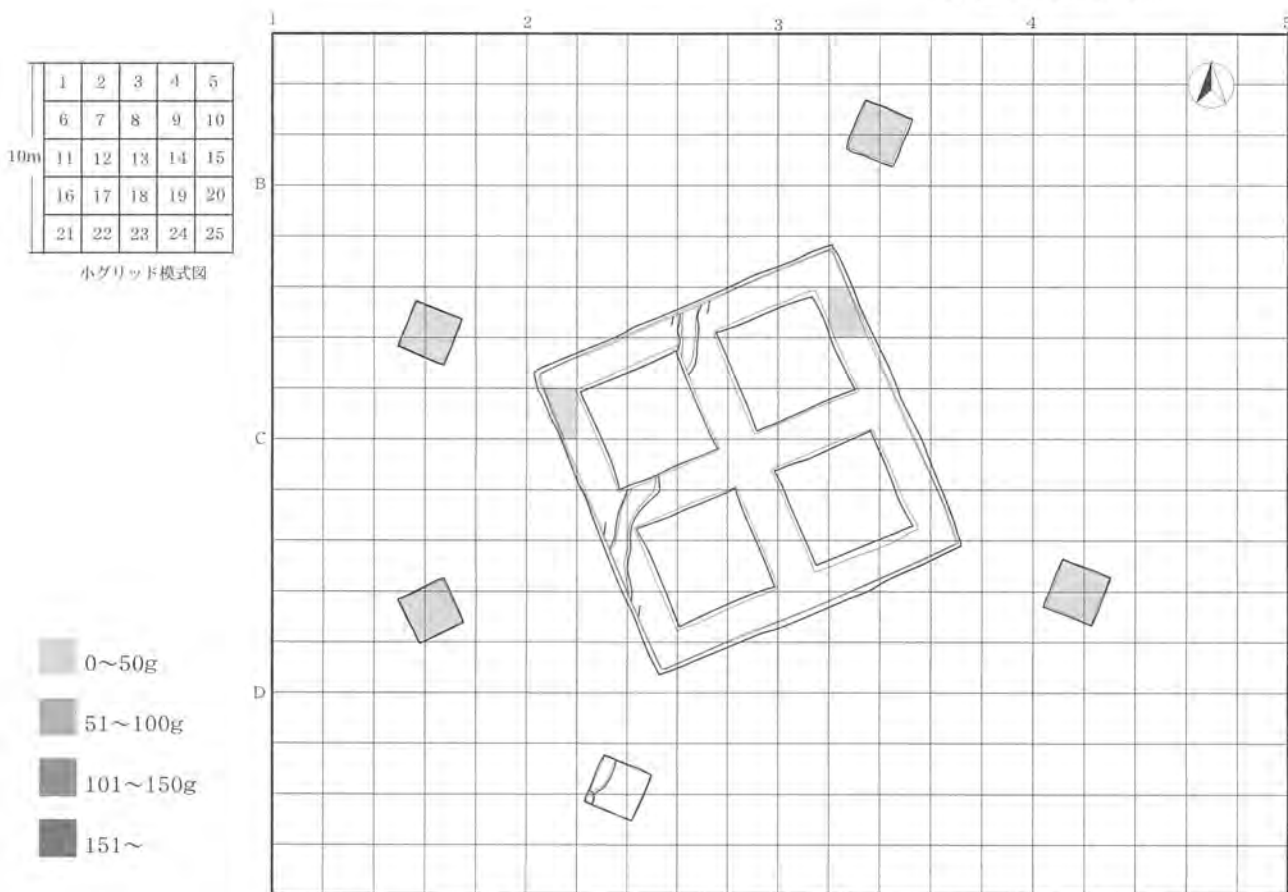
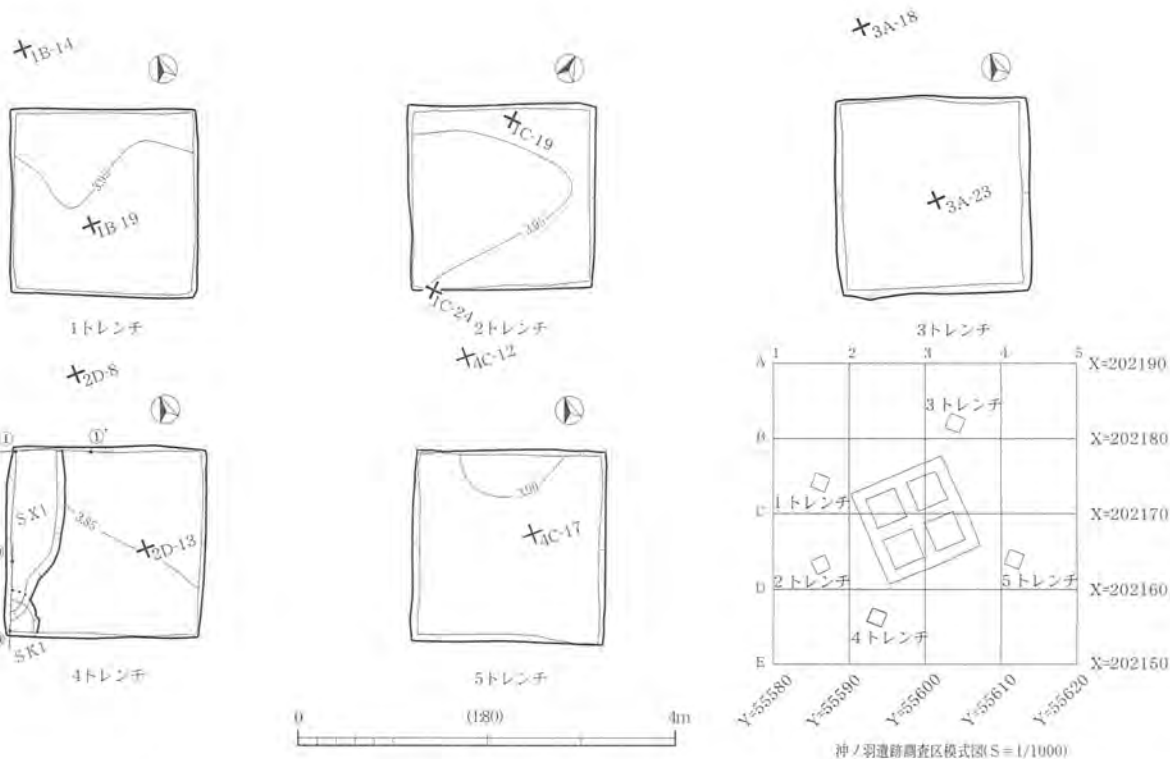
SD1



- SX1覆土  
 ① オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) シルト層 粘性ややあり、しまりあり。
- SK1覆土  
 ① オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) シルト層 粘性ややあり、しまりあり。

- SD1覆土  
 ① 褐灰色土 (10YR6/1) シルト層 粘性あり、しまりあり。  
 ② 褐灰色土 (10YR4/1) シルト層 粘性あり、しまりややあり。  
 ③ 褐灰色土 (10YR5/1) シルト層 粘性あり、しまりあり。  
 ④ 灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト層 粘性あり、しまりあり。  
 炭化物少量含む。  
 ⑤ 黒褐色土 (10YR3/1) シルト層 粘性あり、しまりあり。  
 炭化物少量含む。



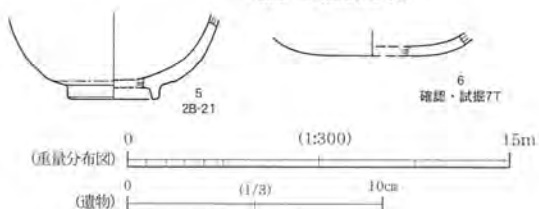


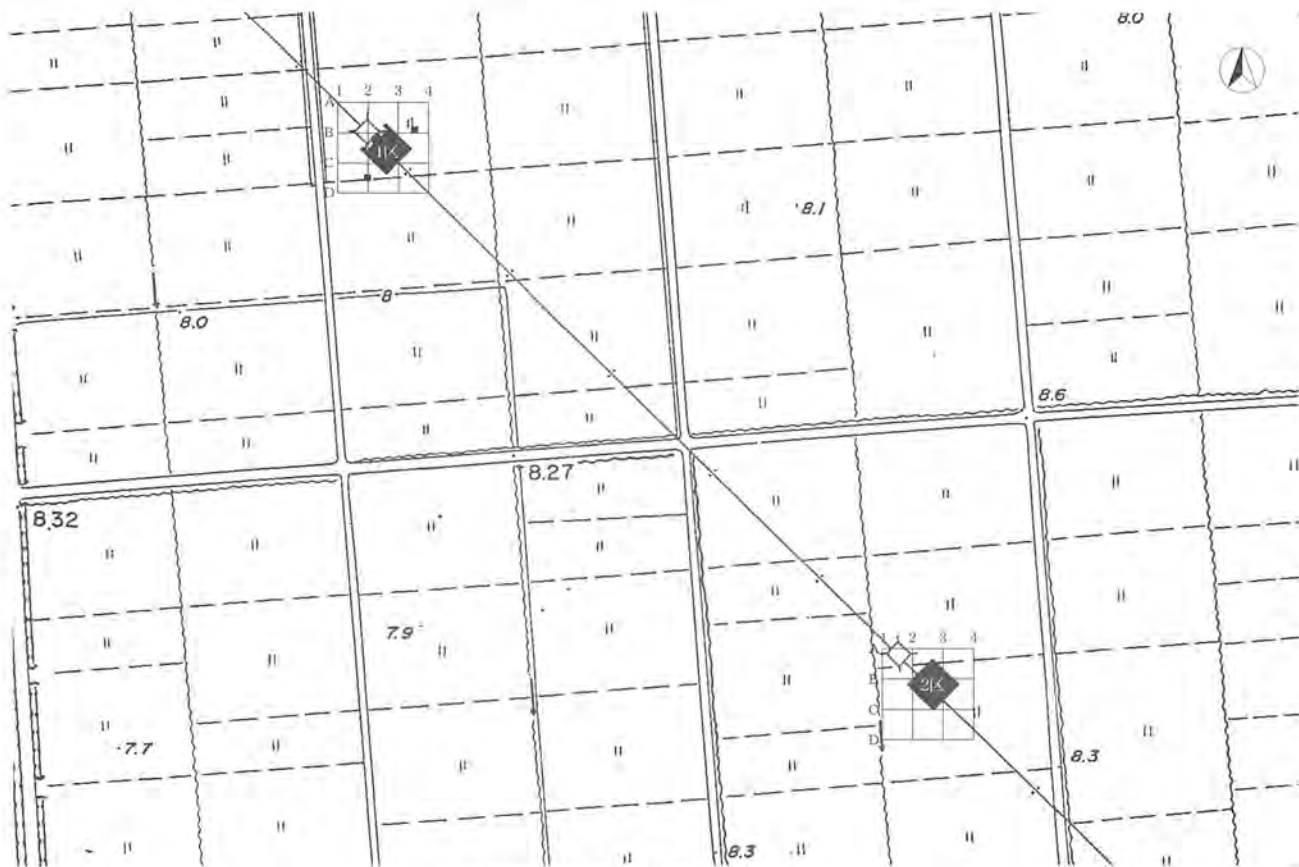
沖ノ羽遺跡包含層の小グリッド別平安時代出土土器の重量分布図 (S=1/300)

包含層 (1~5)

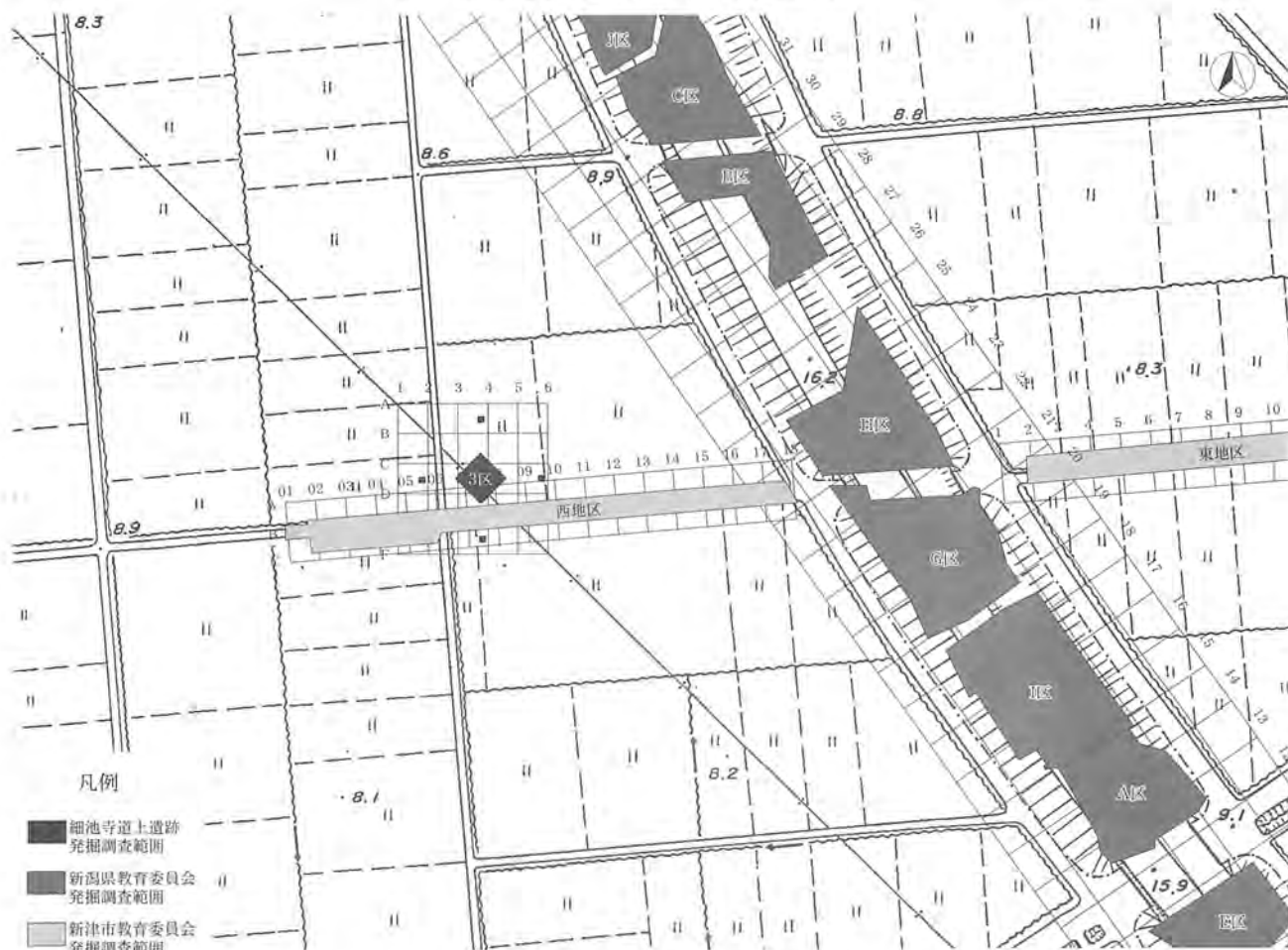


確認・試掘調査 (6)



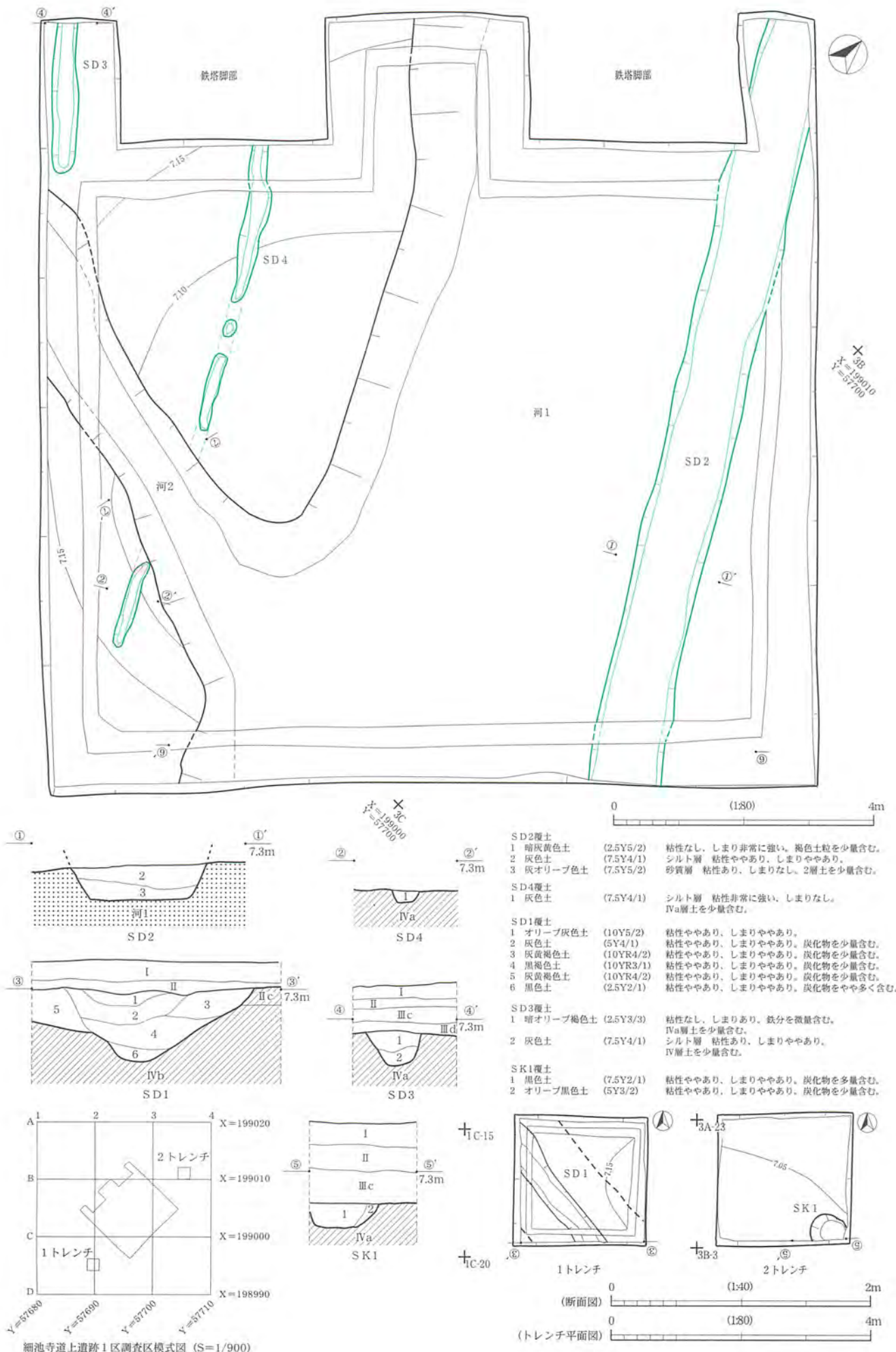


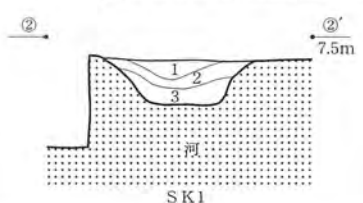
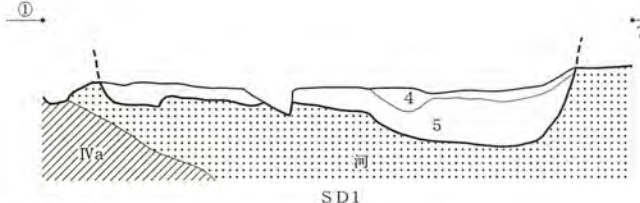
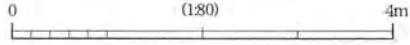
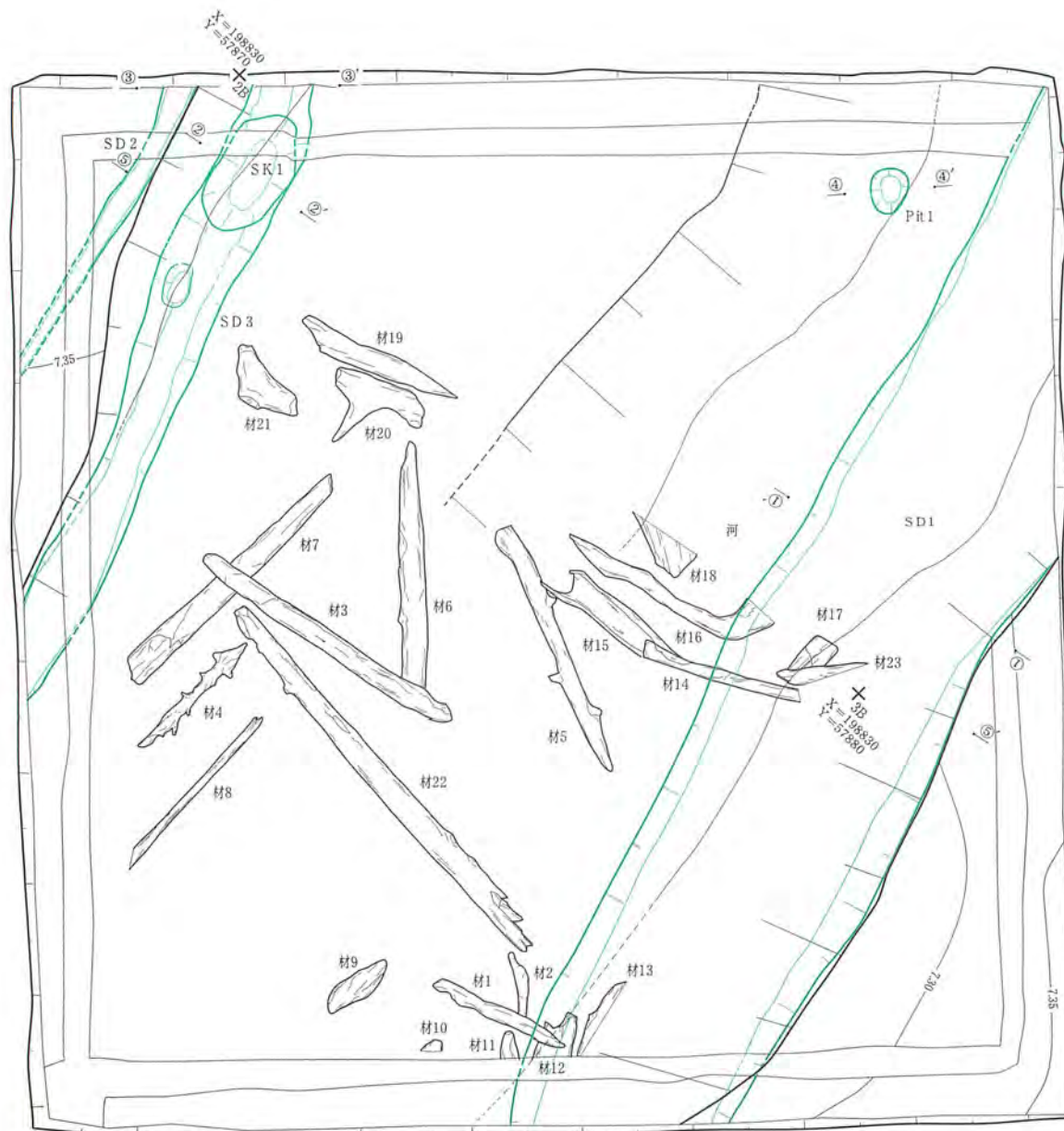
細池寺道上遺跡1区・2区 (S-1/2,500)



細池寺道上遺跡3区 (S-1/2,500)

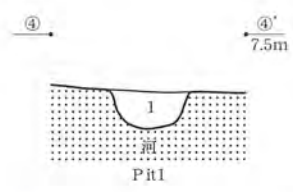
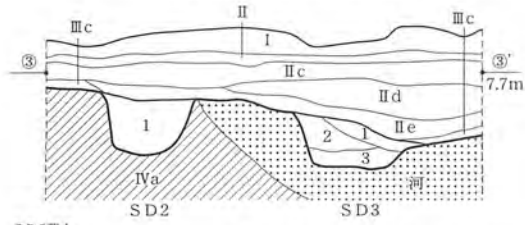






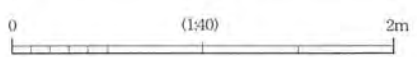
SD1覆土  
 1 灰色土 (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。  
 2 灰色土 (7.5Y6/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。 } 1~3層は土層観察のみ。  
 3 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。  
 4 灰色土 (7.5Y6/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。 緑灰色土 (5G6/1) を少量含む。  
 5 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。 酸化した土を微量含む。  
 緑灰色砂質土 (5G6/1) を多く含む。

SK1覆土  
 1 褐灰色土 (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり。鉄分を少量含む。  
 2 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。  
 3 灰色土 (7.5Y4/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。鉄分を微量含む。

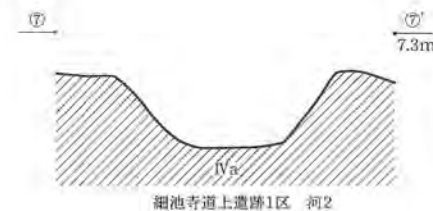
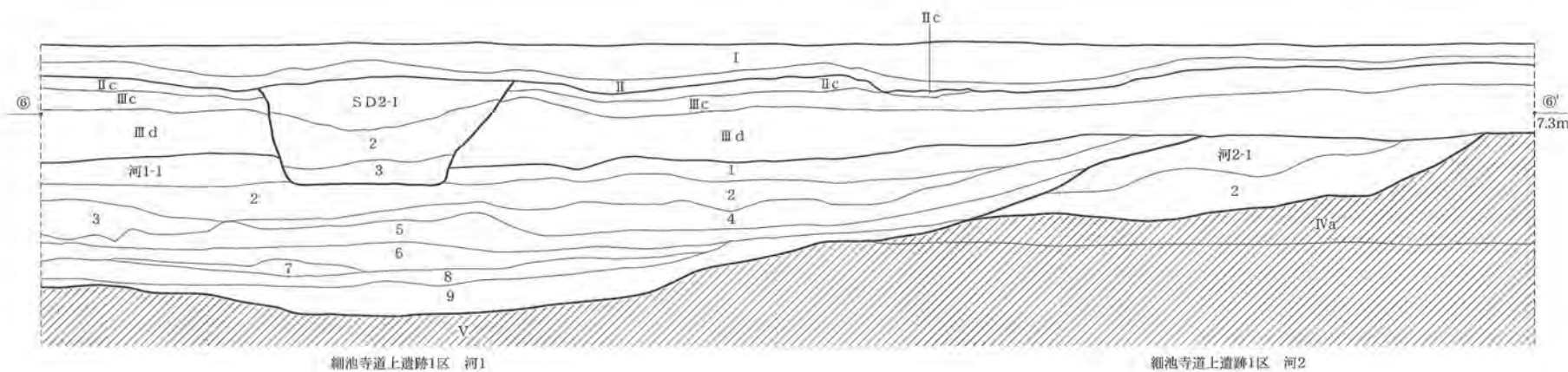


SD2覆土  
 1 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層 粘性あり、しまりあり。鉄分を微量含む。  
 SD3覆土  
 1 灰色土 (N6/) 粘性あり、しまりあり。酸化した土・褐色土を少量含む。  
 2 灰色土 (7.5Y5/1) 粘性非常に強い、しまりあり。酸化した土・褐色土を少量含む。  
 3 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。酸化した土・鉄分を少量含む。

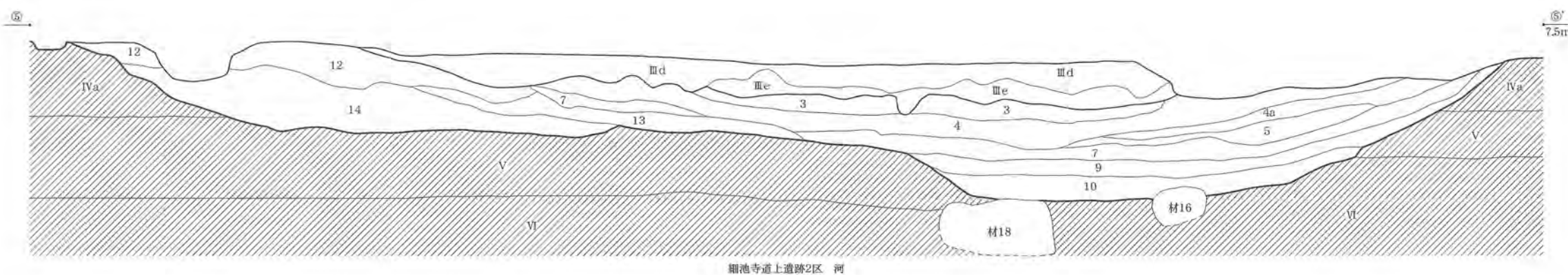
Pit1覆土  
 1 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。酸化した土を微量含む。







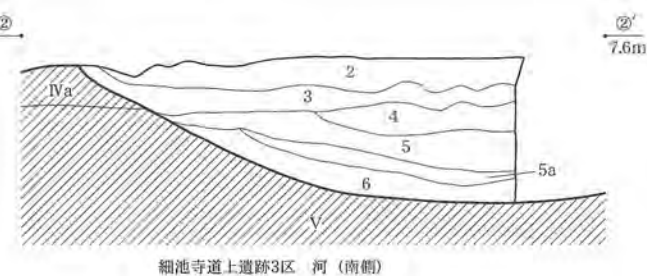
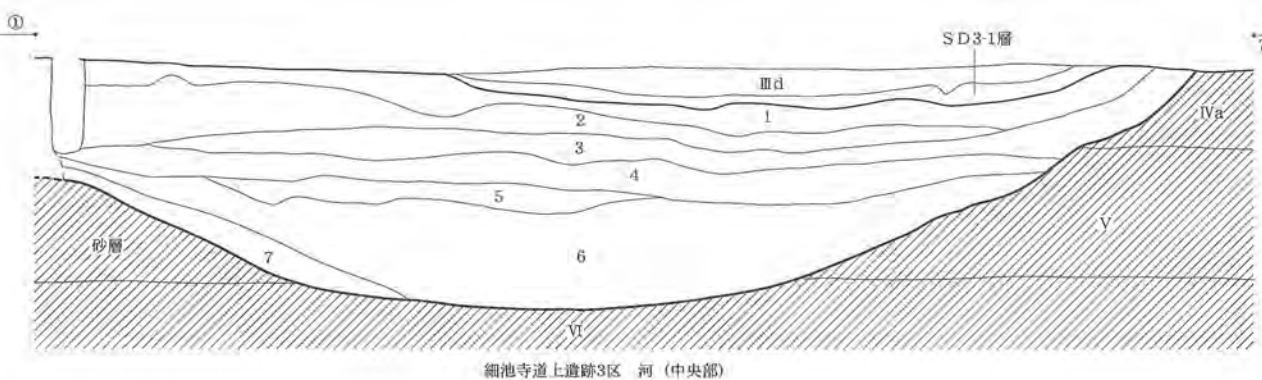
河2覆土  
 1 橙色土 (5YR7/8) 粘性なし、しまりなし。酸化した土を主体とする土層。  
 2 灰白色土 (7.5Y8/2) 粘性なし、しまりなし。鉄分のブロックを大量に含む。酸化した土を多く含む。



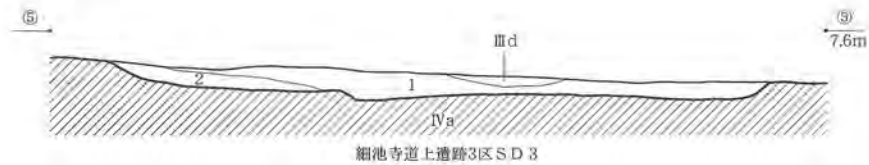
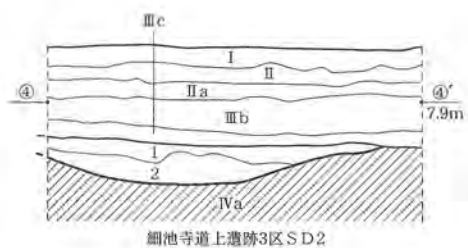
1区河1、2区河覆土  
 1 灰白色土 (N7/) 粘性あり、しまりあり。酸化した橙色土 (5YR7/8) を大量に含む。(以下酸化した土は同色)  
 2 灰白色土 (N7/) 粘性あり、しまりあり。酸化した土・鉄分を含む。  
 3 灰色土 (N5/) シルト層 粘性あり、しまりあり。酸化した土を多く含む。  
 4 灰色土 (N4/) シルト層 粘性あり、しまりあり。酸化した赤褐色土を含む。(他の酸化土より暗い色調)  
 4a 灰色土 (7.5Y4/1) 粘性非常に強い、しまりなし。  
 5 暗灰色土 (N3/) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。酸化した土を少量含む。  
 6 暗灰色土 (N3/) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。明オリブ灰色土ブロック (2.5GY7/1) (φ10~50mm) を少量含む。  
 7 黒色土 (N2/) シルト層 粘性あり、しまりややあり。木の繊維・樹皮などを多く含む。

8 オリブ黒色土 (5Y3/2) シルト層 粘性あり、しまりややあり。木の繊維・樹皮などが薄い層状に堆積する。  
 9 オリブ黒色土 (5Y2/2) シルト層 粘性あり、しまりややあり。木の繊維・樹皮などが薄い層状に堆積する。  
 10 黒色土 (7.5Y3/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。木の繊維・樹皮などを多く含む。  
 11 オリブ黒色土 (7.5Y3/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。木の繊維・樹皮などを多く含む。  
 12 暗赤褐色土 (5YR3/6) 粘性なし、しまりあり。酸化した土・鉄分を多量含む。  
 13 暗灰色土 (N3/) シルト層 粘性非常に強い、しまりあり。酸化した土・鉄分を多量含む。  
 14 黒褐色土 (5YR2/2) 粘性なし、しまりあり。鉄分のブロックを主体とする層。  
 15 橙色土 (5YR7/8) 粘性なし、しまりあり。酸化した土を主体とする。灰白色土 (7.5Y8/2) を少量含む。

※1区河1と2区河は調査時同一河道と考えたため、土層注記を一括して掲載した。  
 11・15層は土層根拠のみ。



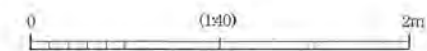
3区 河覆土  
 1 明緑灰色土 (5G7/1) シルト層 粘性あり、しまりなし。酸化した土を多く含む。鉄分を少量含む。  
 2 明緑灰色土 (5G7/1) シルト層 粘性あり、しまりなし。酸化した土を少量含む。  
 3 明緑灰色土 (5G7/1) 砂質層 粘性あり、しまりなし。  
 4 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層 粘性あり、しまりなし。浅黄色砂質土 (7.5Y7/3) を少量含む (灰か)。砂を少量含む。  
 5 灰色土 (7.5Y5/1) 粘性あり、しまりなし。砂を多量含む。  
 5a オリブ黒色土 (7.5Y3/1) 粘性ややあり、しまりなし。木の繊維を多量含む。  
 6 灰色土 (7.5Y5/1) シルト層 粘性あり、しまりなし。  
 7 オリブ黒色土 (7.5Y3/1) シルト層 粘性あり、しまりなし。木の繊維を多量含む。

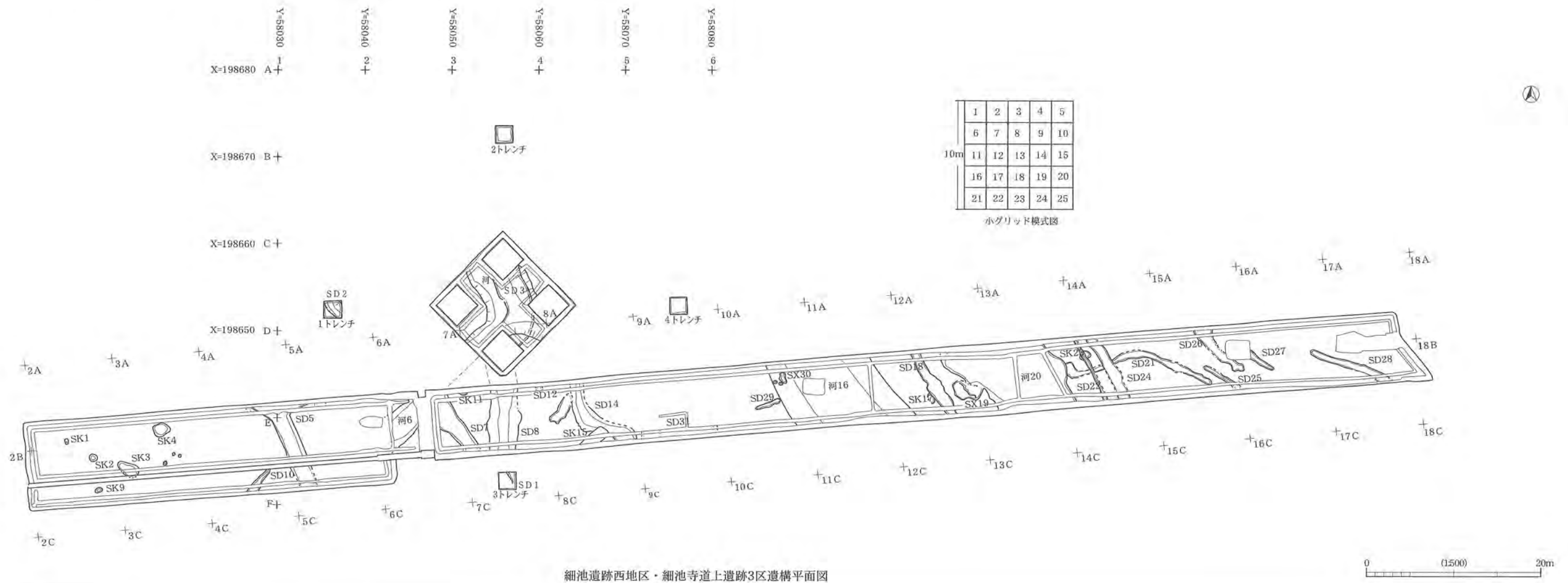


SD1  
 1 褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物・鉄分を少量含む。  
 2 褐灰色土 (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物・鉄分・小礫を少量含む。  
 3 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり、しまりあり。  
 4 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物・鉄分・小礫を少量含む。

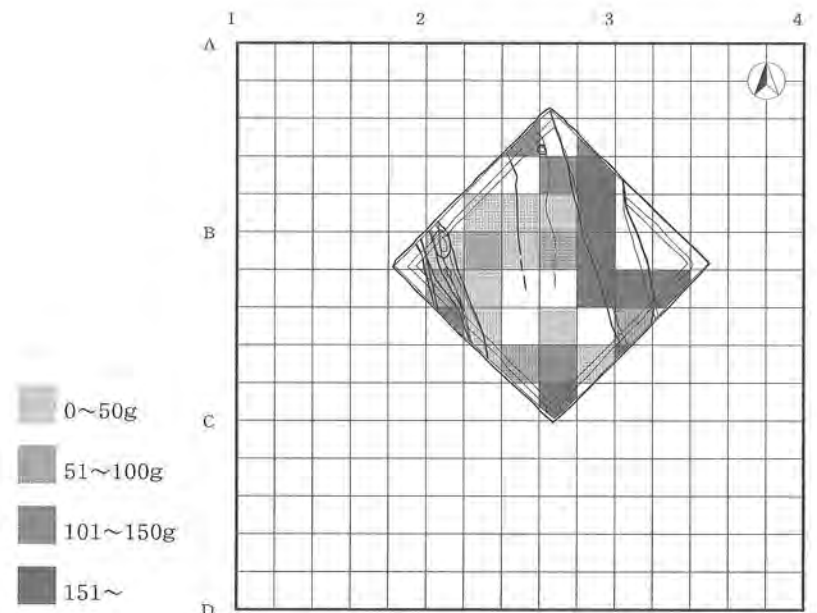
SD2覆土  
 1 黒褐色土 (2.5Y3/2) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物を多く含む。鉄分・小礫を少量含む。  
 2 黄灰色土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物を多く含む。鉄分を少量含む。

SD3覆土  
 1 オリブ黒色土 (7.5Y3/1) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。  
 2 灰色土 (N6/) シルト層 粘性非常に強い、しまりなし。

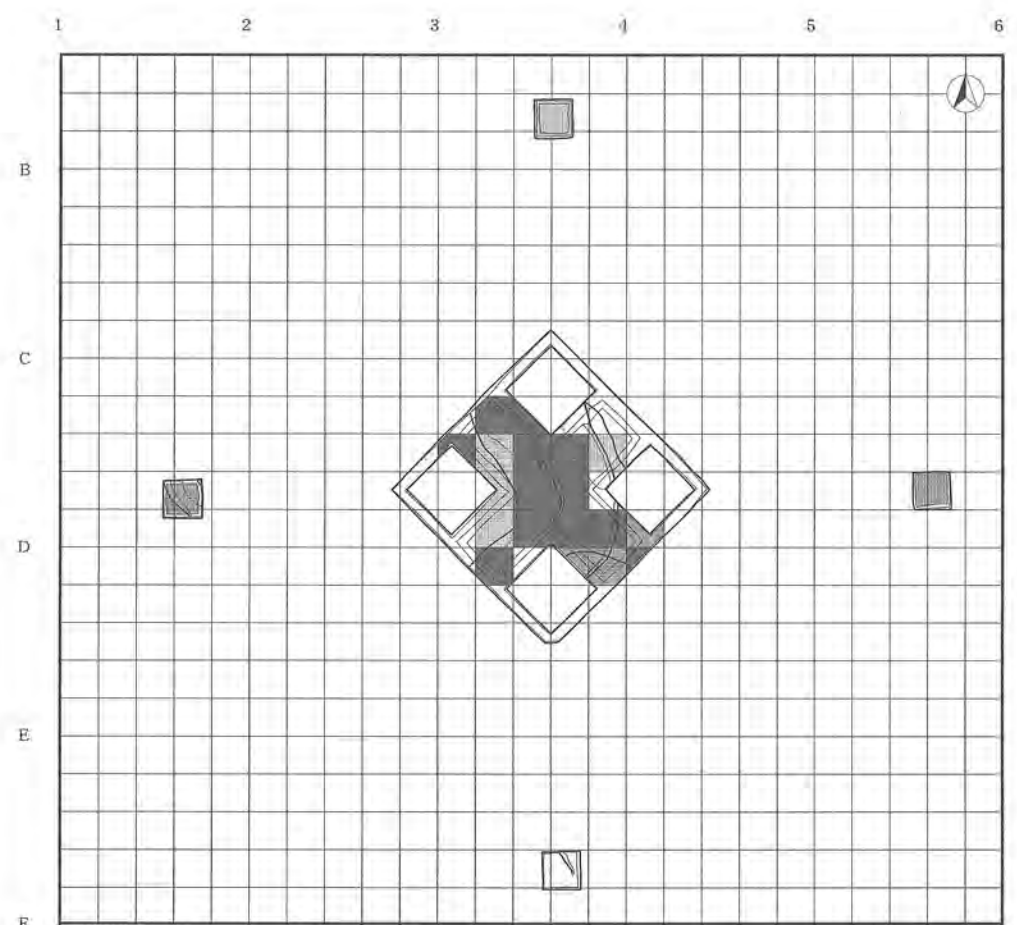




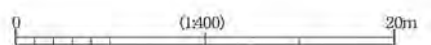
細池遺跡西地区・細池寺道上遺跡3区遺構平面図

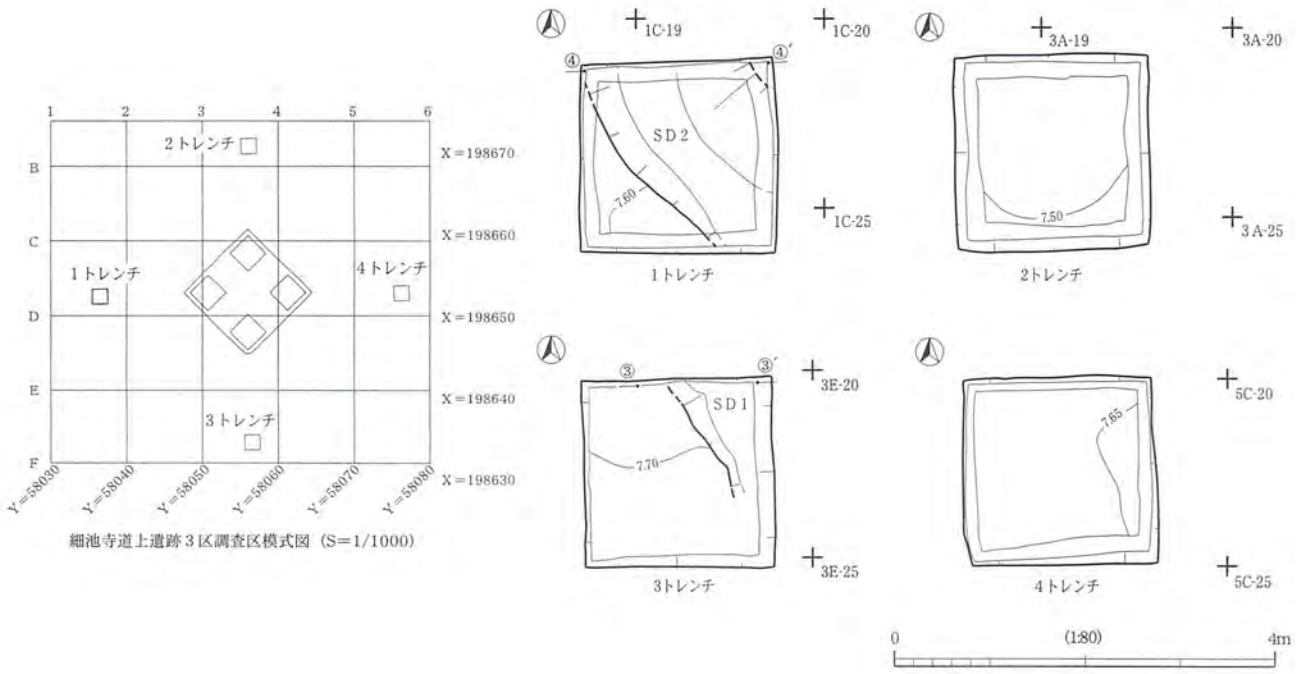
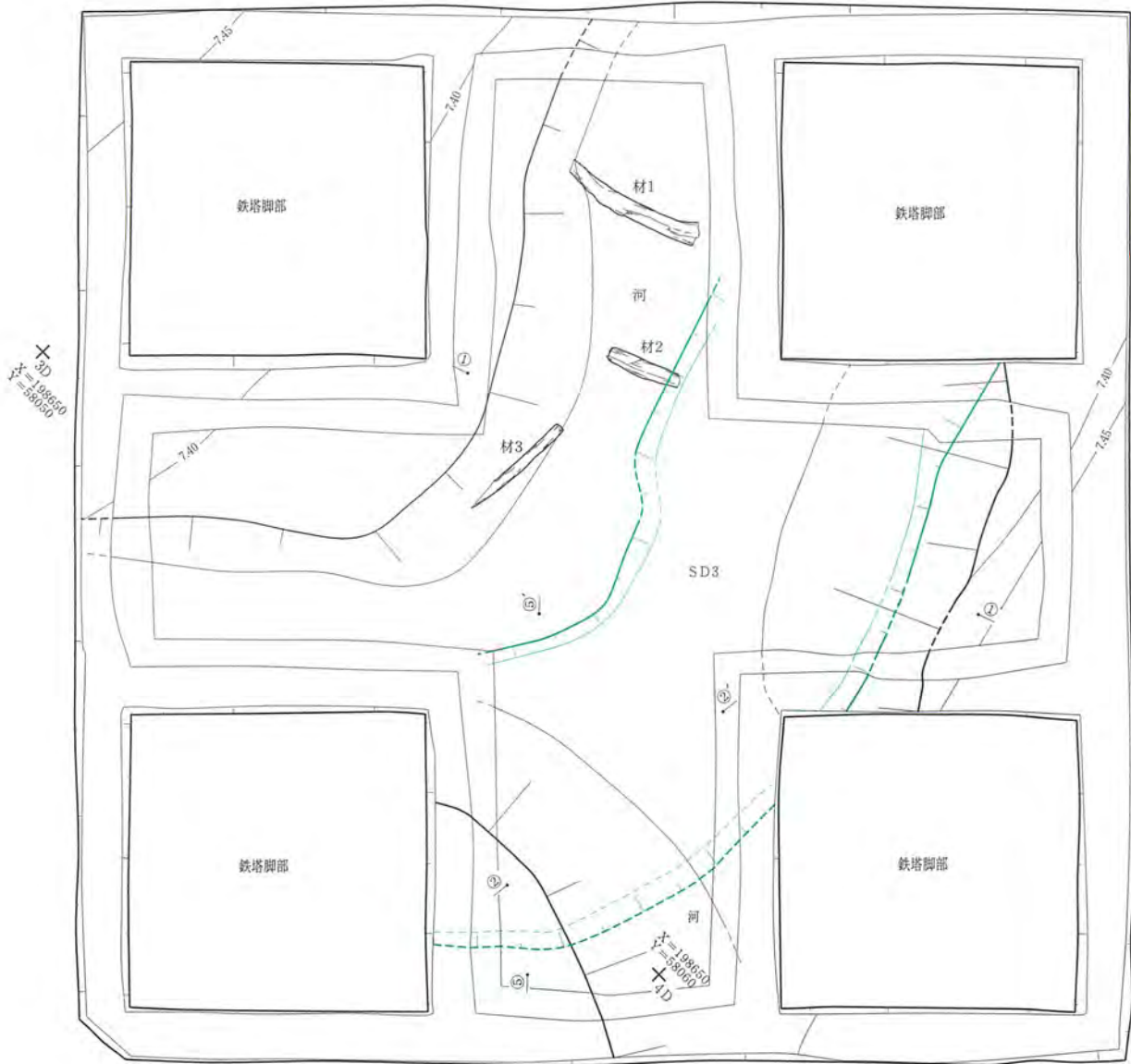


細池寺道上遺跡2区出土土器重量分布図



細池寺道上遺跡3区出土土器重量分布図





細池寺道上遺跡3区調査区模式図 (S=1/1000)



1区 SD2 (1-2)



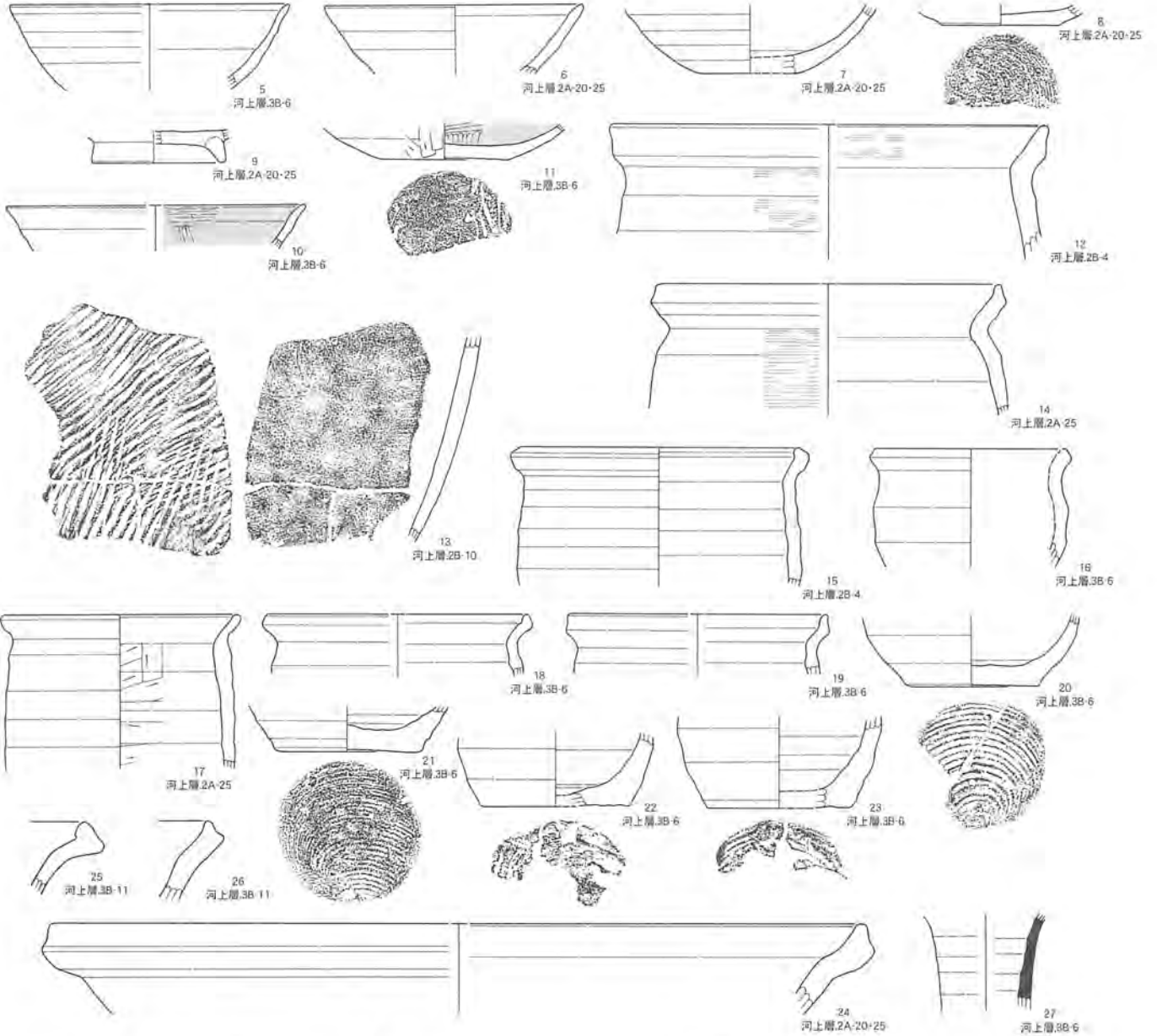
2区 SD1 (3)



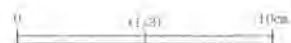
2区 SD3 (4)



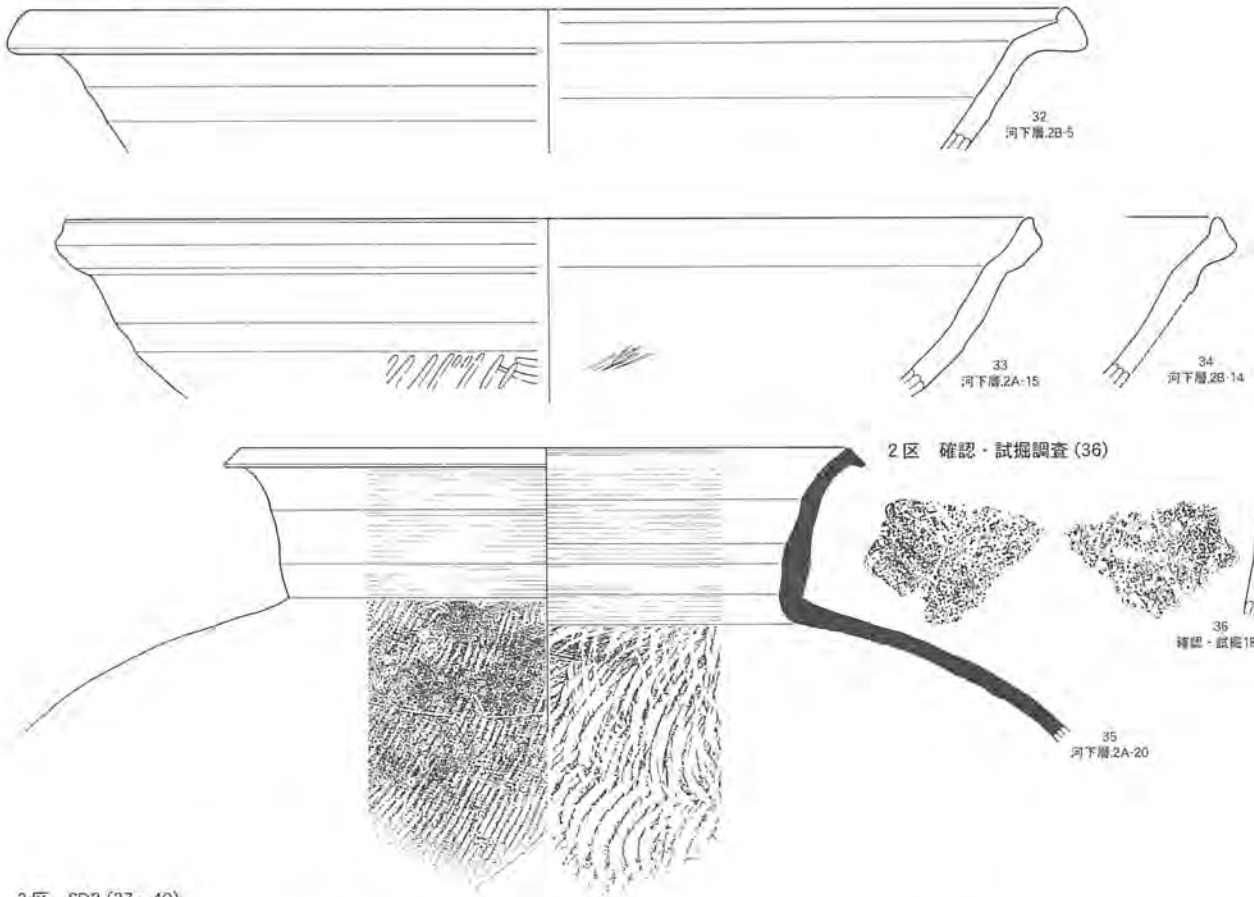
2区 河上層 (5~29)



2区 河下層(1) (30-31)



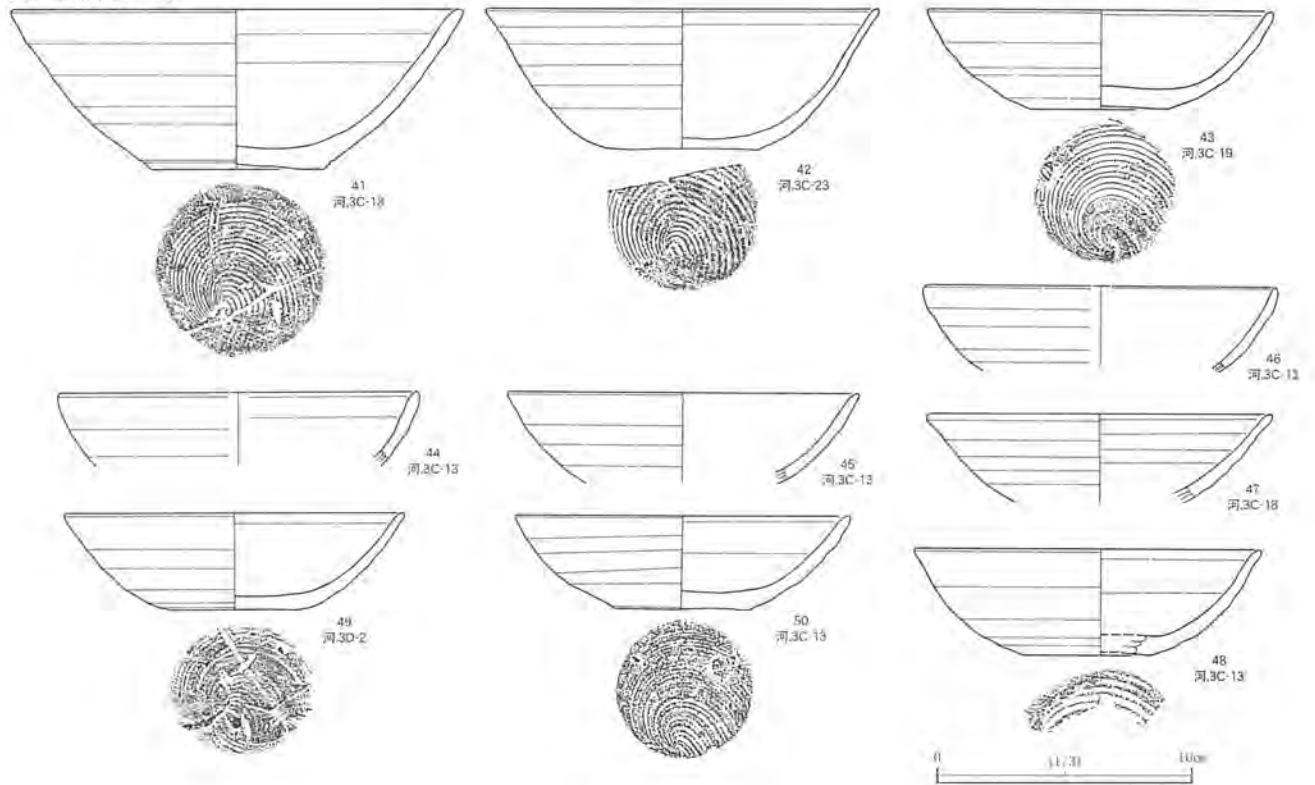
2区 河下層(2) (32~35)



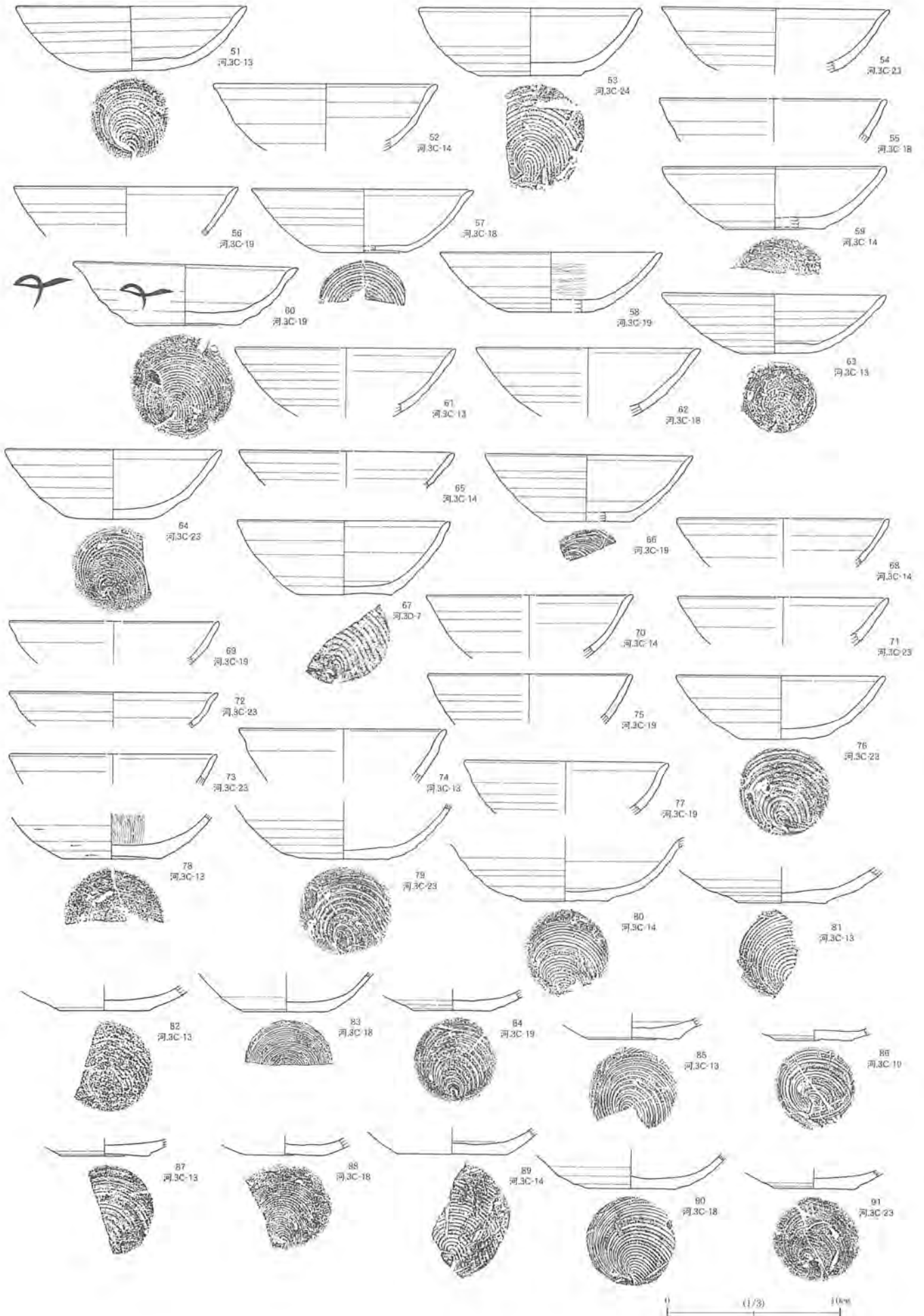
3区 SD2 (37~40)



3区 河(1) (41~50)



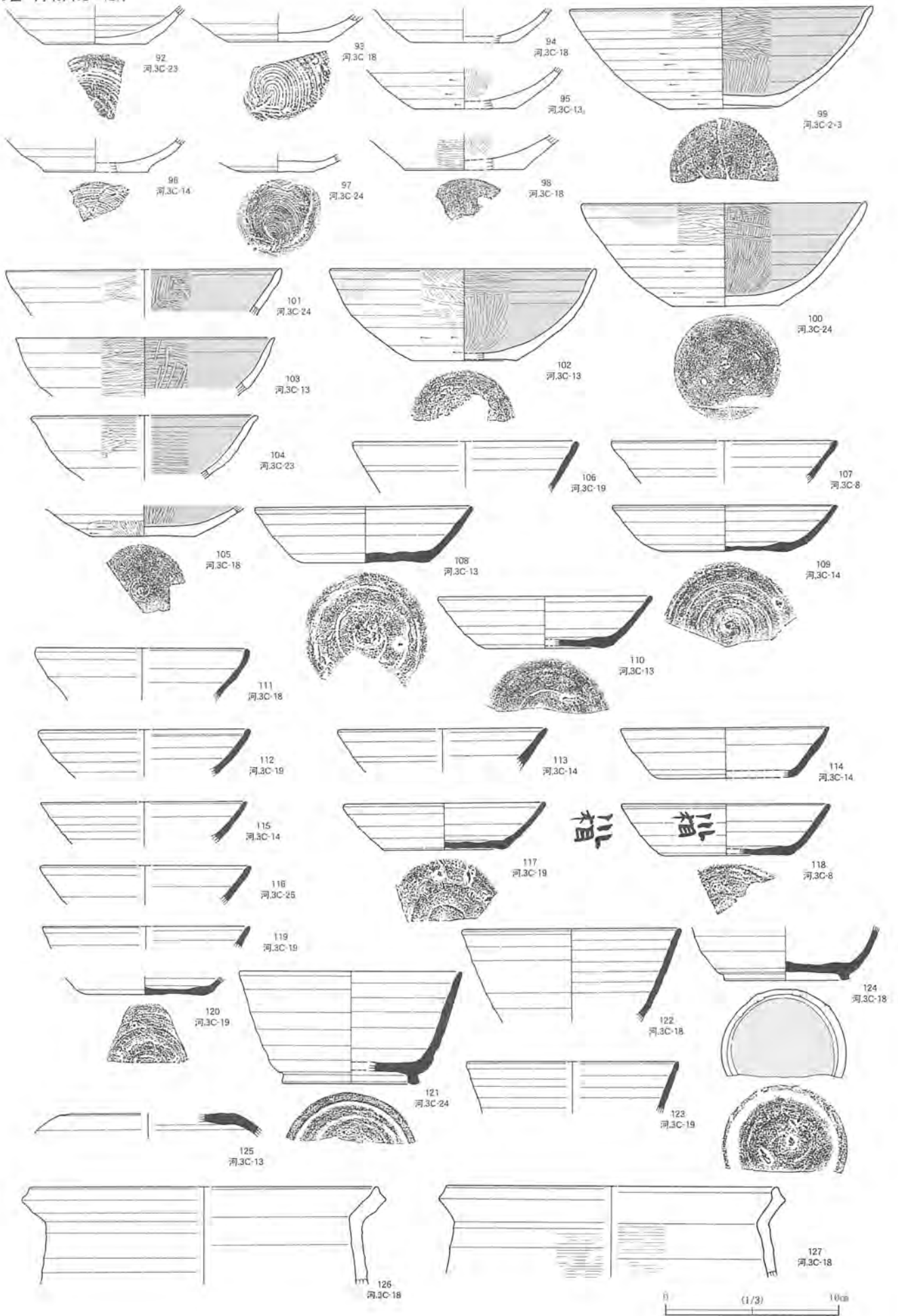
3区 河(2) (51~91)



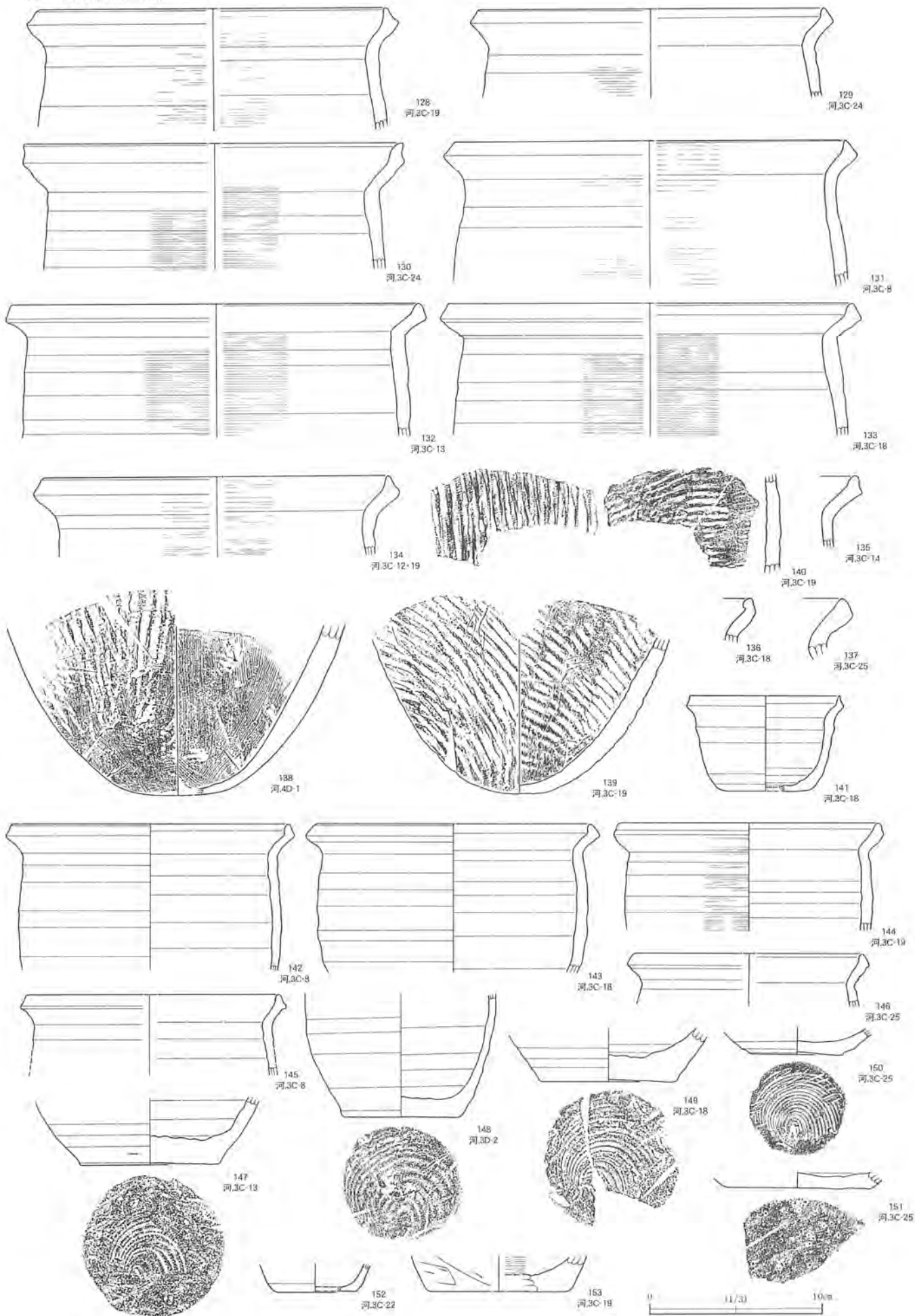
0 (1/3) 10cm



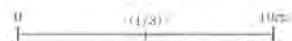
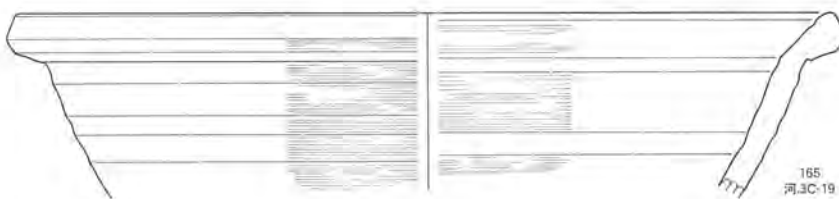
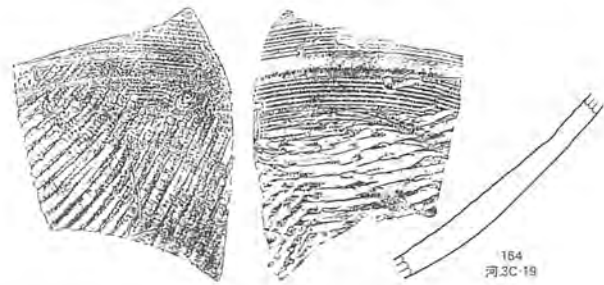
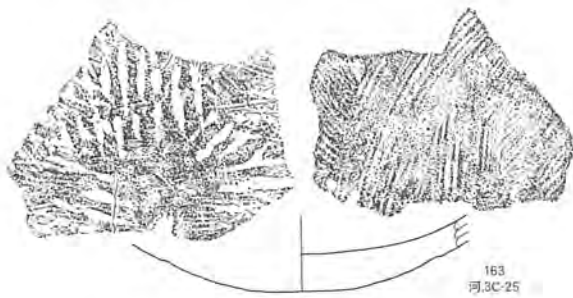
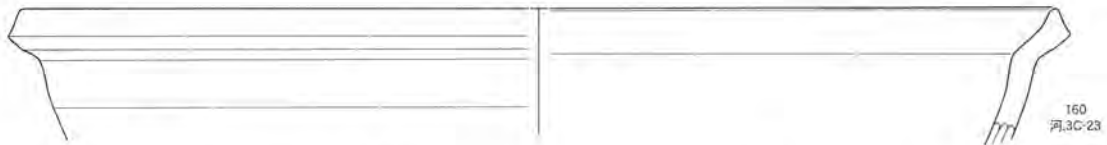
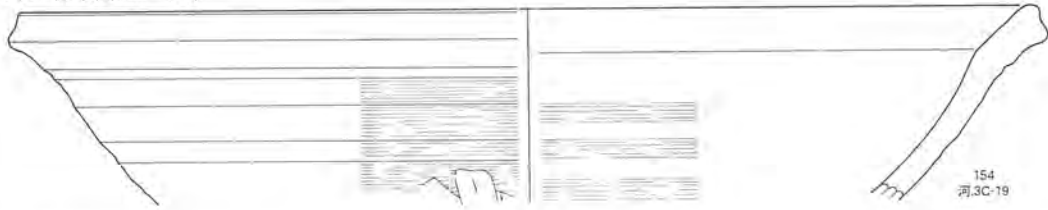
3区 河(3) (92~127)



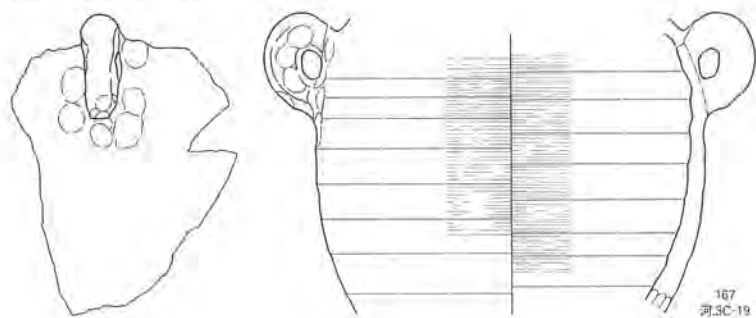
3区 河(4) (128~153)



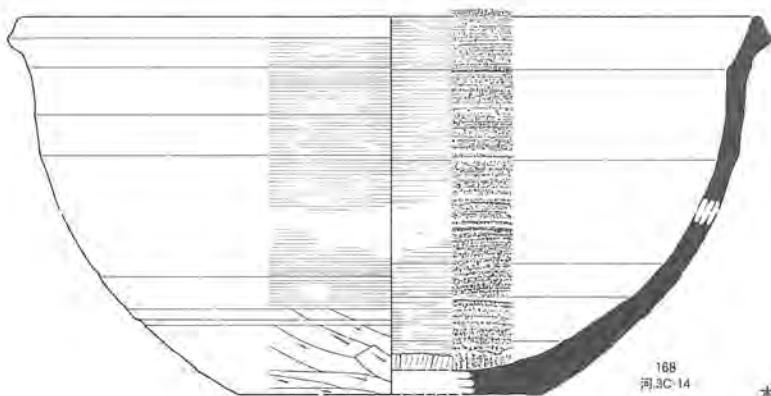
3区 河(5)(154~166)



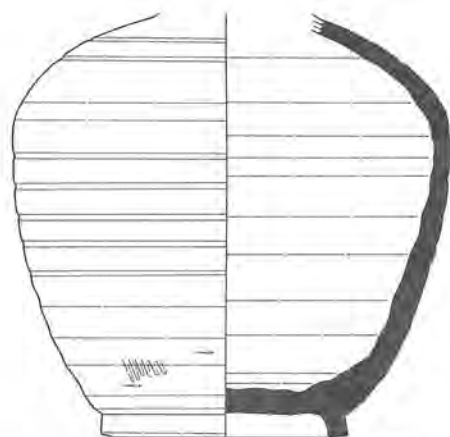
3区 河(6) (167~172)



167  
河.3C-19



168  
河.3C-14



171  
河.3C-18



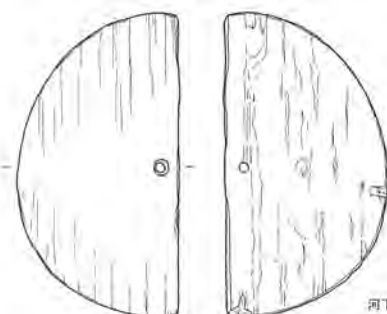
木製品  
2区 河下層 (173~175)



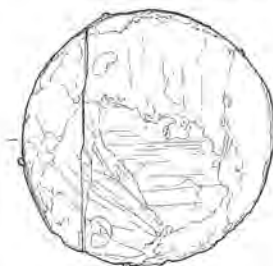
169  
河.3D-5



170  
河.3C-25



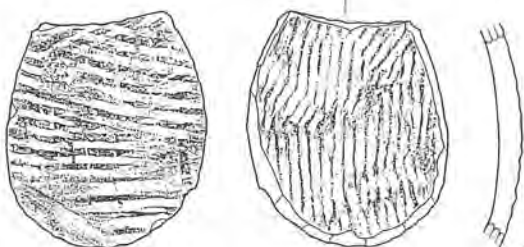
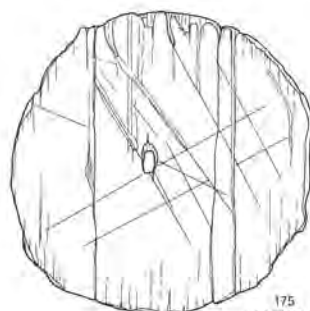
173  
河下層.2B-13



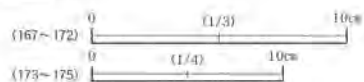
174  
河下層.2B-13



175  
河下層.2B-10



172  
河.3C-13











小阿賀野川

能代川

中谷内遺跡1区

中谷内遺跡2区

中谷内遺跡3区

磐越自動車道

沖ノ羽遺跡





細池寺道上遺跡1区

磐越自動車道

細池寺道上遺跡2区

細池寺道上遺跡3区

能代川





中谷内・沖ノ羽遺跡全景（北→南）



細池寺道上遺跡1区全景（東→西）





細池寺道上遺跡 出土土師器・黒色土器



細池寺道上遺跡 出土須恵器



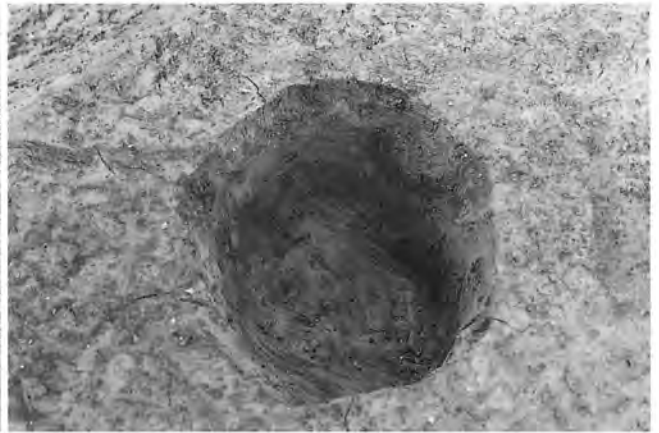
調査前状況 (東→西)



北壁土層断面 (南→北)



Pit5土層断面 (南→北)



Pit5完掘状況 (南→北)



SD2土層断面 (東→西)



SD2完掘状況 (東→西)



SD1土層断面 (南→北)



完掘状況 (南→北)



調査前状況 (東→西)



西壁土層断面 (東→西)



SK1完掘状況 (西→東)



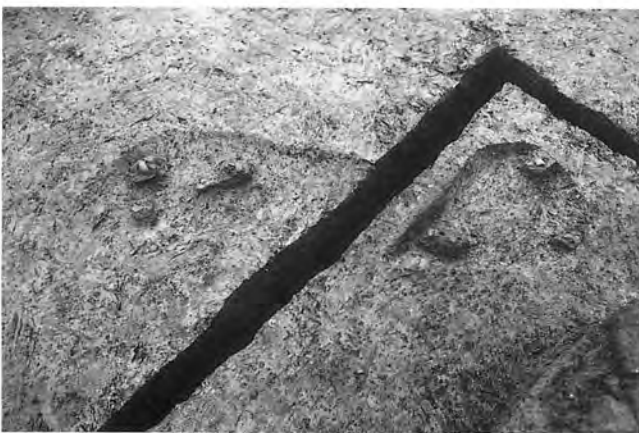
SK3遺物出土状況 (北→南)



SK2遺物出土状況 (東→西)



SK2完掘状況 (東→西)



SK4遺物出土状況 (北→南)



完掘状況 (東→西)





調査前状況 (北→南)



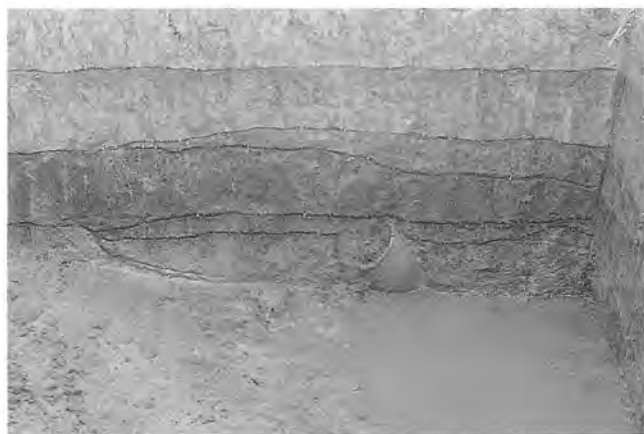
北壁土層断面 (南→北)



SK1遺物出土状況 (西→東)



Pit3(右)Pit4(左)完掘状況 (東→西)



SD1土層断面・遺物出土状況 (西→東)



SD2遺物出土状況 (北→南)



SD3遺物出土状況 (北→南)



完掘状況 (東→西)



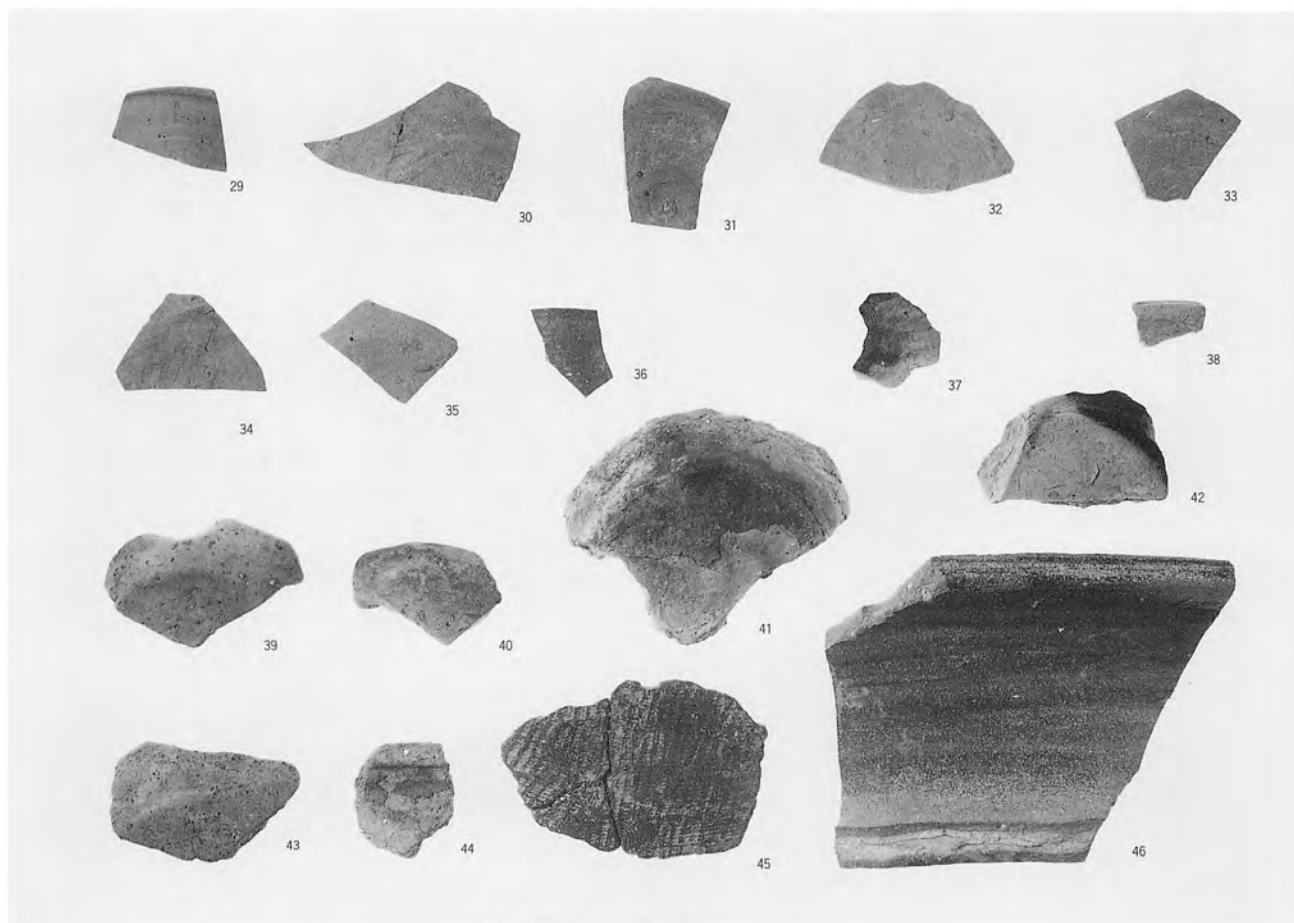
中谷内遺跡古墳時代 3区SK1(47)、2区SK3(12)、3区SD1(55)、3区包含層(130)



中谷内遺跡 1区SD1(1)、2区SK2(2~11)・SK3(12)・SK4(13~14)

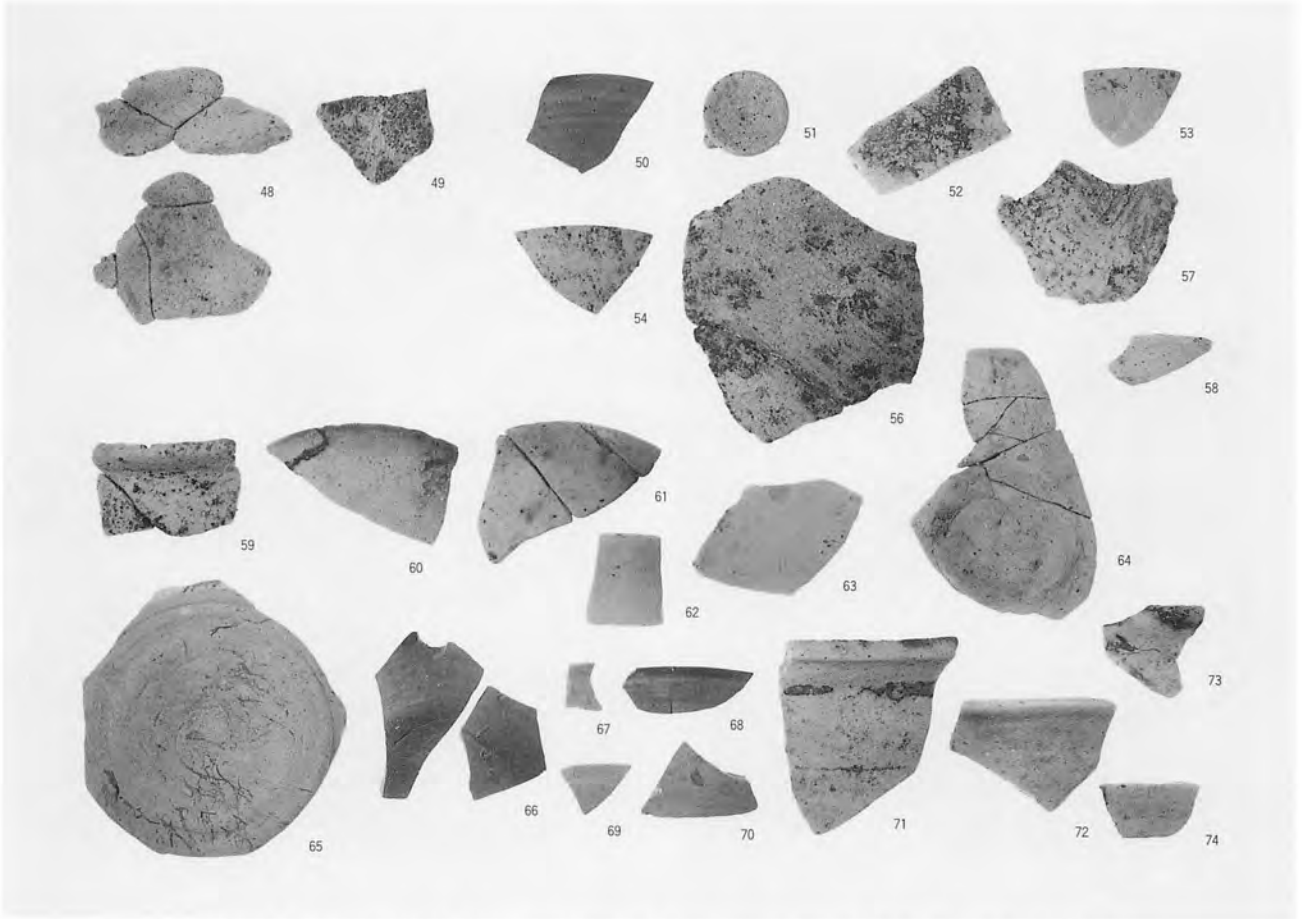


中谷内遺跡 2区包含層(15~28)

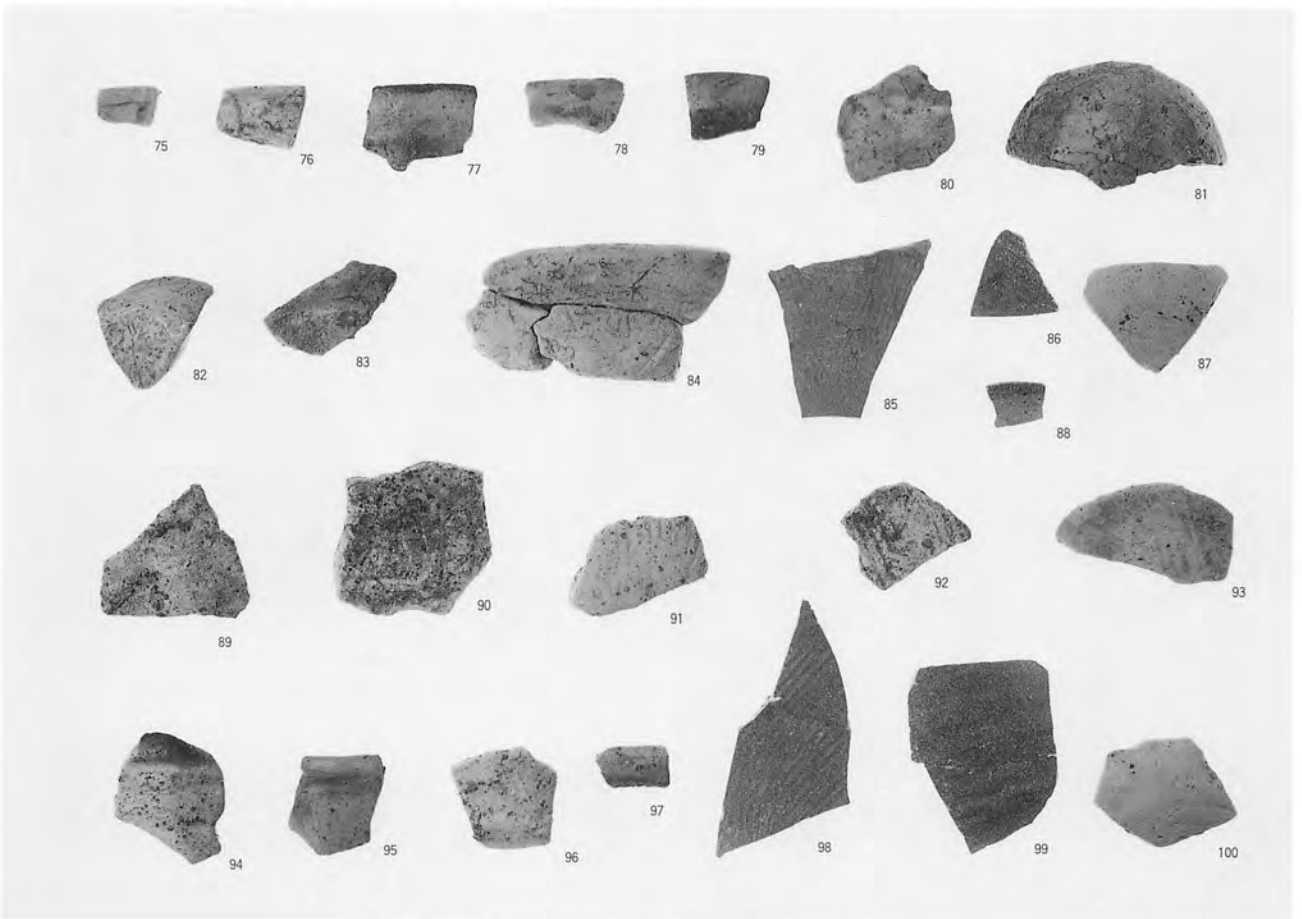


中谷内遺跡 2区包含層(29~46)





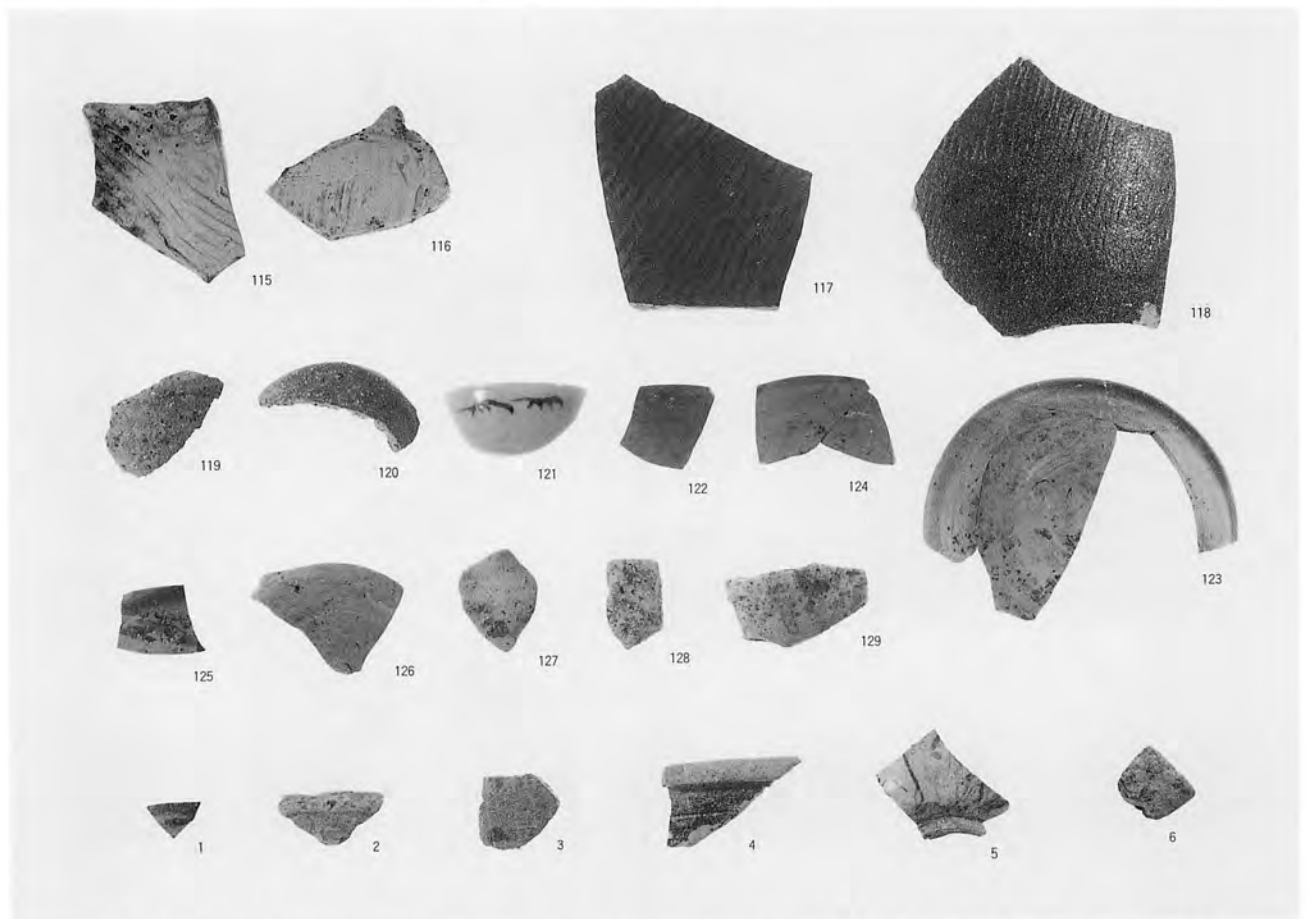
中谷内遺跡 3区古墳時代 包含層(48・49)、SK4(50~52)・SD1(53~54・56~59)・SD2(60~74)



中谷内遺跡 3区SD2(75~86)・SD3(87~99)・Pit4(100)



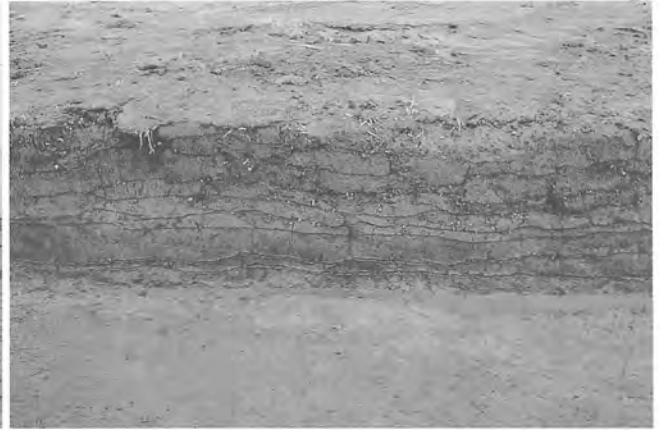
中谷内遺跡 3区包含層 (101~114)



中谷内遺跡 3区包含層(115~121)、確認・試掘調査(122~129)、沖ノ羽遺跡包含層(1~5)、確認・試掘調査(6)



調査前状況 (東→西)



東壁土層断面 (西→東)



SX1土層断面 (南→北)



SK1土層断面 (東→西)



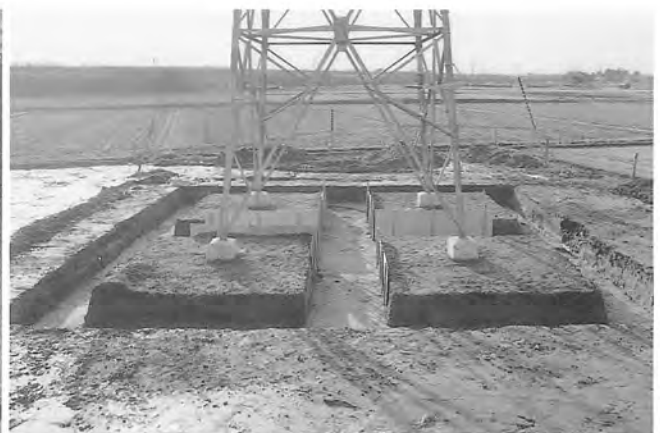
SX1完掘状況 (南→北)



SD1完掘状況 (北→南)



SD1完掘状況 (西→東)



完掘状況 (北→南)



調査前状況 (南→北)



北壁土層断面 (南→北)



SD2土層断面 (東→西)



SD2完掘状況 (西→東)



SK1完掘状況 (北→南)



河1・2土層断面 (西→東)



河2完掘状況 (東→西)



完掘状況 (東→西)





調査前状況 (東→西)



北壁土層断面 (南→北)



SK1完掘状況 (南→北)



SD3土層断面 (南→北)



SD3完掘状況 (南→北)



河遺物出土状況



河土層断面 (南→北)



河完掘状況 (南→北)



調査前状況 (西→東)



東壁土層断面 (西→東)



SD3土層断面 (東→西)



SD3完掘状況 (南→北)



河土層断面 (南→北)



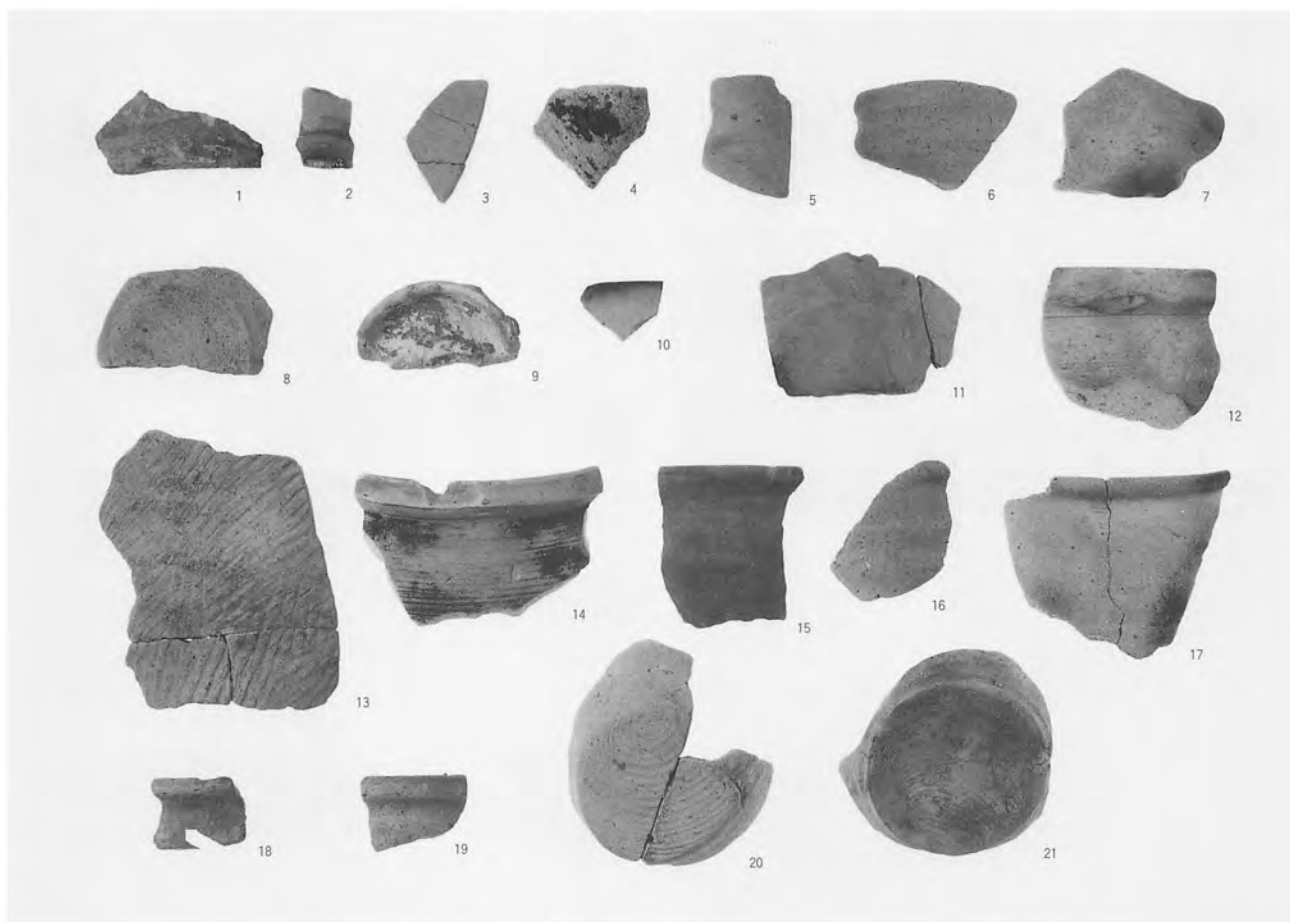
河遺物出土状況



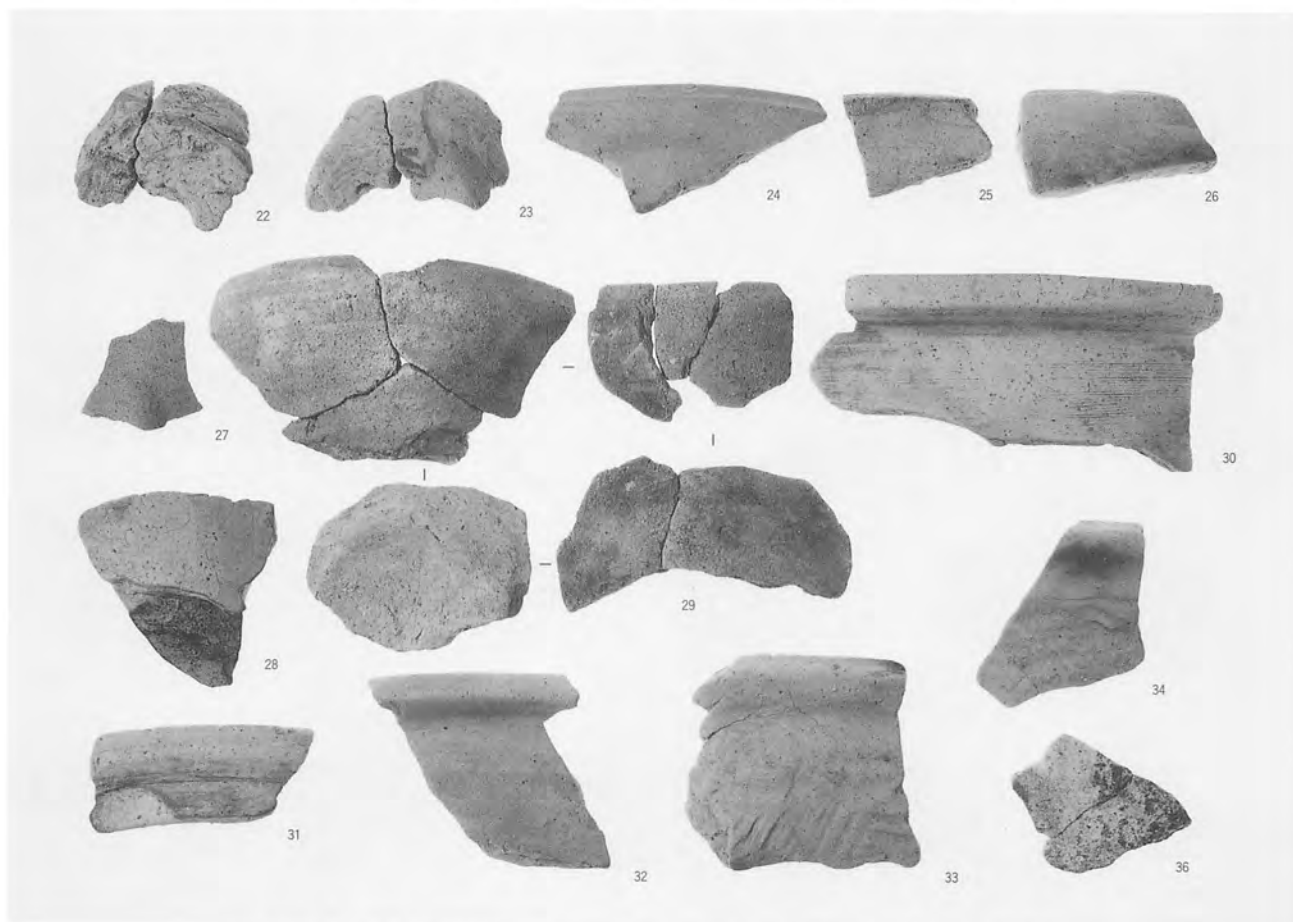
河遺物出土状況



河完掘状況 (北→南)

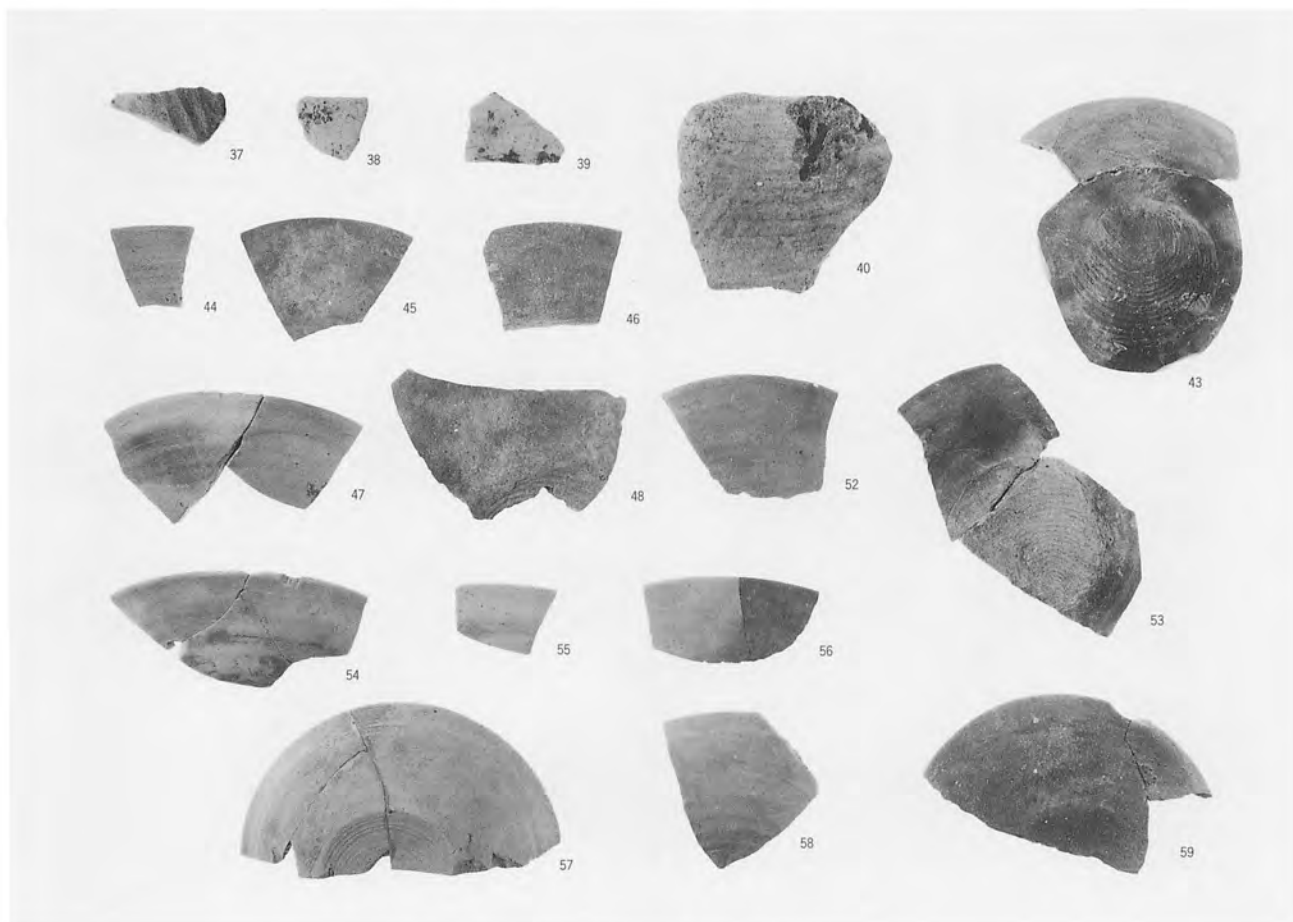


細池寺道上遺跡 1区SD2(1~2)、2区SD1(3)・SD3(4)・河上層(5~21)

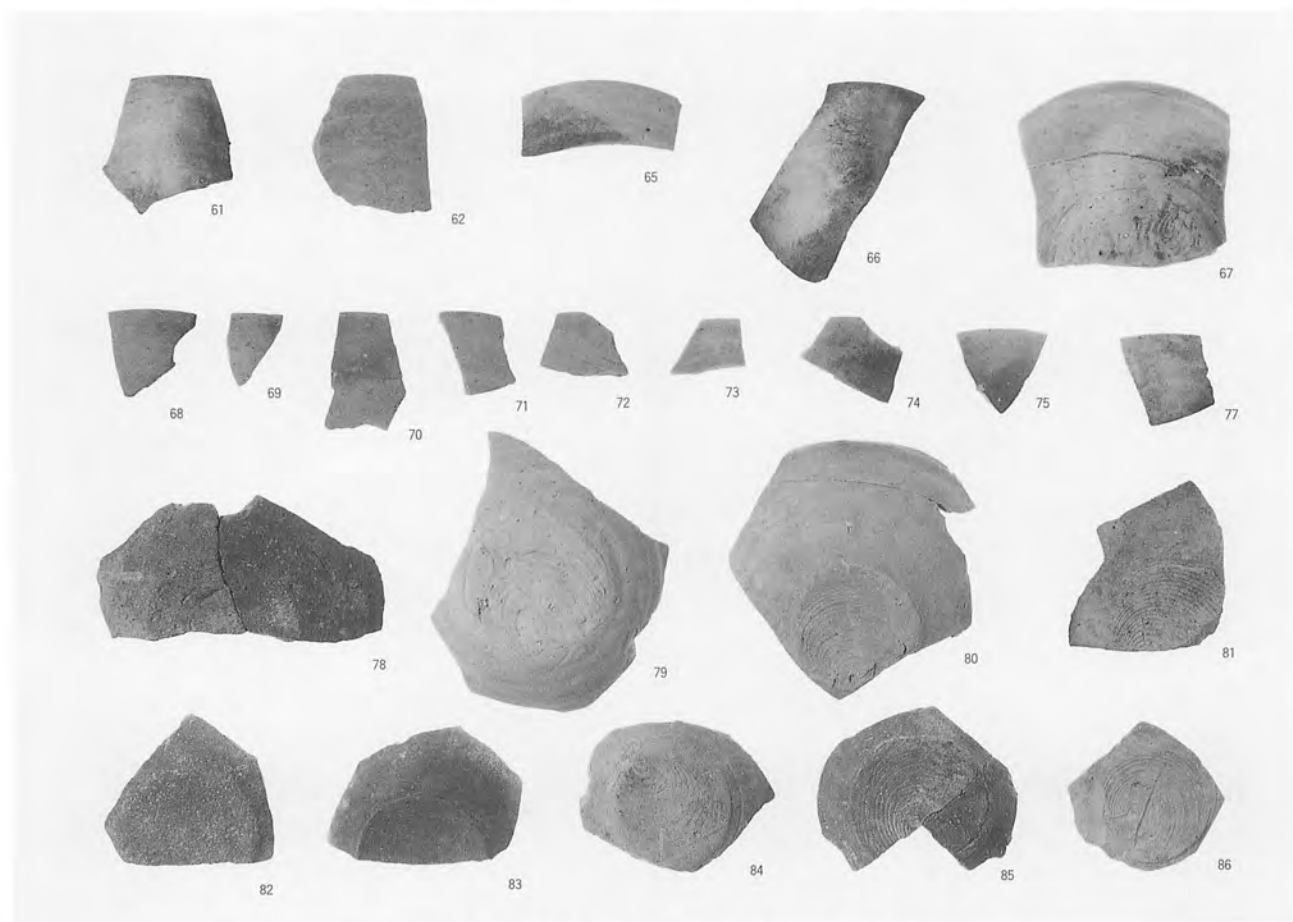


細池寺道上遺跡 2区河上層(22~29)・河下層(30~34)、確認・試掘調査(36)

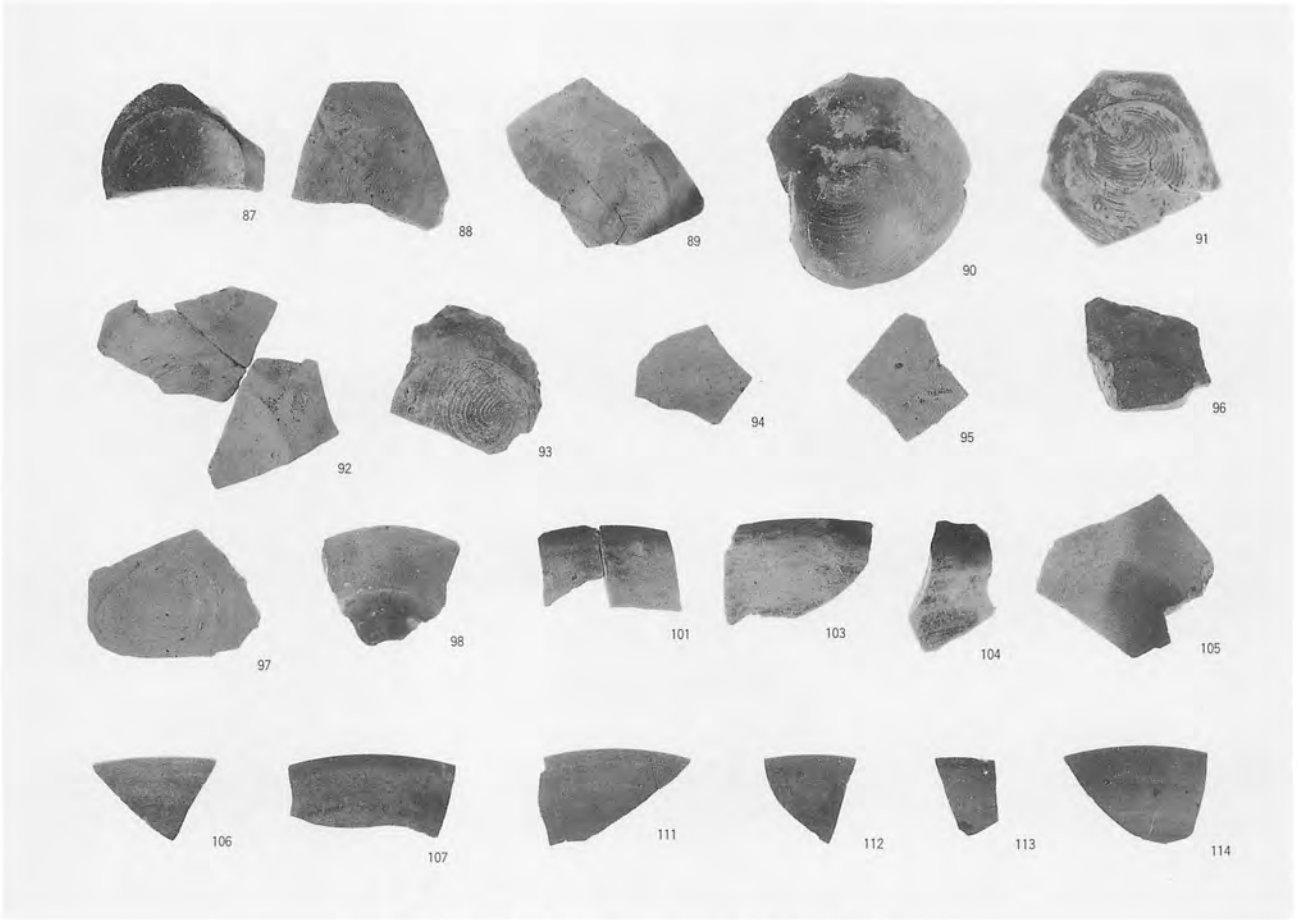




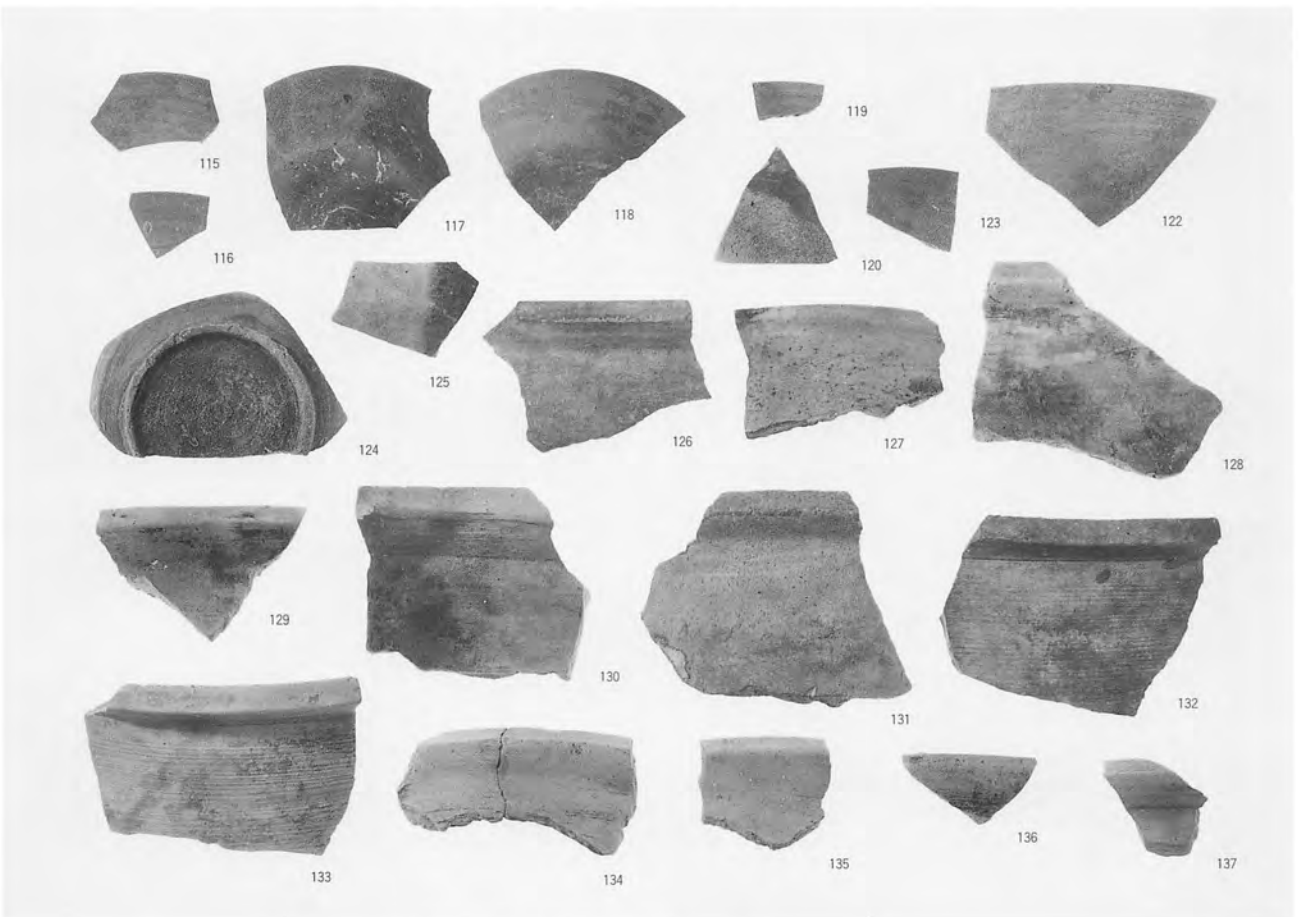
細池寺道上遺跡 3区SD2(37~40)・河(43~48・52~59)



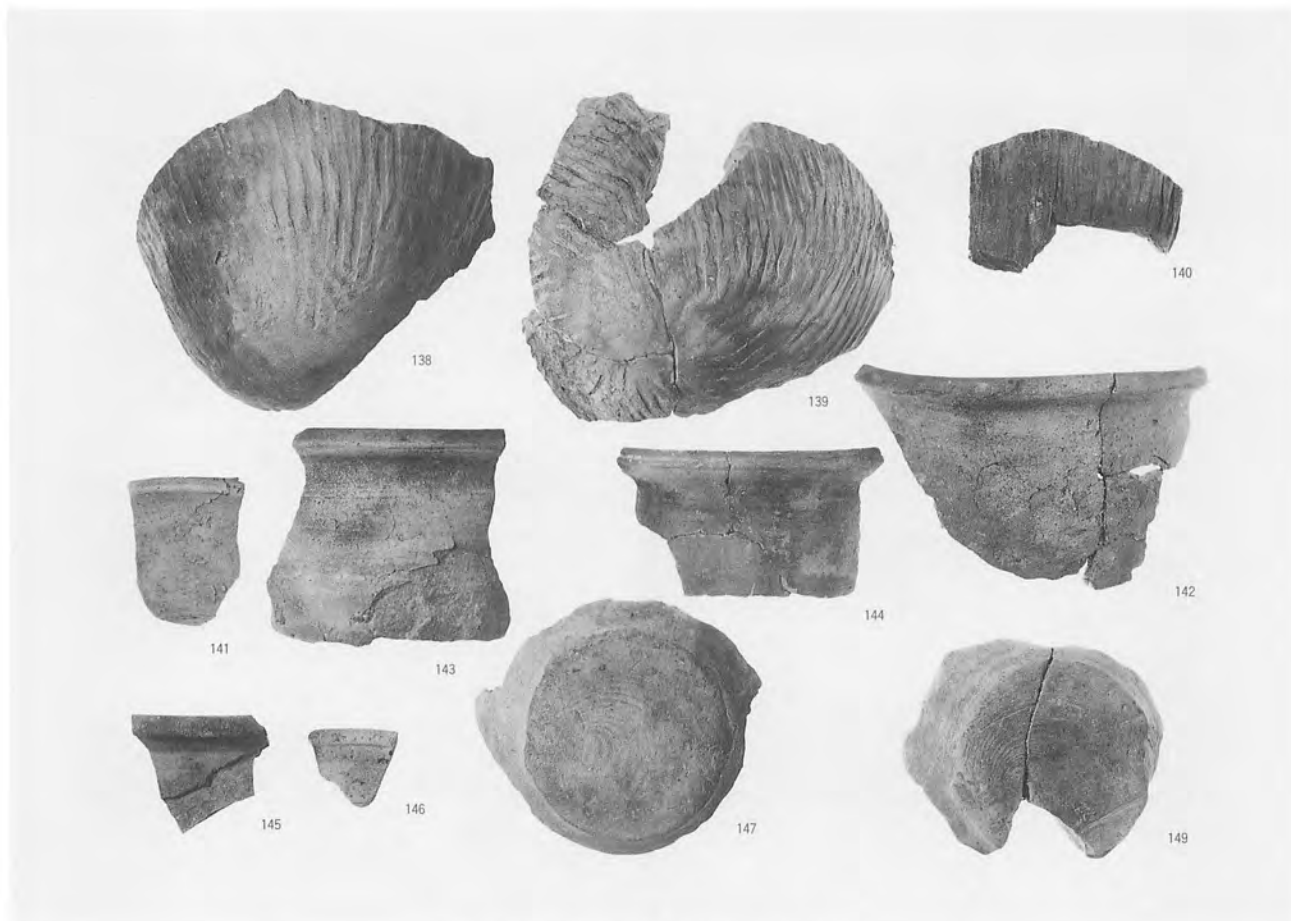
細池寺道上遺跡 3区河(61・62・65~75・77~86)



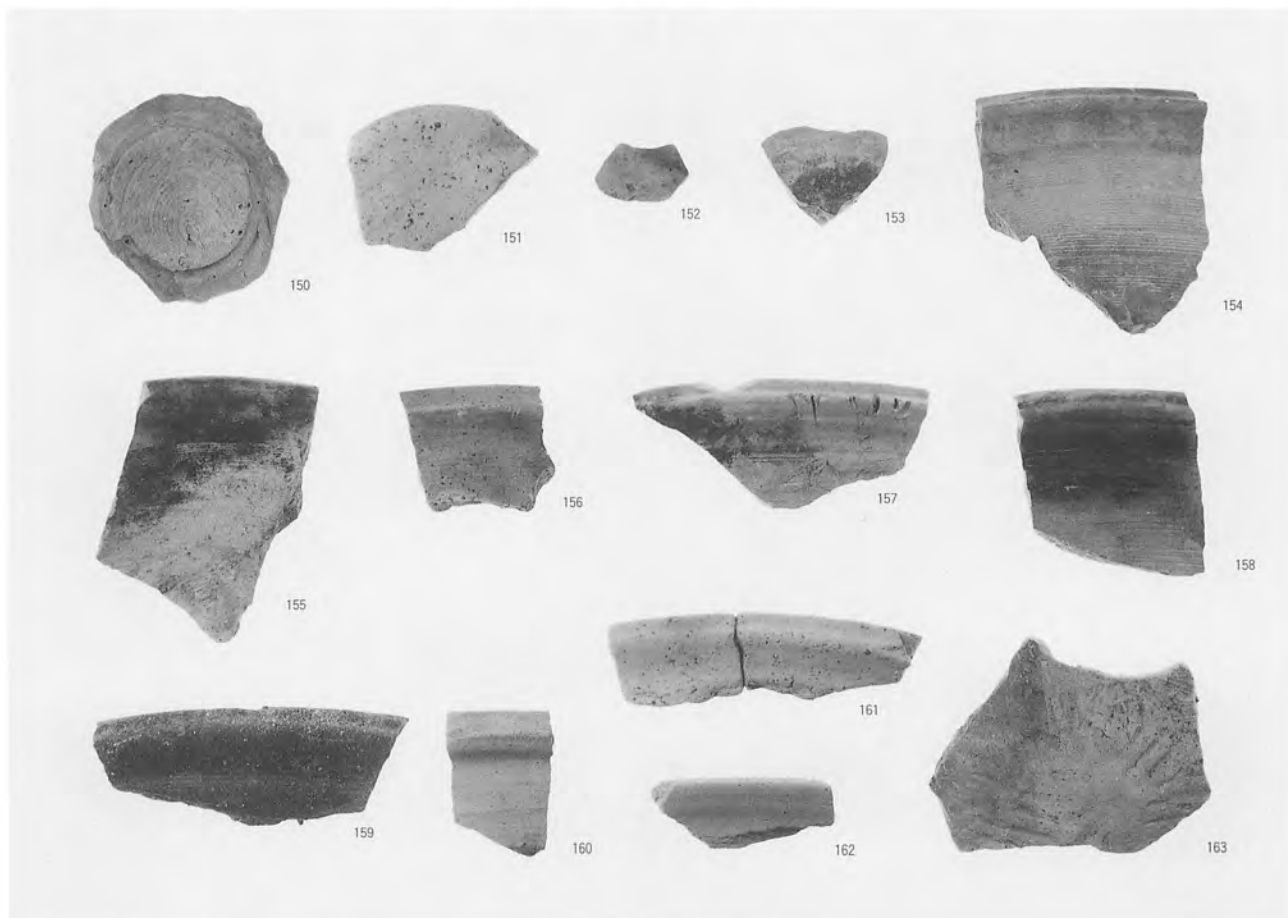
細池寺道上遺跡 3 区河(87~98・101・103~107・111~114)



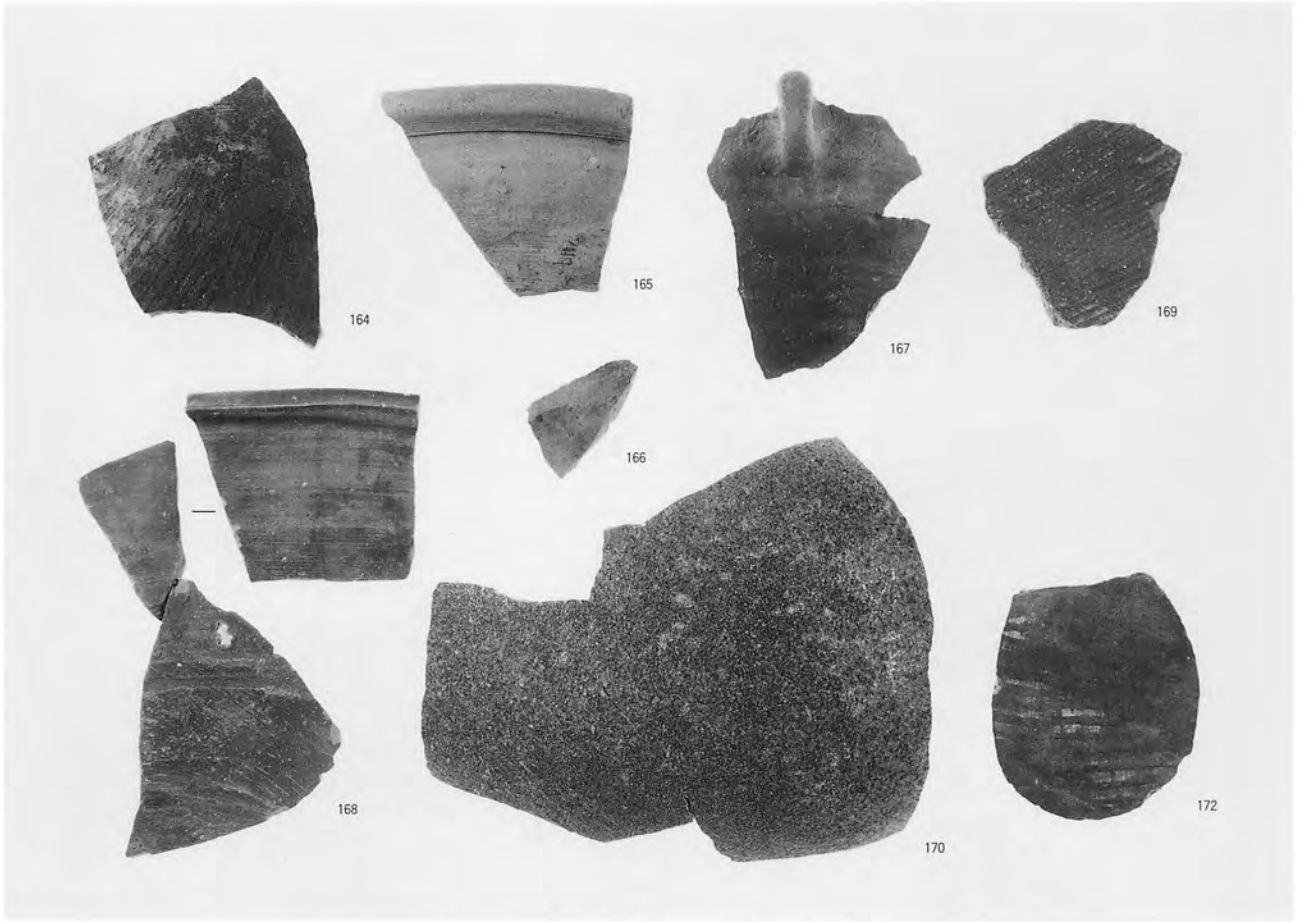
細池寺道上遺跡 3 区河(115~120・122~137)



細池寺道上遺跡 3区河(138~147・149)



細池寺道上遺跡 3区河(150~163)



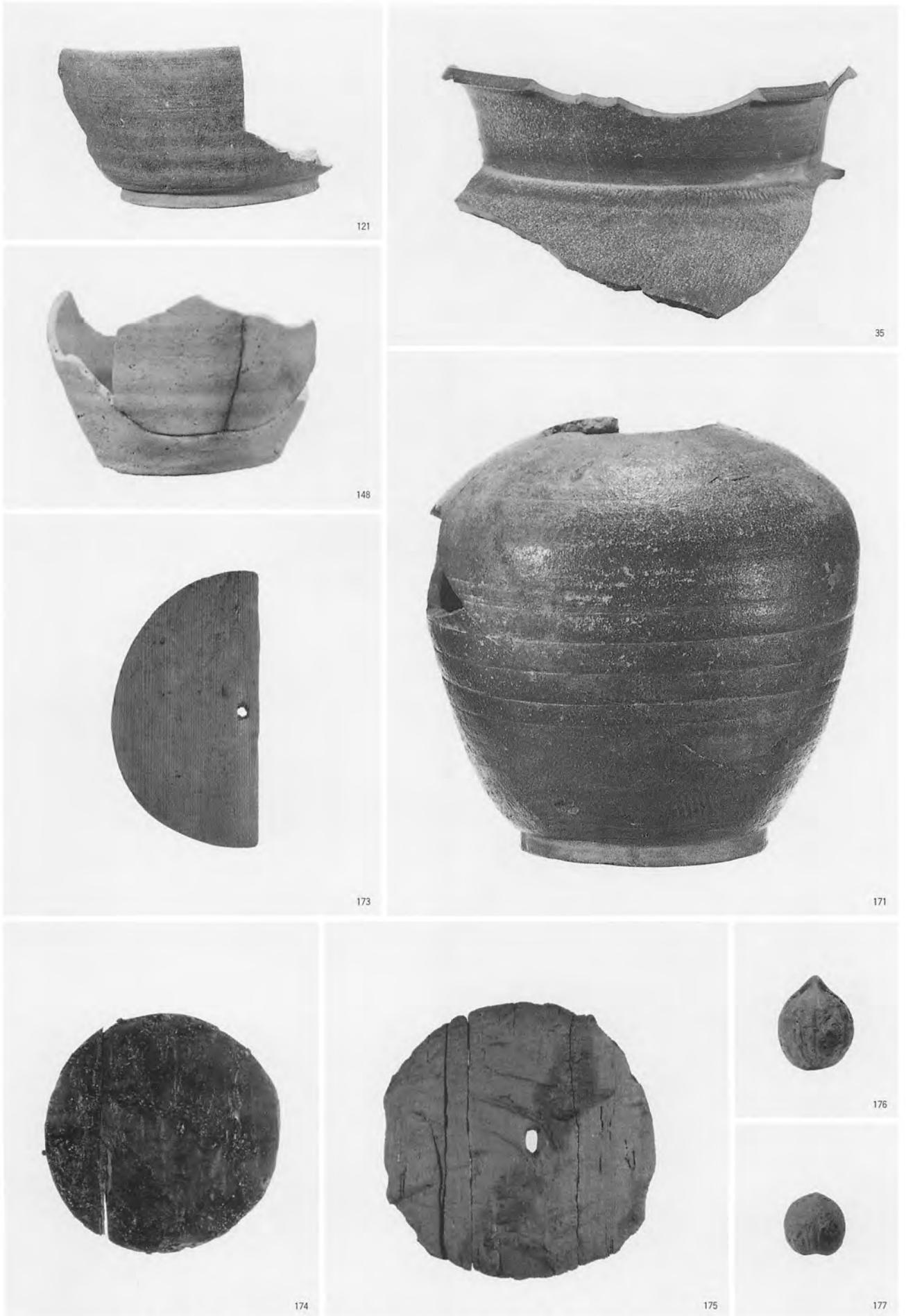
細池寺道上遺跡 3区河(164~170・172)



細池寺道上遺跡 3区転用硯(124)



細池寺道上遺跡 3区墨書土器(60・118)

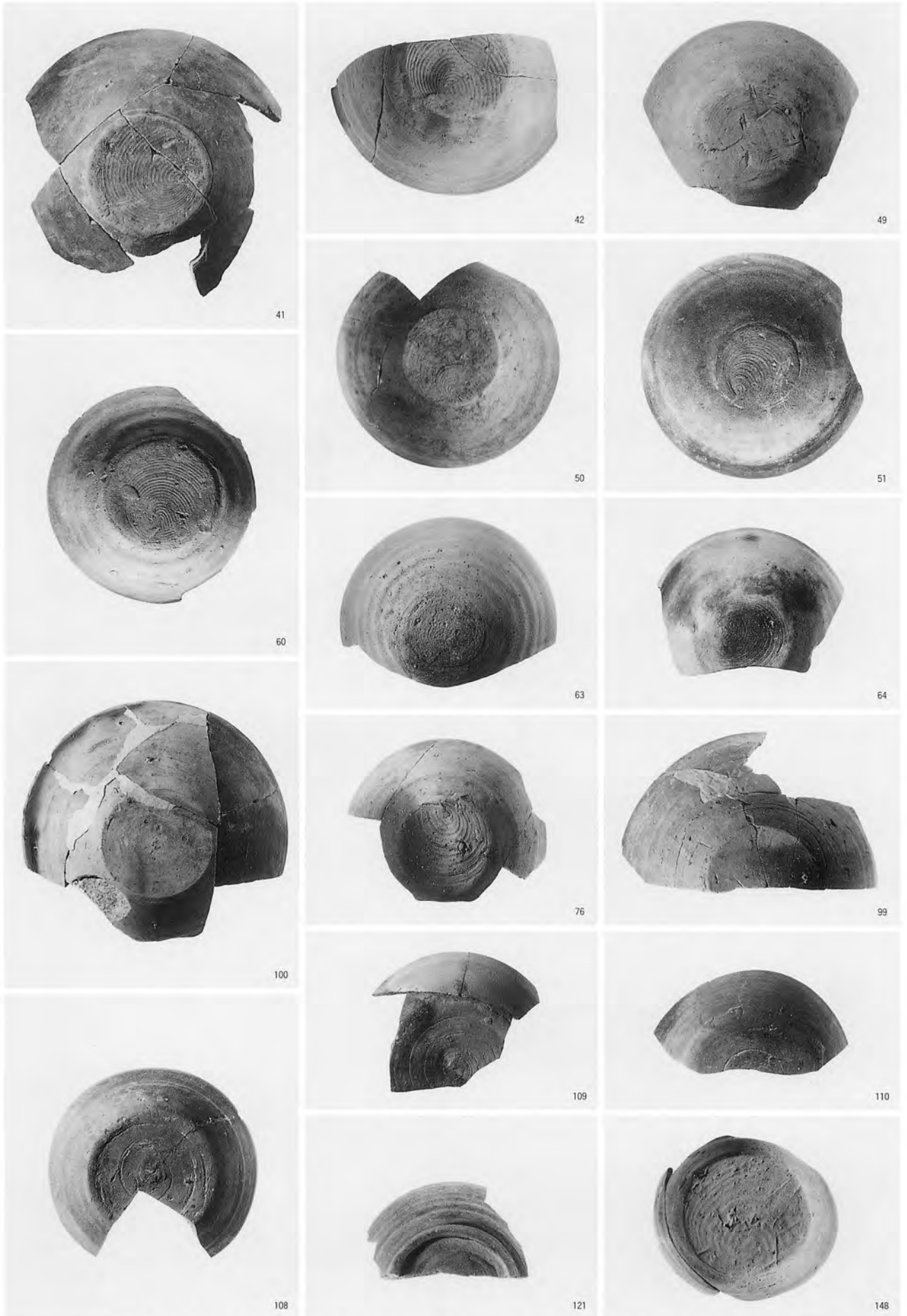


細池寺道上遺跡 3区河(35・121・148・171)、2区河下層木製品(173~175)・種子(176・177)





細池寺道上遺跡 3区河(41・42・49～51・60・63・64・76・99・100・102・108～110)



細池寺道上遺跡3区河(41・42・49～51・60・63・64・76・99・100・108～110・121・148)

# 報告書抄録

ふりがな	なかやちいせきさん・おきのはいせきに・ほそいけてらみちうえいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	新津市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	北村 淳・菊池康一郎・早田 勉・金原 明・杉山真二							
編集機関	新津市教育委員会・株式会社シン技術コンサル							
所在地	〒956-0035 新潟県新津市程島2009番地 TEL 0250-24-2111 〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井311-1番地 TEL 0270-65-2777							
発行年月日	西暦 2004年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかやちいせき 中谷内遺跡	にいがたけんにつしおおあざいでう 新潟県新津市大字大蔵 あざかわばた 字川端725-3他	15207	77	37° 49' 52"	139° 07' 38"	20030905 } 20031219	376.23	鉄塔建設工事に 伴う発掘調査
おきのはいせき 沖ノ羽遺跡	にいがたけんにつしおおあざのなまち 新潟県新津市大字七日町 あざおきのほ 字沖ノ羽3268-1他	15207	26	37° 49' 14"	139° 07' 54"	20030905 } 20031219	121.36	鉄塔建設工事に 伴う発掘調査
ほそいけてらみちうえいせき 細池寺道上遺跡	にいがたけんにつしおおあざいやなざあざ 新潟県新津市大字飯柳字 いけはた 池畑1108-1他	15207	28	37° 47' 27"	139° 09' 26"	20030905 } 20031219	397.77	鉄塔建設工事に 伴う発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中谷内遺跡	遺物包含地	近世以降	溝	1基	陶磁器			
		古 代	ピット	1基				
			土坑 掘建柱建物 溝 ピット	7基 1基 4基 15基	土師器・須恵器・種子			
古墳時代	土坑	1基	土師器					
沖ノ羽遺跡	遺物包含地	近世以降	土坑 溝 性格不明遺構	1基 1基 1基	陶磁器			
		古 代			土師器・須恵器			
細池寺道上遺跡	遺物包含地	近世以降	溝	3基	陶磁器			
		古 代	土坑 溝 ピット 河	2基 7基 1基 4基	土師器・須恵器・木製品・ 種子			

## 中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書

2004年3月19日発行

発 行 新津市教育委員会  
新潟県新津市程島2009番地  
〒956-0035 TEL(0250) 24-2111

印 刷 細谷印刷有限会社  
群馬県伊勢崎市今泉町二丁目939-5  
〒372-0031 TEL(0270) 25-0193

## 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』正誤表

頁	行	誤	正
例言	20	8. 調査の作成にあたり	8. 本書の作成にあたり
図版目次	22	土器重量分布図 (1/400)	土器重量分布図 (1/300)
9	11	作成しあわせて	作成し、あわせて
11	23	又、成形痕は	また、成形痕は
18	6	遺物は出土していない	遺物は出土していない。
41	9	発掘では、本跡	発掘では、本遺跡
41	20	土師器椀 (図版20-6)	土師器無台椀 (図版20-6)
41	22	土師器椀の形態は	土師器無台椀の形態は
55	表1	(H2=細池寺道上遺跡)	(H2=細池寺道上遺跡2区)
図版20	柱	土器重量分布図 (1/400)	土器重量分布図 (1/300)